

MITSUBISHI

三菱電機 **ビル** 空調管理システム

統合ソフト TG-2000

取扱説明書 (現地調整編)

形名 : PAC-TG2000



目次 (概略)

1. 安全のために必ず守ること	1
2. はじめに	3
3. システム構成	13
4. 現地調整の流れについて	14
5. セットアップと環境設定	18
6. 各部の名称と機能	49
統合ソフトTG-2000の画面遷移図	52
7. 初期起動と終了方法	58
8. システム設定の方法	60
8.1 システム設定画面	60
8.2 システム設定の手順	61
8.3 ユーザー設定	62
8.4 ビル名の設定	75
8.5 パスワードの変更	76
8.6 G-150AD/G-50 接続設定	77
8.7 システム構成設定	83
8.8 汎用DC、環境MC、計量MCの設定	91
8.9 汎用制御PLC設定	95
8.10 室内機フリー接点機能設定	100
8.11 監視表示設定	103
8.12 計量計設定	111
8.13 課金システム設定	113
8.14 料金設定	120
8.15 省エネ/ピークカット設定	126
8.16 ナイトモード設定	134
8.17 オートチェンジオーバー設定	135
8.18 その他設定	137
8.19 時刻設定	142
8.20 計量計の現在値モニタと変更	144
9. 課金データの修正方法	145
9.1 空調料金の計算結果	145
9.2 課金データの保守	147
9.3 運転量・電力量データモニタ	152
9.4 課金パラメータの出力	153
9.5 課金の救済投分	155
9.6 G-150AD/G-50、PLC故障交換時の課金比較データの保守	157
9.7 料金単価変更時の課金データの保守	157
10. 異常コード一覧	158
11. 設定のチェックリスト	163
添付1: WindowsのServicePackとメモリ容量の確認	208
添付2: 自動ログインの確認方法	213
添付3: G-150AD/G-50 故障交換時の電力投分課金への修正作業	215
添付4: 課金試運転の短縮方法	217
添付5: システム設定データのバックアップ方法	222
添付6: システム増設工事時の作業方法	226
添付7: 機能アップ時の作業方法	229
添付8: A、K制御機種及びロスナイの課金設定について	232

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき正しくお使いください。

この取扱説明書は大切に保管してください。

WT03628X28

(Ver.6.3*/5.4*)

この製品は日本国内向けに設計されており、本紙に記載の内容は日本国内においてのみ有効です。
また、海外でのアフターサービスも受けかねますのでご了承ください。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

目次

1. 安全のために必ず守ること	1	8. 4 ビル名の設定	75
2. はじめに	3	8. 5 パスワードの設定	76
2. 1 動作環境	3	8. 6 G-150/G-50の接続設定	77
2. 2 適用機種	4	8. 6. 1 G-150AD/G-50接続設定 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)	77
2. 3 制約・注意事項	5	8. 6. 2 G-50接続設定 (G-50対応版TG-2000)	81
2. 4 その他周辺機器	12	8. 7 システム構成設定	83
3. システム構成	13	8. 7. 1 設定手順と制約	83
3. 1 システム構成例	13	8. 7. 2 G-150AD/G-50データ の収集(STEP1)	83
3. 2 ハードウェア接続図	13	8. 7. 3 ユニット構成設定(STEP2)	84
4. 現地調整の流れについて	14	8. 7. 4 冷媒系設定(STEP3)	87
4. 1 現地調整の流れ	14	8. 7. 5 グループ設定(STEP4)	88
4. 2 現地調整の準備品	15	8. 7. 6 換気運動設定(STEP5)	90
4. 3 ステップ1:集中コントローラG-150AD/G-50 からの試運転	15	8. 8 汎用DC、環境MC、計量MCの設定	91
4. 4 ステップ2:PLC(シーケンサ)の接続とインストール	15	8. 8. 1 設定手順と制約	91
4. 5 ステップ3:統合ソフトTG-2000の初期設定	16	8. 8. 2 汎用DC(汎用機器)の設定(STEP1)	91
4. 6 ステップ4:統合ソフトTG-2000からの試運転	17	8. 8. 3 環境MC設定(STEP2)	92
5. セットアップと環境設定	18	8. 8. 4 計量MC(計量計)設定(STEP3)	94
5. 1 セットアップの準備	18	8. 9 汎用制御PLC設定	95
5. 1. 1 G-150AD/G-50の バージョンの確認	18	8. 9. 1 設定手順と制約	95
5. 1. 2 TG-2000のセットアップ準備	22	8. 9. 2 PLC台数設定(STEP1)	95
5. 2 TG-2000のセットアップ (G-150AD/G-50対応版TG-2000)	24	8. 9. 3 PLC設定とイニシャル設定(STEP2)	95
5. 2. 1 セットアップ方法	29	8. 9. 4 機能設定(STEP3)	96
5. 2. 2 新規セットアップ手順	30	8. 9. 5 アドバンス設定 (空調機状態監視設定)(STEP4)	97
5. 2. 3 バージョンアップ手順	32	8. 9. 6 アドバンス設定 (ピークカット機能設定)(STEP5)	97
5. 2. 4 TG-2000のアンインストール	35	8. 9. 7 汎用機器設定(STEP6)	98
5. 2. 5 ウィルス対策ソフト使用時の除外設定	37	8. 10 室内機フリー接点機能設定	100
5. 2. 6 パソコンのコンピュータ名の変更	38	8. 10. 1 設定手順と制約	100
5. 3 TG-2000のセットアップ (G-50対応版TG-2000)	39	8. 10. 2 汎用機器設定(STEP1)	101
5. 3. 1 セットアップ方法	39	8. 11 監視表示設定	103
5. 3. 2 新規セットアップ手順	40	8. 11. 1 設定手順と制約	103
5. 3. 3 バージョンアップ手順	43	8. 11. 2 形名設定(STEP1)	103
5. 3. 4 TG-2000のアンインストール	46	8. 11. 3 全体フロア数と全体フロア名設定(STEP2)	104
5. 3. 5 ウィルス対策ソフト使用時の除外設定	47	8. 11. 4 全体フロアの平面図の作成(STEP3)	105
5. 3. 6 パソコンのコンピュータ名の変更	48	8. 11. 5 フロア数とフロア名の設定(STEP4)	106
6. 各部の名称と機能	49	8. 11. 6 フロアの平面図の作成(STEP5)	106
6. 1 画面構成	49	8. 11. 7 全体フロアとフロアの関連設定(STEP6)	107
6. 2 マウス操作の基本	50	8. 11. 8 フロアとG-150AD/G-50 の設定(STEP7)	108
6. 3 画面遷移と機能一覧	50	8. 11. 9 グループアイコンの配置と名称設定(STEP8)	108
統合ソフトTG-2000の画面遷移図	52	8. 11. 10 ブロック設定(STEP9)	109
7. 初期起動と終了方法	58	8. 12 計量計設定	111
7. 1 起動前の確認	58	8. 12. 1 設定手順と制約	111
7. 2 起動の方法	58	8. 12. 2 PLC台数設定(STEP1)	111
7. 3 終了の方法	59	8. 12. 3 PLC設定とイニシャル設定(STEP2)	112
8. システム設定の方法	60	8. 12. 4 計量計の設定(STEP3)	112
8. 1 システム設定画面	60	8. 13 課金システム設定	113
8. 2 システム設定の手順	61	8. 13. 1 設定手順と制約	113
8. 3 ユーザー設定	62	8. 13. 2 按分モードの設定(STEP1)	114
8. 3. 1 操作一般	63	8. 13. 3 室外機-電力量計対応設定(STEP2)	115
8. 3. 2 信頼性機能	64	8. 13. 4 室外機設定(STEP3)	116
8. 3. 3 接続機器	65	8. 13. 5 室内機-電力量計対応設定(STEP4)	117
8. 3. 4 省エネ/ピークカット と室内機フリー接点/運動制御	65	8. 13. 6 室内機設定(STEP5)	117
8. 3. 5 課金関連	66	8. 13. 7 課金用ブロック設定(STEP6)	118
8. 3. 6 警告の設定	69	8. 14 料金設定	120
8. 3. 7 その他オプションの設定	70	8. 14. 1 設定手順と制約	120
8. 3. 8 トレンドの設定	71	8. 14. 2 基本料金設定(STEP1)	120
8. 3. 9 室内温度表示の設定	72	8. 14. 3 季節期間設定(STEP2)	121
8. 3. 10 各種データのメール送信設定	73	8. 14. 4 週間料金設定	121
		8. 14. 5 年間料金設定	123
		8. 14. 6 計量計の料金単価の設定	125
		8. 14. 7 精算日の設定	125
		8. 15 省エネ/ピークカット設定	126
		8. 15. 1 省エネ設定	126
		8. 15. 2 ピークカット設定	129

8. 16 ナイトモード設定	134
8. 16. 1 設定手順と制約	134
8. 16. 2 ナイトモード設定 (STEP1)	134
8. 17 オートチェンジオーバー設定	135
8. 17. 1 設定手順と制約	135
8. 17. 2 オートチェンジオーバー設定 (STEP1)	135
8. 18 その他設定	137
8. 18. 1 設定手順と制約	138
8. 18. 2 外気温度連動制御設定 (STEP1)	138
8. 18. 3 セットバック制御設定 (STEP2)	139
8. 18. 4 ナイトバース設定 (STEP3)	140
8. 18. 5 24 時間換気設定 (STEP4)	140
8. 19 時刻設定	142
8. 20 計量計の現在値モニタと変更	144
9. 課金データの修正方法	145
9. 1 空調料金の計算結果	145
9. 2 課金データの保守	147
9. 2. 1 課金データの保守の準備	147
9. 2. 2 保守方法と制約	147
9. 2. 3 ユニットデータのメンテナンス	148
9. 2. 4 計量計データのメンテナンス	151
9. 2. 5 計量計のモニタ	151
9. 3 運転量・電力量データモニタ	152
9. 4 課金パラメータの出力	153
9. 5 課金の救済按分	155
9. 5. 1 課金の救済按分の準備	155
9. 5. 2 救済按分の設定画面	155
9. 6 G-150AD/G-50、PLC故障交換時の 課金比較データの保守	157
9. 7 料金単価削除時の設定データの保守	157
10. 異常コード一覧	158
11. 設定のチェックリスト	163
11. 1 設定のチェックリスト	163
11. 2 試運転チェック 試運転チェックシート	164
11. 3 課金試運転チェック	168
11. 3. 1 電力量按分課金 (電力量手入力) の試運転 チェック …WHM接続無し	168
課金試運転チェックシート	172
11. 3. 2 電力量按分課金 (電力量パルスカウント) の試運転チェック	174
課金試運転チェックシート	180
11. 3. 3 課金試運転の操作方法	184
11. 4 省エネ・ピークカットの設定チェック 省エネ・ピークカットの設定チェックシート	185
11. 5 システム情報CSV出力	188
11. 5. 1 空調発停試運転情報のCSV出力	188
11. 5. 2 課金試運転情報のCSV出力	189
11. 5. 3 試運転チェックリストの作成 空調発停試運転チェックシート 課金試運転チェックシート	190
11. 6 試運転按分結果出力	197
11. 6. 1 按分結果 (詳細) のCSV出力	197
11. 6. 2 計量計 (詳細) のCSV出力	200
11. 7 課金試運転チェックシートの記入例	202
11. 7. 1 課金試運転チェックシート (1/2) (2/2) の記入例	202
11. 7. 2 課金試運転CSVファイルから作成した 課金試運転チェックシートの記入例	205
添付1: Windows の Service Pack とメモリ容量の確認	208
添付2: 自動ログインの確認方法	213
添付3: G-150AD/G-50故障交換時の 電力量按分課金への修正作業	215
添付4: 課金試運転の短縮方法	217
添付5: システム設定データのバックアップ方法	222
添付6: システム増設工事時の作業方法	226
添付7: 機能アップ時の作業方法	229
添付8: A、K制御機種及びロスナイの課金設定について	232

Microsoft® Windows® 7 Professional/Home Premium のことを Windows 7、Microsoft® Windows Vista® Business/Home Basic のことを Windows Vista、Microsoft® Windows® XP Professional/Home のことを Windows XP、Microsoft® Windows® 2000 Professional のことを Windows 2000 と表記します。また、Microsoft® Excel 2010/2007/2003/XP/2000 のことを EXCEL と表記します。

登録商標

MS と Microsoft とそのロゴマーク、Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、商標です。Adobe® Reader® は、アドビシステムズ社の商標です。

その他に、本書に記載されている商品の名称は、各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

—本書について—

取扱説明書は、現地調整編、管理編、および、広域編の3部構成となっており、本書は現地調整編です。

現地調整編（本書）：

TG-2000の初期設定手順（セットアップ、システム設定など）やデータの修正方法について記載しています。

管理編：

TG-2000の通常操作「空調機の監視／操作」などについて記載しています。

広域編：

TG-2000を広域モードで使用する場合、広域モードの「サイト切替えツール」と「メールツール」の設定および操作について記載しています。

「空調機の監視／操作」については、管理編を参照してください。

これらの説明書はTG-2000のヘルプから参照することができます。

説明書をご覧になるときは、別途 Adobe® Reader® が必要です。（Ver. 7.1 以降を推奨）

—用語について—

・『マンマシン』：統合ソフトTG-2000のパソコンを指します。
（マンマシンインターフェースの略称）

・『G-150AD』（または『GB-50AD』）

および『G-50』（または『GB-50』）：

本書では、G-150ADは、集中コントローラG-150AD、GB-50ADのことを指します。統合ソフトTG-2000では、GB-50ADは、拡張コントローラ接続なしのG-150ADと同じ扱いです。

また、G-50は、集中コントローラG-50、GB-50のことを指します。

TG-2000の画面で、G-150AD（GB-50AD）およびG-50（GB-50）は、

G-150AD/G-50、または、G-50

と表示します。

TG-2000の画面でG-50のみの記載に対して、特に指定がない場合は

G-150AD/G-50と読み替えをしてください。

なお、G-150ADの接続に対応したTG-2000はVer. 5.53以降、GB-50ADの接続に対応したTG-2000はVer. 6.31以降です。

・『拡張コントローラ』（EC）：

G-150ADで監視制御する室内ユニット、ロスナイ、汎用機器などの台数が50台を越える場合に設置するコントローラ（PAC-YG50EC）です。

G-150ADに拡張コントローラを接続することで、最大150台（拡張コントローラ 3台使用時）まで管理台数を増やすことができます。

・『PLC』

：プログラマブル・ロジック・コントローラの略で、シーケンサのことを指します。

TG-2000システムでは、電力量カウントソフトと汎用制御PLCソフト、デマンド入力PLCソフトの3種類があります。

電力量カウントソフトは、シーケンサにて電力量を計測します。汎用制御PLC

ソフトは汎用機器の操作や監視等を行いません。デマンド入力PLCソフトはデマンド制御機器を接続してピークカットを行いません。

・『電力按分課金支援』：空調機で使用する電力量を按分する課金支援機能で、以下の2種類があります。

電力量手入力 …電力量計を接続せずに、使用した電力量の割合である料金比率を算出する方法。使用電力量は別設置した電力量計で計測したものを使用して、使用料金を料金比率から求めます。

電力量パルスカウント

…電力量はシーケンサまたは、計量MC（どちらか一方のみ）を使用して計測し、その使用電力量をLAN経由でモニタし、使用電力料金まで自動的に按分計算します。

シーケンサを使用する場合、指定するシーケンサとオプションソフトを使用します。

- ・『WHM』 : 電力量計を指します。
- ・『使用電力量』 : 使用電力量とは、空調機などの使用状況を勘案して按分した按分電力量（按分量）を示します。
- ・『常時接続課金する』 : 本統合ソフトTG-2000をLAN経由で常にG-150AD/G-50、PLCまたは計量MCと接続したまま運用する課金方法です。（推奨モード）パソコンの電源を入れたままTG-2000を動かし続けてください。
- ・『常時接続課金しない』 : 本統合ソフトTG-2000を月に一度LAN経由でG-150AD/G-50、PLCまたは計量MCと接続し、先月分の課金計算と出力を一度に行なう課金方法です。設定されている精算日の翌日にパソコンと本統合ソフトを起動することで、効率よく課金支援をご使用いただくことができます。ただし、空調機等の状態監視や操作を行なうことはできなくなります。
- ・『室内機フリー接点機能』 : 空調機の室内機に装備されている接点と汎用機器を接続し、汎用機器を操作／監視する機能です。
- ・『汎用DC』 : 汎用インターフェース（PAC-YG66DC）であり、汎用機器を監視／操作できる機能をもったコントローラです。
- ・『環境MC』 : 環境用計測コントローラ（PAC-YG63MC）であり、温度・湿度を計測できる機能をもったコントローラです。
- ・『計量MC』 : 計量用計測コントローラ（PAC-YG60MC）であり、電力量などの計量計のパルスを積算できる機能をもったコントローラです。

—画面表示について—

- ・本取扱説明書に表示している画面は、本バージョンと異なる場合があります。

—簡易操作説明書について—

- ・取扱説明書（現地調整編、管理編、広域編）の他に簡易操作説明書を用意しております。簡易操作説明書はTG-2000セットアップCDの「Manual」フォルダ内にPdfファイルで収納してあります。本Pdfファイルをご覧になるには、別途Adobe® Reader®が必要です（Ver. 7.1以降を推奨）。

1. 安全のために必ず守ること

- ご使用前に、この「安全のために必ず守ること」を熟読の上、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱をしたときに生じる危険とその程度を次の表で区分して説明しています。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| ⚠警告 | 誤った取扱をしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結びつくもの。 |
| ⚠注意 | 誤った取扱をしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。 |

- お読みになった後は、取扱説明書（管理編）とともにお使いになる方がいつでも見ることが出来る所に必ず保管してください。また、お使いになる方が代わる場合は、必ず本書と取扱説明書（管理編）をお渡しください。

お知らせ：パソコン、周辺機器、空調機等に関しては、それぞれの据付説明書や取扱説明書の警告や注意を守ってください。

⚠ 警告

お客様自身で電気・配線工事を行なわないでください。

電気・配線工事等は販売店または専門業者に依頼してください。お客様自身で工事され不備があると感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移設は行なわないでください。
据付に不備があると感電、火災等の原因になります。お買上の販売店にご依頼ください。

改造・修理は絶対に行なわないでください。
改造したり、修理に不備があると感電、火災等の原因になります。また、修理はお買上げの販売店にご相談ください。

パソコンや周辺機器についてはその据付説明書や取扱説明書を必ずお読みください。
誤った取扱いをするとパソコンや周辺機器の火災、故障等の原因になります。

パソコンにエラー表示が出て運転しなかったり、不具合が発生した場合は運転を停止してください。

そのままにしておくと、火災や故障の原因になります。お買上げの販売店にご連絡ください。

空調機側のコントローラについてはその据付説明書や取扱説明書を必ずお読みください。
誤った取扱いをすると空調機関連のコントローラの火災、故障等の原因になります。

⚠ 注意

別の用途に使用しないでください。

この製品は三菱電機ビル空調管理システム用です。他の空調機管理あるいは別の用途には使用しないでください。誤動作の原因になります。

子供に注意してください。

点検・調整を行なう場合は、危険がありますので子供を近づけないように注意ください。

他のアプリケーション・ソフトウェアと併用しないでください。

この製品を使用するパソコンは、TG-2000専用として使用ください。他のアプリケーション・ソフトウェアと併用すると、誤動作の原因になります。

ユーザーの皆様へのご注意（使用許諾契約）

本記載内容はお客様と三菱電機との間の契約書です。このアプリケーション・ソフトウェアを使用した場合、下記の内容に同意し、使用しているものとみなさせていただきます。

- ・三菱電機または、その販売会社はいかなる場合にもお客様に、付随的、派生的または特別の損害に対する責任を、たとえ販売者がその種の損害が発生する可能性について通知を受けていたとしても負いません。第三者からのいかなる権利の主張に対する責任も負いません。

統合ソフトTG-2000で使用するパソコンに関する注意点（概要）

（1）パソコン選定の注意点について

デスクトップタイプの機種を選定してください。

- ・機能により、常時通電しプログラムを動作する必要がありますので、熱がこもりやすいノートタイプよりデスクトップタイプの選定を推奨します。
- ・ノートタイプの機種によっては、長時間運転できないものがあります。

パソコンにUPSの設置を推奨致します。

- ・電源の瞬停、停電からデータを保護するために、UPS（無停電電源装置）の設置を推奨します。特に、電力按分課金支援を使用する場合は、必ずUPSを設置してください。

TG-2000の機能を発揮できるスペックのパソコン/動作環境をご用意ください。

- ・指定している動作環境のOSを使用してください。指定以外のOSでは動作しない可能性があります。
- ・パソコンはビジネスモデルを使用してください。パーソナルユースのモデルの場合、他のアプリケーションとの競合により、インストールができなかったり、動作に不具合が発生する可能性があります。

（2）使用時の注意について

パソコン本体を次のような場所に置かないでください。

- ・誤動作や故障の原因になります。
ほこりの多い場所／衝撃や振動が加わる場所
／不安定な場所／暖房機器の近く／スピーカーなど強い磁場の近く／長時間直射日光が当たる場所／落下の可能性がある場所／水分や湿度の高い場所／急激な温度変化のある場所／熱のこもる場所

パソコンや周辺機器についてはその据付説明書や取扱説明書を必ずお読みください。

- ・誤った取り扱いをすると、パソコンや周辺機器の火災や故障等の原因になります。

パソコンの通風孔をふさがないでください。

- ・内部の温度が上がり、火災・故障のおそれがあります。風通しがよい状態で使用ください。

パソコン本体やACアダプタを布や布団などでおおった状態や暖房器具等の近くや上に置かないでください。

- ・内部の温度が上がり、火災・やけど・故障のおそれがあります。

パソコンの通風孔を触らないでください。

- ・通風孔からの排気は室温よりも高い温度となっており、やけどのおそれがあります。

パソコン本体から煙や異臭、異常な音を発したとき、本体が手で触れないほど熱いときは、すぐに電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。

- ・そのまま使用すると、火災・やけど・感電のおそれがあります。購入元、またはパソコンメーカーに相談ください。

ノートパソコンの場合、蓋を閉めないでください。

- ・熱がこもって内部の温度が上がり、火災・やけど・故障のおそれがあります。風通しがよい開いた状態で使用ください。
- ・蓋を閉じたとき、システムのスタンバイや休止状態になり、TG-2000の機能を停止させる原因になります。

ハードディスク、フロッピーディスク、CDメディアの取り扱い上の注意事項を守ってください。

- ・ハードディスク、フロッピーディスク、CDの動作中は衝撃や振動を与えないでください。
- ・ハードディスク、フロッピーディスク、CDの動作中に電源を切ったり、再起動しないようにしてください。
- ・電源を入れたまま、パソコンを移動しないでください。

パソコンを定期的に再起動(リブート)してください。

- ・WindowsのOSは長時間の連続動作において、潜在的に不具合を生じる可能性があります。

※2章、および、5章の内容も確認してください。

（3）その他について

パソコンおよび周辺機器について

- ・使用されているパソコンやその周辺機器などの故障時には、メーカーにお問い合わせください。当社はいかなる場合も責任を負いません。

コンピュータウイルス対策について

- ・ネットワーク接続や外部媒体（USBメモリなど）を使用したデータのバックアップやコピーなどで、コンピュータウイルスに感染されないように注意してください。コンピュータウイルス感染に対して、当社はいかなる場合も責任を負いません。

集中コントローラG-150AD/GB-50AD/G-50のLAN接続に関する注意点（概要）

G-150AD/GB-50AD/G-50を直接インターネット上への接続はしないでください。

- ・G-150AD/GB-50AD/G-50とTG-2000等は、プライベートネットワークでの使用を前提としております。
- ・インターネットを使用してG-150AD/GB-50AD/G-50を接続する場合、必ず、セキュリティ確保可能なVPN（Virtual Private Network）接続が付いたルータ等の機器を介して接続してください。

2. はじめに

本統合ソフトTG-2000は複数台の集中コントローラG-150AD/G-50を接続して、空調機グループの運転監視/操作などを行なうためのソフトウェアです。

本統合ソフトTG-2000の取扱説明書は、現地調整編（本書）、管理編および、広域編の構成になっています。セットアップ方法やシステム設定については、本書を参照ください。

2. 1 動作環境（推奨システム）

	用途	動作環境
G-150AD/G-50対応版TG-2000 ■TG-2000 Ver. 6.39	G-150AD、GB-50AD、およびG-50接続に対応したTG-2000です。新規セットアップの場合は、本バージョンのセットアップを推奨します。	OS: Windows 7、Windows Vista、Windows XP (Windows 2000では動作しません。) 詳細は、下記表を参照してください。
G-50対応版TG-2000 ■TG-2000 Ver. 5.41	G-50のみ接続に対応したTG-2000です。(G-150AD、GB-50ADの接続には対応していません。) 旧バージョンのG-50対応TG-2000からのバージョンアップなどに使用できます。	OS: Windows XP、Windows 2000 (Windows 7およびWindows Vistaでは動作しません。) 詳細は、下記表を参照してください。

- (1) G-150ADを接続する構成に変更する場合は、TG-2000 Ver. 5.5*以降へのバージョンアップを行なってください。
- (2) G-150ADを拡張コントローラ（EC）接続の構成に変更した場合は、TG-2000 Ver. 6.01以降へのバージョンアップを行なってください。
- (3) GB-50ADを接続する構成に変更する場合は、TG-2000 Ver. 6.31以降へのバージョンアップを行なってください。
- (4) 従来機能の範囲（G-50接続のみ）でTG-2000を使用する場合（バージョンアップなど）、TG-2000 Ver. 5.4*、Ver. 5.3*のセットアップが可能です。
- (5) TG-2000 Ver. 5.23からのバージョンアップに対しては、Ver. 5.53以降へのバージョンアップを行なってください。

本統合ソフト（TG-2000）を使用するパソコン機器とソフトウェアの動作環境条件を示します。

項目	内容		備考
G-150AD/G-50対応版TG-2000			
PC	PC/AT 互換機（ビジネスモデルを推奨）		HP、DELLで動作確認済み
CPU	Core™ 2 Duo 1.66GHz 以上		Core™ 2 Duo 2.4GHz 以上推奨
	(注)Windows® 7/Vista®の場合はCore™ 2 Duo 以上であること		
	Pentium® M 1.7GHz 以上	Pentium® M 2.0GHz 以上推奨	
	Pentium® 4 2.4GHz 以上	Pentium® 4 2.8GHz 以上推奨	
メモリ	Windows® 7/Vista® の場合：1GB 以上		2GB 以上推奨
	Windows® XP の場合：512MB 以上		1GB 以上推奨
OS	Windows® 7 Professional / Home Premium (32ビット) Service Pack 1		Windows 7 Professional / Home Premium (64ビット)での動作確認済み
	Windows Vista® Business / Home Basic (32ビット) Service Pack 2		※1
	Windows® XP Professional / Home (32ビット) Service Pack 3		※1
G-50対応版TG-2000			
PC	PC/AT 互換機（ビジネスモデルを推奨）		HP、DELLで動作確認済み
CPU	Core™ 2 Duo 1.66GHz 以上		Core™ 2 Duo 2.4GHz 以上推奨
	Pentium® M 1.7GHz 以上		Pentium® M 2.0GHz 以上推奨
	Pentium® 4 2.4GHz 以上		Pentium® 4 2.8GHz 以上推奨
メモリ	Windows® XP、Windows® 2000：512MB 以上		1GB 以上推奨
OS	Windows® XP Professional / Home (32ビット) Service Pack 3		※1
	Windows® 2000 Professional Service Pack 4		※1
共通事項			
HDD 容量	標準モード	6GB 以上 (Cドライブに2GB 以上の空き容量が必要)	Cドライブ 40GB 以上の空き容量推奨 ※トレンド機能を「有効」にした場合、グループ数によって下記の空き容量が必要となります。 200グループ=2GB、500グループ=5GB、1000グループ=10GB、2000グループ=20GB
	広域モード	20GB 以上 (空き容量)	(目安) 1サイトあたり最大 200MB
記憶装置	CD-ROMドライブ		
解像度	1024×768 以上、65536色 (High Color) 以上		
LAN	1ポート (100BASE-TX/10BASE-T)		※2
モデム	56K モデム、または、TA		※広域モード時に使用
USB	2ポート以上		※データバックアップ時に使用
その他	本統合ソフト (TG-2000) の専用パソコンとして使用すること		24時間常時動作として使用すること ※3 (一部機能のみ。詳細は2. 3章参照。)

※1：各 Service Pack に対応している必要があります。未対応の場合は、TG-2000のセットアップが正常に行なわれません。必ず、該当の Service Pack を適用してください。

※2：パソコン購入時にオプションの購入、または、パソコンの推奨機器を使用してください。

※3：定期的に(週一回程度)TG-2000のパソコンの再起動を実施してください。(詳細は、8. 3. 2章を参照)

2. 2 適用機種

本統合ソフト（TG-2000）は空調機器の監視／操作と電力按分課金支援の大きな二つの機能がありますが、空調機により対応できない機種があります。

表・適用機種と機能一覧表 (○印：対応、△：制約条件あり、×：未対応) ※1

機種 ※2	機能	監視／操作	電力按分課金 (電力量手入力)	電力按分課金 (電力量/パルスカウント)	省エネ・ ピークカット
シティマルチY		○		○ ※3	○
シティマルチBIG Y		○		○ ※3	○
シティマルチSET Y		○		○ ※3	○
シティマルチR2		○		○ ※3	○
シティマルチBIG R2		○		○ ※3	○
シティマルチWR2		○		○ ※3	○
シティマルチWY		○		○ ※3	○
シティマルチS		○		○ ※3	○ ※11
シティマルチICE Yp		○	○ ※4	○ ※3	○ ※11
シティマルチICE Yk		○	○ ※4	○ ※3	○ ※11
シティマルチ躯体蓄熱		○	○ ※4	×	×
フリープラン室内機		○		○ ※5	○
フリープランロスナイ		○		○ ※3	△ ※12
加熱加湿付ロスナイ※6		○		○ ※3	△ ※13
単独加湿ユニット		△※7		×	×
ファンコイルユニット		×		×	×
A制御機器 ※9		○ (アダプタ必要)		○ ※3 ※10	△ ※14
K制御機器 ※9		○ (コンバータ必要)		○ ※3 ※10	△ ※15
RAC機種 ※9		○ (アダプタ必要)	×	△ (単独に電力量計が必要。 電力量計単位での課金。)	△ ※16
ヒートポンプ給湯機 ※17		×		×	×

※1：空調機により対応できない機種があります。大型室内機には、故障時等に制約事項があります。

※2：リプレースマルチも含まれます。

※3：課金ブロック単位で算出できます。

※4：シティマルチYの室内機と同じ方法で電力按分課金計算します。夜間電気料金を考慮せず、室内機の使用運転パラメータを基準に電力按分課金計算します。

※5：フリープラン以前の室内機は「能力セーブ量」基準の電力按分課金支援に対応していません。1台でも存在する場合は、按分基準を「サーモON時間」もしくは「FAN運転時間」に変更してください。

※6：外気処理ユニットなど

※7：TG-2000では、単独加湿ユニットはロスナイと同じ換気装置のリモコン操作設定画面が表示されます。そのため、リモコン操作設定では運転モードを変更せずに、発停と風速のみを使用してください。

※8：電力按分課金支援に対応していません。課金ブロックに登録しないでください。

※9：一部機種は対応していません。

※10：A制御スリム機種、K制御スリム機種の課金支援において、補助ヒータの課金に対応できない場合があります。「能力セーブ量」基準の電力按分課金支援には対応していません。

※11：室外機への能力セーブ制御はできません。

※12：停止制御のみ有効です。

※13：IC属性で使用の場合は、フリープラン室内機と同様の省エネ制御を行なえます。FU属性で使用の場合は、フリープランロスナイと同様の制御になります。

※14：インバータ機種は室外機への能力セーブ制御に対応しています。

※15：室内機へのサーモOFF制御はできませんので、送風制御を行ないます。

※16：設定温度制御、もしくは停止制御のみ行なうことができます。

※17：TG-2000では、ヒートポンプ給湯機の設定や監視は行なえません。

ヒートポンプ給湯機は、G-150AD本体でのみ設定や監視が行なえます。

2. 3 制約・注意事項

1. パソコンの注意事項

TG-2000を使用するパソコンの注意事項について、以下に示します。

(1) パソコンの再起動（リブート）について

- ・ **自動リブートの設定を必ず行なってください。**
手動による定期的な再起動（リブート）と、自動リブートを併用してください。
自動リブートの設定は、「8. 3. 2 信頼性機能」を参照ください。
- ・ **定期的に（週一回程度）TG-2000の終了と、Windowsの再起動（リブート）を手動で必ず行なってください。** Windowsの再起動は、TG-2000を終了してから行ってください。
WindowsのOSは長時間の連続動作において、潜在的に不具合を生じる可能性があります。
- ・ 手動による再起動（リブート）は08:00～21:45の間で実施してください。
- ・ 自動リブートや、手動による再起動が行なわれた後、TG-2000が動作していることを確認してください。
- ・ **パソコンの自動ログイン設定を必ず行なってください。**
自動ログインの設定を行なわないとTG-2000が自動で再起動したとき、パソコンの立ち上げ（リブート）後に自動でTG-2000が起動しません。
（「5. 1. 2 TG-2000のセットアップ準備」を参照ください。）
- ・ システム管理者は、運用担当者に手動による再起動（リブート）の実施と、自動リブートの設定内容について必ず連絡し、再起動（リブート）忘れを防止してください。
- ・ 定期的な再起動を行なわなかった場合、TG-2000の動作（課金、トレンドなど）に悪影響が出る恐れがあります。

(2) パソコンのコンピュータ名称について

- ・ 統合ソフトTG-2000をセットアップ後には、パソコンのコンピュータ名を絶対に変更しないでください。
コンピュータ名は、半角英大文字と、半角数字のみを使用してください。
コンピュータ名を変更するときは、G-150AD/G-50対応版TG-2000の場合は「5. 2. 6 パソコンのコンピュータ名の変更」を参考に、G-50対応版TG-2000の場合、「5. 3. 6 パソコンのコンピュータ名の変更」を参考に作業してください。
手順通りに変更しないと、「The connection error to a database. A program is ended」と表示され、TG-2000が動作しません。

(3) パソコンのユーザー名について

- ・ ユーザー名は、半角英大文字と、半角数字のみを使用してください。

(4) バックアップについて

- ・ 運用データ保護のため、定期的なバックアップをお勧めします。
バックアップ手順は「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

2. TG-2000の注意事項

TG-2000の制約条件や注意事項について、以下に示します。

(1) システム構成の制限について

このTG-2000のバージョンでのシステムの接続台数と、接続機器の対応バージョンは下表の通りです。

①システムの接続台数

	接続台数	備考
集中コントローラ	最大40台 ※1	G-150AD Ver. 2.90以降対応 GB-50AD Ver. 2.90以降対応 G-50 Ver. 3.33以降対応 拡張コントローラ (EC) Ver. 1.90以降対応 ※7, 9
室内機	最大2000台まで (全 IC, KIC, AIC, LC, FU, MCT, MCP, DC 含む)	最大50台/ (G-150AD (EC)、 GB-50AD、G-50) ※4, 5
汎用機器 (PLC)	最大640台 (汎用制御用PLC20台) まで ※2	最大32台/PLC
汎用機器 (フリー接点)	最大2000台まで ※3	最大350台/ (G-150AD (EC)、 GB-50AD、G-50)
計量MC	Ver. 6.31以降: 計量MC 最大80台まで (計量計は最大320台まで) 上記以外 (Ver. 6.31より前のバージョン): 計量MC 最大40台まで (計量計は最大160台まで) ※6	計量MC Ver. 1.04以降対応 ※10 最大5台/ (G-150AD (EC)、G-50) 最大15台/ (G-150AD Ver. 2.45以降、 GB-50AD Ver. 2.45以降) ※8
計量計 (PLC)	最大160台 (電力量 ¹ 以外用PLC5台) まで ※6	最大32台/PLC

[記号] IC: 室内ユニット, LC: フリープランロスナイ, FU: 加熱加湿付ロスナイ (外気処理ユニットなど), AIC: A制御ユニット, KIC: K制御ユニット, MCT: 環境MC (PAC-YG63MC), MCP: 計量MC (PAC-YG60MC), DC: 汎用DC (PAC-YG66DC), EC: 拡張コントローラ (PAC-YG50EC)

- ※1: 拡張コントローラ (EC) を接続したG-150AD (Ver. 2.00以降) の場合は、拡張コントローラ (EC) の台数が接続台数分になります (拡張コントローラ (EC) 接続なしのG-150ADは1台分)。
- ※2: 汎用機器用PLCには各32台のみ接続できます。
「8. 9. 7 汎用機器設定 (STEP6)」に記載の汎用機 No. 1** - 1~32になります。33~100を選択しても汎用機器用PLCの制約から使用できません。
拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADは、汎用機器用PLCに接続した汎用機器の連動制御には対応していません。
- ※3: 各G-150AD (EC) /G-50には室内機フリー接点機能として汎用機器は最大350台まで接続できますが、統合ソフトTG-2000では室内機フリー接点機能で接続できる汎用機器は最大2000台までです。
- ※4: 汎用DC (PAC-YG66DC) の1接点は1ユニットに換算され、G-150AD (EC) /G-50 1台につき、最大50ユニットまで接続可能です。大型室内機は、形名により2台以上のユニットに換算されるケースがあります。
- ※5: 汎用DC (PAC-YG66DC)、環境MC (PAC-YG63MC)、計量MC (PAC-YG60MC) は、G-150AD Ver. 1.10以降、G-50 Ver. 3.20以降およびTG-2000 Ver. 5.11以降から対応しています。
- ※6: 計量計接続には電力量カウントソフト用PLCと計量MCのどちらか一方しか接続できません。
PLC (電力量カウントソフト用) と計量MCの混在による接続はできません。
- ※7: 拡張コントローラ (PAC-YG50EC) はG-150AD Ver. 2.00以降およびTG-2000 Ver. 6.01以降から対応しています。
拡張コントローラ (PAC-YG50EC) はG-150ADに対応したバージョン (G-150AD Ver. 2.90の場合、拡張コントローラはVer. 1.90) を使用してください。
- ※8: G-150AD (Ver. 2.45以降) 1台につき、計量MC 15台の範囲内で、拡張コントローラ (EC) (Ver. 1.45以降) 1台につき、計量MCを15台まで接続可能です。
GB-50AD (Ver. 2.45以降) は、1台につき、計量MC 15台の接続が可能です。
- ※9: 未対応のバージョンの場合は、「5. 1. 1 G-150AD/G-50のバージョンの確認」を参考にバージョンアップを実施してください。
- ※10: 計量MCのバージョンが1.04以前の場合はバージョンアップが必要です。お買上げの販売店にご相談ください。

②統合ソフトTG-2000とG-150AD/G-50の組合せ

TG-2000の本バージョンでは、統合ソフトTG-2000セットアップCDに収納しているG-150AD、GB-50AD、G-50、および、拡張コントローラ(PAC-YG50EC)のバージョン以降をご使用ください。

参考1：G-150AD/G-50組合せ一覧表 (○：対応、×：未対応、(○)：使用不可機能有)

		TG-2000					備考
		~Ver. 5.4*	Ver. 5.53~	Ver. 6.01~	Ver. 6.31~	Ver. 6.39~	
G-150AD ※1	Ver. 1.10~	×	○	○	○	○	
	Ver. 2.09~	×	×	○	○	○	
	Ver. 2.90~	×	×	×	×	○	
GB-50AD ※1	Ver. 2.45~	×	×	×	○	○	
	Ver. 2.90~	×	×	×	×	○	
G-50 ※1	Ver. 3.22~	○	(○)	(○)	(○)	(○)	
		※2	※3	※3	※3	※3	
TG-2000の機能 (概要)		G-150AD 接続には未対応	G-150AD 接続に対応 (拡張コントローラの接続なし)	G-150AD 接続対応 (拡張コントローラの接続あり) G-150AD 機能拡張： 外気温度運動制御、 セツバック制御、 最適起動の設定	GB-50AD 接続に対応	G-150AD/GB-50AD 機能拡張： 24時間換気 ナイトバージョン	

※1：「8.6章」に記載の方法でバージョンを確認できます。

※2：下記表(参考2)に記載の機能が含まれます。

※3：G-50接続に対しては、G-150ADまたはGB-50ADで拡張された機能は使用できません。

参考2：G-50組合せ一覧表 (○：対応、×：未対応、(○)：使用不可機能有)

		TG-2000						備考
		Ver. 1	Ver. 3~3.10	Ver. 4~4.32	Ver. 4.51	Ver. 4.61	Ver. 4.71	
G-50 ※1 ※2	Ver. 2.00~2.20	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	電力按分課金 支援は除く
	Ver. 2.21~	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	
	Ver. 2.51~	× ※3	× ※3	○	(○)	(○)	○	
	Ver. 2.60~	× ※3	× ※3	○	○	○	○	
	Ver. 2.70~	× ※3	× ※3	○	○	○	○	
Ver. 2.80~	× ※3	× ※3	○	○	○	○		
TG-2000の機能 (概要)		電力按分課金 支援 (電力量手入力)	電力按分課金 支援 (電力量手入力 ・パルスカウント)	電力按分課金 支援 省エネ・ピークカ ット(WHM 使用) 汎用機器監視操作	ナイトモード、 ピークカット (デマンド制御 機器使用、 E-Energy 使用) 常時未接の電力 按分課金支援 ※4	汎用機器 PLC の入出力運動 制御 ※5		空調機の監視/ 操作スケジュール を含む。

		TG-2000					備考
		Ver. 4.81	Ver. 4.91~4.97		Ver. 5.01	Ver. 5.11~	
G-50 ※1 ※2	Ver. 2.00~2.20	(○)	×	×	×	×	電力按分課金 支援は除く
	Ver. 2.21~	(○)	×	×	×	×	
	Ver. 2.51~	○	×	×	×	×	
	Ver. 2.60~	○	×	×	×	×	
	Ver. 2.70~	○	×	×	×	×	
	Ver. 2.80~ ※6	○	○	×	○	×	
	Ver. 2.90~	○	○	○	○	×	
	Ver. 3.00~	○	○	○	○	×	
Ver. 3.20~ ※8	○	○	○	○	○		
TG-2000の機能 (概要)		A 制御、K 制御 課金支援	G-50の初期設定 Web	A制御インバータ スリム室外機 省エネ設定	G-50の初期設 定 Web	オートチェンジ オーバー	汎用 DC、環境 MC、計量 MC 対応 ※7

- ※1：「8. 6章」に記載の方法でバージョンを確認できます。
- ※2：電力按分課金支援を使用する場合、G-50はVer. 2. 21 以降をご使用ください。また、省エネ/ピークカット機能 (WHM 使用) を使用する場合、G-50はVer. 2. 50 以降をご使用ください。
ピークカット機能 (デマンド制御機器使用、E-Energy 使用) を使用する場合、G-50はVer. 2. 60 以降をご使用ください。
- ※3：G-50のVer. 2. 50 以降を使用する場合は、TG-2000 Ver. 3. 10 以下はご使用になれません。
- ※4：ナイトモードの機能を使用する場合、G-50はVer. 2. 60 以降をご使用ください。
- ※5：室内機フリー接点機能をご使用の場合、G-50はVer. 2. 70 以降をご使用ください。
- ※6：G-50の初期設定Web機能を使用する場合は、TG-2000のVer. 4. 81 以降をご使用ください。
- ※7：計量計接続には電力量カウントソフト用PLCと計量MCのどちらか一方しか接続できません。混在による接続はできません。汎用DC (PAC-YG66DC)、環境MC (PAC-YG63MC)、計量MC (PAC-YG60MC) は、G-150AD Ver. 1. 10 以降、G-50 Ver. 3. 20 以降およびTG-2000 Ver. 5. 11 以降から対応しています。
- ※8：G-50 Ver. 3. 20 以降を使用し、省エネ/ピークカットを使用する場合は、TG-2000 Ver. 5. 11 以降をご使用ください。

③1システムに対する統合ソフトTG-2000の接続台数

統合ソフトTG-2000 (標準モードおよび広域モードを含む) は1システムに対して1台のみ設置可能です。

(2) グループ設定の制限について

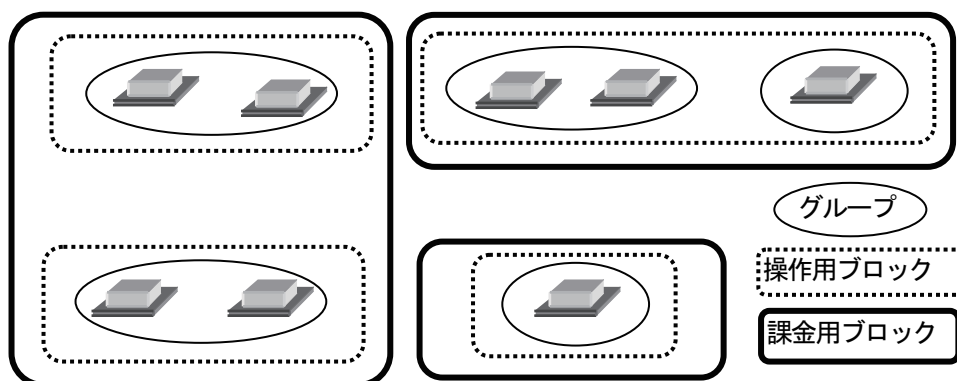
項目	内容	注記
リモコン接続台数	1グループ内にリモコン2台まで	*M-NET系リモコン以外は、本機で登録や設定は不要です。 ※1
1グループ内の室内ユニット接続台数	1～16台	*IC、KIC、AIC、LC、DCは同一グループにできません。 G-150AD (EC) /G-50をまたがるグループ設定はできません。 ※2, 3
1グループのSC, RC接続台数	1グループ内に4台まで	*G-50の台数は含みません。
1フロアのグループ数	1フロア70グループまで	*全館画面の1フロアに70グループまで配置して表示できます。

[記号] IC：室内ユニット、LC：フリープランロスナイ、FU：加熱加湿付ロスナイ、AIC：A制御ユニット、KIC：K制御ユニット
SC：システムコントローラ、RC：手元リモコン、DC：汎用DC、EC：拡張コントローラ (PAC-YG50EC)

- ※1：同じグループにMEリモコンとMAリモコンの併用はできません。
- ※2：グループは同じ機能のユニットを設定してください。
- ※3：異なる機種や機能のユニットは別グループに設定してください。

(3) ブロック設定について

- ・ブロックには「操作ブロック」と「課金用ブロック」の2種類があります。
- ・操作ブロックは、グループの集まりであり、他機種グループでも同じ操作ブロックに設定できます。
- ・課金用ブロックは、操作ブロックの集まりで構成されています。



※操作ブロックは、G-150AD/G-50のブラウザ (またはG-150AD液晶画面) で管理しているブロックと同じです。

統合ソフトTG-2000上のみ、G-150AD/G-50をまたがった操作ブロックを設定できます。

- ・操作ブロックは、K制御機種、A制御機種、汎用DC、ロスナイ、フリープラン室内機ごとに別々に設定することを推奨致します。

(4) K制御機種の使用について

K伝送コンバータ（形名：PAC-SC25KA）を使用し、K制御機種を管理する場合は、以下の項目に注意してください。詳細は、K伝送コンバータの据付説明書を参照ください。

- ・ K伝送コンバータのアドレス設定：K制御機種の最小アドレス+200
- ・ K制御機種のアドレス設定：M伝送機種のアドレスよりも大きい値とする
- ・ K制御機種のグループ設定：グループ番号と、そのグループに属するユニットの最小アドレスが同じとする
- ・ K制御ロスナイの機種は対応していません。

(5) A制御機種の使用について

- ・ M-NET 接続用アダプタ（形名：PAC-SF48/49/MA, PAC-SG40MA）を使用してください。また、グループ設定では、本A制御機種のみにしてください。

(6) 異常発生時の対応について

- ・ リポート中（※1）の期間や集中コントローラG-150AD/G-50または他のコントローラ、シーケンサなどの故障等により、各制御や機能が正常に動作しない場合があります。異常の場合は異常表示等を行ないますので、速やかな故障原因の復旧を行なうようお勧め致します。

※1：システムの再起動中のことです。

(7) 電力按分課金支援について

- ・ 本機能は、各空調機が使用した電力量を算出するものではなく、空調出力した能力を当社独自の方法で課金按分計算を支援するものです。次の（8）の注意事項、および、いかなるトラブルや損害が発生しても保証できませんので、その旨を同意の上ご使用ください。
- ・ 課金ブロック設定されていないグループが存在する場合、そのグループの電力量は空調料金に反映されません。電力按分課金支援を実施したいグループは操作用ブロックおよび課金用ブロックに設定してください。
- ・ 一部旧機種のM-NET 制御室内機は電力按分課金支援に対応していません。
- ・ アドレス変更を伴うシステム変更や空調機の増設をする場合、課金按分に影響するケースがあります。ビルオーナー様側に了承の上、実施することを推奨致します。
- ・ 本機能を使用時は、空調機の主電源を切らないでください。課金按分に影響するケースがあります。
- ・ 集中コントローラG-150AD/G-50やPLC（シーケンサ）または計量MCなどの通信異常等により、電力按分の繰り越しなどのイレギュラー処理を実施しています。
- ・ 電力値の精度は電力量計に依存しております。また、その他のガスなどの計量の精度も計量計に依存していますので、精度の誤差が発生することを承知の上、ご使用ください。
- ・ 「常時接続課金する」場合は、統合ソフトTG-2000を24時間常時運転してください。停止すると、空調料金結果が赤表示になることがあります。
- ・ 電力量計の接続は、PLC（電力量カウントソフト）、計量MCのどちらか一方のみ可能です。システムとして、それらが混在した接続はできません。
- ・ 電力按分課金支援をご使用する場合には、「11.3 課金試運転チェック」を必ず実施してください。

(8) 電力按分課金支援を使用する際の注意について

本統合ソフト（TG-2000）に組み込まれた電力按分課金支援の計算方法は、空調機の運転状態から判断して、その使用状況に応じて総電力量を按分する三菱電機独自の方法です。

このため、**計量法でいう（計量による）取引、証明には使用できません。**

ご使用に当たっては、空調料金はビルオーナーがそのビルに入居するテナントに課する使用料の一部であり、ビルオーナー様側とテナント様側との個別契約で『空調料金は（電力量の計量による課金ではなく）空調機の運転状況で勘案した按分方式による使用料として徴収する（故障時の臨時対応も含む）』旨を合意、または、協定していただくことを推奨いたします。

- (1) 各空調機の電力供給箇所に電力量計を設置して算出するものではありません。
- (2) 各空調機に電力量計を設置するような算出方法を要求される用途には適用できません。
- (3) 空調按分電力量を推測するシステムなので、取引証明用として使用できません。
- (4) 空調機の使用時間が同じでも、空調機の運転負荷状態により空調料金が異なります。
- (5) 電力量計が1台と複数台での接続では、その電力量計の総電力量で按分するため、誤差が発生します。複数台の空調機を一つの空調機と見なして、按分計算します。
- (6) 空調機は停止中でも通電されていますので、空調機を使用しなくても空調料金を算出します。
- (7) パソコン、G-150AD/G-50、PLCまたは計量MCの故障時、過去の按分平均値などで救済対応します。
- (8) 電力量計やガス計などはパルスとして取り込んでおり、性能や精度などは計量計に依存しているため、いかなる場合でも責任を負いません。

※ガスなどの計量計に関しても、パルス変換によりカウントしており、取引証明用には使用できません。そのカウント値による徴収や故障時の臨時対応も含めたものになることを了承の上、ご使用ください。

(9) 省エネ、ピークカット機能について

- ・ピークカット機能を使用する際は、制御動作の設定内容やG-150AD/G-50、PLCまたは計量MCの故障などより使用電力が契約電力値を超えるなどのいかなる損害が発生しても保証できませんので、その旨を同意の上、ご使用ください。
- ・省エネ、ピークカットの制御単位は、G-150AD/G-50単位内の操作ブロックと室外機になります。
- ・電力量カウンソフトのPLCに接続の電力量計を使用するピークカットの制御において、G-150AD/G-50がモニタする電力量計は1台のみで、G-150AD/G-50毎に設定できます。1台のG-50が管理する空調機で、2台以上の電力量計を接続するシステムでは使用できません。また、電力量カウンソフトのバージョンをVer. 1.01以降のものをご使用ください。
- ・計量MCに接続された電力量計を使用するピークカット制御において、G-150AD/G-50で管理している電力量計1台を選択できます。また、他のG-150AD/G-50の電力量計をピークカット制御に使用する場合(*1)は、電力量計が接続されたG-150AD/G-50に対し、最大3台のG-150AD/G-50から電力計測値を参照できます。
 - *1: 電力量計が接続されたG-150AD/G-50に制御レベルを1分間隔でモニタするため、モニタ先のG-150AD/G-50と比較して制御レベルが1分程度遅れて変化します。
ピークカット電力を超えないように制御レベル値は余裕を持って設定してください。
- ・デマンド制御機器を使用するピークカットの制御において、デマンド入力PLCソフトが管理するG-150AD/G-50は10台まで設定できます。G-150AD/G-50が10台を超える場合はPLCを複数台設置してください。また、PLCにはデマンド入力PLCソフト(PAC-YG41/42/43ATM)をご使用ください。
- ・E-Energyを使用するピークカットの制御において、E-Energyが管理するG-150AD/G-50は10台まで設定できます。詳細はE-Energyの取扱説明書を参照してください。

(10) 設定温度範囲制限機能について

- ・MEリモコンシステムでは、設定温度範囲制限される対象はMEリモコンと個別ブラウザのみとなります。
- ・MAリモコンシステムでは、設定温度範囲制限される対象はMAリモコンと個別ブラウザのみとなります。ただし、室内ユニットの機種(スリム機種や、RAC機種など)により、本機能がMAリモコンで利用できない場合があります。対応可能なMAリモコンは下記の通りです。
 - MAスームスリモコン(PAR-22MA, PAR-24MA, PAR-26MA(1))
 - MAスマートリモコン(PAR-30MA, PAR-31MA, PAR-32MA, PAR-33MA)
 - MAデラックスリモコン(PAC-YT35ST, PAC-YT37ST)
 - MAコンパクトリモコン(PAC-YT51CR)(MAリモコンシステムでは、TG-2000としてVer. 5.11以降、G-150ADとしてVer. 1.10以降、G-50としてVer. 3.20以降から対応しています。)

(11) 初期設定について

- ・運用の設定内容が不明な場合でも、「使用する」に選択した初期設定の項目を全て設定してください。設定を省略した場合、一部の機能が正常に動作しないケースがあります。
- ・PLCの設定は、PLCソフトの据付(セットアップ)以外に、TG-2000からの初期設定が必要です。
- ・「時刻設定」は、必ずG-150AD/G-50、PLCの時刻を確認して、必要に応じて時刻設定してください。

(12) 統合ソフトTG-2000の運用について

- ・TG-2000は「常時接続課金する」と「常時接続課金しない」の2つが選択できます。「常時接続課金する」の場合は以下の機能を毎日自動で行ないます。「常時接続課金しない」の場合は毎月1度(精算日翌日)に自動で行ないます。
 - ・電力按分課金のデータ収集
 - ・按分・精算計算処理
- ・以下の機能は、「常時接続課金する」では利用できませんが、「常時接続課金しない」では利用できません。TG-2000が停止している期間(G-150AD/G-50に接続されていない期間)はその機能が動作しません。
 - ・トレンド機能(温度・発停・モード、電力量、温度・湿度)
 - ・ピークカット機能(ピークカットの日報、月報出力機能のみ)
- ・以下の機能を使用する際、その期間はTG-2000を常時運転してください。
 - ・サマータイムの移行・復帰の前日から翌日まで
 - ・電力按分課金の通常と季節料金の移行前日から翌日まで

※TG-2000が停止しているときは、G-150AD/G-50、PLCまたは計量MCの異常を検知できません。

G-150AD/G-50やPLCまたは計量MCが故障・停止・電源OFFしていると、課金に必要なデータの収集ができなくなり、空調機や汎用機器のスケジュール動作などができなくなります。定期的に正常動作や異常発生の有無を確認することを推奨いたします。

- ・TG-2000の動作を妨げるため、Windows、TG2000、MSSQL7、その他TG-2000のユーザー設定で指定したフォルダに「読み取り専用」などの制限をかけないでください。

(13) ファイルの自動出力について

- ・TG-2000が停止しているなどの理由で、空調料金やトレンドなどの自動出力時刻に、ファイルが出力されないことがあります。その場合は、該当機能の出力画面から、手動でファイルの出力を行なってください。

また、ファイルが自動出力されなかった場合については、一切の保証を行いません。

(14) 課金対象機器の増設について

- ・機器増設の際には、空調機、換気機器、電力量カウンタPLCまたは計量MCを必ず全て停止させてください。
- ・増設作業を実施している間は、課金支援および電力カウンタは正常に機能しません。
- ・増設作業終了後は、必ずTG-2000でシステム設定の変更と確認を実施してください。また、システム設定の変更と確認終了後、必ず試運転を実施してください。
- ・G-150AD/G-50やPLCを増設した場合は、時刻設定が必要ですので、確認と設定を実施してください。

(15) 汎用機器の使用について

- ・汎用機器との配線断線やPLC（または、汎用DC）の故障などにより、汎用機器の監視／操作ができなくなるケースがあります。このケースで損害が発生しても、弊社では責任を負えませんので、予めご了承ください。また、故障時に応急操作などできるように考慮した回路にすることを推奨致します。
- ・汎用制御PLCソフトのVer.1シリーズでは、G-150AD/G-50にライセンス番号を登録する必要はありません。

(16) G-150AD (EC) /G-50の交換時の設定送信について

- ・G-150AD (EC) /G-50を故障等で交換した場合、該当のG-150AD (EC) /G-50への設定を行なう必要があります。

TG-2000からの「全設定送信」で、交換したG-150AD (EC) /G-50への設定内容の送信を行なうことができます。（「全設定送信」については、「6.3 画面遷移と機能一覧」を参照。）

※「全設定送信」では、全てのG-150AD (EC) /G-50に対して、TG-2000で保持している設定内容を送信します。他のG-150AD (EC) /G-50の設定内容に誤りがないかを確認の上、実施してください。

(17) 機能について

- ・機能や仕様は、改良のため、お断りなしに、一部仕様を変更する場合があります。
- ・G-150AD Ver.2.00以降（拡張コントローラ（EC）接続対応、G-150AD 1台当たり最大150台接続可能）に接続する場合は、「G-150AD/G-50対応版TG-2000」のVer.6.01以降を使用してください。
- ・GB-50ADに接続する場合は、「G-150AD/G-50対応版TG-2000 Ver.6.31以降」を使用してください。

(18) TG-2000の使用許諾について

※1章の「安全のために必ず守ること」の章末をご参照ください。

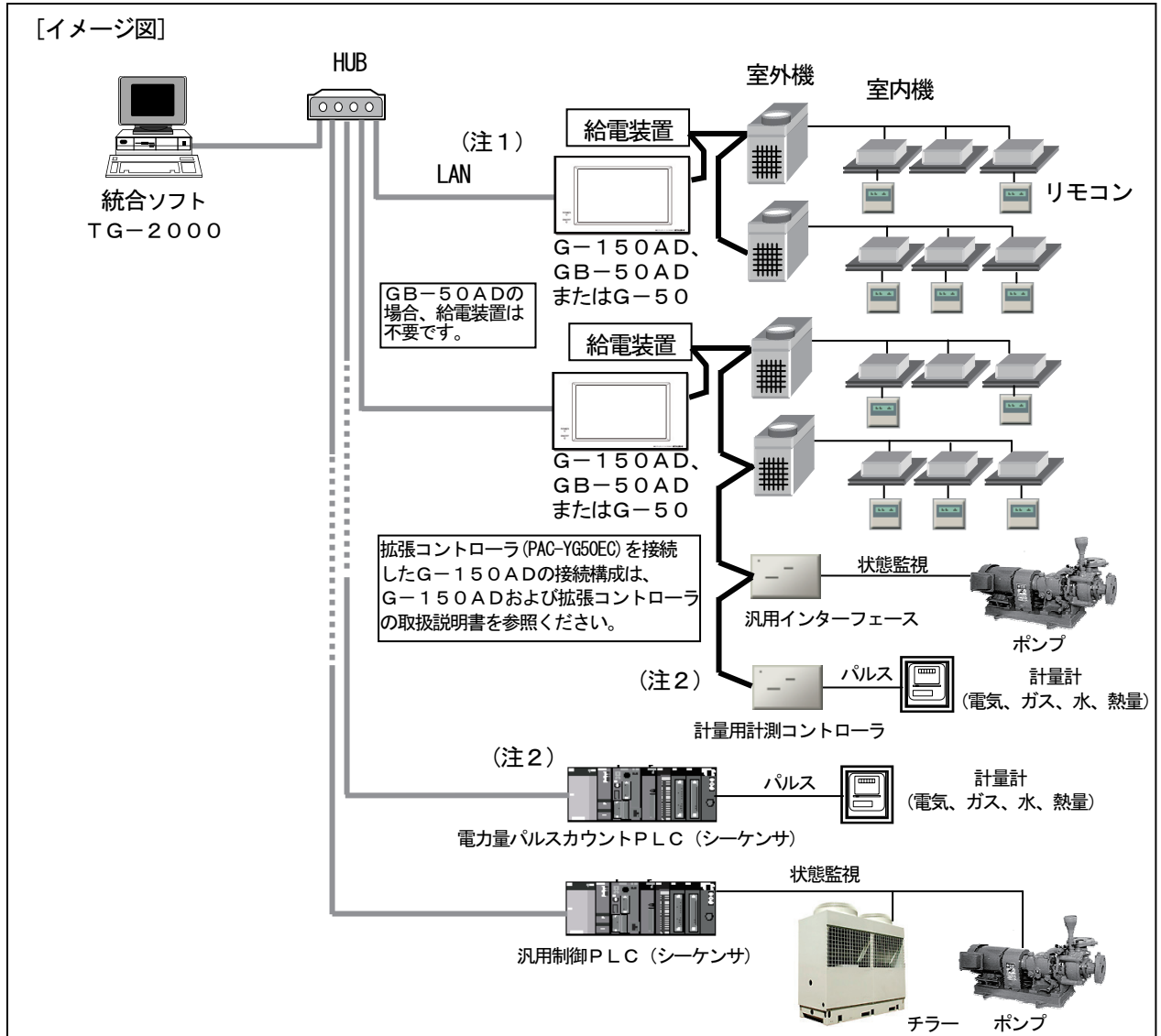
2. 4 その他の周辺機器

本統合ソフト（TG-2000）で使用する機器について、以下の機器を指定あるいは推奨します。

機器名	メーカー	形名	備考
HUB	(指定なし)	(指定なし)	スイッチングHUBを推奨
プリンター	(指定なし)	(指定なし)	ページプリンターのみ対応 (使用するパソコンのOS (Windows® 7、Windows Vista®、 Windows® XP または Windows® 2000)で動作すること)
PLC (シーケンサ) ※電力量パルス カウント用 ※汎用制御PLC ソフト用 (Ver. 1シリーズ)	三菱電機	CPUユニット : Q02CPU ベースユニット : Q33B 電源ユニット : Q61P 入力ユニット : QX40 出力ユニット : QY40P Ethernetユニット : QJ71E71-100	電力按分課金(電力量パルスカウン ト)または汎用機器の操作/監 視機能で使用します。 また、それぞれ専用のPLCソフ ト(PAC-YG11ATM等)が必要になり ます。 ※電力量パルスカウント用と汎用制御用の PLCは別々に必要です。 ※電力量パルスカウント用PLCでは、出力 ユニットは必要ありません
PLC (シーケンサ) ※汎用制御PLC ソフト用 (Ver. 2シリーズ) ※デマンド入力 PLCソフト用 (Ver. 2シリーズ)	三菱電機	CPUユニット : Q02HCPU ベースユニット : Q33B (Q35B, Q38B, Q312B) 電源ユニット : Q61P 入力ユニット : QX40 出力ユニット : QY40P Ethernetユニット : QJ71E71-100	汎用機器の操作/監視機能、スケ ジュールや室内機フリー接点に接 続する汎用機器の操作/監視機 能、空調機と汎用機器の連動制御 機能で使用します。また、デマン ド制御機器を接続するピークカッ ト機能でも使用します。 それぞれ専用のPLCソフト (PAC-YG21ATM等 , PAC-YG41/42/43ATM)が必要になり ます。 ※汎用制御ソフト用とデマンド入力PLC ソフト用のPLCは別々に必要です。
PLC (シーケンサ) ※デマンド入力 PLCソフト用 (Ver. 3シリーズ)	三菱電機	CPUユニット : Q03UDECPU ベースユニット : Q33B (Q35B, Q38B, Q312B) 電源ユニット : Q61P 入力ユニット : QX40 出力ユニット : QY40P Ethernetユニット : <u>不要</u>	デマンド制御機器を接続するピー クカット機能で使用します。 専用のPLCソフト (PAC-YG91/92/93ATM)が必要にな ります。 ※CPUユニットがEthernet機能内蔵のため、 Ethernetユニットは不要です。
電力量計 (電力量カウントソフ ト用PLC、および、 計量MC)	三菱電機	M1L(H)M-K11(V) M1L(H)M-K12(V)R M7P-K30VR M2L(H)M-K11(V) M2L(H)M-K12(V)R M8P-K30VR	※0.1秒以上のパルス出力対応の 電力量計(半導体リレー) ※1kWh/pulse以下を推奨します。 (10/1/0.1kWh/pulse)
UPS (無停電電源装置)	(指定なし)	(指定なし)	電力按分課金支援を使用した場 合、設置してください(データな どの破損・紛失等を避けるため)。

3. システム構成

3. 1 システム構成例

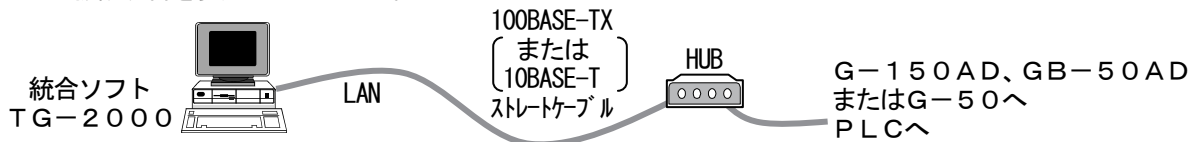


- (注1) G-150AD (EC) / GB-50AD / G-50を直接インターネット上への接続はしないでください。(プライベートネットワークで使用してください)
インターネットを使用してG-150AD (EC) / GB-50AD / G-50を接続する場合、必ず、セキュリティ確保可能なVPN (Virtual Private Network) 接続が付いたルータ等の機器を介して接続してください。
- (注2) 計量計は、電力量パルスカウンタPLCまたは計量用計測コントローラのどちらか一方の接続になります。

3. 2 ハードウェア接続図

(1) LAN接続

パソコン本体とLANケーブルを接続します。パソコンのLAN用コネクタの位置はパソコン本体の取扱説明書を参照してください。



お知らせ

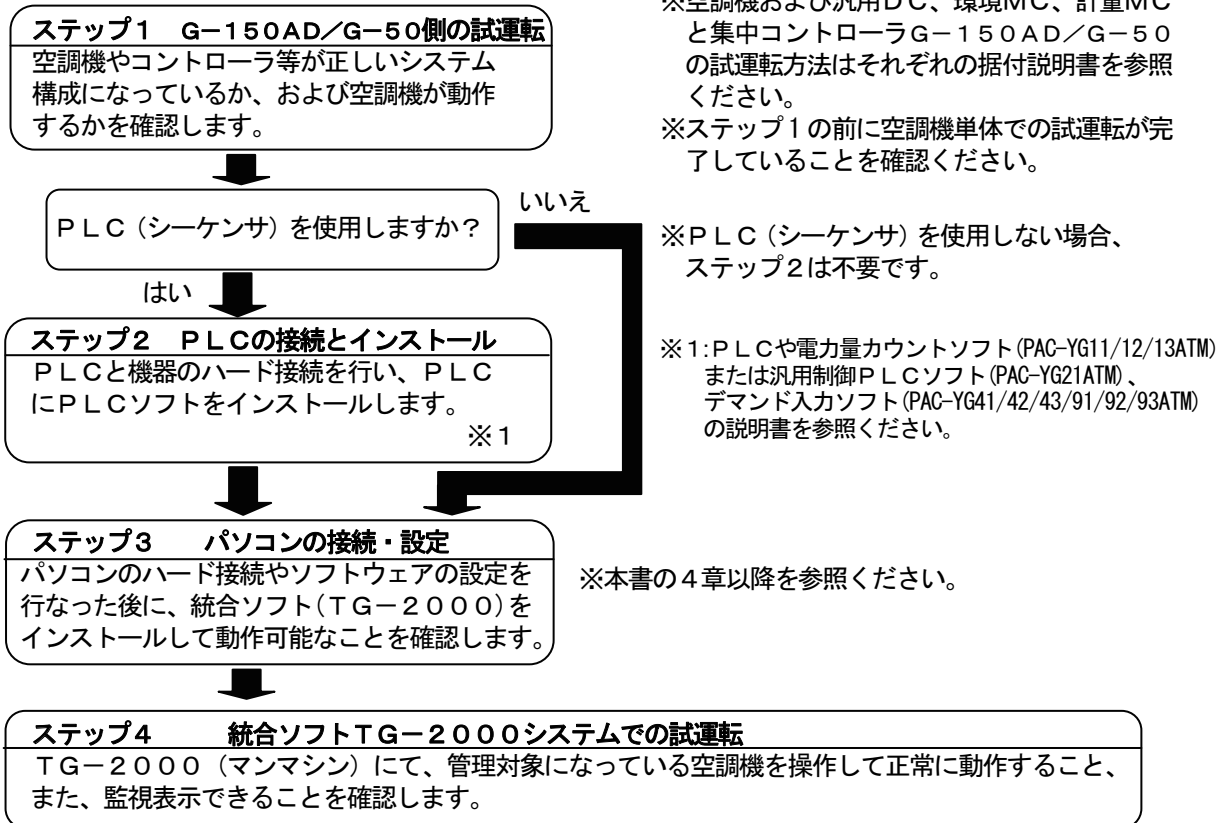
- ・HUB (リピータ機能付あるいは、スイッチング機能付 (推奨)) は必ず使用してください。
- ・リピータ機能付HUBを使用する場合、各機器を接続する経路上のHUBの数にご注意ください。
100BASE-TXの場合、カスケード接続は最大2台まで。
10BASE-Tの場合、カスケード接続は最大4台まで。
※HUBの最大接続台数については、HUBの取扱説明書に従ってください。
- ・G-150AD、拡張コントローラ (PAC-YG50EC)、GB-50AD、G-50 (GB-50)、またはPLCのLAN接続や注意事項については、各機種種の据付説明書を参照してください。

4. 現地調整の流れについて

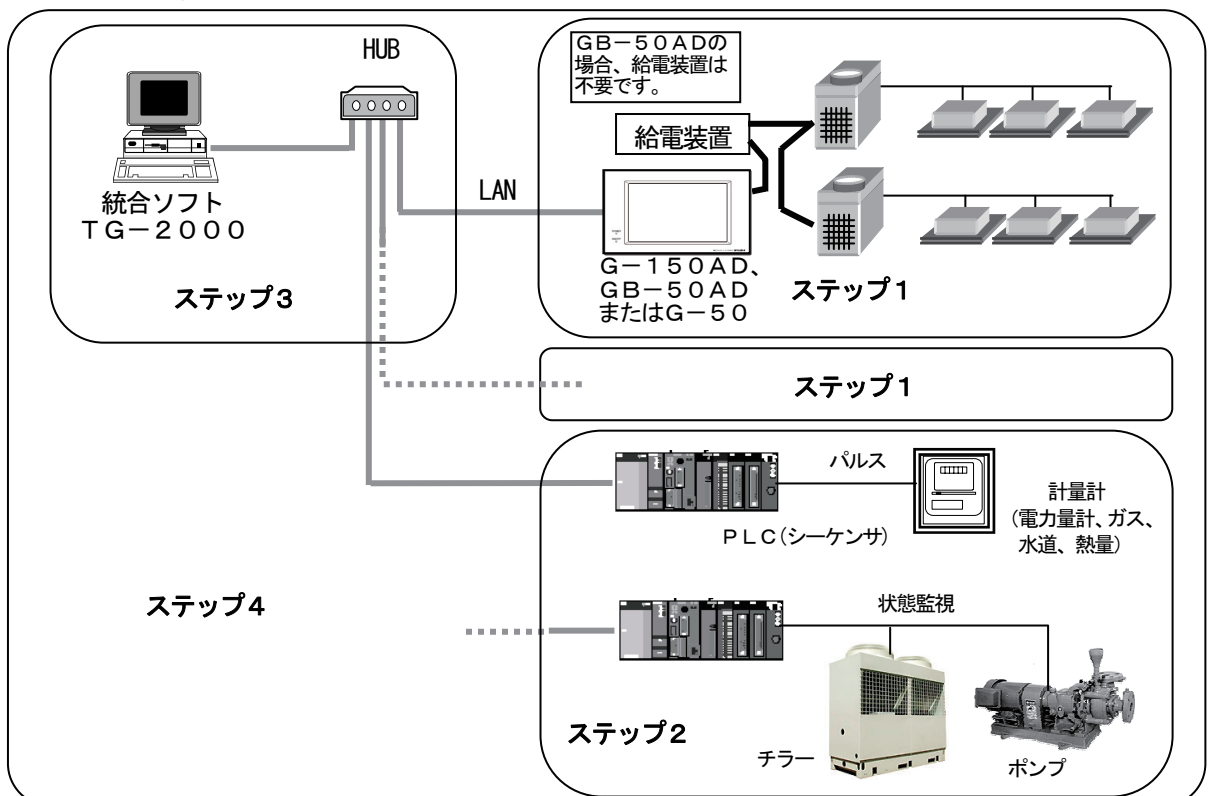
4. 1 現地調整の流れ

一般的に現地調整は、大きく区分すると、下図のように4ステップに分かれます。この4つのステップに沿って現地調整を行なうことにより、各ステップでトラブルが生じても、発生元の区分が明確になります。このため、トラブル処理が容易になり、現地調整をより効率的に進めていくことができます。

以下の手順に従い現地調整を行なってください。



<システム例>



4. 2 現地調整の準備品

現地調整や試運転を行なうために、以下の機器や資料を準備します。

<計測機器>

- ・テスター … 配線確認、電圧チェックに使用。

<参考資料>

- ・物件の空調管理システム図
- ・統合ソフトTG-2000取扱説明書（現地調整編（本書）、管理編）
- ・各空調機器やコントローラの取扱説明書、据付説明書
- ・PLC（シーケンサ）と電力量カウンソフトおよび汎用制御PLCソフト、デマンド入力PLCソフトの取扱説明書

<その他>

- ・ライセンス番号 … 使用する機能に必要なG-150AD/G-50のライセンス番号
- ・フロッピーディスク … データをコピーする際に使用。
- ・CD-R/USBメモリ … 作成したデータを保存し、現地パソコンにコピーする際に使用
- ・統合ソフトのCD … 統合ソフトTG-2000のセットアップ・ディスク
- ・初期設定ツール … 本ツールをインストールしたパソコン
- ・LANケーブル … PAC-YG00FA：G-50の前面接続用のLANケーブル（必要時）
- ・シーケンサ設定ツール … GX Developer（三菱電機製）のソフトウェア（専用RS-232Cケーブル含む）
※PLC使用システムで現地インストール時に必要
- ・テーブル設定ツール … 汎用制御PLC用のテーブル設定ツール（連動制御時のみ必要）
- ・メンテナンスツール … 汎用DC、環境MCの連動制御機能を使用時に必要
- ・ドライバー … 工具
- ・その他必要な工具等

4. 3 ステップ1：集中コントローラG-150AD/G-50からの試運転

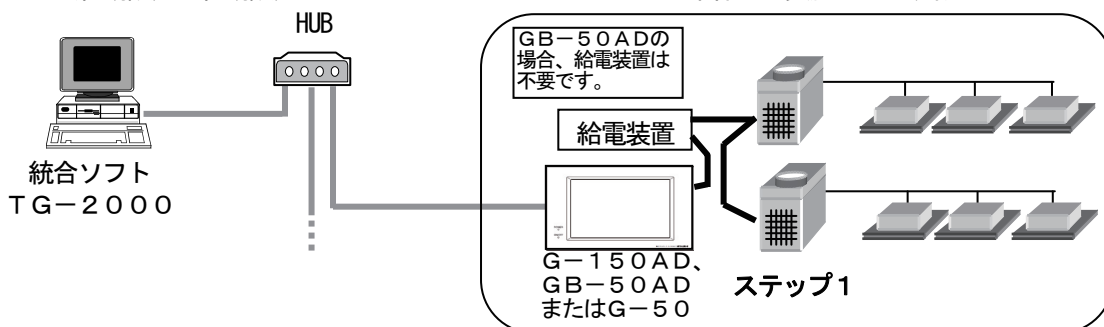
集中コントローラG-150AD/G-50の空調システムのみで試運転を行ないます。

(1) 事前確認

空調機の試運転が完了していることを確認します。

集中コントローラG-150AD/G-50にグループ設定、および、連動設定が行なわれていることを確認します。

（初期設定は初期設定WebやG-150AD/G-50本体から実施できます。）



(2) 集中コントローラG-150AD/G-50からの試運転

集中コントローラG-150AD/G-50および全空調ユニットに電源を投入してから、集中コントローラG-150AD/G-50より試運転操作を行ない、各ユニットの運転状態を確認します。

※試運転の方法は、空調機および集中コントローラG-150AD/G-50の据付説明書をご覧ください。

4. 4 ステップ2：PLC（シーケンサ）の接続とインストール

(1) 事前確認

PLCの設置や電源配線、および、電力量計とのパルスの配線接続、あるいは、汎用機器との配線接続などを完了していることを確認します。

お知らせ

- ・PLCの設定方法および操作方法は、PLCに添付されている据付説明書や取扱説明書を参照してください。

お願い

- ・汎用機器との配線工事や接続確認を行なう際は、事前に相手側機器の管理者や工事責任者の承諾を得るか、立ち会っていただくようお願い致します。

- (2) 電力量カウンソフト／汎用制御PLCソフト／デマンド入力PLCソフトのインストール
 PLCに電力量のパルスをカウントする、または、汎用制御の機能を使用する、ピークカットの機能を使用するために、PLCのメモリフォームットや電力量カウンソフト、または、汎用制御PLCソフト、デマンド入力PLCソフトのインストールをします。

お知らせ

- ・電力量カウンソフト、または、汎用制御PLCソフト、デマンド入力ソフトの据付（インストール）説明書を参照ください。

4. 5 ステップ3：統合ソフトTG-2000の初期設定

- (1) 統合ソフトTG-2000のセットアップ

統合ソフトTG-2000をセットアップするパソコンを動作できるように準備します。セットアップの準備を行なった後、統合ソフトTG-2000をセットアップします。

お知らせ

- ・セットアップの手順については、5章を参照ください。
- ・安全のために電源を入れる前に据え付け状態や接続を十分に確認してください。

- (2) G-150AD／G-50と統合ソフト使用パソコンのIPアドレス確認

G-150AD／G-50のIPアドレスを確認します。また、統合ソフトTG-2000で使用するIPアドレスも確認します。サブネットマスクには通常[255. 255. 255. 0]を設定します。

統合ソフトのIPアドレス設定等は **Windows (OS) のネットワーク設定の機能を使用して設定してください。**

G-150AD／G-50システム専用LANの場合、下記のアドレス範囲で設定することをお勧め致します。

機種	IPアドレス範囲
G-150AD／G-50本体	[192. 168. 1. 1] ~ [192. 168. 1. 40]
ブラウザ用のパソコン	[192. 168. 1. 101] ~ [192. 168. 1. 149]
統合ソフトTG-2000のパソコン	[192. 168. 1. 150]
電力カウン用PLC（シーケンサ）	[192. 168. 1. 151] ~ [192. 168. 1. 170]
汎用制御用PLC（シーケンサ）	[192. 168. 1. 171] ~ [192. 168. 1. 190]
デマンド入力PLCソフト用PLC（シーケンサ）	[192. 168. 1. 191] ~ [192. 168. 1. 194]
拡張コントローラ（PAC-YG50EC）	[192. 168. 1. 211] ~ [192. 168. 1. 225]

※既設LANに接続する場合は、LAN管理者の指定したIPアドレスやサブネットマスクを設定してください。

- (3) LANの接続確認

G-150AD（EC）／G-50、統合ソフトTG-2000のパソコン、および、HUBにLANケーブルが接続されていることを確認します。

また、HUBの電源が入っていることを確認します。

PLCを使用するシステムにおいて、PLCにLANケーブルが接続されていることも確認します。

- (4) 統合ソフトの初期設定

統合ソフトTG-2000を起動し、初期設定を行ないます。

お知らせ

- ・統合ソフトの初期設定方法については、6～8章を参照ください。
- ・PLCを使用するシステムでは、PLCに対して統合ソフトからイニシャル設定を行ない、PLCを使用できる状態にします。

4. 6 ステップ4：統合ソフトTG-2000からの試運転

統合ソフトTG-2000からの試運転を行ない、空調機の運転状態の確認や、監視表示を確認します。
操作方法に関しては、取扱説明書（管理編）を参照ください。

お知らせ

- ・試運転時の確認に関しては、11章のチェックリストをご利用ください。
- ・統合ソフトTG-2000からは通常の運転操作にて試運転確認を行ないます。（運転／停止の発停機能に試運転モードの選択はありません。）

お願い

- ・汎用機器との試運転を行なう際は、現場の機器を勝手に運転／停止させたりしないでください。事前に相手側機器の管理者や工事責任者の承諾を得て、立ち会っていただくようお願い致します。

5. セットアップと環境設定

5. 1 セットアップの準備

統合ソフトTG-2000のセットアップの準備について説明します。

5. 1. 1 G-150AD/G-50のバージョンの確認

G-150AD、GB-50AD、G-50、および、G-150ADに接続した拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のバージョン、DB No. の確認の方法 (概要) について説明します。

お知らせ

- 各機器のバージョンおよびDB No. の確認手順詳細については、各機器の取扱説明書を参照ください。

G-150AD、GB-50ADのバージョンとDB No. の確認方法

次のいずれかの方法でG-150AD、GB-50ADのバージョンを確認してください。

(GB-50ADの場合は方法1で確認してください。)


また、拡張コントローラ (PAC-YG50EC) を接続したG-150AD (Ver. 2.00以降) の場合は、バージョンと一緒に表示されるDB No. も合わせて確認してください。

方法1：初期設定Webにて

「オプション機能のライセンス登録」画面に表示されます。

または、「初期設定」-「基本システム」の「本体の設定」に表示されます。

方法2：G-150AD本体にて

 を押して表示されるログイン画面の右下に表示されます。


拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のDB No. の確認方法

次のいずれかの方法で拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のバージョンと一緒に表示されるDB No. を確認してください。

方法1：初期設定Webにて

「初期設定」-「基本システム」の「システム構成の設定」から「EC」の番号を選択します。バージョンと一緒にDB No. が表示されます。

方法2：G-150AD本体にて

 を押してログインし、「初期設定」-「ネットワーク設定」から「EC」のタブを選択します。バージョンと一緒にDB No. が表示されます。

お願い

- 拡張コントローラを接続したG-150ADを使用する場合、G-150ADと拡張コントローラのDB No. が同一であることが必要です。異なる場合は、G-150ADまたは拡張コントローラのバージョンアップを行なってください。

G-50のバージョン確認方法

次のいずれかの方法でG-50のバージョンを確認してください。

(GB-50の場合は、方法1で確認してください。)

方法1：初期設定Webにて

「オプション機能のライセンス登録」画面に表示されます。

または、「初期設定」-「基本システム」の「本体の設定」に表示されます。

方法2：G-50本体にて

[↑] [↓] ボタンを2秒以上押して初期設定モードメニュー画面に入り、[←] ボタンを押して表示される2枚目のメニュー画面の右下に表示されます。

※統合ソフトTG-2000をインストール済みの場合は、8. 6章でG-150AD/GB-50AD/G-50および拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のバージョン、DB No. を確認できます。

お知らせ

- 統合ソフトTG-2000のセットアップCDに格納されているG-150AD/GB-50AD/G-50のバージョン以降を使用してください。

集中コントローラG-150AD、GB-50ADのバージョンを確認し、適用バージョンでない場合は、アップデートを実施してください。

		適用G-150AD、GB-50AD のバージョン		備考
		使用する	使用しない	
1	M-NET 接続50台管理 (拡張コントローラ接続未対応)	Ver. 1.10 以降		機能は Ver. 1.10 で対応
2	G-50の既存機能(下表を参照)			機能は Ver. 1.10 で対応
3	150台管理 (拡張コントローラ接続対応)	Ver. 2.00 以降		機能は Ver. 2.00 で対応 GB-50ADは未対応
4	外気温度連動制御の設定機能			機能は Ver. 2.00 で対応
5	セットバック制御の設定機能			機能は Ver. 2.00 で対応
6	最適起動の設定機能			機能は Ver. 2.00 で対応
7	週間スケジュール5パターン	Ver. 2.80 以降		機能は Ver. 2.80 で対応 Ver. 2.80 未満の場合、 2パターンとなります。
8	24時間換気	Ver. 2.90 以降		機能は Ver. 2.90 で対応
9	ナイトパージ			機能は Ver. 2.90 で対応
10	スケジュール有効/無効			機能は Ver. 2.90 で対応

※1 : G-150AD Ver. 2.90(DB No. 01)の場合、拡張コントローラ (PAC-YG50EC) は Ver. 1.90(DB No. 01) を使用してください。

集中コントローラG-50のバージョンを確認し、適用バージョンでない場合は、アップデートを実施してください。

		適用G-50のバージョン		備考
		使用する	使用しない	
1	電力按分課金支援	Ver. 2.51 以降		機能は Ver. 2.21 で対応
2	省エネ/ピークカット機能 (WHM 使用)			機能は Ver. 2.50 で対応
3	ピークカット機能 (デマンド制御機器使用)	Ver. 2.60 以降		機能は Ver. 2.60 で対応
4	ピークカット機能 (E-Energy使用)			
5	ナイトモード機能			
6	室内機フリー接点機能	Ver. 2.70 以降		機能は Ver. 2.70 で対応
7	A,K 制御機種種の課金支援			機能は Ver. 2.80 で対応
8	A 制御インバータスリム室外機への 省エネ設定	Ver. 2.90 以降		機能は Ver. 2.90 で対応
9	オートチェンジオーバー機能	Ver. 3.00 以降		機能は Ver. 3.00 で対応
10	汎用DC、環境MC、計量MCの機能	Ver. 3.20 以降		機能は Ver. 3.20 で対応

注意

- G-150AD/G-50および拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のアップデートに対し、下記注意および確認を行なってください。
- アップデート用パソコンで使用するIPアドレスは、G-150AD/G-50および拡張コントローラ等に使用しているIPアドレスを重複して設定しないでください。
 - 既設LAN (G-150AD/G-50専用のLANを使用していない) に接続している場合、アップデート対象のG-150AD/G-50および拡張コントローラをその既設LANから切り離して実施することをお勧めします。
※既設 (構内) LANから切り離せない場合は、ネットワーク管理者に連絡して、アップデート用パソコンの接続許可と暫定使用するIPアドレスをもらってください。
 - G-150AD/G-50および拡張コントローラのアップデート中は空調機と通信はできませんので、運転中の空調機が通信異常を検知して、手元リモコンに異常を表示するケースがありますが、空調機は運転継続しており、許可された操作は手元リモコンで可能です。
ただし、手元リモコンがないシステムやスリム機種では、通信異常を検知して異常停止する可能性がありますので、注意してください。
 - スケジュール機能を使用している場合は、アップデート中はスケジュール実行できませんので、アップデートをする前に本日のスケジュール設定内容を確認し、スケジュール設定時刻でのアップデート作業を避けてください。
 - アップデートを実施する直前に運転している空調機を記録し、アップデート後に空調機の運転状態を確認し、運転中の空調機が停止になっていた場合、運転の操作などを必要に応じて対処ください。
※特に、電算室用の空調機などの、停止してはいけない空調機に注意してください。
 - 一度初期設定を実施したG-150AD/G-50および拡張コントローラに対して、ソフトウェアのバージョンをダウンするようなアップデートは実施しないでください。バージョンのアップを前提としており、動作に障害が生じる可能性があります。

G-150ADのアップデートの方法

対象のG-150ADに対して、アップデートを実施します。

手順	項目	内容
1	LANケーブル接続	G-150ADとパソコンをLANで接続します。
2	TG-2000 セットアップCDのセット	パソコンのCD-ROMドライブに統合ソフトTG-2000の セットアップCDを挿入します。
3	アップデートツールの起動	[G150Update] フォルダの[G150AD_Update.exe]をダブルクリックすると、アップデートツールが起動します。
4	IPアドレス入力と アップデート開始	アップデート画面にて、G-150ADのIPアドレスを入力し、 [アップデート開始] ボタンをクリックします。
5	アップデートの完了	進捗グラフが100%になればアップデート完了です。

拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のアップデートの方法

対象の拡張コントローラに対して、アップデートを実施します。

手順	項目	内容
1	LANケーブル接続	拡張コントローラとパソコンをLANで接続します。
2	TG-2000 セットアップCDのセット	パソコンのCD-ROMドライブに統合ソフトTG-2000の セットアップCDを挿入します。
3	アップデートツールの起動	[ECUpdate] フォルダの[EC_Update.exe]をダブルクリックすると、 アップデートツールが起動します。
4	IPアドレス入力と アップデート開始	アップデート画面にて、拡張コントローラのIPアドレスを入力し、 [アップデート開始] ボタンをクリックします。
5	アップデートの完了	進捗グラフが100%になればアップデート完了です。

GB-50ADのアップデートの方法

対象のGB-50ADに対して、アップデートを実施します。

手順	項目	内容
1	LANケーブル接続	GB-50ADとパソコンをLANで接続します。
2	TG-2000 セットアップCDのセット	パソコンのCD-ROMドライブに統合ソフトTG-2000の セットアップCDを挿入します。
3	アップデートツールの起動	[GB50ADUpdate] フォルダの[GB50AD_Update.exe]をダブルクリックすると、 アップデートツールが起動します。
4	IPアドレス入力と アップデート開始	アップデート画面にて、GB-50ADのIPアドレスを入力し、 [アップデート開始] ボタンをクリックします。
5	アップデートの完了	進捗グラフが100%になればアップデート完了です。

G-50のアップデートの方法

対象のG-50に対して、アップデートを実施します。

手順	項目	内容
1	LANケーブル接続	G-50とパソコンをLANで接続します。
2	TG-2000 セットアップCDのセット	パソコンのCD-ROMドライブに統合ソフトTG-2000の セットアップCDを挿入します。
3	アップデートツールの起動	[G50Update] フォルダの[G50_Update.exe]をダブルクリックすると、 アップデートツールが起動します。
4	IPアドレス入力と アップデート開始	アップデート画面にて、G-50のIPアドレスを入力し、 [アップデート開始] ボタンをクリックします。
5	アップデートの完了	進捗グラフが100%になればアップデート完了です。

お知らせ

- ・アップデートの途中で通信異常が発生した場合、G-150AD、拡張コントローラ、GB-50AD、G-50は10分間アップデートモードで待機していますので、再度 [アップデート開始] ボタンをクリックしてアップデートをやり直してください。
- ・G-50がアップデートに失敗して正常に起動しない場合は、下記のように対応ください。
 - [G-50の場合]
G-50本体の [1] ボタンと [0] ボタンを同時に押した状態で電源を入れ直し、10秒間押し続けてください。
G-50はアップデートモードで起動しますので、アップデート手順に従い、再度アップデートを行なってください。
 - [GB-50の場合]
GB-50本体のサービススイッチSW1-1と2をON設定にしてから、電源投入してください。GB-50はアップデートモードで起動しますので、アップデート手順に従い、再度アップデートを行なってください。
アップデート後に、サービススイッチSW1をOFF設定してから、電源投入をし直してください。

[動作環境]

統合ソフトTG-2000のパソコンを使用できますが、別のパソコンでアップデートする場合は、下記動作環境を満たすパソコンをご利用ください。

表・G-150AD/GB-50AD/G-50、拡張コントローラのアップデートのパソコン動作環境

項目	内容
OS	Windows 7 / Vista / XP / 2000
CPU	Pentium® 133MHz 以上 (OSにより、必要なCPU性能が異なります)
メモリ	64Mbyte 以上 (OSにより、必要なメモリ容量が異なります)
内蔵LANポートまたはLANカード	1個
その他	CD-ROM ドライブ (インストール時に必要) マウスなどのポインティングデバイス

5. 1. 2 TG-2000のセットアップ準備

インストールの準備と確認

本統合ソフトTG-2000をインストールする前に、以下の手順でパソコン等の確認と準備を行ないます。

お知らせ

- ・G-150ADおよびG-50対応のTG-2000を使用する場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000（拡張コントローラ接続のG-150AD Ver. 2.00以降の場合はVer. 6.01以降、GB-50AD接続の場合はVer. 6.31以降）をセットアップしてください。動作環境のOSはWindows 7、Windows VistaまたはWindows XPです。
新規セットアップの場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを推奨します。
- ・従来機能の範囲でG-50対応のTG-2000を使用する場合は、G-50対応版TG-2000をセットアップしてください。動作環境のOSはWindows XPまたはWindows 2000です。
旧バージョンのG-50対応TG-2000からのバージョンアップなどに使用できます。

手順	項目	内容	対応方法
1	OSの確認	OSとサービスパックのバージョンを確認します。 <u>G-150AD/G-50対応版TG-2000</u> ・Windows® 7 Professional / Home Premium Service Pack 1 ・Windows Vista® Business / Home Basic Service Pack 2 ・Windows® XP Professional / Home Service Pack 3 <u>G-50対応版TG-2000</u> ・Windows® XP Professional / Home Service Pack 3 ・Windows® 2000 Professional Service Pack 4	※適用OSと異なっている場合は、変更してください。 ※Windows® 7、Windows Vista®で使用する場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000をセットアップしてください。 ※Windows® 2000で使用する場合は、G-50対応版TG-2000をセットアップしてください。
2	メモリの確認	メモリ容量が使用するOSに対して、条件を満たしているかを確認します。 ・Windows® 7/Vista® : 1GB 以上 ・Windows® XP/2000 : 512MB 以上	※必要に応じて、増設メモリを取り付けてください。
3	HDD空き容量確認	Cドライブの空き容量が2GB以上あることを確認します。(OSセットアップ済み) ※トレンド「温度」機能、または、広域機能を使用する場合、2.1章を参照ください。	※詳細な確認方法は、Windowsの取扱説明書を参照ください。
4	プリンターの設定 ※1	プリンターのドライバをインストールし、印刷可能なことを確認します。	※詳細な手順に関しては、プリンターに添付の取扱説明書等を参照ください。
5	日付と時刻の設定	Windowsのコントロールパネルの「日付と時刻」にて、日付と時刻を設定します。	※詳細な確認方法は、Windowsの取扱説明書を参照ください。
6	画面サイズと色数の設定	Windowsのコントロールパネルの「画面」にて、画面サイズを1024×768に、色数を65536色(High Color(16ビット))以上に設定します。	※詳細な設定方法は、Windowsの取扱説明書を参照ください。
7	自動ログイン設定の確認	自動ログイン設定になっていることを確認ください。 ※2	※設定の確認方法は、添付2「自動ログインの確認方法」の資料を参照ください。
8	ネットワークの設定	ネットワーク設定は必ず実施していることを確認ください。	※詳細な設定方法は、Windowsの取扱説明書を参照ください。
9	電源オプション設定の確認	電源オプションの「電源設定」にて、「システムスタンバイ」と「システム休止状態」の設定が『なし』になっていることを確認ください。 ※3	※詳細な設定方法は、Windowsの取扱説明書を参照ください。

※1：プリンターを使用する際に、確認してください。

※2：「自動ログイン」とは、OS起動時にログイン名やパスワードを入力することなく、自動的に起動する設定です。

※3：統合ソフトTG-2000が常に24時間動作できる設定にしてください。

お知らせ

- ・自動ログインの設定を行なわないとTG-2000が自動で再起動したとき、パソコン立ち上げ（リブート）後に自動でTG-2000が起動しません。必ず自動ログインの設定を行なってください。
- ・統合ソフトTG-2000をセットアップ後には、コンピュータ名を変更しないでください。変更すると、TG-2000が正常に動作せず、OSからのインストールが必要になるケースがあります。

お知らせ

TG-2000のバージョンアップの対応は、以下の通りです。

[凡例] ○：バージョンアップ可、×：バージョンアップ不可、－：同一バージョン

		バージョンアップ先		
		G-50 対応版 TG-2000 (MSDE 版)		G-150AD/G-50 対応版 TG-2000 (SQL Server 2005 版)
		Ver. 5.41	Ver. 6.39	
バージョンアップ元	G-50 対応版 TG-2000 (MSDE 版)	Ver. 5.39 および、それ以前 (Ver. 5.23 を除く)	○	○
		Ver. 5.41	－	○
	G-50 対応版 TG-2000 (SQL Server 2005 版)	Ver. 5.23	×	○
	G-150AD/G-50 対応版 TG-2000 (SQL Server 2005 版)	Ver. 6.37A および、それ以前	×	○
		Ver. 6.39	×	－

※G-50対応版TG-2000 Ver. 5.1*以前、Ver. 5.3*およびVer. 5.4* では、データベース MSDE1.0 を使用。

G-150AD/G-50対応版TG-2000 Ver. 5.53以降、および、G-50対応版TG-2000 Ver. 5.23では、データベース SQL Server 2005 Express Edition を使用。

同一パソコンでの MSDE と SQL Server 2005 Express Edition の共存は不可であり、SQL Server 2005 版へのバージョンアップ時は、MSDE のアンインストールが必要です。

5. 2 TG-2000のセットアップ (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

ーセットアップを開始する前に (Windows 7 または Windows Vista 環境の場合) ー

TG-2000のセットアップを開始する前に、Windows 7 または Windows Vista のユーザーアカウント制御 (UAC) と Windows Aero の「無効化」の設定を行ないます。

初期設定	ユーザーアカウント制御 (UAC)	Windows Aero
Windows 7 Professional	有効化 → 無効化	有効化 → 無効化
Windows 7 Home Premium	有効化 → 無効化	有効化 → 無効化
Windows Vista Business	有効化 → 無効化	有効化 → 無効化
Windows Vista Home Basic	有効化 → 無効化	機能なし
Windows XP Professional	機能なし	機能なし
Windows XP Home	機能なし	機能なし

お知らせ

- ・ユーザーアカウント制御 (UAC) と Windows Aero の「無効化」の設定は、Windows 7 または Windows Vista の環境で使用する場合に行ないます。
Windows XP の環境では、これら機能は存在しませんので、「5. 2. 1 セットアップ方法」に進んでください。

Windows 7 または Windows Vista の環境で使用する場合：

ユーザーアカウント制御 (UAC) の「無効化」にすることにより、TG-2000の自動起動を実現します。
ユーザーアカウント制御 (UAC) を「有効化」のまま使用しますと、TG-2000のセットアップが正しく行なわれない、または、TG-2000の自動起動が行なわれないなどの問題が発生しますので、必ず「無効化」の変更を行なってください。

また、Windows Aero の「無効化」にすることにより、パソコンのメモリ使用量の増加を防止します。

Windows Aero を「有効化」のまま使用しますと画面表示でメモリ使用量が増加するため、「無効化」に変更することを推奨します。

なお、Windows Aero を「無効化」にすることにより、Windows 画面の透過表示や 3D 表示は行なわれません。

Windows Vista Home Basic の場合は、Windows Aero の機能はありませんので、設定の変更は不要です。

ユーザーアカウント制御の無効化の手順(Windows 7の場合)

1) 設定画面を開きます

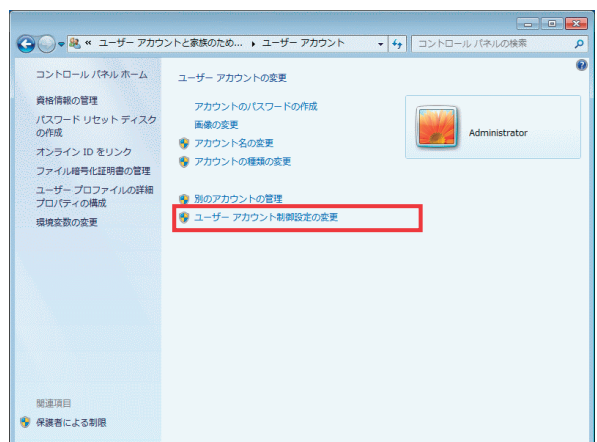
コントロールパネルから [ユーザーアカウント] を選択します。



「ユーザーアカウント」画面で、[ユーザーアカウント] を選択します。



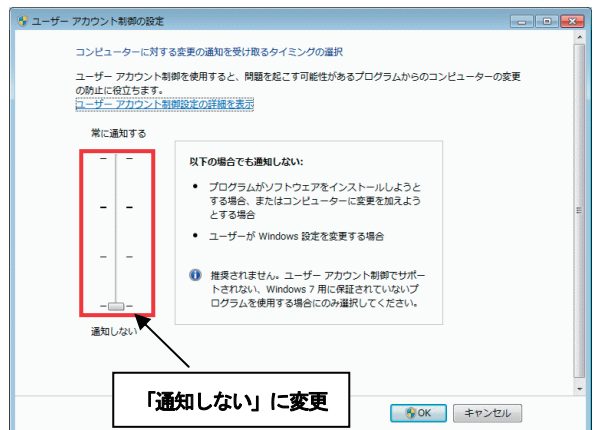
更に、[ユーザーアカウント制御設定の変更] を選択します。



2) 無効化設定を行ないます

設定のスライダーを一番下の「通知しない」に変更し、[OK] ボタンを押します。

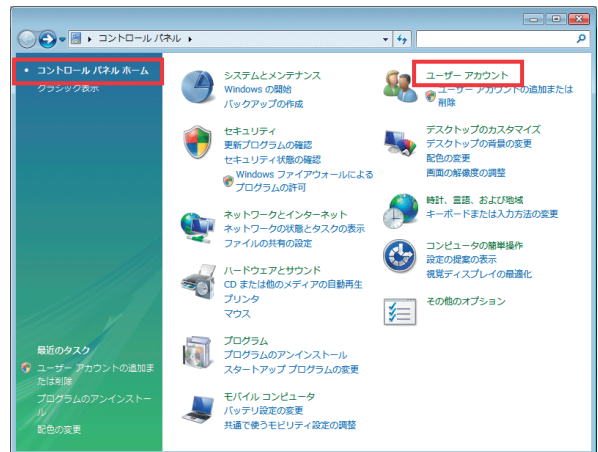
[OK] ボタンを押した後、パソコンの再起動を行なってください。



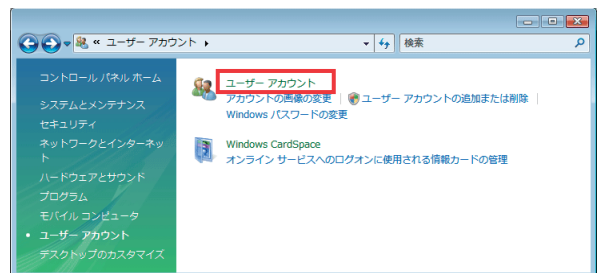
ユーザーアカウント制御の無効化の手順(Windows Vista の場合)

1) 設定画面を開きます

コントロールパネルの「コントロールパネルホーム」から「ユーザーアカウント」を選択します。



「ユーザーアカウント」画面で、「ユーザーアカウント」を選択します。



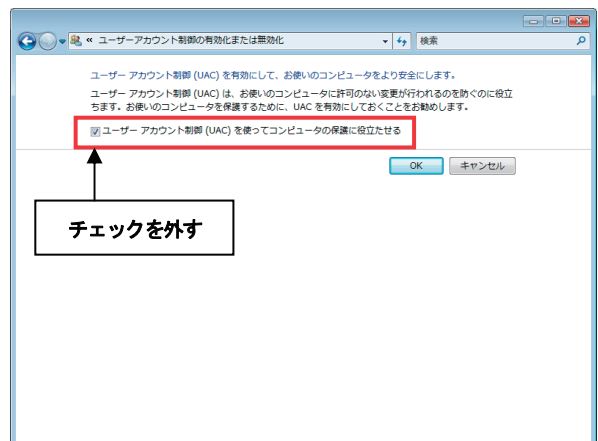
更に、「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」を選択します。



2) 無効化設定を行ないます

「ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外し、「OK」ボタンを押します。

「OK」ボタンを押した後、パソコンの再起動を行なってください。



Windows Aero機能の無効化の手順(Windows 7の場合)

- 1) 設定画面を開きます
コントロールパネルの「テーマの変更」を選択します。



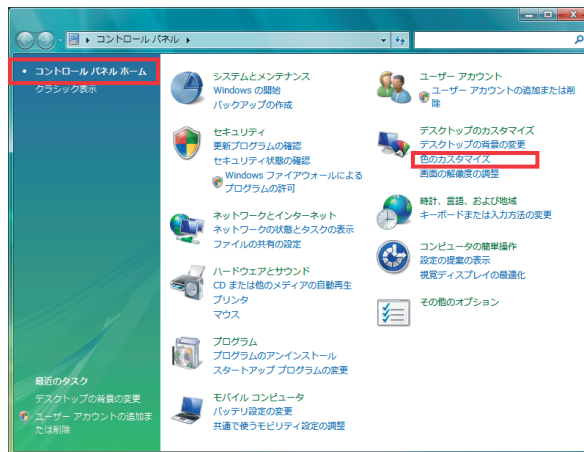
- 2) 無効化設定を行ないます
「ベーシックテーマとハイコントラストテーマ」の、「Windows 7 ベーシック」をクリックします。



Windows Aero機能の無効化の手順(Windows Vistaの場合)

1) 設定画面を開きます

コントロールパネルの [コントロールパネルホーム] から [色のカスタマイズ] (または、「配色の変更」) を選択します。



「詳細な色のオプションを設定するにはクラシックスタイルの [デザイン] プロパティを開きます」をクリックすると、[デザインの設定] 画面が表示されます。

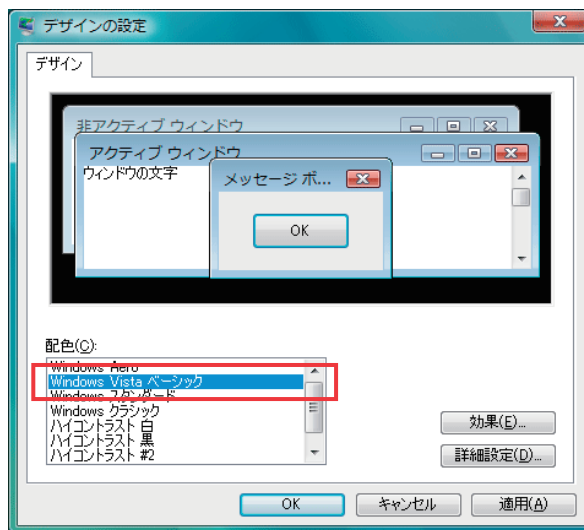


2) 無効化設定を行ないます

[デザインの設定] 画面にて「Windows Vista ベーシック」を選択し、[適用] ボタンをクリックします。

3) 設定を終了します

[OK] ボタンをクリックします。



5. 2. 1 セットアップ方法 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

本TG-2000のセットアップ方法としては、以下の2種類の方法があります。

- 方法1) 新規セットアップ … 5. 2. 2章を参照
- 方法2) バージョンアップ … 5. 2. 3章を参照

TG-2000のセットアップCD (CD-ROM) のフォルダ構成とファイルを記載します。ただし、実行するファイルのみ記載してあります。

◆新規セットアップ

G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップ
[CD-ROM ドライブ] ¥Windows7&Vista&XP¥Setup¥setup.exe

◆バージョンアップ

G-150AD/G-50対応版TG-2000のバージョンアップ
[CD-ROM ドライブ] ¥Windows7&Vista&XP¥Setup¥setup.exe (新規セットアップと同じ実行ファイル)

[参考] CD-ROM のフォルダ構成

Readme.txt	…	本CD-ROMのディレクトリ構成やセットアップの注意点
¥Windows7&Vista&XP	…	G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップ用フォルダ
¥WindowsXP	…	G-50対応版TG-2000のセットアップ用フォルダ
¥Tool	…	空調料金算出支援ツール (料金比率支援.xls, 空調料金支援.xls) トレンドグラフ作成ツール (トレンドグラフ支援.xls) 試運転チェックリスト作成ツール (試運転チェックシート.xls)
¥G150Update	…	G-150ADのアップデート
¥G50Update	…	G-50のアップデート
¥ECUpdate	…	拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のアップデート
¥CheckSheet	…	試運転チェックシート (サンプル)
¥Manual	…	簡易操作説明書 (Pdf ファイル)

※本Pdfファイルをご覧になるには、別途Adobe® Reader®が必要です (Ver. 7.1以降推奨)。

お願い

- ・G-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 3 TG-2000のセットアップ (G-50対応版TG-2000)」を参照してください。なお、G-50対応版TG-2000の動作環境 (OS) は、Windows XP または Windows 2000 です。
- ・Windows 2000 の環境で、G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップはできません。G-150AD/G-50対応TG-2000の動作環境 (OS) は、Windows 7、Windows Vista または Windows XP です。
- ・TG-2000 Ver. 5.23 からのバージョンアップに対しては、G-150AD/G-50対応版TG-2000へのバージョンアップを行なってください。
ただし、動作環境のOSがWindows 2000の場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000へのバージョンアップはできません。

注意

- ・新規セットアップ、バージョンアップ共にセットアップを開始する前に、ご使用のパソコンが「2. 1 動作環境 (推奨システム)」に記載されている動作環境を満たしているのを確認してください。
- ・Windows 7 または Windows Vista の環境で使用する場合、Windows 7 または Windows Vista の機能のユーザーアカウント制御 (UAC) と Windows Aero の無効化の設定を行ないます。
本設定手順は、前述の「セットアップを開始する前に」を参照してください。
- ・ウイルス対策ソフトをご使用の場合、ウイルスチェック機能により、TG-2000の動作が中断することがあります。この場合、TG-2000の実行ファイル (EXE) をチェック機能から除外することが必要です。

お知らせ

- ・使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 2. 3 バージョンアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」の「別のパソコンにG-150AD/G-50対応TG-2000のバージョンアップ方法」を参照ください。

5. 2. 2 新規セットアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

TG-2000のセットアップでは下記の4つのソフトウェアのインストールを自動で行ないません。

- 1) Microsoft Data Access Components 6.0 (以降 MDAC と称す)
(Windows XP の場合は、MDAC 2.8 Service Pack 1)
- 2) .NET Framework 2.0
- 3) SQL Server 2005 Express Edition Service Pack 2 (以降 SQL Server 2005 と称す)
- 4) TG-2000 (＋パソコン再起動)

お願い

- ・セットアップを行なう前に必ず自動ログイン名、パスワードでWindowsにログインしてください。
TG-2000はAdministrator 権限を有するログイン名でのみ、使用可能です。
- ・Windows 7またはWindows Vistaの環境で使用する場合、Windows 7またはWindows Vistaの機能のユーザーアカウント制御(UAC)とWindows Aeroの無効化の設定を行なってください。
無効化の設定を行っていない場合、TG-2000のセットアップが正しく行なわれません。

注意

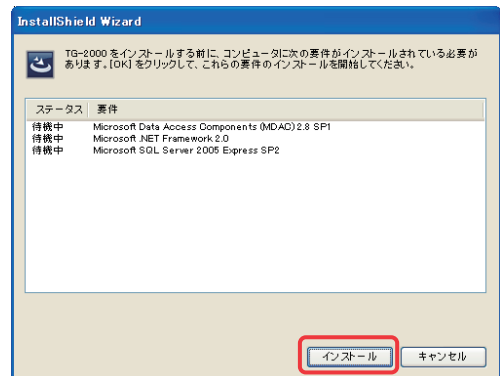
- ・TG-2000をインストールする際は、他のプログラム(常駐型のものも含む)を終了してください。

1) インストーラを起動します

CD-ROM内の **¥Windows7&Vista&XP¥Setup¥setup.exe** をダブルクリックします。
MDAC、.NET Framework 2.0 および SQL Server 2005 のセットアップ画面が表示されます。
※既にインストール済みの場合は直接TG-2000のインストール画面へ移行します。

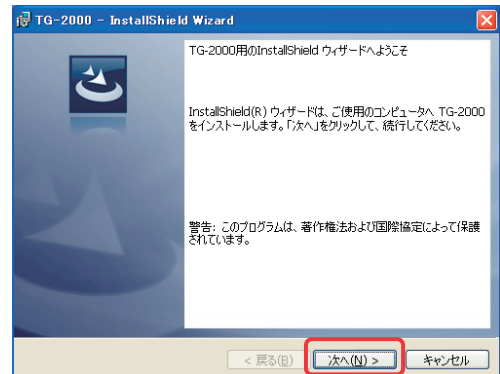
2) MDAC、.NET Framework 2.0 および SQL Server 2005 のインストールを行ないます

画面の指示に従って[インストール]ボタンをクリックします。
各セットアップ完了後、順次自動で開始されます。
セットアップが完了すると、TG-2000のセットアップ画面へ移行します。
※セットアップを中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
※既にMDAC、.NET Framework 2.0がインストール済みの場合はSQL Server 2005のみのインストールとなります。



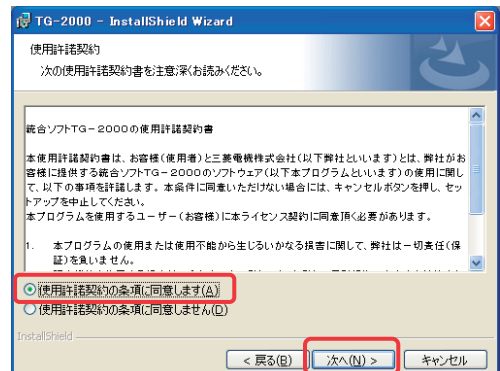
3) TG-2000のインストールを行ないます

画面の指示に従って[次へ]ボタンをクリックします。



4) 使用許諾契約を行ないます

記載内容をお読みの上、「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックを入れ、[次へ]ボタンをクリックします。



5) インストールモードを選択します

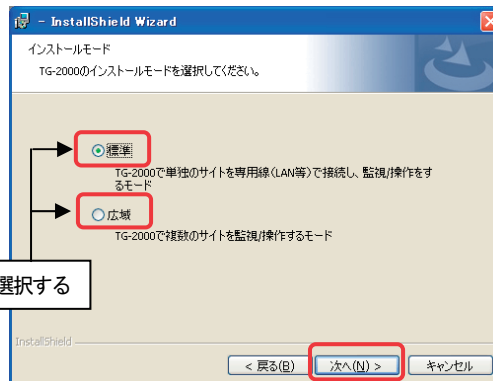
ご使用のモード「標準」または「広域」にチェックを入れ、
[次へ] ボタンをクリックします。

標準：TG-2000で単独のサイトを専用線(LAN等)で
接続し、監視/操作するモード

広域：TG-2000で複数のサイトを監視/操作するモード

お知らせ

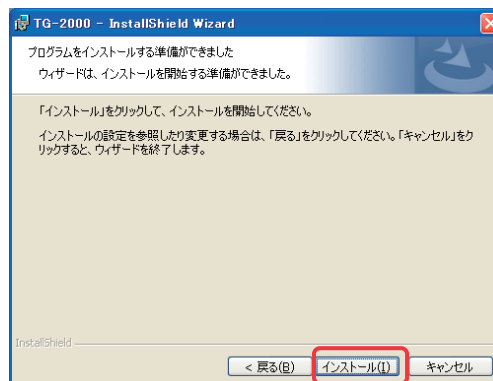
- ・インストール後に通常版と広域版の切り替えを行なう
ことはできません。



6) 最終確認を行ないます

セットアップ内容に問題が無ければ[インストール] ボタンを
クリックします。

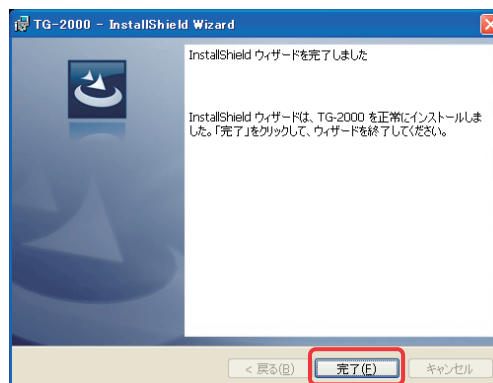
インストールが開始されます。



7) インストールを終了します

インストール完了の画面が表示されましたら、[完了] ボタンを
クリックします。

- ※インストールが完了すると、スタートアップメニューに本プログラム
が登録され、次回起動時より自動で起動します。
- また、使用したCD-ROMは大切に保管してください。



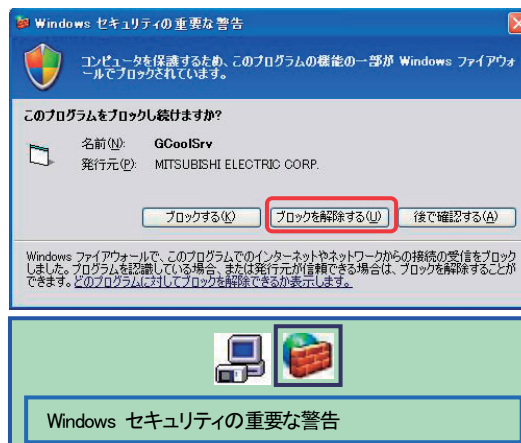
8) パソコンを再起動します

9) TG-2000 起動時のファイアウォール設定

TG-2000の起動時、Windows ファイアウォールの
ブロックについてメッセージが表示されます。

[ブロックを解除する] ボタンを押し、Windows ファイア
ウォールのブロック対象外にします。

- ※TG-2000の画面切替えて、本画面が隠れてしまった場合は、
[Alt] キーと [Tab] キーを同時に押し、右図の画面表示の切替え
で、Windows ファイアウォールを選択して表示します。



お願い

- ・TG-2000インストール終了後は**必ずパソコンの再起動**を実施してください。

お知らせ

- ・メールツールは「標準」および「広域」モードでもインストールされます。
- ・広域モードでのTG-2000の起動は、サイト切替えツールから行ないます。操作方法については、
広域編の取扱説明書の4章を参照してください。

5. 2. 3 バージョンアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

TG-2000のバージョンアップは下記の4つのステップからなります。

- ステップ1) TG-2000の終了
- ステップ2) TG-2000のアンインストール
- ステップ3) MSDEのアンインストール (＋パソコン再起動)
- ステップ4) TG-2000のインストール (＋パソコン再起動)

お願い

- ・バージョンアップ (アップグレード) するには、4つのステップを手順通りに実施してください。手順通り実施しない場合、TG-2000は正常に動作しません。
- ・トラブル防止のため、事前にデータベースのバックアップ (添付5参照) を採取してください。
- ・ステップ1と2については、7. 3章と5. 2. 4章または5. 3. 4章を参照してください。
- ・MSQLServer 以外のプログラム (常駐型のものを含む) は終了してください。

ステップ1) TG-2000の終了

1) TG-2000を終了します

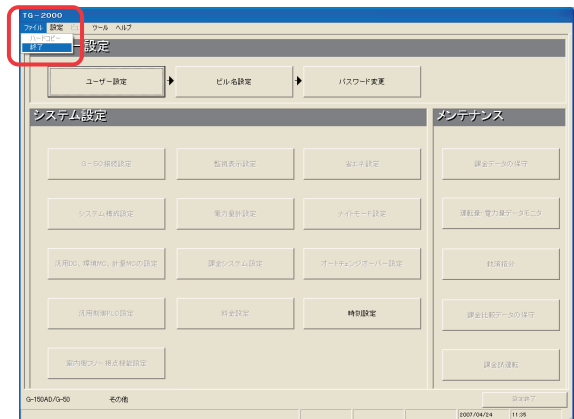
TG-2000を終了していない場合は、プログラムを終了します。

初期画面または管理画面のメニューバーから、
[ファイル] - [終了] を選択します。

※終了方法は7章を参照ください。

管理画面からの終了の場合は、パスワード入力画面が表示されます。
TG-2000の終了パスワードを入力してください。
(パスワードは、管理者に確認してください。)

※バージョンアップするためには、TG-2000のプログラムを終了する必要があります。



ステップ2) TG-2000のアンインストール

1) アプリケーションの追加と削除を起動します

Windows 7またはWindows Vista の場合：

コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」(または「プログラムと機能」) を起動します。

Windows XP の場合：

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を起動します。

2) TG-2000のアンインストールをします

TG-2000のアンインストール手順については、

「5. 2. 4 TG-2000のアンインストール (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

ステップ2)」、または「5. 3. 4 TG-2000のアンインストール (G-50対応版TG-2000)

ステップ1)」

を参照してください。

ステップ3) MSDEのアンインストール

※TG-2000 Ver. 5.23またはVer. 5.53以降からのバージョンアップの場合は、MSDEのアンインストールはありません。



MSDEアイコン

1) SQL Sever Service Manager を起動します

タスクバーのMSDEアイコンをダブルクリックして、「SQL Sever Service Manager」を起動します。

2) サービスを停止します

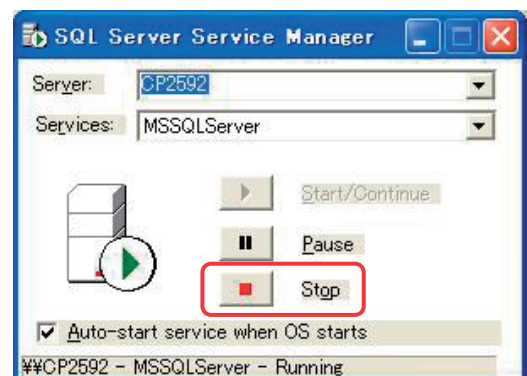
[Stop] ボタンをクリックします。

3) SQL Sever Service Manager を終了します

「SQL Sever Service Manager」を閉じます。

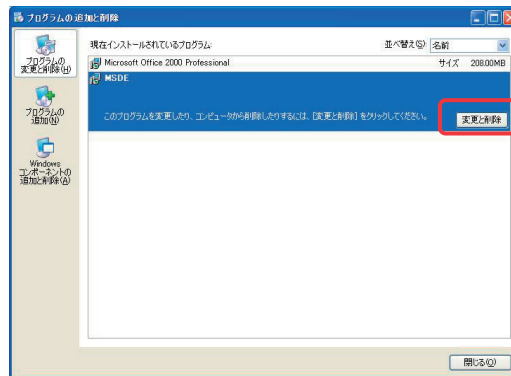
4) MSDEアイコンを閉じます

タスクバーのMSDEアイコンを右クリックして、[Exit] を選択します。タスクバーからMSDEアイコンが消えます。



5) 「プログラムの追加と削除」を起動します
[コントロールパネル] から [プログラムの追加と削除]
をクリックして、起動します。

6) 「MSDE」を選択し、変更と削除ボタンを押します
表示されているアプリケーションから「MSDE」を選択
して、[変更と削除] ボタンをクリックします。
MSDE アプリケーションの削除が始まります。



お知らせ

- ・本アンインストールで削除できないフォルダやファイルが存在しますが、異常ではありません。
(例：C:\¥Mssql7)
- ・**MSDEのアンインストールを必ず実施してください。**
MSDEをアンインストールせずに SQL Server 2005 のインストールを行なった場合、TG-2000は
正しく動作しません。

7) 削除完了後にアプリケーションの追加と削除を終了します

8) パソコンを再起動します
プログラムをアンインストールしたため、Windows を再起動します。

ステップ4) TG-2000のインストール

1) インストーラを起動します
CD-ROM 内の ¥Windows7&Vista&XP¥Setup¥setup.exe をダブルクリックします。

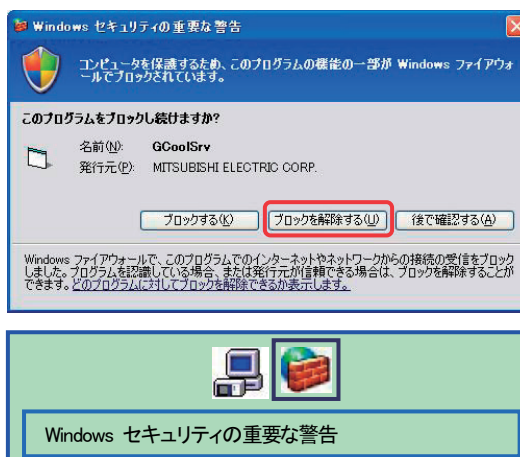
2) TG-2000のインストールを行ないます
画面の指示に従って[次へ]ボタンをクリックします。
「5. 2. 2 新規セットアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」の2)～7)と同じ
手順でインストールを行ないます。

3) パソコンを再起動します
※インストールが完了すると、スタートアップメニューに本プログラムが登録され、次回起動時より自動で起動します。
また、使用した CD-ROM は大切に保管してください。

TG-2000の起動時、Windows ファイアウォールの
ブロックが表示された場合は、[ブロックを解除する]
ボタンを押し、Windows ファイアウォールのブロック
対象外にします。

※前回のセットアップで、Windows ファイアウォールのブロックを解除
済みの場合は、本表示はありません。

※TG-2000の画面切替で、本画面が隠れてしまった場合は、
[Alt] キーと [Tab] キーを同時に押し、右図の画面表示の切替え
で、Windows ファイアウォールを選択して表示します。



お願い

- ・TG-2000インストール終了後は**必ずパソコンの再起動**を実施してください。
- ・初期画面で、ユーザー設定や課金システム構成などの全ての設定を確認、または、必要に応じて設定ください。

別のパソコンにG-150AD/G-50対応版TG-2000のバージョンアップ方法

使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、以下の手順で実施してください。

- (1) 元のパソコンからTG-2000のデータベースバックアップを採取します。
[フォルダ] C:\MSSQL7\Data
[ファイル] MJ310G.ldf, MJ310G.mdf, MJ310GT.ldf, MJ310GT.mdf (4ファイル)
※TG-2000のデータベースバックアップ方法については、「添付5 システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。
- (2) 別のパソコンに「C:\MSSQL7\Data」のフォルダを作成し、上記のデータベースバックアップをコピーします。
[フォルダ] C:\MSSQL7\Data
[ファイル] MJ310G.ldf, MJ310G.mdf, MJ310GT.ldf, MJ310GT.mdf (4ファイル)
- (3) 別のパソコンにG-150AD/G-50対応版TG-2000の新規セットアップを行ないます。
※「5. 2. 2 新規セットアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」を参照してください。
- (4) パソコンの再起動を行ない、TG-2000を起動 (自動起動) します。

お知らせ

- ・使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 3. 3 バージョンアップ手順 (G-50対応版TG-2000)」の「別のパソコンにG-50対応TG-2000のバージョンアップ方法」を参照ください。

お知らせ

G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップ (バージョンアップを含む) に対し、TG-2000の起動時、
「The connection error to a database. A program is ended.」 または、
「Database version error! A program is ended.」
のメッセージが表示された場合、以下の確認と操作を行ない、TG-2000の起動を確認してください。

TG-2000データベースの起動状態の確認します。

- (1) 「コントロールパネル」の「管理ツール」-「サービス」を開きます。
(Windows Vistaの場合は、「システムとメンテナンス」-「管理ツール」-「サービス」)
(Windows 7の場合は、「システムのセキュリティ」-「管理ツール」-「サービス」)
「SQL Server 2005 (TG-2000)」に対して、
状態 : 開始
スタートアップの種類 : 自動
であることを確認してください。異なる場合は、上記状態に設定してください。

TG-2000データベースの接続を再実行します。

- (1) パソコンのデスクトップにある「detach」を実行します。
- (2) 「detach」が終了後、パソコンのデスクトップにある「attach」を実行します。
- (3) 「attach」が終了後、パソコンの再起動を行ない、TG-2000の起動 (自動起動) を確認してください。

TG-2000データベースのバージョンアップを再度実施します。

TG-2000のバージョンアップに対して、上記のTG-2000データベースの再接続でもTG-2000が起動できない場合は、データベースのバージョンアップを再度実行します。

- (1) TG-2000データベースをバージョンアップ作業前の状態に戻します。
パソコンのデスクトップにある「detach」を実行します。
「C:\MSSQL7\Data」フォルダに、作業前に採取したTG-2000データベースのバックアップをコピーします。
TG-2000データベースバックアップをコピー後、パソコンのデスクトップにある「attach」を実行します。
- (2) コピーしたTG-2000のデータベースのファイルに対して、データベースのバージョンアップを実施します。セットアップCD-ROMの下記プログラムを実行します。
¥Windows7&Vista&XP¥DbSetup (for maintenance)¥DbUpdate.bat
- (3) パソコンの再起動を行ない、TG-2000の起動 (自動起動) を確認してください。

5. 2. 4 TG-2000のアンインストール (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

インストールした「TG-2000」「SQL Server 2005」のアプリケーションをアンインストールする方法を説明します。

お願い

- Ver. 5.19 以前、Ver. 5.3*および Ver. 5.4*のTG-2000をアンインストールする場合は、G-50対応版TG-2000のアンインストール手順を参照してください。(5. 3. 4章を参照)
- Ver. 5.23のTG-2000をアンインストールする場合は、本手順を参照してください。

ステップ1) TG-2000の終了

1) TG-2000の終了を確認します

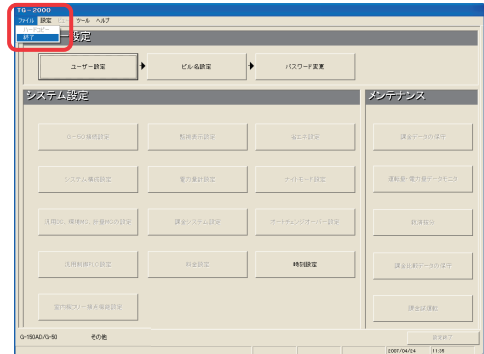
TG-2000を終了していない場合は、プログラムを終了します。

初期画面または管理画面のメニューバーから、
[ファイル] - [終了] を選択します。

※終了方法は7章を参照ください。

管理画面からの終了の場合は、パスワード入力画面が表示されます。TG-2000の終了パスワードを入力してください。

(パスワードは、管理者に確認してください。)



ステップ2) TG-2000のアンインストール

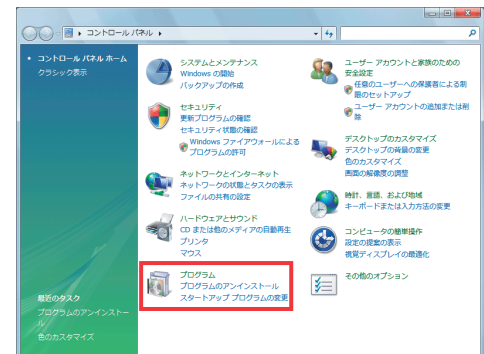
1) アプリケーションの追加と削除を起動します

Windows 7またはWindows Vistaの場合：

コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」
(または「プログラムと機能」) を起動します。

Windows XPの場合：

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を起動
します。



2) TG-2000のアンインストールをします

「TG-2000」のプログラムを選択します。

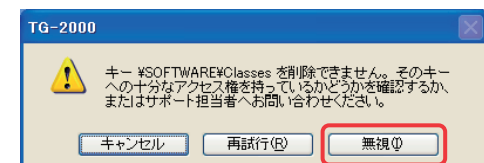
Windows 7またはWindows Vistaの場合：

[アンインストール] ボタンを選択し、削除します。

Windows XPの場合：

[変更と削除] ボタンを選択し、削除します。

右記メッセージ画面が表示されることがあります。
[無視] ボタンをクリックして、先に進めてください。



ステップ3) SQL Server 2005のアンインストール

1) SQL Server 2005のアンインストールをします

「Microsoft SQL Server 2005」のプログラムを選択します。

Windows 7またはWindows Vistaの場合：

[アンインストール] ボタンを選択し、削除します。

Windows XPの場合：

[変更と削除] ボタンを選択し、削除します。

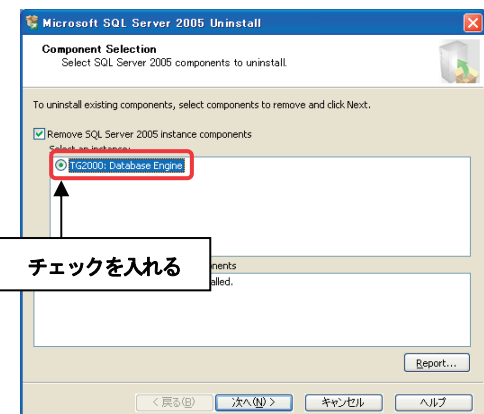
アンインストール設定を行ないます

アンインストール画面が表示されますので、

「Select an instance」の項目にあります、

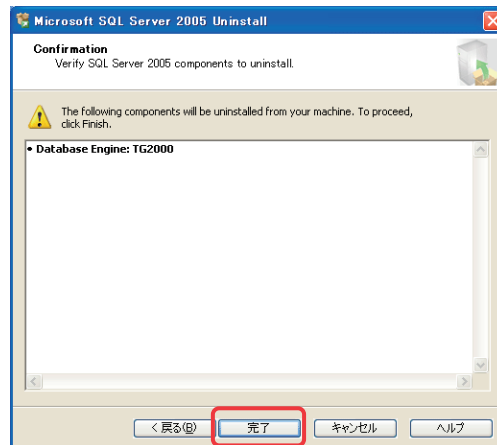
「TG2000:Database Engine」にチェックを入れます。

チェックが入りましたら[次へ] ボタンをクリックします。

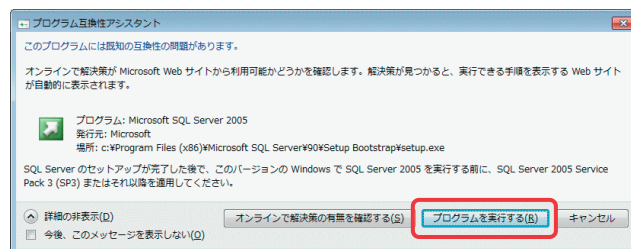


アンインストール設定を確定します

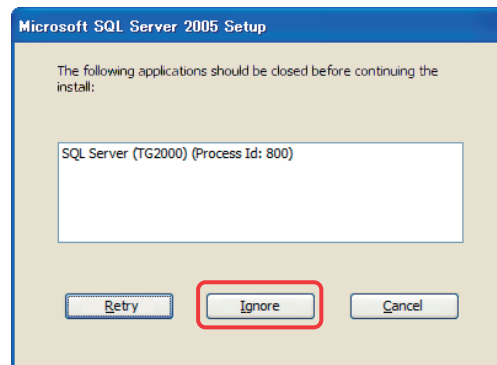
選択した内容をご確認の上、[完了]ボタンをクリックします。アンインストール作業が開始され、終了後、自動でウィンドウが閉じます。



Windows 7 の場合、[完了]ボタンをクリックしたときに右記メッセージ画面が表示されることがあります。[プログラムを実行する]ボタンをクリックして、先に進めてください。



アンインストール中に右記メッセージ画面が表示されることがあります。[Ignore]ボタンをクリックして、先に進めてください。



2) Microsoft SQL Server Native Client のアンインストールをします

「Microsoft SQL Server Native Client」のプログラムを選択し、[アンインストール] ボタンを選択します。

お知らせ

- ・本アンインストールで削除できないフォルダやファイルが存在しますが、異常ではありません。
- ・本パソコンにてSQL Server 2005を使用する場合は、アンインストールの必要はありません。

お願い

- ・SQL Server 2005をアンインストールする時は、必ず指定のファイルのみを削除してください。指定されていないファイルを削除した場合、アンインストールが出来なくなる場合があります。

3) 削除完了後、アプリケーションの追加と削除を終了します

5. 2. 5 ウィルス対策ソフト使用時の除外設定 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

ウィルス対策ソフトをご使用の場合、ウィルスチェック機能により、TG-2000の動作が中断することがあります。この場合、TG-2000の実行ファイル (EXE) をチェック機能から除外することが必要です。

TG-2000のインストール後、または、ウィルス対策ソフトのインストール後、ウィルス対策ソフトのファイアウォールやAutoProtectでのチェック機能に対して、下記TG-2000の実行ファイル (EXE) を除外するものとして登録します。

フォルダ	除外するファイル名
C:\¥TG2000	TG2000.exe
	TGSiteTool.exe (※1)
	GMaiI Srv.exe
	DbBkupTool.exe
C:\¥TG2000¥Lib¥Exe	G50Srv.exe
	GChargeSrv.exe
	GMultiSrv.exe
	GTrendSrv.exe
	GWHMSrv.exe
	GcoolSrv.exe

(※1) 広域モードのセットアップ時

(計 10 ファイル)

なお、ウィルス対策ソフトのインストールの中で、除外設定を訊いてくる場合があります。この場合は、その指示に従い、除外する実行ファイル (EXE) の除外設定を行なってください。

チェック機能の除外の設定方法はウィルス対策ソフトにより異なりますので、各ソフトの取扱説明書を参照して設定してください。

お願い

- ・ウィルスの自動検索を行なう場合は、課金処理等のため、00:00~08:00の時間帯を避けて設定するようにしてください。

お知らせ

- ・TG-2000 Ver. 5.53以降およびVer. 5.23とTG-2000 Ver. 5.4*、Ver. 5.3*およびVer. 5.19以前では、TG-2000の実行ファイル (EXE) のインストール先が異なります。
TG-2000 Ver. 5.4*、Ver. 5.3*およびVer. 5.19以前のTG-2000に対して実行ファイル (EXE) の除外設定を行なう場合は、「ウィルス対策ソフト使用時の除外設定 (G-50対応版TG-2000)」を参照してください。(5.3.5章を参照)

5. 2. 6 パソコンのコンピュータ名の変更 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

TG-2000をインストール後にパソコンのコンピュータ名を変更すると、TG-2000は動作しません。
TG-2000のパソコンのコンピュータ名を変更する場合、以下の手順でコンピュータ名の変更が可能です。
以下に、G-150AD/G-50対応版TG-2000 (Ver. 5.53以降およびVer. 5.23)の手順を記載します。

お願い

- ・パソコンのコンピュータ名を変更する場合は、必ず以下の手順で変更してください。以下の手順通りに変更しなかった場合、TG-2000が起動しなくなります。

1) TG-2000を終了します

2) TG-2000のバックアップをします

念のため、USBメモリなどに、“MJ310G.ldf”、“MJ310G.mdf”、“MJ310GT.ldf”、“MJ310GT.mdf”（4ファイル）をコピーしてください。

※バックアップ方法は添付5を参照ください

3) 2箇所の“ServName.txt”を削除します

以下の2箇所のフォルダにある“ServName.txt”ファイルを削除します。

フォルダ : c:\%TG2000

c:\%TG2000%\Lib\%Exe

4) パソコンのコンピュータ名を変更します

「マイコンピュータ」の「プロパティ」－「コンピュータ名」でコンピュータ名を変更します。

5) パソコンを再起動します

パソコンを再起動し、TG-2000が正常に起動すれば完了です。

お知らせ

- ・G-50対応版TG-2000をインストールしているパソコンでコンピュータ名を変更する場合は、「5. 3. 6 パソコンのコンピュータ名の変更 (G-50対応版TG-2000)」を参照してください。手順が異なります。

5. 3 TG-2000のセットアップ (G-50対応版TG-2000)

5. 3. 1 セットアップ方法 (G-50対応版TG-2000)

本TG-2000のセットアップ方法としては、以下の2種類の方法があります。

- 方法1) 新規セットアップ … 5. 3. 2章を参照
- 方法2) バージョンアップ … 5. 3. 3章を参照

TG-2000のセットアップCD (CD-ROM) のフォルダ構成とファイルを記載します。ただし、実行するファイルのみ記載してあります。

◆新規セットアップ

G-50対応版TG-2000のセットアップ

[CD-ROM ドライブ] ¥WindowsXP¥Setup¥Step1¥SETUP. exe
¥Step2¥DbSetup. bat
¥Step3¥SetupTG. exe

◆バージョンアップ

G-50対応版TG-2000のバージョンアップ

[CD-ROM ドライブ] ¥WindowsXP¥Verup¥DbVerup¥DbUpdate. bat
¥TGVerup¥SetupTG. exe

[参考] CD-ROM のフォルダ構成

Readme.txt	…	本CD-ROMのディレクトリ構成やセットアップの注意点
¥Windows7&Vista&XP	…	G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップ用フォルダ
¥WindowsXP	…	G-50対応版TG-2000のセットアップ用フォルダ
¥Tool	…	空調料金算出支援ツール (料金比率支援.xls, 空調料金支援.xls) トレンドグラフ作成ツール (トレンドグラフ支援.xls) 試運転チェックリスト作成ツール (試運転チェックシート.xls)
¥G150Update	…	G-150ADのアップデート
¥G50Update	…	G-50のアップデート
¥ECUpdate	…	拡張コントローラ (PAC-YG50EC) のアップデート
¥CheckSheet	…	試運転チェックシート (サンプル)
¥Manual	…	簡易操作説明書 (Pdf ファイル)

※本 Pdf ファイルをご覧になるには、別途 Adobe® Reader®が必要です (Ver. 7.1 以降推奨)。

お願い

- G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 2 TG-2000のセットアップ (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」を参照してください。G-150AD/G-50対応版TG-2000の動作環境 (OS) は、Windows 7、Windows Vista または Windows XP です。
- Windows 7、Windows Vista の環境で、G-50対応版TG-2000のセットアップはできません。Windows 7、Windows Vista の環境でTG-2000のセットアップを行なう場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを行なってください。
- TG-2000 Ver. 5.23 からのバージョンアップに対しては、G-150AD/G-50対応版TG-2000へのバージョンアップを行なってください。
ただし、動作環境のOSがWindows 2000の場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000へのバージョンアップはできません。

注意

- 新規セットアップ、バージョンアップ共にセットアップを開始する前に、ご使用のパソコンが「2. 1 動作環境 (推奨システム)」に記載されている動作環境を満たしているのを確認してください。
- TG-2000 Ver. 5.23 および Ver. 5.53 以降で記録されたデータ (データベース) をTG-2000 Ver. 5.4* または Ver. 5.3* で使用することはできません。バージョンアップでのデータ移行はできません。
- ウィルス対策ソフトをご使用の場合、ウィルスチェック機能により、TG-2000の動作が中断することがあります。この場合、TG-2000の実行ファイル (EXE) をチェック機能から除外することが必要です。

お知らせ

- 使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 3. 3 バージョンアップ手順 (G-50対応版TG-2000)」の「別のパソコンにG-50対応版TG-2000のバージョンアップ方法」を参照ください。

5. 3. 2 新規セットアップ手順 (G-50対応版TG-2000)

TG-2000のセットアップは下記の3つのステップからなります。

- ステップ1) MSDEのセットアップ (＋パソコンの自動再起動)
- ステップ2) データベースのセットアップ
- ステップ3) TG-2000のセットアップ (＋パソコン再起動)

お願い

- ・**セットアップは3つのステップを手順通り実施してください。**手順通りに実施しない場合、TG-2000は正常に動作しません。
- ・セットアップを行なう前に必ず自動ログイン名、パスワードでWindowsにログインしてください。**TG-2000はAdministrator 権限を有するログイン名でのみ、使用可能です。**

注意

- ・TG-2000をインストールする際は、他のプログラム（常駐型のものも含む）を終了してください。

ステップ1) MSDEのセットアップ

1) MSDEセットアップを実行します

CD-ROM内の **¥WindowsXP¥Setup¥Step1¥setup.exe** をダブルクリックします。

2) 表示内容を確認して、[OK] ボタンをクリックします

MSDEのセットアップが完了すると、自動的にパソコンをシャットダウンし、再起動しますので、他のアプリケーションソフトウェアを閉じた後、[OK] ボタンをクリックしてください。

※セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

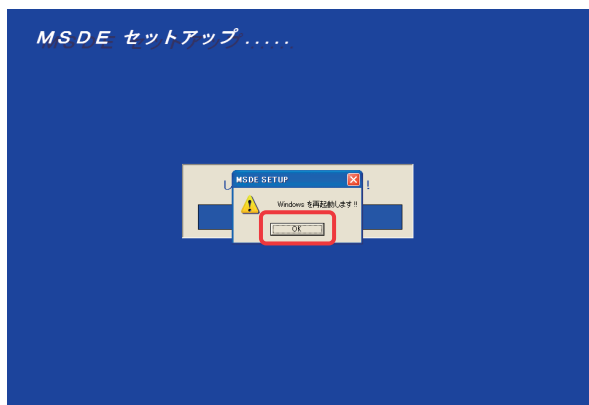
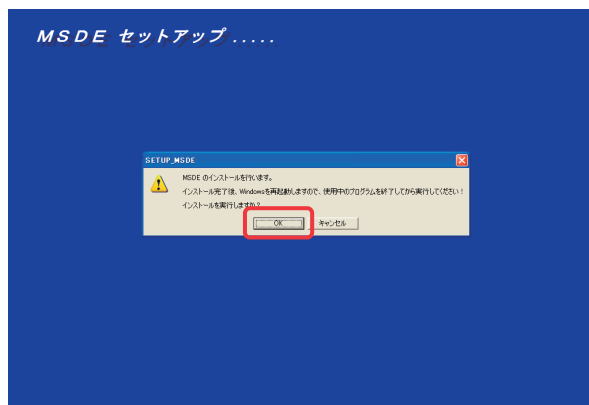
セットアップ処理所要時間：**約2～3分**

3) [OK] ボタンをクリックします

セットアップ処理が終了すると、右図の画面が表示され、[OK] ボタンをクリックします。
自動的にパソコンをリセットし、再起動します。

注意

- ・他のアプリケーションソフトを終了せずにセットアップしてしまった場合、自動的にパソコンをリセットできない場合があります。この場合は手動でパソコンを再起動してください。
(次のステップ2で正常にセットアップできません)。



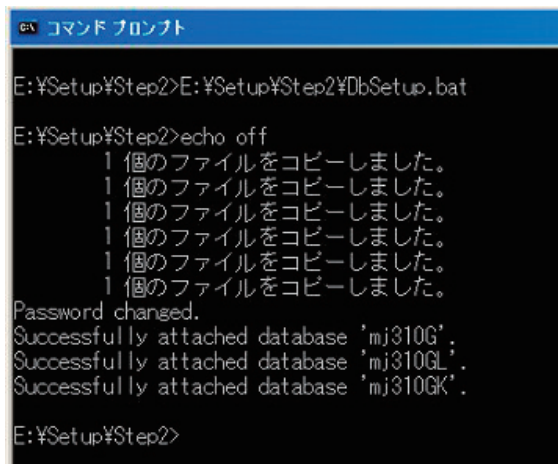
ステップ2) データベースのセットアップ

1) データベースのセットアップを実行します

CD-ROM内の **¥WindowsXP¥Setup¥Step2¥DBSetup.bat** をダブルクリックします。

所要時間：**約10秒**

セットアップ処理が終了すると、画面が閉じます。



ステップ3) TG-2000のセットアップ

本TG-2000のアプリケーションをセットアップします。画面に表示される説明をよくお読みになってセットアップを進めてください。

(1) セットアッププログラムの起動

1) SetupTG.exe を起動します

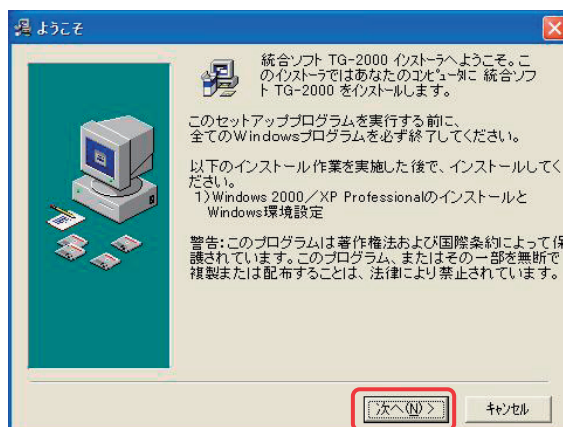
CD-ROMの **¥WindowsXP¥Setup¥Step3¥SetupTG.exe** を実行します。

「ようこそ」画面が表示されますので、セットアップ開始する前に確認必要注意点等を表示していますので確認します。

2) 表示内容を確認し、[次へ] ボタンを選択します

確認内容に問題が無ければ、[次へ] ボタンをクリックします。

※セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。



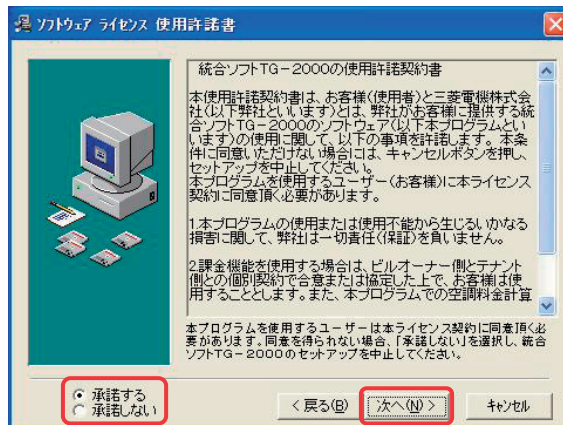
(2) ライセンス契約の内容確認

1) 表示内容を確認し、[承諾する] を選択します

次に、ライセンス契約の確認画面が表示されます。契約内容をよく読み、全ての条項に同意して頂いた上で [承諾する] を選択してください。

2) [次へ] ボタンを選択します

※同意できない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、インストールを中止してください。

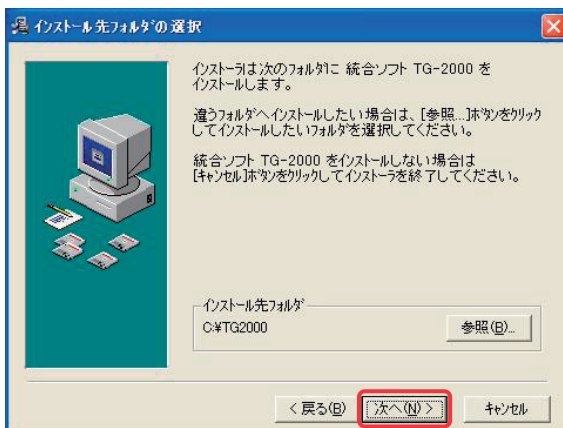


(3) インストールフォルダの確認

1) フォルダを確認し、[次へ] ボタンを選択します

本プログラムをインストールするフォルダを変えずに [次へ] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、インストールは中止します。



(4) モードの選択

1) 「標準」または「広域」を選択します

インストールするモードを選択します。

標準：1つのサイトのみ監視/操作できるモード (Ver. 4.51 までと同じ機能)

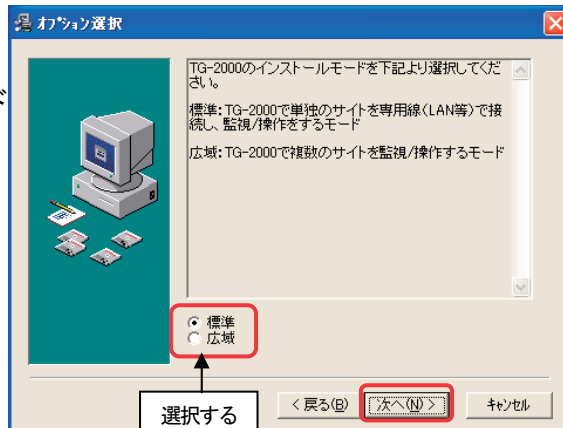
広域：複数サイトの監視/操作できるモード (使用できる機能は限定されます)

お知らせ

・インストール後に通常版と広域版の切り替えを行なうことはできません。

2) [次へ] ボタンを選択します

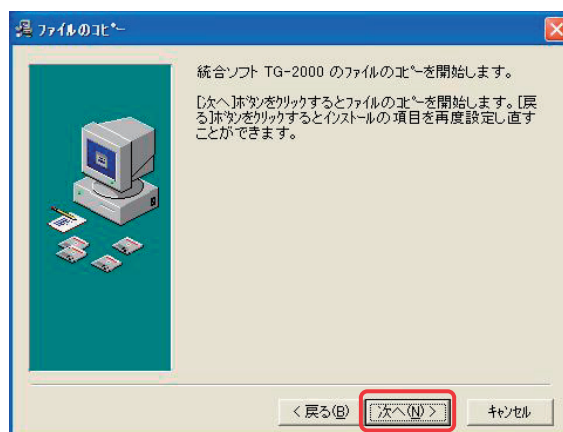
モードを選択しましたら、[次へ] ボタンを選択します。



(5) インストール開始確認

- 1) 開始確認をし、[次へ] ボタンを選択します
インストールを開始します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、インストールは中止します。

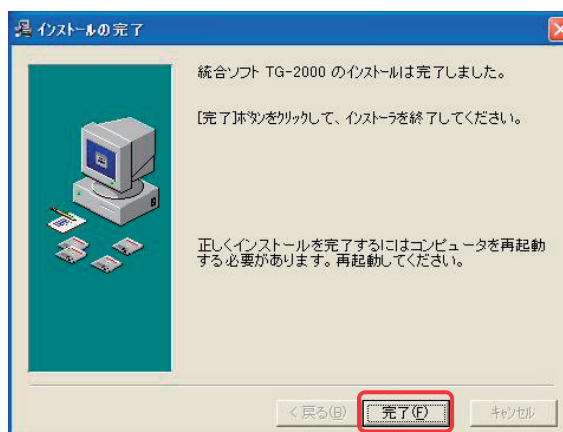


(6) TG-2000のセットアップの終了確認

- 1) [完了] ボタンを選択します
インストールの完了画面にて、[完了] ボタンをクリックします。

2) インストール完了後にはパソコンを再起動します

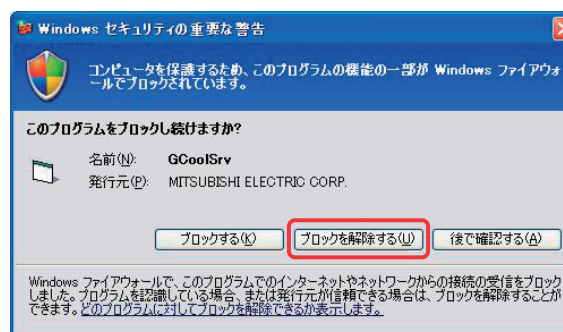
※インストールが完了すると、スタートアップメニューに本プログラムが登録され、次回起動時より自動で起動します。
また、使用した CD-ROM は大切に保管してください。



(7) TG-2000起動時のファイアウォール設定

- 1) ファイアウォールのブロック設定を解除します
TG-2000の起動時、Windows ファイアウォールのブロックについてメッセージが表示されます。
[ブロックを解除する] ボタンを押し、Windows ファイアウォールのブロック対象外にします。

※TG-2000の画面切替で、本画面が隠れてしまった場合は、
[Alt] キーと [Tab] キーを同時に押し、右図の画面表示の切替
で、Windows ファイアウォールを選択して表示します。



お願い

- ・TG-2000 インストール終了後は**必ずパソコンの再起動**を実施してください。

お知らせ

- ・メールツールは「標準」および「広域」モードでもインストールされます。
- ・広域モードでのTG-2000の起動は、サイト切替えツールから行ないます。操作方法については、広域編の取扱説明書の4章を参照してください。

5. 3. 3 バージョンアップ手順 (G-50対応版TG-2000)

TG-2000のバージョンアップは下記の4つのステップからなります。

- ステップ1) TG-2000の終了
- ステップ2) TG-2000のアンインストール (＋パソコン再起動)
- ステップ3) データベースのバージョンアップ
- ステップ4) TG-2000のバージョンアップ (＋パソコン再起動)

お願い

- ・バージョンアップ (アップグレード) するには、4つのステップを手順通り実施してください。手順通りに実施しない場合、TG-2000は正常に動作しません。
- ・トラブル防止のため、事前にデータベースのバックアップ (添付5参照) を採取してください。
- ・ステップ1と2については、7. 3章と5. 3. 4章を参照ください。
- ・MSSQLSever 以外のプログラム (常駐型のものも含む) は終了してください。

ステップ1) TG-2000の終了

1) TG-2000を終了します

TG-2000を終了していない場合は、プログラムを終了します。

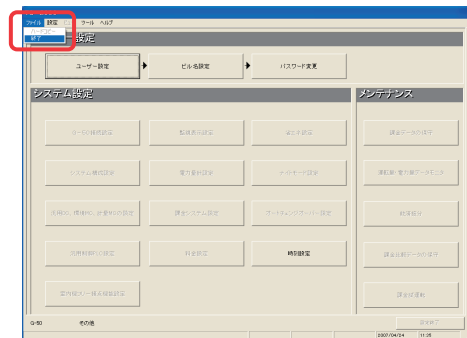
初期画面または管理画面のメニューバーから、**[ファイル] - [終了]** を選択します。

※終了方法は7章を参照ください。

管理画面からの終了の場合は、パスワード入力の画面が表示されます。TG-2000の終了パスワードを入力してください。

(パスワードは、管理者に確認してください。)

※バージョンアップするためには、TG-2000のプログラムを終了する必要があります。



終了方法

ステップ2) TG-2000のアンインストール

1) アプリケーションの追加と削除を起動します

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を起動します。

2) TG-2000のアンインストールをします

「TG-2000」のプログラムを選択し、**[変更と削除]** ボタンを選択し、削除します。

TG-2000のアンインストール手順については、

「5. 3. 4 TG-2000のアンインストール (G-50対応版TG-2000) ステップ1)」を参照してください。

3) パソコンを再起動します

プログラムをアンインストールしたため、Windows を再起動します。

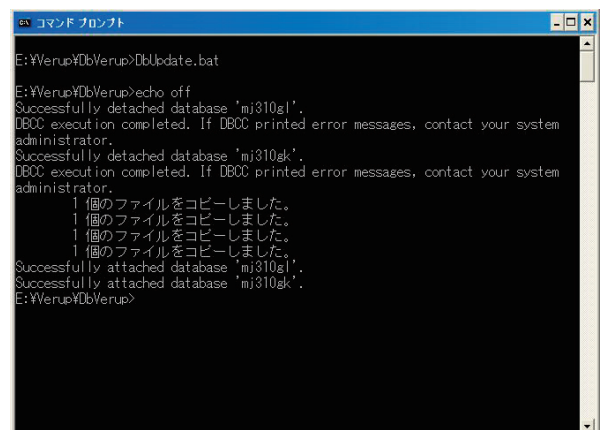
ステップ3) データベースのバージョンアップ

1) DbUpdate.bat を起動します

CD-ROMの **¥WindowsXP¥Verup¥DbVerup¥DbUpdate.bat** を実行します。

所要時間：約10秒

バージョンアップ処理が正常に終了すると、画面が閉じます。



ステップ4) TG-2000のバージョンアップ

本TG-2000のアプリケーションをバージョンアップします。画面に表示される説明をよくお読みになってセットアップを進めてください。※手順は新規セットアップと同じ。

お知らせ

- ・TG-2000のバージョンアップの手順詳細は、5. 3. 2章のステップ3を参照ください。

(1) バージョンアップのセットアッププログラムの起動

- 1) SetupTG.exe を起動します
CD-ROM の ¥WindowsXP¥Verup¥TGVerup¥SetupTG.exe を実行します。

- 2) 表示内容を確認し、[次へ] ボタンを選択します

(2) ライセンス契約の内容確認

- 1) 表示内容を確認し、[次へ] ボタンを選択します

(3) インストールフォルダの確認

- 1) インストールフォルダを確認し、[次へ] ボタンを選択します

(4) インストール開始確認

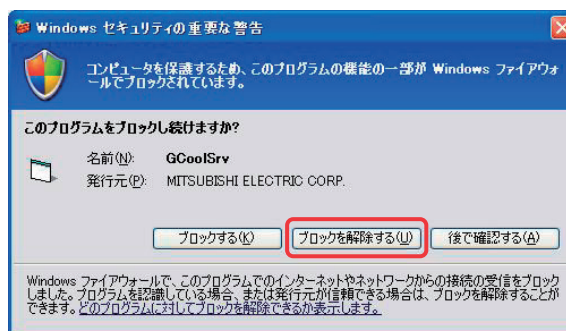
- 1) 開始確認をし、[次へ] ボタンを選択します

(5) TG-2000のセットアップの終了確認

- 1) [完了] ボタンを選択します

- 2) パソコンを再起動します

TG-2000の起動時、Windows ファイアウォールのブロックが表示された場合は、[ブロックを解除する] ボタンを押し、Windows ファイアウォールのブロック対象外にします。



※TG-2000の画面切替で、本画面が隠れてしまった場合は、[Alt] キーと [Tab] キーを同時に押し、右図の画面表示の切替で、Windows ファイアウォールを選択して表示します。



お願い

- ・TG-2000インストール終了後は**必ずパソコンの再起動**を実施してください。
- ・初期画面で、ユーザー設定や課金システム構成などの全ての設定を確認、または、必要に応じて設定ください。

一別のパソコンにG-50対応版TG-2000のバージョンアップ方法

使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、以下の手順で実施してください。

- (1) 元のパソコンからTG-2000のデータベースバックアップを採取します。
[フォルダ] C:¥MSSQL7¥Data
[ファイル] MJ310G. ldf, MJ310G. mdf, MJ310GT. ldf, MJ310GT. mdf (4ファイル)
※TG-2000のデータベースバックアップ方法については、「添付5 システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。
- (2) 別のパソコンにG-50対応版TG-2000の新規セットアップを行ないます。
※「5. 3. 2 新規セットアップ手順 (G-50対応版TG-2000)」を参照してください。
- (3) パソコンの再起動を行なった後、TG-2000が自動起動し、初期画面が表示されたことを確認します。
その後、TG-2000を終了します。
- (4) パソコンのデスクトップにある「detach」を実行します。
- (5) 元のパソコンから採取したTG-2000のデータベースバックアップをコピーします。
[フォルダ] C:¥MSSQL7¥Data
[ファイル] MJ310G. ldf, MJ310G. mdf, MJ310GT. ldf, MJ310GT. mdf (4ファイル)
- (6) パソコンのデスクトップにある「attach」を実行します。
- (7) TG-2000データベースのバージョンアップを行ないます。
※「5. 3. 3 バージョンアップ手順 (G-50対応版TG-2000) ステップ3) データベースのバージョンアップ」を参照してください。
- (8) パソコンの再起動を行ない、TG-2000を起動 (自動起動) します。

お知らせ

- ・使用中のTG-2000の設定情報を元に、別のパソコンにG-150AD/G-50対応版TG-2000のセットアップを行なう場合は、「5. 2. 3 バージョンアップ手順 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」の「別のパソコンにG-150AD/G-50対応TG-2000のバージョンアップ方法」を参照ください。

お知らせ


G-50対応版TG-2000のセットアップ (バージョンアップを含む) に対し、TG-2000の起動時、「The connection error to a database. A program is ended.」 または「Database version error! A program is ended.」のメッセージが表示された場合、以下の確認と操作を行ない、TG-2000の起動を確認してください。

TG-2000データベースの起動状態の確認します。

- (1) タスクバーの「MSDEアイコン」をダブルクリックして、「SQL Sever Sevice Manager」を起動します。

Server : パソコンのコンピュータ名

Services : MSSQLServer

アイコン表示 :  (Running)

であることを確認してください。異なる場合は、上記状態に設定してください。

TG-2000データベースの接続を再実行します。

- (1) パソコンのデスクトップにある「detach」を実行します。
- (2) 「detach」が終了後、パソコンのデスクトップにある「attach」を実行します。
- (3) 「attach」が終了後、パソコンの再起動を行ない、TG-2000の起動 (自動起動) を確認してください。

TG-2000データベースのバージョンアップを再度実施します。

TG-2000のバージョンアップに対して、上記のTG-2000データベースの再接続でもTG-2000が起動できない場合は、データベースのバージョンアップを再度実行します。

- (1) TG-2000データベースをバージョンアップ作業前の状態に戻します。

パソコンのデスクトップにある「detach」を実行します。

「C:\¥MSSQL7¥Data」フォルダに、作業前に採取したTG-2000データベースのバックアップをコピーします。

TG-2000データベースバックアップをコピー後、パソコンのデスクトップにある「attach」を実行します。

- (2) 「5. 3. 3 バージョンアップ手順 (G-50対応版TG-2000) ステップ3) データベースのバージョンアップ」を再度実施します。
- (3) パソコンの再起動を行ない、TG-2000の起動 (自動起動) を確認してください。

5. 3. 4 TG-2000のアンインストール（G-50対応版TG-2000）

インストールした「TG-2000」「MSDE」のアプリケーションをアンインストールする方法を説明します。

ステップ1) TG-2000本体のアンインストール

1) TG-2000の終了を確認します

終了していない場合は、プログラムを終了します。

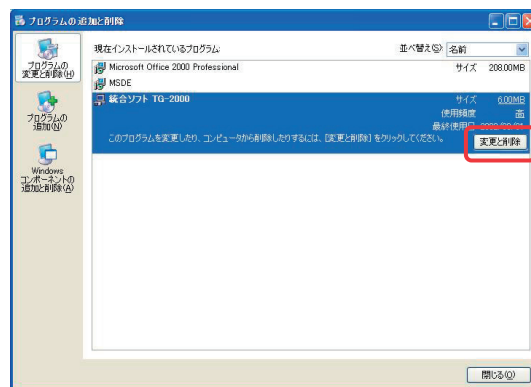
※終了方法は7章を参照ください。

2) [プログラムの追加と削除] を起動します

[コントロールパネル] から [プログラムの追加と削除] をクリックして、起動します。

3) [統合ソフト TG-2000] を選択し、[変更と削除] ボタンをクリックします

クリックすると、TG-2000アプリケーションの削除が始まります。



お知らせ

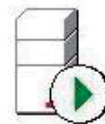
- ・共有コンポーネントの削除は行なわないことをお勧めします。
- ・本アンインストールで削除できないフォルダやファイルが存在しますが、異常ではありません。
(例：C:\¥TG2000)

4) 終了後に「プログラムの追加と削除」を終了します

ステップ2) MSDEのアンインストール

1) SQL Sever Sevice Manager を起動します

タスクバーのMSDEアイコンをダブルクリックして、「SQL Sever Sevice Manager」を起動します。



MSDEアイコン

2) サービスを停止します

[Stop] ボタンをクリックします。

3) SQL Sever Sevice Manager を終了します

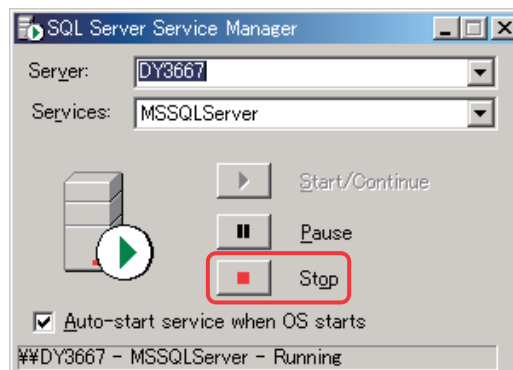
「SQL Sever Sevice Manager」を閉じます。

4) MSDEアイコンを閉じます

タスクバーのMSDEアイコンを右クリックして、[Exit] を選択します。タスクバーからMSDEアイコンが消えます。

5) 「プログラムの追加と削除」を起動します

[コントロールパネル] から [プログラムの追加と削除] をクリックして、起動します。

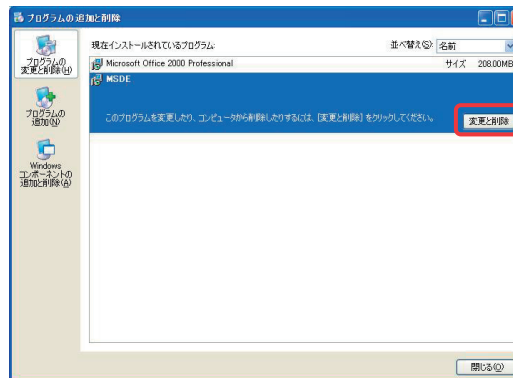


6) 「MSDE」を選択し、変更と削除ボタンを押します

表示されているアプリケーションから「MSDE」を選択して、[変更と削除] ボタンをクリックします。MSDE アプリケーションの削除が始まります。

お知らせ

- ・本アンインストールで削除できないフォルダやファイルが存在しますが、異常ではありません。
(例：C:\¥Mssql17)
- ・本パソコンにて MSDE を使用する場合は、アンインストールの必要はありません。



7) 削除完了後に「プログラムの追加と削除」を終了します

5. 3. 5 ウィルス対策ソフト使用時の除外設定（G-50対応版TG-2000）

ウィルス対策ソフトをご使用の場合、ウィルスチェック機能により、TG-2000の動作が中断することがあります。この場合、TG-2000の実行ファイル（EXE）をチェック機能から除外することが必要です。

TG-2000のインストール後、または、ウィルス対策ソフトのインストール後、ウィルス対策ソフトのファイアウォールやAutoProtectでのチェック機能に対して、下記TG-2000の実行ファイル（EXE）を除外するものとして登録します。

フォルダ	除外するファイル名	
C:¥TG2000	TG2000.exe	（※1）広域モードのセットアップ時
	TGSiteTool.exe（※1）	
	GMaiISrv.exe	
	DbBkupTool.exe	
C:¥WINDOWS¥system32	G50Srv.exe	（計 10 ファイル）
	GChargeSrv.exe	
	GMultiSrv.exe	
	GTrendSrv.exe	
	GWHMSrv.exe	
	GcoolSrv.exe	

なお、ウィルス対策ソフトのインストールの中で、除外設定を訊いてくる場合があります。この場合は、その指示に従い、除外する実行ファイル（EXE）の除外設定を行なってください。

チェック機能の除外の設定方法はウィルス対策ソフトにより異なりますので、各ソフトの取扱説明書を参照して設定してください。

お願い

- ・ウィルスの自動検索を行なう場合は、課金処理等のため、00:00~08:00の時間帯を避けて設定するようにしてください。

お知らせ

- ・TG-2000 Ver. 5.53以降およびVer. 5.23とTG-2000 Ver. 5.4*、Ver. 5.3*およびVer. 5.19以前では、TG-2000の実行ファイル（EXE）のインストール先が異なります。
TG-2000 Ver. 5.53以降およびVer. 5.23のTG-2000に対して実行ファイル（EXE）の除外設定を行なう場合は、G-150AD/G-50対応版TG-2000の「ウィルス対策ソフト使用時の除外設定」を参照してください。（5. 2. 5章を参照）

5. 3. 6 パソコンのコンピュータ名の変更 (G-50対応版TG-2000)

TG-2000をインストール後にパソコンのコンピュータ名を変更しますと、TG-2000は動作しません。
TG-2000のパソコンのコンピュータ名を変更する場合、以下の手順でコンピュータ名の変更が可能です。
以下に、G-50対応版TG-2000 (Ver. 5. 4*, Ver. 5. 3*およびVer. 5. 19 以前)の手順を記載します。

お願い

- ・パソコンのコンピュータ名を変更する場合は、必ず以下の手順で変更してください。以下の手順通りに変更しなかった場合、TG-2000が起動しなくなります。
- ・TG-2000の再インストールが必要です。再インストールするときにデータベースが消去されます。必ずデータベースのバックアップをとってから作業を行なってください。

1) TG-2000を終了します

2) TG-2000のバックアップをします

USBメモリなどに、“MJ310G. ldf”, “MJ310G. mdf”, “MJ310GT. ldf”, “MJ310GT. mdf” (4ファイル) をコピーしてください。

※バックアップ方法は添付5を参照ください

3) TG-2000をアンインストールします

※TG-2000アンインストールの手順は5. 3. 4章のステップ1を参照ください

4) MSDEをアンインストールします

※MSDEアンインストールの手順は5. 3. 4章のステップ2を参照ください

5) 2箇所の“ServName. txt”を削除します

以下の2箇所のフォルダにある“ServName. txt”ファイルを削除します。

フォルダ : c:¥TG2000

c:¥Windows¥System32

6) パソコンのコンピュータ名を変更します

「マイコンピュータ」の「プロパティ」－「コンピュータ名」でコンピュータ名を変更します。

7) パソコンを再起動します

8) TG-2000をインストールします

以下の(1)～(3)を実行し、TG-2000をインストールします。

(1) MSDEのインストール (STEP1)

(2) データベースのセットアップ (STEP2)

(3) TG-2000のインストール (STEP3)

※TG-2000インストールの手順は5. 3. 2章を参照ください

9) パソコンを再起動します

再起動後、TG-2000の初期設定画面が起動することを確認してください。

お知らせ

- ・TG-2000を再インストールするときにデータベースファイルが消去されるため、新規インストールした直後の状態で、初期設定画面が表示されます。

10) TG-2000を終了します

11) TG-2000のデータベースを復元します

以下の(1)～(3)を実行し、TG-2000のデータベースを復元します。

(1) デスクトップの“detach”を実行

(2) 手順2でバックアップしたデータベースファイル (4ファイル) を“c:¥MSSQL7¥Data”フォルダに上書きコピー

(3) デスクトップの“attach”を実行

12) パソコンを再起動します

パソコンを再起動し、TG-2000が正常に起動すれば完了です。

お知らせ

- ・G-150AD/G-50対応版TG-2000をインストールしているパソコンでコンピュータ名を変更する場合は、「5. 2. 6 パソコンのコンピュータ名の変更 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」を参照してください。手順が異なります。

6. 各部の名称と機能

6. 1 画面構成

初めて統合ソフトTG-2000を起動すると、**初期画面**が表示されます。

初期画面は以下の構成になっています。

(次回の初期画面へは、メニューバーよりパスワードを用いて呼び出すことができます。詳しくは、6. 3章を参照ください。)

タイトルバー
そのウィンドウのタイトルを表示します。

メニューバー
メニュー機能を表示し、選択できます。

システム設定グループ
グループ情報や監視表示、課金システムなどを設定します。

機器状態表示
システム機器の異常／正常を表示します。

ユーザー設定グループ
機能の有効／無効やビル名称、パスワードを設定します

メンテナンスグループ
電力按分課金の修正などを行なう機能です。故障時等の場合に使用します。

設定終了ボタン
初期画面から通常の管理画面に移行するボタンです。

メッセージバー
時刻や画面のコメントを表示します。

初期画面

各設定ボタンをクリックすると各画面を表示します。[システム構成設定] ボタンをクリックして表示した画面（一例）を以下に示します。

タイトルバー
そのウィンドウのタイトルを表示します。

機能表示・操作設定部
設定内容の表示や設定操作を行なう部分です。

次へ、戻る、キャンセル、OK ボタン
設定画面のOK、戻る、次へ、キャンセルを選択します。

メッセージバー
画面のコメントを表示します。

システム構成設定の準備画面

各設定画面での [次へ] [戻る] [キャンセル] [OK] ボタンの動作内容を示します。

ボタン	動作内容
[OK]	準備画面での確認内容を問題なしと判断し、設定画面に進みます。 また、本表示画面にて設定した内容を有効にし、次の設定画面に進みます。
[次へ]	次の設定画面に進みます。
[戻る]	本表示画面にて設定した内容を無効にし、一つ前の設定画面に戻ります。
[キャンセル]	本表示画面にて設定した内容を無効にし、初期画面に移行します。

6. 2 マウス操作の基本

本統合ソフトTG-2000の操作は、ポインティング装置として“マウス”を使用することを前提に説明します。マウス以外の装置をポインティング装置として使用する場合は、その装置の説明書をご覧ください。

以下に操作方法について示します。

項目	内容
クリック	ボタンを1回押すことをクリックと言います。 この操作はアイコンや機能の選択のときに使用します。
ダブルクリック	ボタンを連続してすばやく2回押すことをダブルクリックと言います。
ドラッグ	アイコンの上にマウスポインタをもっていき、左ボタンを押したままにするとものを掴んだ状態になります。そのままマウスを動かすと、アイコンがひきずられる様に動きます。この操作をドラッグと言います。左ボタン離すことで動かした位置に移動ができます。
キーボード	主にパスワードの入力、文字入力、数値入力の際に使用します。

6. 3 画面遷移と機能一覧

本統合ソフトTG-2000は、大きく分けて二つの機能と画面からなっています。

画面	機能
管理画面	空調機の運転状態を監視したり、空調機を操作・設定したりする機能
初期画面	空調機のグループ情報や監視表示などの初期設定、および、課金データの保守を行なう機能

本現地調整編は、主に初期画面の初期設定機能について記載しています。

(1) 初期画面から管理画面への移行

“初期画面”から“管理画面”への遷移方法を示します。8章記載の初期設定を完了した後に、管理画面へ移行させます。

通常の場合

設定変更した内容だけG-150AD/G-50に対して送信します。

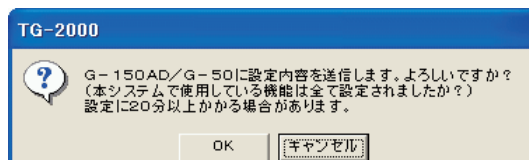
通常はこの方法で管理画面に移行してください。

※拡張コントローラ（EC）には、G-150ADを通じて設定が送信されます。

[操作方法]

1) [設定終了] ボタンを選択します

初期画面右下の [設定終了] ボタンをクリックします。
変更内容をG-150AD/G-50に送信するかの確認画面が表示されます。



設定内容の送信確認画面

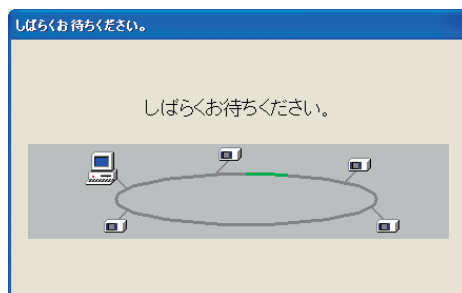
2) [OK] ボタンを選択します

[OK] ボタンをクリックして、初期設定変更した内容をG-150AD/G-50に送信します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。

管理画面に移行する前に、設定送信中画面が表示されます。変更した内容にもよりますが、おおよそ所要時間は下記ようになります。

所要時間：1～30分程度



設定送信中画面

全設定送信する場合

設定内容を全部G-150AD/G-50に対して送信します。

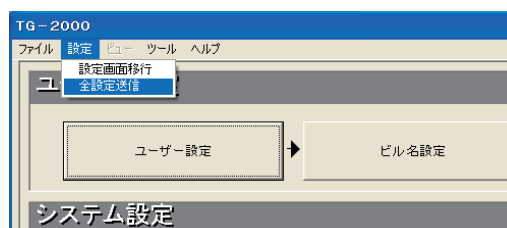
立ち上げ後、システム情報の相違等があった場合や設定済みのデータベースを現地サイトにコピーして使用する場合、この方法で管理画面に移行してください。

※拡張コントローラ（EC）には、G-150ADを通じて設定が送信されます。

[操作方法]

1) メニューバーの [設定] - [全設定送信] を選択します

管理画面でメニューバーの「設定」をクリックして、[全設定送信] を選択します。
全設定内容をG-150AD/G-50に送信するかの確認画面が表示されます。



全設定送信画面

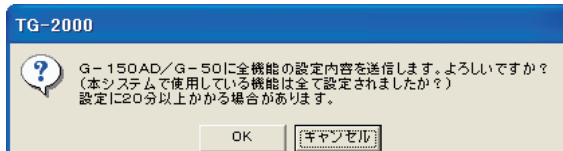
2) [OK] ボタンを選択します

[OK] ボタンをクリックして、全設定内容をG-150AD/G-50に送信します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。

管理画面に移行する前に、設定送信中画面が表示されます。おおよそ所要時間は下記ようになります。

所要時間： **5～30分程度**



全設定送信の確認画面

お知らせ

- ・ G-150AD/G-50を故障等で交換した場合、該当のG-150AD/G-50への設定を行なう場合、「全設定送信」で設定を行なうことができます。ただし、「全設定送信」では、全てのG-150AD/G-50に対して、TG-2000で保持している設定内容を送信しますので、他のG-150AD/G-50の設定内容に誤りがないかを確認の上、実施してください。

注意

- ・ 設定内容の送信は、G-150AD/G-50および拡張コントローラ（EC）が正常に接続されている状態で行なってください。
 ※拡張コントローラ（EC）が接続されていない状態（G-150ADのみ接続）で、拡張コントローラ（EC）接続ありの設定内容を送信した場合、拡張コントローラ（EC）に対する設定内容が正しく設定されません。
- ・ 設定内容の送信後、G-150AD/G-50および拡張コントローラに対して通信異常が発生している場合は、通信異常の原因を解除後、再度、「全設定送信」で設定内容の送信を行なってください。

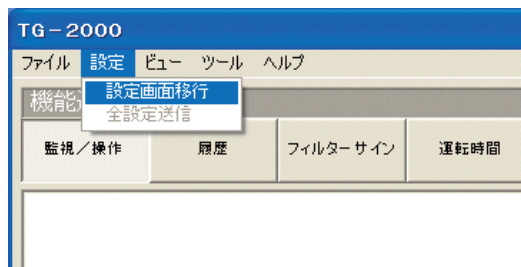
(2) 管理画面から初期画面への移行

初期設定の内容を変更するときや電力按分課金支援のメンテナンス時に管理画面から初期画面に移行します。

[操作方法]

1) メニューバーの [設定] - [設定画面移行] を選択します

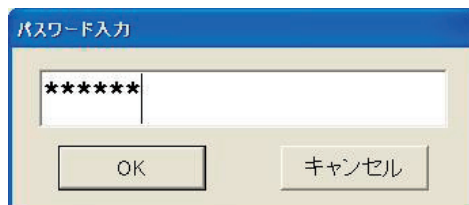
管理画面でメニューバーの「設定」をクリックして、[設定画面移行] を選択します。次に、パスワード入力画面が表示されます。



設定画面移行の表示画面

2) パスワードを入力します

パスワード入力画面で、パスワード「*****」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。パスワードがあていれば、初期画面が表示されます。



パスワード入力画面

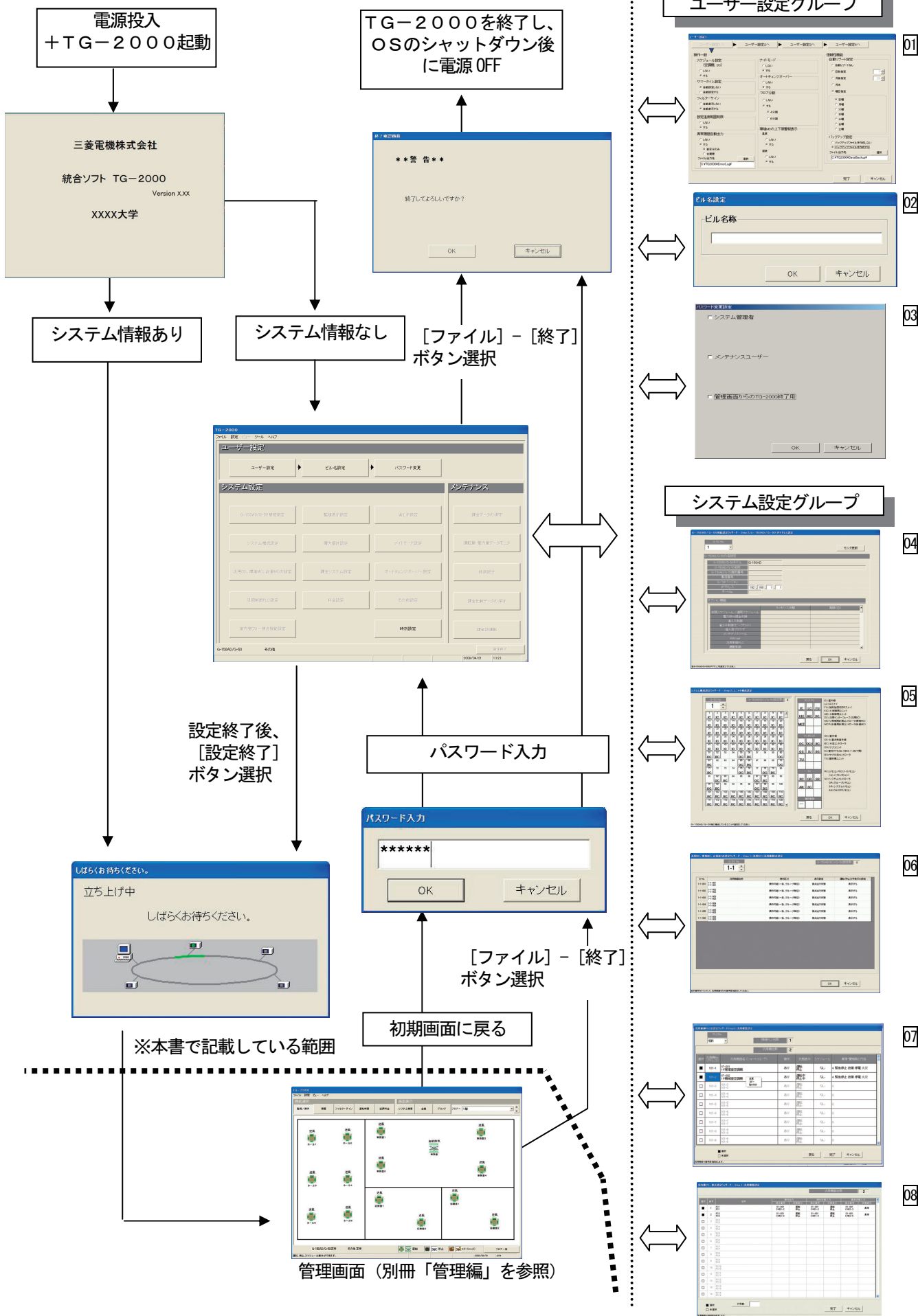
パスワードは3種類存在します。

項目	内容	初期値
初期設定パスワード	初期画面の全ての項目を使用できます。	「SYSTEM」(半角)
メンテナンスパスワード	初期画面のメンテナンスグループと自己パスワードの変更、および時刻設定ができます。また、管理画面における「料金設定」時のパスワードにも使用します。メンテナンスパスワードの場合、初期画面終了時、「立ち上げ中」の画面表示は行なわれません。	「Maintenance」(半角)
管理画面からのTG-2000終了パスワード	管理画面からTG-2000を終了する時に使用します。	「tglogout」(半角)

お願い

- ・ パスワードの管理は、システム変更等の許可者以外に漏れないように取扱いには注意してください。また、パスワード変更の機能でパスワードを変更できます。
- ・ パスワードを変更する場合は、他のパスワードと重複しないようにしてください。

統合ソフトTG-2000の画面遷移図 (1/3)



01	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	ユーザー設定	TG-2000の機能の使用有無を設定します。	62

02	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	ビル名設定	ビル名称を設定します。	75

03	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	パスワード変更	3種類（初期設定、メンテナンス、終了）のパスワードを変更します。	76

04	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	(G-150AD/G-50対応版) G-150AD/G-50 接続設定	G-150AD/G-50および拡張コントローラ（EC）の接続構成、IPアドレスを設定します。 G-150AD/G-50のオプション機能を表示することができます。	77
	(G-150AD/G-50対応版) G-150AD/G-50 システム構成確認	G-150AD/G-50および拡張コントローラ（EC）の接続設定に対して、実際の接続状態と照合し、確認します。	80
	(G-50接続対応) G-50接続設定	G-50の接続台数、IPアドレスを設定します。 G-50のオプション機能を表示することができます。	81

05	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	システム構成設定の準備	システム構成設定のステップと注意表示を確認します。	83
	G-150AD/G-50 データの収集	初回の初期設定時にG-150AD/G-50のシステム設定情報を収集します。	83
	ユニット構成設定	各G-150AD/G-50内のユニット構成を確認・変更します。	84
	冷媒系設定	冷媒接続の情報を確認・変更します。	87
	グループ設定	室内機・換気グループの情報を確認・変更します。	88
	換気連動設定	換気機器と室内機の連動設定情報を確認・変更します。	90

オプション機能

06	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	汎用DC、環境MC、 計量MCの設定の準備	汎用DC、環境MC、計量MC設定のステップと注意表示を確認します。	91
	汎用DC（汎用機器）の設定	汎用DCのグループ名称、操作区分、表示内容等の情報を確認・設定します。	91
	環境MCの設定	環境MCの名称、計測範囲、警報情報等を確認・設定します。	92
	計量MC（計量計）の設定	計量MCの名称、設置位置、単位、パルス単位、などの情報を確認・設定します。	94

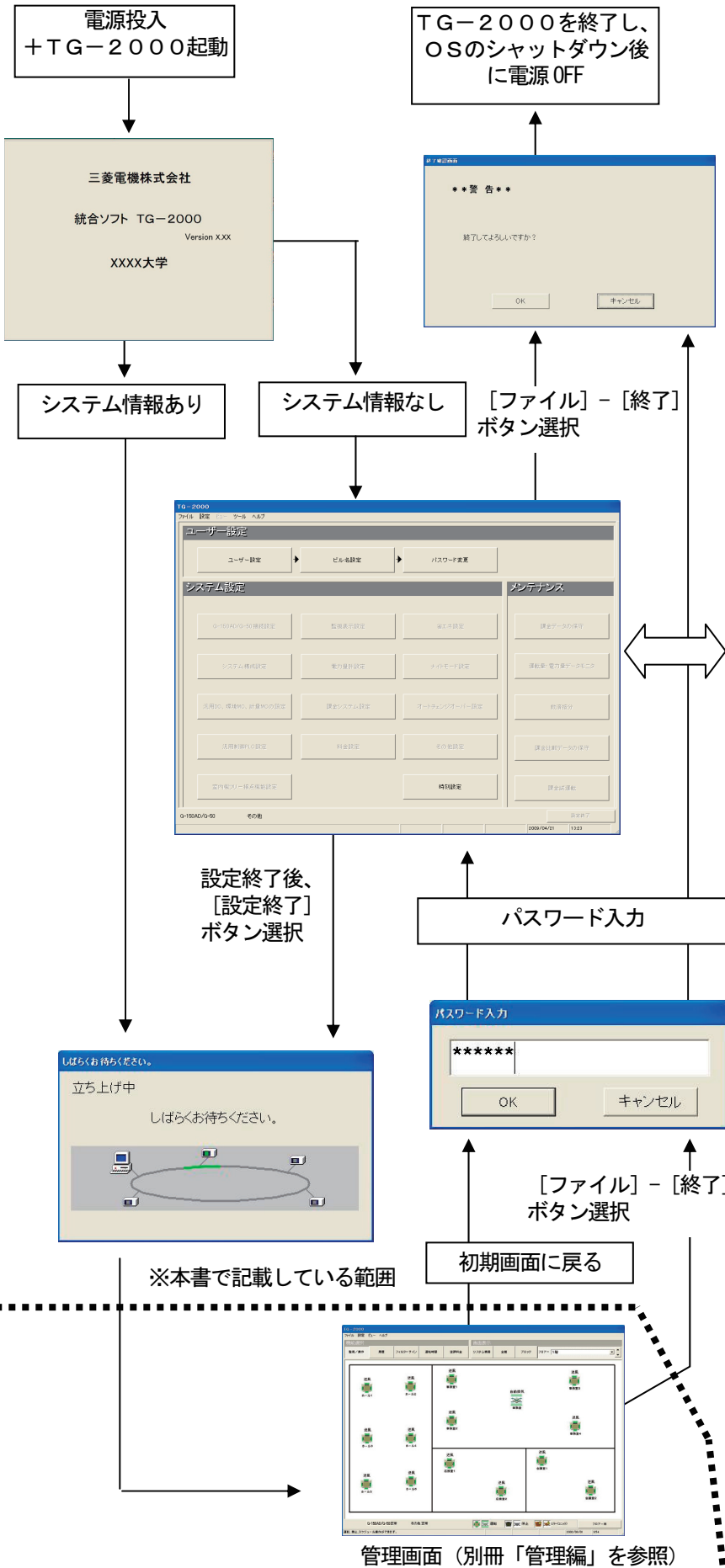
オプション機能

07	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	汎用制御PLC設定の準備	汎用制御PLC設定のステップと注意表示を確認します	95
	PLC台数設定	PLCの台数を設定します。	95
	PLC設定とイニシャル設定	各PLCのIPアドレスとイニシャル状態に設定します。	95
	機能設定	各PLCで使用する機能を設定します。	96
	アドバンス設定 （空調機状態監視設定）	各PLCで監視対象とするG-150AD/G-50を設定します。空調機との連動制御、室内機フリー接点を使用する時に設定します。	97
	アドバンス設定 （ピークカット機能設定）	各PLCでピークカット操作対象とするG-150AD/G-50を設定します。汎用制御PLCにデマンド制御機器を接続する時に設定します。	97
	汎用機器設定	汎用機器の機能を選択し、名称、設置場所と表示内容を設定します。	98

オプション機能

08	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	室内機フリー接点機能設定の 準備	室内機フリー接点機能設定のステップと注意表示を確認します。	100
	汎用機器設定	汎用機器の名称、接点番号と表示内容を設定します。	101

統合ソフトTG-2000の画面遷移図（2/3）



(続) システム設定グループ

09

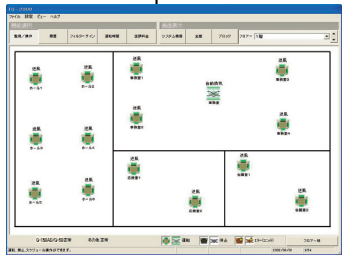
10

11

12

13

※本書で記載している範囲



管理画面（別冊「管理編」を参照）

09	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	監視表示設定の準備	監視表示設定のステップと注意表示を確認します。	103
	形名設定	ユニットの形名を設定します。	103
	フロア数とフロア名の設定 (サブ画面用)	サブ画面用のフロア数とフロア名称を設定します。	104
	平面図の作成 (サブ画面用)	サブ画面用フロア画面で使う平面図を作成します。	105
	フロア数とフロア名の設定	フロア数とフロア名称を設定します。	106
	平面図の作成	フロア画面で使う平面図を作成します。	106
	フロアとG-150AD/ G-50の設定	フロアとG-150AD/G-50の対応を設定します。	108
	グループアイコンの配置と名称設定	グループアイコンを平面図に配置し、グループ名称 (G-150AD/G-50本体LCD名称、ショート名、ロング名) を設定します。	108
	ブロック設定	グループ単位で操作ブロックを設定します。	109

オプション機能

10	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	計量計設定の準備	計量計設定のステップと注意表示を確認します	111
	PLC台数設定	電力量カウンタPLCの台数を設定します。	111
	PLC設定とイニシャル設定	各PLCのIPアドレスとイニシャル状態に設定します。	112
	計量計の設定	使用する計量計を選択し、種類、名称、設置場所とバルス単位を設定します。	112

オプション機能

11	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	課金システム設定の準備	課金システム設定のステップと注意表示を確認します。	113
	按分モードの設定	使用するパラメータや按分モードを選択します。 (室外機と室内機系の按分モードを選択します。)	114
	室外機-電力量計対応の設定	室外機と電力量計との対応を設定します。	115
	室外機設定	室外機のクランクケースヒータを設定します。	116
	室内機-電力量計対応の設定	室内機と電力量計との対応を設定します。	117
	室内機設定	室内機の能力容量と消費電力等を確認・変更します。	117
	課金用ブロック設定	操作ブロック単位で課金用ブロックを設定します。	118

オプション機能

12	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	料金設定	料金設定の各項目と設定状態を表示します。	120
	基本料金設定 (※1)	ブロック、および、電力量計の単位に基本料金を設定します。	120
	季節期間設定	季節料金の使用有無と期間を設定します。	121
	週間料金設定	曜日毎の料金時間帯と料金単価等を設定します。	121
	年間料金設定	年間特異日の料金時間帯と料金単価等を設定します。	123
	計量計の料金単価設定 (※2)	ガス、水道、熱量の計量計の料金単価を設定します。	125
	精算日設定	毎月の精算日を設定します。	125

※1：電力按分課金（電力量手入力）では設定できません。

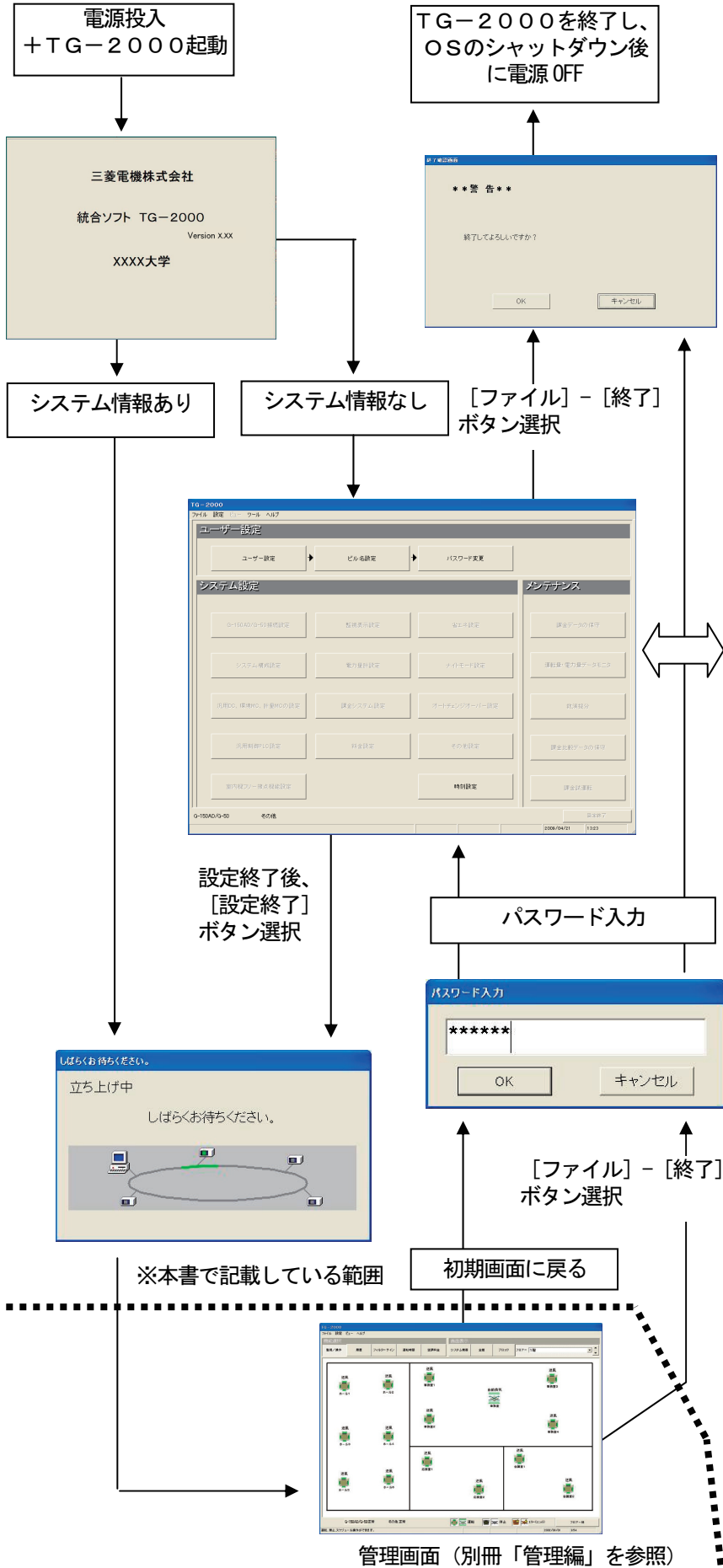
※2：電力量計以外の料金単価を設定します。

オプション機能

13	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	省エネ・ピークカット設定の準備 ※1	省エネ制御、または、ピークカットのステップと注意表示を確認します。	126
	省エネ設定 …省エネ設定	G-150AD/G-50ごとに、操作ブロック、および、室外機単位で制御内容などを設定します。	126
	使用電力量計設定 …ピークカット設定	G-150AD/G-50ごとに、適用する電力量計を設定します。	131
	ピークカット設定 …ピークカット設定	G-150AD/G-50ごとに、電力レベル、レベルに対する制御内容などを操作ブロックおよび室外機単位で設定します。	132

※1：使用する機能により表示する画面や内容が異なります。

統合ソフトTG-2000の画面遷移図 (3/3)



(続) システム設定グループ

14

15

16

17

メンテナンスグループ

18

19

20

21

22

※本書で記載している範囲

初期画面に戻る

管理画面 (別冊「管理編」を参照)

オプション機能

14	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	ナイトモード設定の準備	ナイトモード設定のステップと注意表示を確認します。	134
	ナイトモード設定	G-150AD/G-50ごとに、ナイトモードを行なう室外機とナイトモードを行なう時間を設定します。	134

オプション機能

15	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	オートチェンジオーバーの準備	オートチェンジオーバー（冷暖自動切換）設定のステップと注意表示を確認します。	135
	オートチェンジオーバー設定	室外機ごとに冷房・暖房を自動的に変更する切換モードを設定します。	135

オプション機能

16	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	その他設定の準備	その他設定のステップ注意表示を確認します。	138
	その他設定	外気温度連動制御、セットバック制御、24時間換気、ナイトパージを設定します。	138

17	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	時刻設定	現在日付と時刻を設定します。また、各G-150AD/G-50、PLCの時刻をモニタできます。	142

オプション機能

18	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	課金データの保守	電力量計、室内機、室外機の過去122日分のデータを参照・編集できます。（また、計量計（電力量計）の現在の値をモニタ、および、変更ができます。（※1））	147

※1：電力量手入力の場合は電力量計に対してモニタや変更が行なえません。

オプション機能

19	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	運転量・電力量データモニタ	G-150AD/G-50に格納された運転量データ、または、PLC（または、G-150AD/G-50）に格納された計量/電力量データ（62日分）をモニタし、上書きできます。（※2）	152

※2：計量MCの計量/電力量データは、G-150AD/G-50に格納されています。

オプション機能

20	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	救済按分	課金トラブル時に、応急的に按分課金計算を行ない、空調料金を算出できます。	155

オプション機能

21	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	課金比較データの保守	G-150AD/G-50またはPLC（シーケンサ）故障時に、課金按分比較用データをクリアできます。	157

オプション機能

22	ウィザードの名前	起動した画面での主な機能内容	掲載ページ
	課金試運転	電力按分課金支援の試運転の機能で、1日で実際の課金計算に近い状態で算出して確認することができます。	184

7. 初期起動と終了方法

7. 1 起動前の確認

TG-2000を起動する前に、以下の項目を確認してください。

項目	内容
(1)	空調機システムの試運転が完了していること
(2)	パソコン、HUB、集中コントローラ、給電装置および空調機の電源がONであること ※1
(3)	パソコンのハード接続、ケーブル接続およびソフトウェアインストールが完了していること
(4)	「日付と時刻」の設定が正しいこと

※1：PLCが接続されているシステムでは、PLCの電源もONであること

7. 2 起動の方法

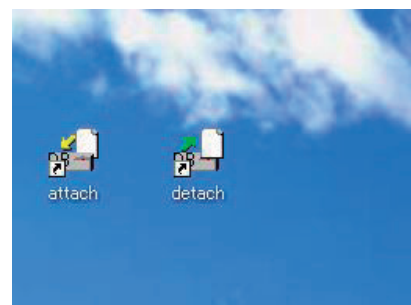
統合ソフトTG-2000を起動する。

TG-2000を起動するために必要な操作を説明します。

[操作方法]

1) Windows を再起動します

Windows (OS) を再起動すると、自動的にログインし、統合ソフトTG-2000のプログラムが起動します。起動処理が開始されると、「起動画面」が表示されます。

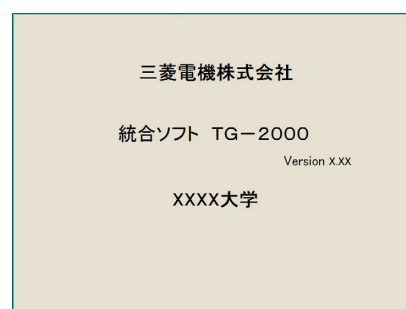


デスクトップ画面

起動画面の表示後に、システム設定データの有無によって、動作が異なります。

(ケース1) システム設定なし (初めての起動) の場合
初期画面が表示されます。8章「システム設定の方法」を参照し、初期設定を開始してください。

(ケース2) システム設定ありの場合
システムの初期設定を実施した後に、電源を投入、または、再起動を行なうと、管理画面を表示し、すぐに立ち上げ処理を開始します。



起動表示画面

立ち上げ処理の所要時間：10～20分程度

再度設定を行なうには、初期画面に移行して設定します。操作方法については6. 3章「画面遷移と機能一覧」を参照してください。



初期画面

お願い

- ・安全のために電源を入れる前に必ず据え付けや接続の状態を十分に確認してください。
- ・デスクトップ画面にある「detach」「attach」のショートカットアイコンはメンテナンス等のサービス用です。通常は絶対に使用しないでください。

お知らせ

- ・広域モードでのTG-2000の起動は、サイト切替えツールから行ないます。操作方法については、広域編の取扱説明書の4章を参照してください。
- ・セキュリティソフトウェアによってはファイアウォールを有効にすると、警告メッセージを表示するケースがありますので、その場合はTG-2000ソフトウェアを「常に許可する」に設定してください。

7. 3 終了の方法

TG-2000を終了する

TG-2000を終了するために必要な操作を説明します。

[操作方法]

- 1) メニューバーの [ファイル] - [終了] を選択します
電源を切る前に必ず本プログラムを終了する必要があります。
プログラムの終了は初期画面または管理画面から行ないます。
メニューバーの [ファイル] - [終了] をクリックします。
管理画面からの終了の場合、パスワード入力画面が表示されます。
TG-2000の終了パスワードを入力してください。
(パスワードは、管理者に確認ください。)

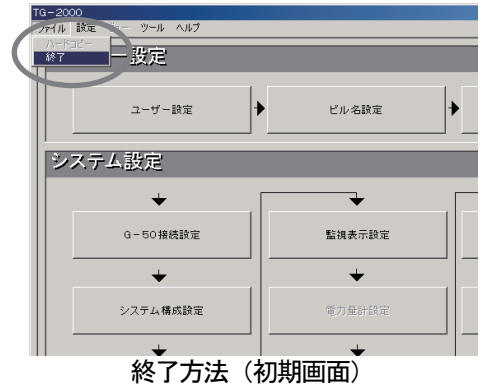
- 2) [終了] ボタンを選択します

終了確認画面が表示されますので、表示内容を確認します。
ご確認の上、[終了] ボタンをクリックすると、本プログラムを終了します。

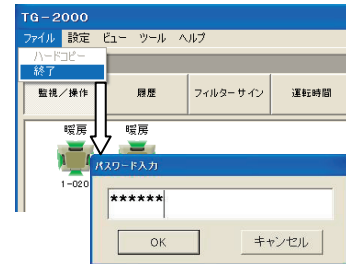
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。

お願い

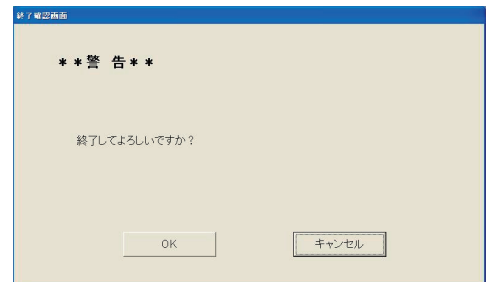
- ・パソコンの電源を切る前には必ずTG-2000の終了操作を行ない、その後にシャットダウン作業を行なってください。
終了操作をせずに電源を切ると故障の原因になります。
終了すると、使用している機能が停止しますので、注意してください。
- 特に、電力按分課金機能（「常時接続課金する」場合のみ）、トレンド機能、または、ピークカット機能を使用している場合は、必ず**24時間常時運転**にしてください。
- ・終了確認画面に
『G-150AD/G-50に送信していないデータが存在します。「キャンセル」ボタンを選択した後、「設定終了」ボタンを選択してデータを送信してから、終了してください。』のメッセージが表示されましたら、必ず、「キャンセル」をクリックし、初期画面より「設定終了」ボタンをクリックし、設定変更内容をG-150AD/G-50へ送信してから、終了してください。



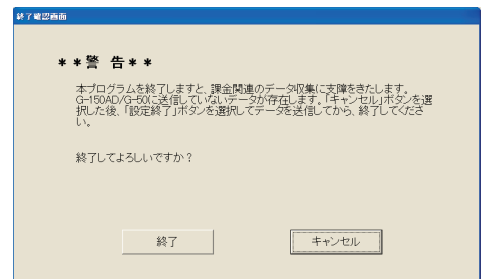
終了方法（初期画面）



終了方法（管理画面）、パスワード入力



終了確認画面



終了確認画面（警告あり）

OSのシャットダウンをする

本TG-2000が終了したことを確認してから、Windows (OS) のシャットダウンを実施してください。
OSがシャットダウンしたことを確認後にパソコンの電源を切ってください。

※OSのシャットダウンやパソコンの電源ON/OFFの方法は、OSまたはパソコンの説明書を参照ください。

8. システム設定の方法

8. 1 システム設定画面

システム設定を行なう初期画面の設定項目を示します。



機能グループ	機能	動作内容
ユーザー設定グループ	ユーザー設定	機能の有無を設定します。
	ビル名設定	ビル名称を設定します。
	パスワード変更 (※1)	パスワードを変更できます。
システム設定グループ	G-150AD/G-50接続設定	接続されているG-150AD/G-50および拡張コントローラ (EC) の接続構成やIPアドレスを設定します。
	システム構成設定	システム構成やグループ設定、運動機等を設定します。
	汎用DC、環境MC、計量MCの設定	汎用DC、環境MC、計量MCの各種項目を設定します。
	汎用制御PLC設定	PLCの台数、汎用機器の機能や名称、等を設定します。デマンド入力PLCソフト用PLCの設定も本画面で設定します。
	室内機フリー接点機能設定	室内機フリー接点機能で接続する汎用機器の設定をします。
	監視表示設定	形名設定や平面図作成、グループアイコンの配置等を行ないます。
	計量計設定	PLCの台数や計量計の種類、名称、重み、等を設定します。
	課金システム設定	課金支援のシステムを設定します。
	料金設定 (※1)	基本料金、季節期間、週間料金、年間料金、等を設定します。
	省エネ設定	省エネ/ピークカット運転時の制御動作等を設定します。
	ナイトモード設定	ナイトモードの対象と時間を設定します。
	オートチェンジオーバー設定	オートチェンジオーバー (冷暖自動切換) の対象と切換モードを設定します。
	その他設定	外気温度運動制御とセットバック制御を設定します。(G-150AD接続のみ)
時刻設定 (※1)	現在時刻と日付を設定します。各G-150AD/G-50とPLCの時刻をモニタできます。	
メンテナンスグループ	課金データの保守 (※1)	課金支援の按分データを修正できます。また、電力量計の現在値のモニタや変更 (書換え) ができます。
	運転量・電力量データモニタ (※1)	G-150AD/G-50の運転量、PLCの計量/電力量 (またはG-150AD/G-50で保持している計量MCの計量/電力量) データをモニタし、上書きできます。
	救済按分 (※1)	統合ソフトのパソコン故障時に救済按分を実施できます。
	課金比較データの保守 (※1)	G-150AD/G-50、または、PLC故障時に比較用課金パラメータをクリアできます。
	課金試運転 (※1)	課金支援が正常に設定できているか試運転できます。

お知らせ

- ・メンテナンスグループの機能説明は、9章に記載します。
- ・表示される設定項目はユーザー設定の内容により異なります。
- ・機能名称に (※1) がついた機能は、メンテナンスユーザー用パスワードでも利用可能です。メンテナンスユーザー用パスワードで初期画面を表示した場合、初期画面終了時、「しばらくお待ちください」 (情報収集を実施) の画面表示は行なわれません。
- ・「時刻設定」のみを行なう場合は、メンテナンスユーザー用パスワードで実施してください。一ヶ月に一度は時刻の確認と修正を実施することをお勧めします。

各設定画面での選択ボタンの動作内容を示します。

ボタン	動作内容
[OK]	本表示画面にて設定した内容を有効にし、次の設定画面に進みます。 (準備画面の場合、次の設定画面に進みます。)
[次へ]	次の設定画面に進みます。
[戻る]	本表示画面にて設定した内容を無効にし、一つ前の設定画面に戻ります。
[キャンセル]	本表示画面にて設定した内容を無効にし、初期画面に移行します。

8. 2 システム設定の手順

初期画面でのシステム設定の順番を示します。

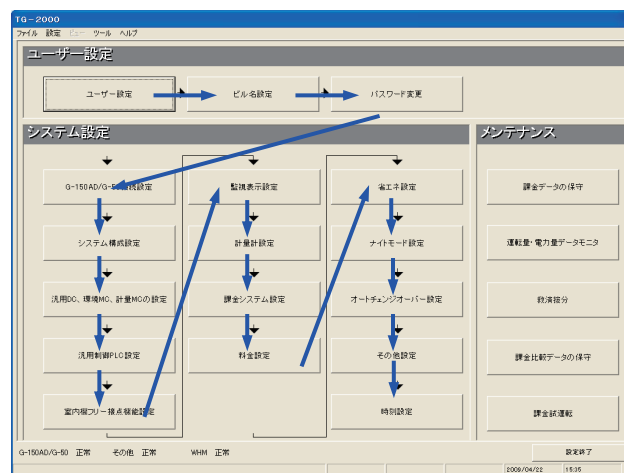
◆システム設定なしの場合

ユーザー設定・グループ

- ステップ1 : 「ユーザー設定」
- ステップ2 : 「ビル名設定」
- ステップ3 : 「パスワード変更」

システム設定・グループ

- ステップ4 : 「G-150AD/G-50
接続設定」
- ステップ5 : 「システム構成設定」
- ステップ6 : 「汎用DC、環境MC、
計量MCの設定」 ※5
- ステップ7 : 「汎用制御PLC設定」 ※1 ※2 ※4
- ステップ8 : 「室内機フリー接点機能設定」 ※2
- ステップ9 : 「監視表示設定」
- ステップ10 : 「計量計設定」 ※3
- ステップ11 : 「課金システム設定」 ※3
- ステップ12 : 「料金設定」 ※3
- ステップ13 : 「省エネ設定」 ※4
- ステップ14 : 「ナイトモード設定」
- ステップ15 : 「オートチェンジオーバー設定」
- ステップ16 : 「その他設定」
- ステップ17 : 「時刻設定」



※1 : 汎用機器 (PLC) を使用する場合に設定必要な項目です。

※2 : 汎用機器 (室内機フリー接点機能) を使用する場合に設定必要な項目です。

※3 : 電力按分課金支援を使用する場合に設定必要な項目です。また、「電力量計設定」は電力按分課金 (電力量手入力) のみ不要です。

※4 : 省エネ、ピークカット機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

※5 : 汎用DC、環境MC、計量MCを使用する場合に設定必要な項目です。

※G-150AD/G-50やPLCが実際に接続されていなくても、システム構成などの情報があれば、事前に設定することはできます。

注意

- ・設定項目の順番を変更すると、設定できない項目や再設定する項目が生じます。
- ・「パスワード設定」と「ビル名設定」は必要に応じて設定してください。
- ・「時刻設定」は、最後にG-150AD/G-50やシーケンサ (PLC) の時刻を確認して、必要に応じて時刻設定を行なってください。時刻が合っていないと、機能により正常に動作しません。
- ・運用の設定内容が不明である場合も、表示されているシステム設定の全項目を設定してください。

◆システム設定ありの場合

変更する項目を設定・変更してください。

注意

- ・設定項目を変更・設定した場合、その他の設定項目に影響するケースがあります。設定変更した場合は、全ての項目を確認してください。
- ・特に「ユーザー設定」の内容を変更すると、それ以外の設定項目や機能に影響しますので、以降の設定項目を確認してください。

注意 (続き)

・左側の項目を変更・設定すると右側の設定項目に影響があります。

	変更・設定の項目	確認必要な項目 (影響あり)
1	「システム構成設定」	「監視表示設定」、「課金システム設定」
2	「汎用制御PLC設定」	「監視表示設定」
3	「監視表示設定」	「課金システム設定」
4	「電力量計設定」	「課金システム設定」「省エネ設定」
5	「ユーザー設定の蓄熱機種接続」	「料金設定」

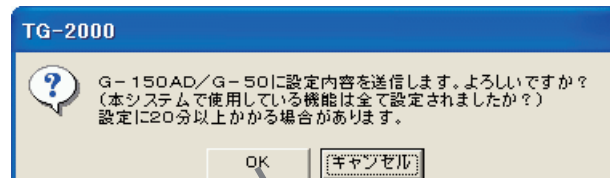
◆初期設定の完了時の作業

初期画面での全設定を完了し、[設定終了] ボタンを選択すると、「G-150AD/G-50に変更内容を送信します。」の確認メッセージを表示します。

[OK] ボタンを選択して変更情報を送信してください。

お知らせ

・システム情報の相違等が表示され全設定送信が必要な場合は「6. 3 (1) 初期画面から管理画面への移行」の『全設定送信する場合』を実施してください。



[OK] ボタン

グループ情報などの変更情報を G-150AD/G-50 に設定送信します。

8. 3 ユーザー設定

本TG-2000の操作一般、プリンター、課金関連の諸項目を設定します。

TG-2000の機能有無を設定します。

[操作方法]

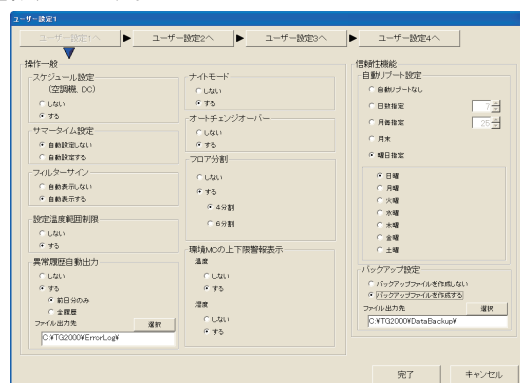
1) 「ユーザー設定」ボタンを選択します

初期画面からユーザー設定グループの [ユーザー設定] ボタンをクリックすると、ユーザー設定 1 画面が表示されます。

2) 全項目設定後に、「完了」ボタンを選択します

ユーザー設定 1 からユーザー設定 4 の全項目を設定完了後、「完了」ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、ユーザー設定 1 から 4 の設定した全ての内容が無効になります。



ユーザー設定 1 画面

お知らせ

・「ファイル出力先」に、下記フォルダの指定はできません。

x:\¥Windows, x:\¥WinNT, x:\¥Documents and Settings, x:\¥Program Files, x:\¥ProgramData, x:\¥Users 及び, C:\¥ (x はドライブ名を示す), 「¥」から始まるフォルダ

注意

・出力先にネットワークドライブを指定するときは、TG-2000 のパソコンとネットワークドライブの接続が途切れないように設置してください。接続が途切れた場合は、自動出力が正しく行なえません。

ユーザー設定画面の切換方法

[操作方法]

1) 「ユーザー設定 *」ボタンを選択します

「ユーザー設定 1 から 4 へ」のボタンをクリックします。

お知らせ

・「ユーザー設定 * へ」ボタンをクリックすると、各ユーザー設定画面に切り替わります。
・ユーザー設定画面を切り換えても設定状態は記憶されます。必要な全ての項目を設定後、「完了」をクリックしてください。



ユーザー設定 2 画面

8. 3. 1 操作一般

ユーザー設定1にて、スケジュール設定、サマータイム設定、フィルタサイン自動表示と設定温度制限機能の機能有無を設定します。

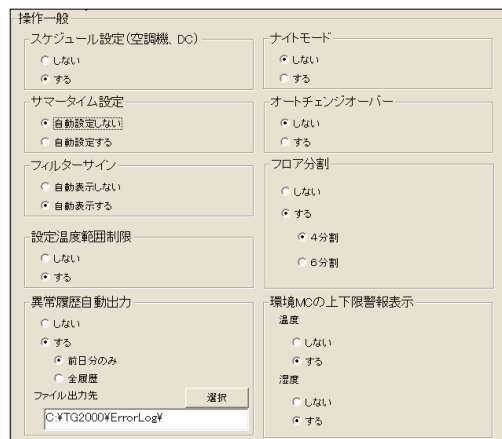
操作一般の機能有無を設定します。

[操作方法]

1) オプションボタンを選択します

一般操作の「スケジュール設定」、「サマータイム設定」、「フィルターサイン」、「設定温度範囲制限設定」と「ナイトモード設定」、「フロア分割」の設定をします。設定したい内容のオプションボタンをクリックします。

項目	設定値	内容
スケジュール設定 ※1	しない	使用不可 (初期値)
	する	使用可能
サマータイム設定	自動設定しない	使用不可 (初期値)
	自動設定する	自動変更 (自動変更時刻 4 : 17 ごろ)
フィルターサイン	自動表示しない	手動表示
	自動表示する	自動表示 (初期値)
設定温度範囲制限	しない	使用不可 (初期値)
	する	使用可能
異常履歴自動出力 ※2	しない	使用不可 (初期値)
	する	前日分のみ
		全履歴
ナイトモード設定	しない	使用不可 (初期値)
	する	使用可能
オートチェンジ オーバー設定 ※3	しない	使用不可 (初期値)
	する	使用可能
フロア分割設定	しない	使用不可 (初期値)
	する (4分割)	使用可能
	する (6分割)	使用可能
環境MCの上下限 警報表示設定 (温度/湿度) ※4	しない	表示しない
	する	表示する (初期値)



操作一般設定画面

※1 : 年間/週間スケジュールを意味する。

※2 : ファイル出力のデフォルトは「C: ¥TG2000 ¥ErrorLog ¥」で変更できます。

※3 : オートチェンジオーバーとは、Y機種 (冷暖切換タイプ) の空調機の運転モードを自動的に冷房/暖房の切り換えを行なう機能です。

※4 : 環境MCに接続されている温度計・湿度計が上下限警報値の場合、警報表示をする/しないを選択します。警報を「表示する」に選択した場合、環境MCの温度計・湿度計が上下限警報検知時、環境MCのグループアイコンを警報アイコン表示 (オレンジ色表示) にします。なお、上下限警報は「異常発生中の機器」 (異常のポップアップ表示) の表示対象ではありません。

お知らせ

- ・フィルターサインを「自動表示しない」にすると、自動的にフィルター状況を反映しません。「フィルターサイン表示」ボタンをクリックすると、フィルター状況を反映します。
- ・G-50に対してスケジュール設定を行なう場合には、別途G-50に『年間/週間スケジュール』のライセンス番号の登録が必要です。
※G-150ADの場合、『年間/週間スケジュール』のライセンスは初期登録されています。
『年間/週間スケジュール』のライセンス登録をしていない場合は、G-150AD/G-50本体が持つ週間スケジュール機能のみ利用可能であり、統合ソフトTG-2000からのスケジュール設定は無効で動作しません。
- ・設定温度範囲制限はMEリモコンと個人用ブラウザのみ反映することができます。
(MAリモコンシステムでは、室内ユニットの機種により、本機能がMAリモコンでも利用できない場合があります。2. 3 制約・注意事項の2. TG-2000の注意事項の(10)設定温度範囲制限についてを参照してください。)

注意

- ・TG-2000用として作成したフロア図を、G-150AD用のフロア図として使用することはできません。また、G-150AD用として作成したフロア図を、TG-2000用のフロア図として使用することも同様にできません。

8. 3. 2 信頼性機能

自動リポート機能やデータベースのバックアップ機能の有効/無効を設定します。

自動リポートとデータベースバックアップ機能を設定します。

[操作方法]

自動リポートの設定

1) オプションボタンを選択します

自動リポート機能の有無をオプションボタンで選択します。

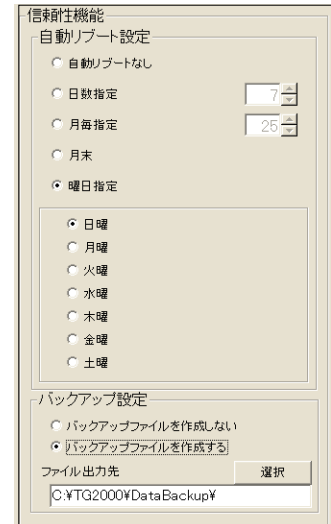
項目	設定値	内容
自動リポート設定	自動リポートなし	自動リポートしない
	日数指定	起動から指定日数経過後に自動リポート ※1, 3
	月毎指定	月に1度、指定した日に自動リポート ※2, 3, 4
	月末	月末に自動リポート ※3, 4
	曜日指定	指定曜日に自動リポート ※3

※1 設定範囲は7～31日です。

※2 設定範囲は1～28日です。

※3 自動リポートは06:35に行なわれます。

※4 Ver. 6.39以降の場合のみ、選択可能です。



信頼性機能設定画面

注意

- ・ **パソコンの自動ログイン設定を必ず行なってください。**
自動ログインの設定を行なわないとTG-2000が自動で再起動したとき、パソコンの立ち上げ(リポート)後に自動でTG-2000が起動しません。
(「5. 1. 2 TG-2000のセットアップ準備」を参照のこと)
- ・ 定期的な再起動を行なわなかった場合、TG-2000の動作(課金、トレンドなど)に悪影響が出る恐れがあります。

お願い

- ・ **定期的に(週一回程度)TG-2000の終了と、Windowsの再起動(リポート)を手動で行なってください。**
WindowsのOSは長時間の連続動作において、潜在的に不具合を生じる可能性があります。
(08:00～21:45の間で実施してください。)
- ・ **手動による再起動(リポート)と、自動リポートを併用してください。**
本自動リポート機能において、途中で不具合を生じた場合、手動で復旧しなければなりません。
不具合のまま放置される可能性がありますので、定期的に手動による再起動を併用して行なってください。

データベースバックアップの設定

2) オプションボタンを選択します

データベースのバックアップ機能の有無をオプションボタンで選択します。

項目	設定値	内容
バックアップ設定	バックアップファイルを作成しない	データベースをバックアップしない(初期値)
	バックアップファイルを作成する	データベースをバックアップします ※1

※1 バックアップファイル出力のデフォルトは、「C:\TG2000\DataBackup」で、変更できます。

お知らせ

- ・ バックアップ対象はシステム設定情報、履歴、および、課金関連情報のデータベースになります。
「バックアップファイルを作成する」の設定を推奨致します。
- ・ バックアップを保存するフォルダはC:ドライブと異なるHDDのドライブに設定することを推奨します。

8. 3. 3 接続機器

ユーザー2設定画面にて、接続機器の接続有無を設定します。

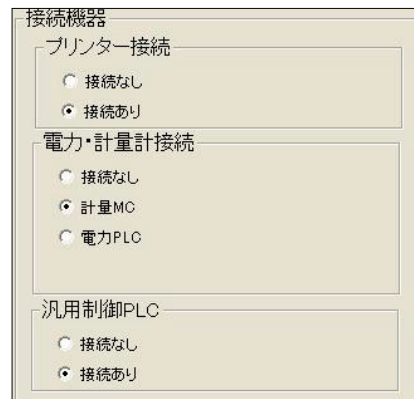
接続機器の接続有無を設定します。

[操作方法]

1) オプションボタンをクリックします

プリンターの接続有無、電力・計量計接続、汎用制御PLCの設定をオプションボタンで選択します。

項目	設定値	内容
プリンター接続	接続なし	印刷不可 (初期値)
	接続あり	印刷可能
電力・計量計接続	接続なし	電力・計量計の接続不可 (初期値)
	計量MC (MCP)	計量MCの接続可能
	電力PLC	PLC接続電力量・計量計の接続可能
汎用機器PLC (デマンド入力PLC含む)	接続なし	汎用機器の接続不可 (初期値)
	接続あり	汎用機器の接続可能



接続機器設定画面

プリンター設定により、印刷機能の無効/有効を反映します。

電力・計量計接続設定により、課金設定や省エネ設定の無効/有効を反映します。

お知らせ

- ・プリンター接続を有効にしないと、印刷できません。
- ・事前にプリンタードライバをインストールして、印刷できることを確認ください。

8. 3. 4 省エネ/ピークカット と室内機フリー接点/連動制御

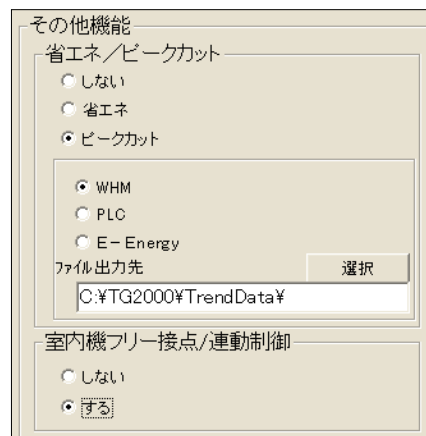
省エネ設定/ピークカット機能と室内機フリー接点機能を設定します。

機能有無を設定します。

[操作方法]

1) オプションボタンをクリックします

省エネ設定/ピークカット機能機能の設定をオプションボタンで選択します。



機能設定画面

項目	設定値	内容
省エネ/ピークカット機能 ※1	しない	省エネ/ピークカット機能を使用しない。(初期値)
	省エネ	省エネ機能を使用する。
	ピークカット (WHM)	WHMを用いたピークカット機能を使用する。(省エネ機能を含む)
	ピークカット (PLC)	PLCに接続されたデマンド制御機器を用いたピークカット機能を使用する。(省エネ機能を含む)
	ピークカット (E-Energy)	E-Energyを用いたピークカット機能を使用する。(省エネ機能を含む)
室内機フリー接点/連動制御機能 ※2	しない	室内機フリー接点に汎用機器を接続しない、および、汎用制御PLCで連動制御をしない。(初期値)
	する	室内機フリー接点に汎用機器を接続し、監視/操作する。または、汎用制御PLCで連動制御をする。

※1：ピークカット機能には以下の3種類があります。

WHM：

電力カウンタPLCまたは計量MCより電力量を読み取り、G-150AD/G-50がレベル判断します。

E-Energy：

三菱省エネデマンド監視サーバ（E-Energyシリーズ）からG-150AD/G-50がTCP/IP通信にて直接レベル値を受け取ります。

デマンド入力PLC：

PLCに上記（三菱省エネデマンド監視サーバ）以外のデマンド制御機器を接続しレベルに応じた接点信号を受けたPLCがG-150AD/G-50に通報します。

※2：汎用制御PLCで、連動制御（例：カードキーがONのとき空調機を停止）を行なう場合は「する」に設定してください。また、G-150AD/G-50に『汎用制御PLC』ライセンスが必要です。

お知らせ

- ・PLC電力量計または計量MCを接続していない場合、「WHM」を選択できません。デマンド入力PLCを接続していない場合、「PLC」を選択できません。
- ・省エネ機能を使用するには、別途、G-150AD/G-50に『省エネ制御』のライセンス登録が必要です。
- ・ピークカット機能を使用するには、別途、G-150AD/G-50に『省エネ制御（ピークカット）』のライセンス登録が必要です。
- ・G-150AD/G-50と接続できるE-Energyは下記になります。

三菱電機製三菱省エネデマンド監視サーバ

型名：MES-27DE5-Aシリーズ（Ver.1.1.0以降）※2003年11月生産分以降は接続可能です。

E-Energyに関するお問い合わせ先

三菱電機株式会社 福山製作所 TEL 084-921-3211

E-Energyに関する技術的なお問い合わせは、FAXサービスをご利用ください。

三菱電機株式会社 計測制御機器技術FAXサービス担当宛

FAX 084-926-8340

8. 3. 5 課金関連

課金支援、空調料金自動印刷、および、出力フォーマットの項目を設定します。

課金関連

課金設定

しない

する

常時接続課金

しない

する

電力・計量計接続

接続なし

接続あり

蓄熱機種接続

しない

する

加熱加湿付ロスナイ課金

しない

する

A/K制御課金

しない

する

A制御機種

室外機・室内機 同一電源

室外機・室内機 別電源

端数計算処理

空調料金算出前

空調料金算出後

空調料金表示順序

ブロック番号順

アルファベット順

空調料金自動出力

しない

印刷

ファイル出力

印刷&ファイル出力

ファイル出力先

選択

C:\TG2000¥Chargefile¥

出力フォーマット

標準印刷

ユニット別

料金単価別

料金単価別詳細

課金パラメータ自動出力

しない

する

ファイル出力先

選択

C:\TG2000¥ChargeParameter¥

月毎に出力

日毎に出力

課金関連の設定画面

課金関連の機能有無を設定します。

[操作方法]

1) オプションボタンをクリックします

課金関連の「課金設定」「空調料金自動出力」および「出力フォーマット」の機能設定をオプションボタンで選択します。

項目	設定値	内容
課金設定	しない	課金支援を使用しない(初期値)
	する	課金支援を使用する
常時接続課金	しない	常時接続課金を使用しない
	する	常時接続課金を使用する(初期値)
電力・計量計接続	接続なし	電力量計接続なしの課金(初期値) …電力量手入力
	接続あり	電力量計接続ありの課金 …電力量パルスカウント
蓄熱機種接続 ※1	しない	非蓄熱機種のみ電力按分課金(初期値)
	する	蓄熱機種ありの電力按分課金
空調料金表示順序	ブロック番号順	登録したブロック番号の順番で表示する(初期値)
	アルファベット順	アルファベットの順番で表示する
空調料金自動出力	しない	空調料金結果を自動出力しない(初期値)
	印刷	自動印刷する
	ファイル出力	自動ファイル出力する ※2
	印刷&ファイル出力	自動印刷および自動ファイル出力する ※2
出力フォーマット	標準	標準項目の出力(初期値)
	ユニット別	ユニット別の内訳空調料金も出力
	料金単価別	料金単価別の内訳空調料金も出力
	料金単価別詳細	料金単価別の詳細内訳空調料金も出力
加熱加湿付 ロスナイ課金	しない	加熱加湿付ロスナイ(FU)を按分しない
	する	加熱加湿付ロスナイ(FU)を按分して課金する(初期値)
A/K 制御課金 ※3	しない	A制御、K制御機種を按分しない(初期値)
	する	A制御、K制御機種を按分して課金する
A 制御機種 ※4	室外機・室内機 同一電源	A制御の室外機と室内機が同一電力量計の電源から電源供給を受けている構成(初期値)
	室外機・室内機 別電源	A制御の室外機と室内機が異なる電力量計の電源から電源供給を受けている構成
課金パラメータ 自動出力 ※5	しない	課金パラメータの自動出力しない(初期値)
	する	課金パラメータの自動出力する(月毎または日毎)
端数計算処理 ※6	空調料金算出前	端数処理後の按分電力量に対して料金を計算(初期値)
	空調料金算出後	端数処理前の按分電力量に対して料金を計算後、端数処理

※1: 電力・計量計接続が「接続あり」設定時のみ選択できます。

※2: ファイル出力のデフォルトは「C:\¥TG-2000¥Chargefile¥」で、変更できます。

※3: A制御スリムのジェットバーナー機種は按分対象外です。

※4: 「電力・計量計接続」が「接続あり」の設定で、「A/K 制御課金」が「する」の設定時のみ選択できます。

「室外機・室内機 同一電源」では、A制御の室外機と室内機とが同一電源であるため、A制御室外機の電力量の按分は、室内機のFAN運転量を考慮して算出します。室内機の消費電力量を必ず設定してください。

「室外機・室内機 別電源」では、A制御の室外機と室内機とが別電源であるため、A制御室外機の電力量の按分は、A制御室内機のFAN運転量を考慮しません。

TG-2000 Ver. 5.11 までのA制御室外機の電力量の按分は、室内機のFAN運転量を考慮しないと同一方法で行なわれていますので、前のバージョンと同じ方法で按分を行なう場合は、「室外機・室内機 別電源」を選択してください。

※5: ユーザー設定2にて指定したフォルダに¥yyyy(年)¥mm(月)¥フォルダを自動作成し、ここにファイルが保存されます。

※6: TG-2000 Ver. 5.11 まででは、「端数計算処理」は「空調料金算出後」モードで料金計算が行なわれていますので、前のバージョンと同じ端数処理を行なう場合は、「空調料金算出後」を選択してください。

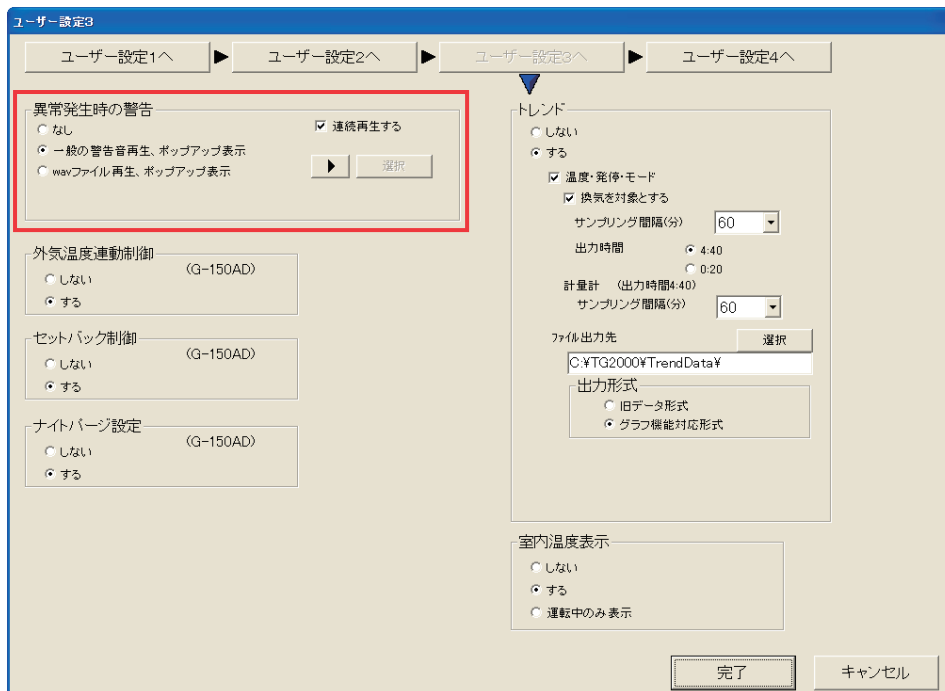
お知らせ

- ・プリンター接続なしの場合、「空調料金自動出力」の印刷は設定できません。
- ・本TG-2000に「電力按分課金支援機能」がない場合、本画面は表示されません。
- ・電力按分課金機能は電力量計なし／計量MC電力量計／電力PLC電力量計のどれか一つの課金方法しか設定できません。
(電力量手入力、電力量パルスカウンターのいずれかになります。)
- ・ファイル名は、「(年) - (月) *.csv」(* : B=課金ブロック、W=WHM単位) となります。
(年月の数字は精算日の年と月になります。 例 : 月末精算日の2005年09月分…2005-09B.csv)
- ・電力按分課金支援機能を使用するには、別途G-150AD/G-50に『電力按分課金支援機能』のライセンス番号の登録が必要です。
全てのG-150AD/G-50にライセンス登録をしていない場合は、電力按分課金支援の機能が正常に動作しません。また、TG-2000が管理するG-150AD/G-50全てに『電力按分課金支援機能』のライセンスが必要です。
- ・出力フォーマットに関して、期日指定計算でもユニット別などの内訳に対応しています。Ver. 4.1*以前のバージョンと出力フォーマットが異なっていますので、ご注意ください。

8. 3. 6 警告の設定

ユーザー設定3画面にて、異常発生時の警告を設定します。

(TG-2000 Ver. 5.11 までのバージョンでは、本設定は、ユーザー設定4です。)



ユーザー設定3 画面

[操作方法]

1) オプションボタン、入力によって設定します。

警告音再生の有無、再生方法を設定します。

項目	設定値	内容
①異常発生時の警告	再生しない (初期値)	異常発生時に警告音を再生しません。また、ポップアップ表示をしません。
	一般の警告音再生、ポップアップ表示	異常発生時にWindowsのコントロールパネルで設定された一般の警告音を1回再生します。また、ポップアップ表示をします。
	wavファイル再生、ポップアップ表示	異常発生時に本設定画面で設定したwavファイルを1回再生します。また、ポップアップ表示をします。
②連続再生	入力	一般の警告音、wavファイルを選択した場合のみ、選択可能となります。連続再生を有効にすると、異常発生時に警告音が連続再生します。
③再生ボタン	—	設定された音を確認できます。

お知らせ

- 警告音再生、ポップアップ表示はTG-2000の管理画面でのみ有効となります。
- 警告音再生、ポップアップ表示解除後に、別のシステムで正常状態から異常状態になった場合、再度警告音が再生され、ポップアップ表示されます。
ポップアップの単位：異常発生ごと
警告音の単位：異常コードごと。ただし、警告音無効設定の異常コードは除く。
- スピーカーを搭載していないパソコンでは警告音は再生されません。
- 音量はWindowsの設定に依存します。
- パソコンにより、音量、音質が異なります。警告音を目立たせたい場合は適切な音を設定してください。
- 一般警告音の音色はWindowsのコントロールパネル設定の影響を受けません。wavファイル再生の音色は影響を受けません。

8. 3. 7 その他オプションの設定

下記の設定機能に対して、使用する／しないを設定します。
 なお、下記の機能は、G-150ADのみが有効です。

[操作方法]

- 1) オプションボタンをクリックします。
 各機能に対して、設定機能を使用する／しないを
 オプションボタンで選択します。

その他オプションの設定画面

項目	設定値	内容
外気温度連動制御 (G-150AD)	しない(初期値)	外気温度連動制御を設定しない。
	する	外気温度連動制御を設定する。
セットバック制御 (G-150AD)	しない(初期値)	セットバック制御を設定しない。
	する	セットバック制御を設定する。
ナイトパージ設定 (G-150AD)	しない(初期値)	ナイトパージを設定しない。
	する	ナイトパージを設定する。

8. 3. 8 トレンドの設定

トレンド機能を設定します。

機能有無を設定します。

[操作方法]

- 1) オプションボタンをクリックします
トレンド機能の設定をオプションボタンで選択します。

トレンドの設定画面

項目	設定値	内容	
トレンド機能	しない	トレンド機能を使用しない (初期値)	
	する	温度・発停・モードのトレンド機能	
		無効 (初期値) / 有効	
		換気を対象とする (無効 / 有効 (初期値)) ※1	
		サンプリング間隔設定 (2, 5, 10, 15, 30, 60 (初期値) より選択)	
		出力時間の設定 (4:40 (初期値) / 0:20 より選択) ※2	
		計量計のトレンド機能 ※計量計接続時には有効になります。	
		サンプリング間隔設定 (5, 10, 15, 30, 60 (初期値) より選択)	
		ファイル出力先	
		出力先を指定します ※3	
出力形式			
旧データ形式 : TG-2000本体のグラフ機能を使用せず、Ver. 5.0*以前の出力形式となります。			
グラフ機能対応形式 : TG-2000本体のグラフ機能を使用できる出力形式となります。			

- ※1 : 換気を対象とした場合、温度・発停・モードは室内機グループ (A制御およびK制御を含む) とロスナイグループをトレンド対象とします。換気を対象としない場合、室内機グループ (A制御およびK制御を含む) のみをトレンド対象とします。
TG-2000 Ver. 6.39以降かつ「グラフ機能対応形式」を選択している場合のみ選択可能です。これ以前のバージョンでは換気は対象外です。
- ※2 : 出力時間変更の対象は温度・発停・モードです。計量計と環境MCのトレンド自動出力時刻は「4:40」です。
- ※3 : ファイル出力のデフォルトは「C:\¥TG2000¥TrendData¥」で、変更できます。

お知らせ

- ・温度・発停・モードのトレンドを使用する場合、対象室内グループを操作ブロック設定する必要があります。
- ・温度・発停・モードのトレンドの自動出力は、操作ブロック単位にCSVファイルが出力されます。なお、1つの操作ブロックに31グループ以上が存在する場合は、複数のCSVファイルで出力されます。
- ・温度・発停・モードのトレンドを使用する必要がない場合、動作負荷低減のため「無効」に設定することを推奨します。
- ・電力量値と電力按分値のトレンドは、接続または機能の有無で自動判断します。
- ・トレンド出力を使用する場合、自動でCSVファイルが出力されていることを確認してください。
- ・トレンドの自動出力CSVは、ファイル出力先のフォルダに2年間保有されます。2年経過後は、月フォルダ単位で自動的に削除されますので、定期的に外部記録メディアなどへコピー (バックアップ) を行なってください。
- ・トレンドの項目により、データベース内の保有期間と間隔は異なります。
- ・環境MC (温度・湿度) のトレンドデータのサンプリング間隔は、「汎用DC、環境MC、計量MCの設定」の「環境MC設定」で行なってください。(「8. 8. 3 環境MC設定」を参照。)

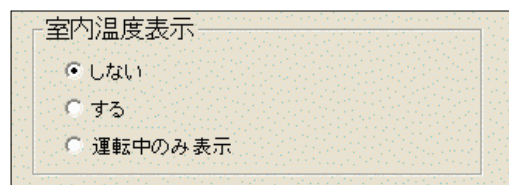
8. 3. 9 室内温度表示の設定

フロア画面の空調機グループに室内温度（吸込温度）の表示を設定します。

※室内温度表示は、TG-2000 Ver. 6.01以降で対応しています。

[操作方法]

- 1) オプションボタンをクリックします。
設定機能を使用する／しないをオプションボタンで選択します。



室内温度表示の設定画面

項目	設定値	内容
室内温度表示	しない (初期値)	フロア画面の空調機のグループに室内温度（吸込温度）を表示しない。
	する	フロア画面の空調機のグループに室内温度（吸込温度）を表示する。 ※空調機グループ（IC, AIC, KIC）のグループアイコンの右側上部に表示する。
	運転中のみ表示 ※1	フロア画面の空調機のグループが運転中の場合のみ、グループに室内温度（吸込温度）を表示する。空調機が停止中または異常中の場合は、表示しない。 ※空調機グループ（IC, AIC, KIC）のグループアイコンの右側上部に表示する。

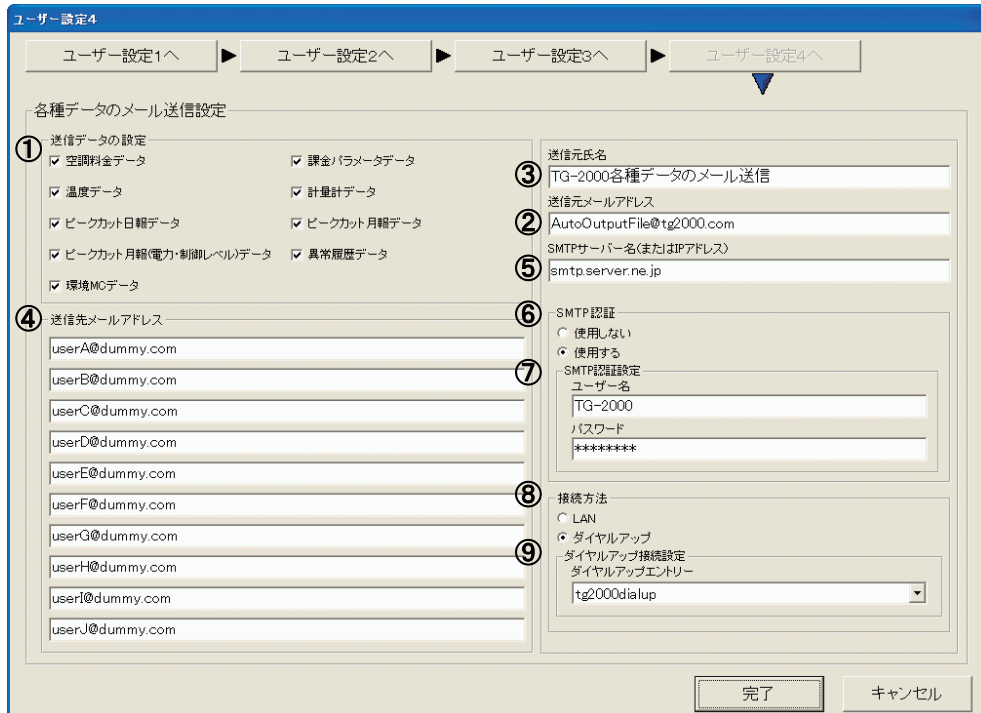
※1 TG-2000 Ver. 6.31以降で、「運転中のみ表示」の設定が可能です。

8. 3. 10 各種データのメール送信設定

ユーザー設定4画面にて、自動出力されるファイルのメール送信について設定します。

(TG-2000 Ver. 5.11 までのバージョンでは、本設定は、ユーザー設定3です。)

※トレンドデータをメール送信対象に設定する場合は、先に「ユーザー設定3」のトレンド機能を設定してください。



ユーザー設定4 画面

[操作方法]

1) オプションボタン、入力によって設定します。

送信したいファイル種別、送信元メールアドレス、送信元氏名、送信先メールアドレス、SMTPサーバー名、SMTP認証、SMTP認証設定を設定します。

項目	設定値	内容
①送信したいファイル種別	選択なし	自動出力系ファイルをメール送信しない(初期値)。この場合、他の設定は不要です。
	選択あり	選択された自動出力系ファイルをメール送信します。
②送信元メールアドレス (必須)	入力	TG-2000のメールアドレスを設定します。本機能を使用するために別途取得してください。
③送信元氏名	入力	受信者のメールソフトで「差出人」に表示する内容を設定します。物件名等を設定すると受信者がメール送信元を識別しやすくなります(最大60文字)。
④送信先メールアドレス (必須)	入力	自動出力系ファイルの送信先メールアドレスを設定します。最大10アドレス設定できます。
⑤SMTPサーバー名 (必須)	入力	SMTPサーバー(メールサーバー)名、またはSMTPサーバーのIPアドレスを設定します。本設定は管理者様にお問い合わせください。
⑥SMTP認証	使用しない	メール送信時にSMTP認証を使用しない(初期値)
	使用する	メール送信時にSMTP認証を使用する。本設定の場合、⑦の設定が必要となります。SMTP認証の有無、設定については管理者様にお問い合わせください。
⑦SMTP認証設定	入力	ユーザー名とパスワードを設定します。
⑧接続方法	選択	LAN接続、または、ダイヤルアップを選択してください。
⑨ダイヤルアップ接続設定	選択	ダイヤルアップ時に使用する接続先を選択してください。

メール送信する場合、必須項目を必ず設定してください。メール設定について不明点は情報管理のご担当者様にお問い合わせください。

[メールの送信タイミング]

項目	出力条件 (ユーザー設定)	出力タイミング
空調料金データ	課金機能 : あり 空調料金自動出力 : あり	月毎 : 精算日翌日※1
課金パラメータデータ	課金機能 : あり 課金パラメータ自動出力 : あり	月毎 : 精算日翌日※1 日毎 : 毎日 (前日分) 月毎、日毎の選択による
温度データ	トレンド : する (温度・発停・モードオプション : あり)	毎日
計量計データ	トレンド : する WHM接続 : あり	毎日
ピークカット日報データ	省エネ/ピークカット : ピークカット	毎日
ピークカット月報データ	省エネ/ピークカット : ピークカット (WHMによるピークカットのみ)	月毎 : 毎月1日
ピークカット月報(電力・制御レベル)データ ※2	省エネ/ピークカット : ピークカット	月毎 : 毎月1日
異常履歴データ	異常履歴自動出力 : する	毎日
環境MCデータ	トレンド : する	毎日

※1 蓄熱課金の場合は精算日の翌々日となります。

また、蓄熱課金を使用の場合、1日の単位が8:00~翌日8:00となります。

※2 PLCまたはE-Energyによるピークカットの場合は、名称が「ピークカット月報(制御レベル)データ」になります。

お知らせ

- ・メールアドレスには「<」「>」「&」「/」「'」を使用できません。
- ・SMTPのポート番号は25番固定です。本機能をご使用の場合は、あらかじめポート番号25番でメール送受信が可能であることを確認してください。
- ・各メール受信者には他の受信者のメールアドレスが分かりますので、メールアドレスはメール受信者のご了解を得た上で設定してください。
- ・メールの送信タイミングは自動出力系ファイルの出力時間によります。
- ・メールはファイル種別毎にメール送信されます。
- ・添付ファイル数が100個または添付ファイル容量が1MBを超える場合は、同じファイル種別でもメールを複数回送信します。
- ・件名は <TG-2000><ビル名><ファイル種別><日付><メール数/総メール数>となります。
- ・TG-2000のアドレスにはメールを返信しないでください。

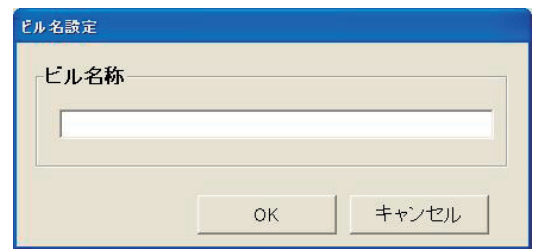
8. 4 ビル名の設定

本統合ソフトTG-2000を設置しているビル名称などを設定します。

ビル名を設定します。

[操作方法]

- 1) [ビル名設定] ボタンをクリックします
初期画面のユーザー設定グループにある [ビル名設定] ボタンをクリックします。
- 2) ビル名称を入力します
ビル名設定画面にビル名をキーボードから入力します。
- 3) 設定後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、設定が無効になります。



ビル名設定画面

お知らせ

- ・ビル名称は20文字まで入力できます（「'」（シングルコーテーション）は使用できません）。ビル名称は起動画面やバージョン確認画面表示に反映されます。

8. 5 パスワードの変更

システム管理者パスワード、メンテナンスユーザーパスワード、管理画面からのTG-2000終了用パスワードを変更することができます。

パスワードの変更をします。

[操作方法]

- 1) [パスワード変更] ボタンをクリックします
初期画面のユーザー設定グループにある [パスワード変更] ボタンをクリックします。パスワード変更設定画面が表示されます。
- 2) 変更したい対象を選択します
変更したい対象をクリックして選択します。
(パスワードの種類)
 - ・システム管理者 (初期設定用)
 - ・メンテナンスユーザー
 - ・管理画面からのTG-2000終了用※パスワードの初期値は6.3章に記載しています。
- 3) 新パスワードにパスワードを入力します
- 4) 確認用にパスワードを入力します
2) 項で新パスワードを設定した場合、確認用に同じパスワードを設定します。
- 5) 設定完了後に、[OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

パスワード変更設定

システム管理者

メンテナンスユーザー

管理画面からのTG-2000終了用

新パスワード *****

確認用 *****

パスワードは4~16文字で設定してください。

OK キャンセル

パスワード変更設定画面

お願い

- ・変更後のパスワードは必ず覚えておいてください。パスワードを忘れると、初期画面に遷移することができなくなります。
- ・パスワードを変更する場合は、他のパスワードと重複しないようにしてください。

お知らせ

- ・システム管理者 (初期設定用) パスワードで初期画面に入っている場合は、本パスワード変更画面で「システム管理者」「メンテナンスユーザー」「管理画面からのTG-2000終了用」のパスワードを変更することができます。ただし、3種類のパスワードは同じにしないでください。
- ・メンテナンスユーザーパスワードで初期画面に入っている場合は、本パスワード変更画面で「メンテナンスユーザー」のパスワードのみを変更することができます。
- ・「メンテナンスユーザー」のパスワードは初期画面の「時刻設定」と「メンテナンス」、メンテナンスユーザーの「パスワード変更」、および、管理画面の「料金設定」に使用します。

8. 6 G-150AD/G-50接続設定

本統合ソフトTG-2000と接続するG-150AD/G-50の接続設定をします。

本設定でG-150AD/G-50の保有するオプション機能の利用状況やG-150AD/G-50のバージョンをモニタして表示することができます。

お知らせ

- ・G-150AD/G-50対応版TG-2000とG-50対応版TG-2000とでは、G-150AD/G-50接続の設定方法が異なります。
使用するTG-2000のバージョンに応じて、接続設定を行なってください。

8. 6. 1 G-150AD/G-50接続設定 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)

G-150AD/G-50対応版TG-2000 (Ver. 6.01以降)を使用する場合の接続設定手順です。

G-50対応版TG-2000を使用の場合は、「8. 6. 2 G-50接続設定 (G-50対応版TG-2000)」を参照してください。

(1) 設定手順と制約

G-150AD/G-50接続設定の前に、注意事項と手順を確認します。

G-150AD/G-50接続設定前の確認をします。

[操作方法]

1) [G-150AD/G-50接続設定] ボタンを選択します

初期画面のシステム設定グループにある
[G-150AD/G-50接続設定] ボタンを
クリックします。

2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示の内容について、問題が無いかどうかを
確認します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、
初期画面に戻ります。



準備画面

G-150AD/G-50接続設定は、以下の手順で実施します。

- STEP 1 G-150AD/G-50 接続設定
- STEP 2 G-150AD/G-50 IPアドレス設定
- STEP 3 G-150AD/G-50 システム構成確認

お知らせ

- ・G-150AD/G-50のIPアドレスは、あらかじめ、G-150AD/G-50本体、あるいは初期設定Webで設定する必要があります。
- ・G-150ADに接続する拡張コントローラ (EC) のIPアドレスは、あらかじめ、拡張コントローラ (EC) 本体で設定する必要があります。
また、G-150ADでも拡張コントローラ (EC) のIPアドレスの設定が必要です。

(2) G-150AD/G-50接続設定 (STEP 1)

接続するG-150AD/G-50の接続構成を設定します。

G-150AD/G-50の接続構成を設定します。

[操作方法]

1) 接続するG-50 No. にモデルを選択します
接続の設定をするG-50 No. の「モデル」を選択します。

G-150AD/GB-50AD/G-50/(空白)
※「(空白)」は接続なしを意味します。

2) 拡張コントローラ (EC) の接続を設定します
拡張コントローラを接続したG-150ADの場合、拡張コントローラの接続を設定します。

EC No. : (接続あり)

EC No. : (接続なし)

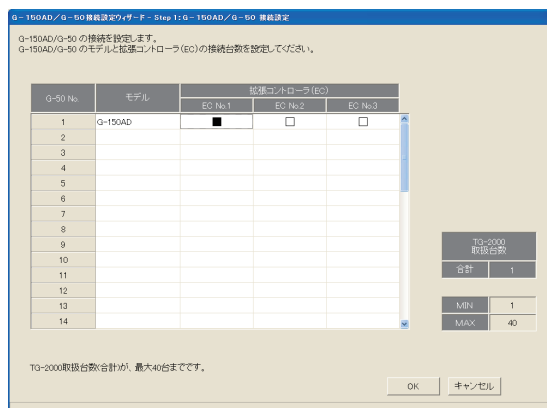
G-150ADに接続する拡張コントローラのEC No. に対して、接続あり/なしを設定します。

※GB-50AD/G-50に対しては、拡張コントローラ接続の設定はできません。

3) [OK] ボタンを押します

G-150AD/G-50および拡張コントローラの接続設定が完了しましたら、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



G-150AD/G-50接続設定画面

お知らせ

- ・TG-2000でのG-150AD/GB-50AD/G-50の取扱台数(接続台数)は、最大40台までです。
取扱台数40台を超えた設定はできません。
拡張コントローラを接続したG-150AD (Ver. 2.00以降)の場合は、拡張コントローラの台数が取扱台数分になります。
- ・GB-50ADの接続はTG-2000 Ver. 6.3*以降のバージョンで対応しています。
- ・TG-2000では、GB-50ADは、EC接続なしのG-150ADと同じ扱いとしていますが、GB-50ADを接続する場合、G-150AD/G-50接続設定でモデルをGB-50ADと正しく設定してください。
- ・モデルの設定を誤ったまま、システム設定を行ない、モデルの設定を修正した場合には、システム設定のしなおしが必要になります。「G-150AD/G-50 IPアドレス設定」または「G-150AD/G-50システム構成確認」で実際に接続しているモデルの確認を実施してください。

(3) G-150AD/G-50 IPアドレス設定 (STEP 2)

接続するG-150AD/G-50のIPアドレスを統合ソフトのデータに登録します。

また、オプション機能の利用状況、および、G-150AD/G-50のバージョンと製造番号をモニタできます。

G-150AD/G-50のIPアドレス設定します。

[操作方法]

1) G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します
IPアドレスの情報を登録するG-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。

2) IPアドレスを登録します

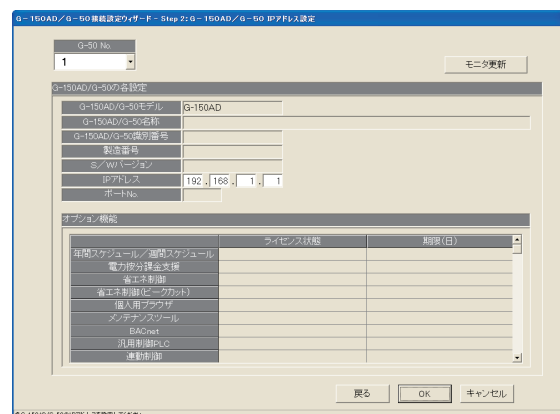
該当G-150AD/G-50のIPアドレスを入力します。

※接続台数分のIPアドレスを登録します。

3) [OK] ボタンを押します

全G-150AD/G-50のIPアドレスの設定が完了しましたら、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



G-150AD/G-50 IPアドレス設定画面

オプション機能の利用状況、および、G-150AD/G-50のバージョンと製造番号をモニタします。

[操作方法]

1) [モニタ更新] ボタンで選択します

G-150AD/G-50 IPアドレス画面の [モニタ更新] ボタンをクリックすると、モニタしてその結果を表示します。

G-50 No.
G-50 No. を選択します。

**G-150AD/
G-50の各設定と表示**

G-150AD/G-50の名称、設置場所、製造番号、バージョンを表示できます。TG-2000にIPアドレスを登録できます。

機能名	ライセンス状態	期限(日)
年間スケジュール/週間スケジュール	利用可能	無期限
電力按分課金支援	利用可能	無期限
省エネ制御	利用可能	無期限
省エネ制御(ピークカット)	利用可能	無期限
個人用ブラウザ	利用可能	無期限
メンテナンスツール	利用不可	0
BACnet	利用可能	無期限
汎用制御PLC	利用不可	0
連動制御	利用不可	0

モニタ更新ボタン

G-150AD/G-50のオプション機能やバージョン情報をモニタできます。

オプション設定表示

G-150AD/G-50のオプション機能の利用状態と期限を表示します。

お知らせ

・ G-150AD/G-50のオプション機能の利用状況をモニタし、統合ソフトTG-2000で使用する機能のライセンスが登録（存在）しているかを確認することができます。

『年間スケジュール/
週間スケジュール』

… スケジュール設定を使用するときが必要です。
(G-150AD/GB-50AD: 標準機能、
G-50: オプション)

『電力按分課金支援』

… 電力按分課金支援（課金機能）を使用するときが必要です。
また、運転時間の機能を使用するときにも必要です。
(オプション)

『省エネ制御』

… 省エネ機能を使用するときが必要です。(オプション)

『省エネ制御（ピークカット）』

… ピークカット機能を使用するときが必要です。(オプション)

『個人用ブラウザ』

… 個人ブラウザを使用するための機能です。(標準機能)

『メンテナンスツール』

… メンテナンスツールを使用するときが必要です。(オプション)

『BACnet』

… BACnetを接続するための機能です。(標準機能)

『汎用制御PLC』

… 汎用制御PLCに接続された機器と室内機フリー接点に接続された機器、または、空調機とを連動制御させるために必要です。

また、室内機フリー接点に接続された機器の監視/操作するために必要です。(オプション)

『連動制御』

… 連動制御機能を使用するときが必要です。
(G-150AD/GB-50ADのみ、オプション)

『ヒートポンプ給湯機』

… ヒートポンプ給湯機を接続するときが必要です。
(G-150ADのみ、オプション)

『E制御』

… ET制御などの省エネ制御機能を使用するときが必要です。
(G-150AD/GB-50ADのみ、オプション)

・ G-150AD/GB-50AD/G-50のオプション機能のライセンス番号登録は、
G-150AD G-150AD本体の液晶画面またはG-150ADのWebブラウザ
GB-50AD GB-50ADのWebブラウザ
G-50 G-50のWebブラウザ

にて実施してください。

・ TG-2000では、連動制御の設定、ヒートポンプ給湯機の設定や監視、およびE制御の設定は行なえません。

連動制御は、G-150ADブラウザ画面のみで設定が行なえます。

ヒートポンプ給湯機は、G-150AD本体画面のみで設定、監視が行なえます。

(4) G-150AD/G-50システム構成確認 (STEP 3)
 接続設定したG-150AD/G-50の一覧を表示し、確認します。

接続設定したG-150AD/G-50の一覧を表示します。

[操作方法]

1) [モニタ] ボタンを押します

[モニタ] ボタンをクリックし、接続設定した全てのG-150AD/G-50にモニタを行います。

G-150AD/G-50 : モデル、IPアドレス、
ソフトウェアバージョン、
DB No. を表示

拡張コントローラ (EC) : IPアドレス、
ソフトウェアバージョン、
DB No. を表示

※G-150ADがVer. 2.00未満、GB-50AD、および、
G-50に対しては、DB No. の表示はありません。
モニタ結果 (実際の接続状態) を確認してください。

2) [OK] ボタンを押します

[OK] ボタンをクリックし、G-150AD/
G-50システム構成確認を終了します。



G-150AD/G-50システム構成確認画面

モニタの結果、下記の異常状態の表示がある場合は、G-150AD/G-50および拡張コントローラの接続設定、接続状態の確認、および、「G-150AD/G-50接続設定 (STEP 1)」、「G-150AD/G-50 IPアドレス設定」で接続構成の修正を行なってください。

異常状態	異常内容	処置内容
「G-150AD/G-50 IPアドレス」が「*.*.*」表示	G-150AD/G-50のIPアドレスに対して、モニタできない (通信異常)。	<ul style="list-style-type: none"> IPアドレスの設定に誤りがないかを確認する。 G-150AD/G-50が起動されているか、LAN接続に誤りがないかを確認する。
「G-50 No.」が赤色表示	G-150AD/G-50の接続モデルが異なる。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の接続モデルを確認し、「G-150AD/G-50接続設定」で、接続構成の修正を行なう。
「G-50 No.」が橙色表示	G-150ADと拡張コントローラの構成が異なる。	<ul style="list-style-type: none"> G-150ADおよび拡張コントローラでの接続設定を確認し、「G-150AD/G-50接続設定」で、接続構成の修正を行なう。
「G-50 No.」が黄色表示	G-150ADと拡張コントローラのDB No. が一致しない。	<ul style="list-style-type: none"> G-150ADと拡張コントローラのDB No. を一致させる必要あり。 G-150ADまたは拡張コントローラのソフトウェアバージョンアップを行なう。

8. 6. 2 G-50接続設定 (G-50対応版TG-2000)

G-50対応版TG-2000を使用する場合の接続設定手順です。

G-150AD/G-50対応版TG-2000を使用の場合は、「8. 6. 1 G-150AD/G-50接続設定 (G-150AD/G-50対応版TG-2000)」を参照してください。

(1) 設定手順と制約

G-50接続設定の前に、注意事項と手順を確認します。

G-50接続設定前の確認をします。

[操作方法]

1) [G-50接続設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある [G-50接続設定] ボタンをクリックします。

2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示の内容について、問題が無いかどうかを確認します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

G-50接続設定は、以下の手順で実施します。

- STEP 1 G-50 台数設定
- STEP 2 G-50 IPアドレス設定

(2) G-50台数設定 (STEP 1)

接続するG-50の台数を設定します。

G-50の台数を設定します。

[操作方法]

1) ▲/▼ボタンを選択して設定します
本システムに接続するG-50の台数を▲/▼ボタンで設定します。 ※キーボードから数字入力もできます。

接続可能台数：1～40台

2) [OK] ボタンを選択します
設定した台数を確認し、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

(3) G-50 IPアドレス設定 (STEP 2)

接続するG-50のIPアドレスを統合ソフトのデータに登録します。

また、オプション機能の利用状況、および、G-50のバージョンと製造番号をモニタできます。

G-50のIPアドレスを登録します。

[操作方法]

1) G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します
IPアドレスの情報を登録するG-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。

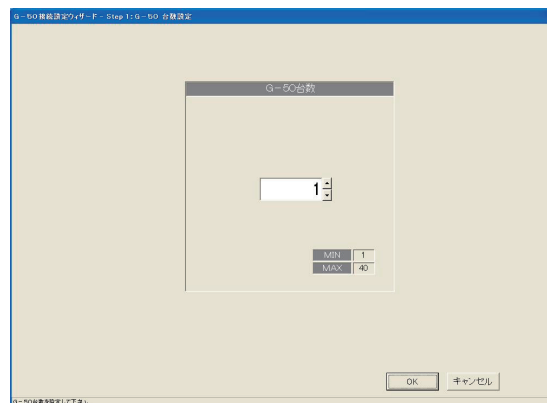
2) IPアドレスを登録します
該当G-50のIPアドレスを入力します。
※接続台数分のIPアドレスを登録します。

3) 設定完了すると、[完了] ボタンを選択します
全G-50のIPアドレスを設定完了すると、[完了] ボタンをクリックします。

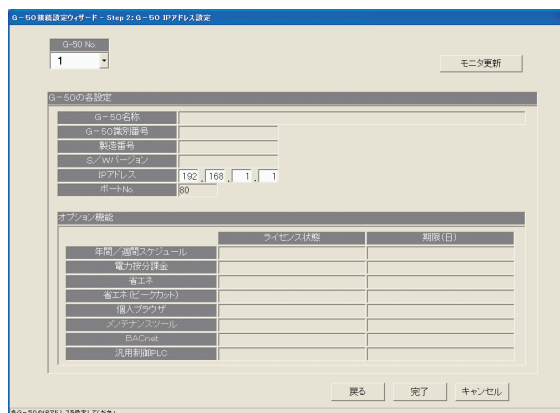
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



準備画面



G-50台数設定画面



G-50 IPアドレス設定画面

お知らせ

- ・G-50へのIPアドレス設定は、G-50本体あるいは初期設定Webで設定する必要があります。

オプション機能の利用状況、および、G-50のバージョンと製造番号をモニタします。

[操作方法]

- 1) G-50のNo. を選択します
オプション機能の利用状況をモニタしたいG-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。
- 2) [モニタ更新] ボタンで選択します
G-50 IPアドレス画面の[モニタ更新]ボタンをクリックすると、モニタしてその結果を表示します。

G-50選択ボタン
G-50 No. を選択します。

G-50の各設定と表示
G-50の名称、設置場所、製造番号、バージョンを表示できます。
TG-2000にIPアドレスを登録できます。

モニタ更新ボタン
G-50のオプション機能やバージョン情報をモニタできます。

オプション設定表示
G-50のオプション機能の利用状態と期限を表示します。

G-50の各設定	
G-50名称	System1
G-50識別番号	000001
製造番号	1111-11
S/Wバージョン	3.29
IPアドレス	192.168.1.4
ポートNo.	80

オプション機能		
	ライセンス状態	期限(日)
年間/週間スケジュール	利用不可	0
電力按分課金	利用可能	無期限
省エネ	利用可能	無期限
省エネ(ピークカット)	利用可能	無期限
個人ブラウザ	利用可能	無期限
メンテナンスツール	利用可能	無期限
BACnet	利用可能	無期限
汎用制御PLC	利用可能	無期限

お知らせ

- ・ G-50のオプション機能の利用状況をモニタし、統合ソフトTG-2000で使用する機能のライセンスが登録(存在)しているかを確認することができます。
 - 『年間/週間スケジュール』 … スケジュール設定を使用するときに必要です。(オプション)
 - 『電力按分課金支援』 … 電力按分課金支援(課金機能)を使用するときに必要です。また、運転時間の機能を使用するときにも必要です。(オプション)
 - 『省エネ制御』 … 省エネ機能を使用するときに必要です。(オプション)
 - 『省エネ制御(ピークカット)』 … ピークカット機能を使用するときに必要です。(オプション)
 - 『個人用ブラウザ』 … 個人ブラウザを使用するための機能です。標準機能
 - 『メンテナンスツール』 … メンテナンスツールを使用するときに必要です。(オプション)
 - 『BACnet』 … BACnetを接続するための機能です。(標準機能)
 - 『汎用制御PLC』 … 汎用制御PLCに接続された機器と室内機フリー接点に接続された機器、または、空調機とを連動制御させるために必要です。また、室内機フリー接点に接続された機器の監視/操作するために必要です。(オプション)
- ・ G-50のオプション機能のライセンス番号登録は、G-50のWebブラウザにて実施してください。

8. 7 システム構成設定

本統合ソフトTG-2000で監視する空調機システムの情報を設定します。本設定ではG-150AD/G-50の保有するシステム情報をモニタすることができます。

8. 7. 1 設定手順と制約

システム構成設定の前に、注意事項と手順を確認します。

システム構成設定前に確認します。

【操作方法】

- 1) [システム構成設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある [システム構成設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示の内容を確認し、問題なければ、[OK] ボタンをクリックして、設定に進みます。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

システム構成設定は、以下の手順で実施します。

- | | |
|--------|--------------------|
| STEP 1 | G-150AD/G-50データの収集 |
| STEP 2 | ユニット構成設定 |
| STEP 3 | 冷媒系設定 |
| STEP 4 | グループ設定 |
| STEP 5 | 換気連動設定 |



準備画面

8. 7. 2 G-150AD/G-50データの収集 (STEP 1)

初期設定時にG-150AD/G-50へ設定したシステム情報 (グループ情報、換気連動設定情報、など) を統合ソフトTG-2000に収集することができます。

注意

- ・「G-150AD/G-50データの収集」機能を使用すると、アイコン配置など統合ソフトTG-2000に保持しているシステム情報や制御設定情報が抹消されます。
情報収集をしたG-150AD/G-50については、これらの設定 (本STEP以降および、システム設定の項目全て) をTG-2000で行なってください。
(スケジュール設定、課金関連設定、省エネ・ピークカット設定など)
- ・G-150AD/G-50が接続されていない場合は、情報収集できません。
- ・空調機およびG-150AD/G-50の試運転が正常に完了してから本機能を実施することをお勧めします。
- ・TG-2000ではヒートポンプ給湯機の設定や監視に対応していません。したがって、「G-150AD/G-50データの収集」機能では、ヒートポンプ給湯機の情報収集しません。

初期設定時にG-150AD/G-50から情報収集します。

(※初回の初期設定のみ実施してください)

【操作方法】

- 1) [G-150AD/G-50より情報収集] ボタンを選択します
初期設定時にG-150AD/G-50からシステム情報の情報収集をする場合に、G-150AD/G-50を選択し [G-150AD/G-50より情報収集] ボタンをクリックします。
※拡張コントローラを接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位ではなく、G-150AD単位で情報収集します。

情報収集を完了すると、自動的に次のステップに進みます。情報収集には時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

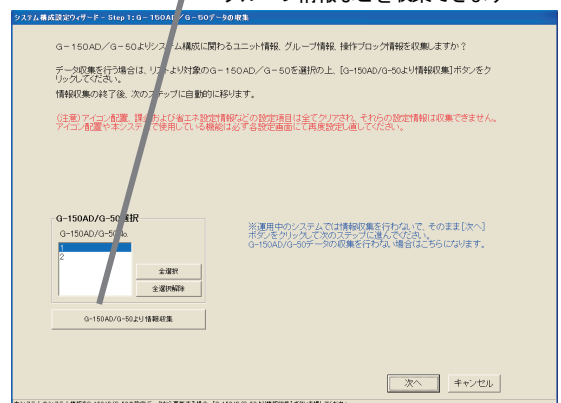
G-150AD/G-50から情報収集をスキップします。

【操作方法】

- 1) [次へ] ボタンを選択します
情報収集しない場合は、[次へ] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

G-150AD/G-50より収集ボタン

初回の初期設定時のみ使用して、G-150AD/G-50を選択してグループ情報などを収集できます



G-150AD/G-50データの収集画面

8. 7. 3 ユニット構成設定 (STEP 2)

各G-150AD (EC) /G-50内のユニット構成の確認や変更ができます。

G-150AD (EC) /G-50 選択
G-150AD /G-50 No. を選択します。
(拡張コントローラ接続の G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位)

ユニット構成表示
該当 G-150AD (EC) /G-50 のシステム構成のユニットを表示します。

G-150AD (EC) /G-50 設定数表示
G-150AD (EC) /G-50 の設定数を表示します。

ユニットアイコン選択
室内機、室外機、リモコン、システムリモコン等のアイコン (記号) と名称を表示しています。

ユニット構成変更画面

お知らせ

- ・ TG-2000 ではヒートポンプ給湯機の設定や監視に対応していないため、ヒートポンプ給湯機のユニット構成の設定は行ないません。
そのため、ヒートポンプ給湯機が接続されているアドレスは、ユニットを設定しないでください。
該当アドレスに他のユニットを設定した場合、G-150AD /G-50 への設定送信でエラーが表示され、設定送信が行なわれませんので、ご注意ください。

ユニット構成を確認します。

[操作方法]

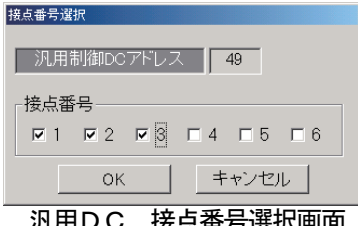
- 1) G-150AD (EC) /G-50 の No. を▲/▼ボタンで選択します
ユニット構成を確認する G-50 の No. を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 2) ユニット構成の確認後、[OK] ボタンを選択します
各 G-150AD (EC) /G-50 のユニット構成を確認し、変更の必要がなければ、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

ユニット構成を変更します。

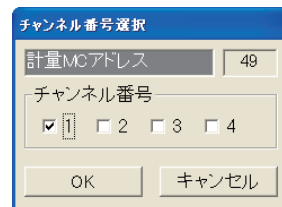
[操作方法]

- 1) G-150AD (EC) /G-50 の No. ▲/▼ボタンで選択します
ユニット構成を変更する G-150AD (EC) /G-50 の No. を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
- 2) ユニットアイコンの削除・追加します
削除方法 : 削除したいユニットアイコンをクリックします
追加方法 : 追加したいユニットアイコンを「ユニットアイコン選択」欄からクリックして選択状態にします。
(選択したユニットの記号がポインタに表示されます。)
次に、追加したいアドレス欄をクリックすると、ユニットアイコンが表示されます。
ただし、汎用インターフェースおよび計量コントローラを選択した場合は使用する接点 (チャンネル) を設定する必要があります。

※汎用インターフェース (汎用 DC) を使用する場合
アドレス欄に登録すると接点番号選択画面が表示されます。
接点番号欄より使用する接点番号を選択してください。
※接点番号とは汎用 DC に接続された汎用機器番号となります。



※計量用計測コントローラ（計量MC）を使用する場合
 アドレス欄に登録するとチャンネル番号選択画面が表示
 されます。
 チャンネル番号欄より使用するチャンネル番号を選択して
 ください。



計量MC チャンネル番号選択画面

表. アイコン記号とユニット名称

アイコン記号	ユニット名称	フロア配置*4	アドレス設定可能範囲	
IC*1	室内機	グループ	1~50	
LC	ロスナイ	グループ		
FU	加熱加湿付ロスナイ	—		
KIC	K制御用ユニット	グループ		
AIC	A制御用ユニット	グループ		
DC*2	汎用インターフェース	グループ		
MCT	環境用計測コントローラ	温度計、湿度計		
MCP*3	計量用計測コントローラ	—		
OC	室外機（非蓄熱）	—		
OC-I	蓄冷熱室外機（蓄熱）	—		51~100
BC	分流コントローラ	—		
BS	サブ分流コントローラ	—		
OS	サブユニット	—		
IU	室外サブコントローラ（ICE-Y Aタイプ用）	—		
TU	蓄熱槽ユニット	—		
RC	MEリモコン（コンパクトリモコン） ／ロスナイリモコン	—	101~200	
SC	システムコントローラ （GR、SR、ANを含む）	—		201~250
GR	グループリモコン	—		
SR	システムリモコン	—		
AN	ON/OFFリモコン	—	(201~250)	
KA*5	K伝送コンバータ	—		
TR*5	集中コントローラ（MJ-103）	—		
G-50*5	集中コントローラG-150AD/G-50	—		
EC*5	拡張コントローラ（PAC-YG50EC）	—		
??	未確認ユニット	—	(1~250)	

- *1：大型室内機は、形名により2つ以上のアドレスを使用する場合があります。RAC機種は、「IC」を設定してください。
- *2：汎用インターフェースの1接点は1ユニットに換算され、G-150AD（EC）／G-50 1台につき、最大50ユニットまで接続可能です。
- *3：計量用計測コントローラ（計量MC）は、Ver. 2.3*以前のG-150AD（EC）または、G-50 1台につき、最大5ユニットまで接続可能です。Ver. 2.45以降のG-150AD 1台につき計量MC 15台の範囲内で、EC 1台につき15台まで接続可能です。GB-50AD 1台につき、計量MCを15ユニットまで接続可能です。
- *4：フロアには1グループにつき1アイコン、または1温度計（湿度計）につき1アイコンを配置できます。
- *5：ユニット構成設定画面では配置・削除できません。これらのユニットは下記を行なったときに自動的に配置・削除されます。
 - ・G-150AD/G-50データの収集で“G-150AD/G-50より情報収集”ボタンを押した時
 - ・初期画面で“設定終了”ボタンを押した時
 - ・初期画面の設定メニューから“全設定送信”を行なった時

3) [OK] ボタンを選択します
 ユニットアイコンの変更が全て完了したら、[OK] ボタンをクリックします。

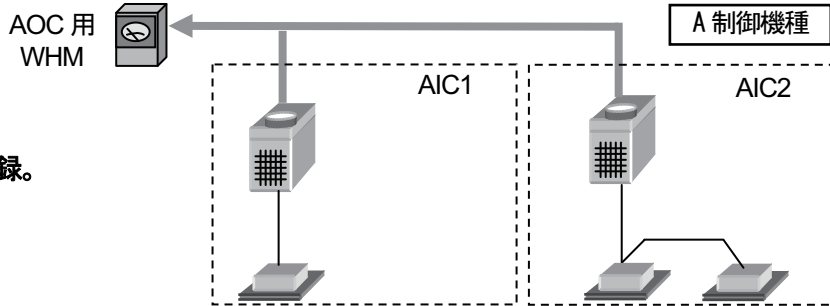
お知らせ

- ・G-150AD/G-50からシステム情報を収集すると、SR、GR、ANは全て『SC』と表示します。実際に接続されたシステムコントローラのアイコンに変更することができます。変更されると、異常時の発生ユニットの種類を容易に区別して表示することができます。
- ・KAの配置・削除はG-150AD/G-50側で行なってください。
- ・『??』表示アイコンは削除して、本来のアイコンを設定してください。『??』アイコンが存在する場合は、次のステップに進むことができません。
- ・実システムと異なる場合は、G-150AD/G-50の再立ち上げや空調機システムを確認してください。

(補足)

A制御機種、K制御機種についてユニット構成を設定する場合、下記のように設定してください。

(室内機と室外機の使用
電力量を計測します)



<設定>

- ・AIC1、AIC2 を室内機として登録。
- ・室外機は登録できません。
- ・冷媒系の設定はできません。
- ・グループ設定をします。

※電力量の按分において、各空調機に電力量計を設置するような方法を要求される用途には適用できません。

A制御機種でこのような電力量の算出を行ないたい場合は、ユニット毎に個別電力量計を設置してください。

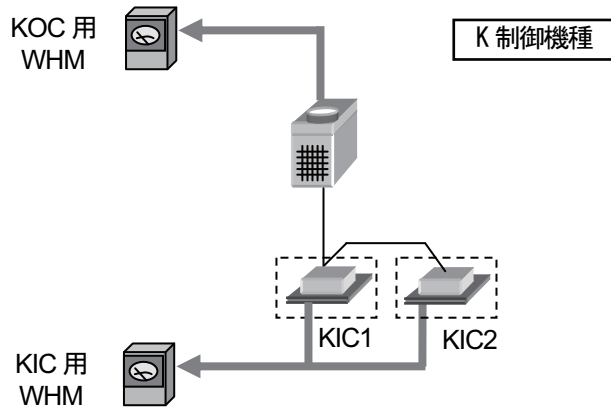
<設定>

- ・KIC1、KIC2 を室内機として登録。
- ・室外機は登録できません。
- ・冷媒系の設定はできません。
- ・グループ設定をします。

クランクケースヒータを別途設定
しますが、画面上ではKICに容量を入
力します。

このとき、右図のように同一冷媒系統
の場合、アドレスが最も小さいKICに
のみ入力してください。

(右図ではKIC1 のみに入力)



AIC : A制御室内機	AOC : A制御室外機
KIC : K制御室内機	KOC : K制御室外機

8. 7. 4 冷媒系設定 (STEP 3)

各G-150AD (EC) /G-50内の冷媒系情報の確認と変更ができます。

G-150AD (EC) /G-50 設定数表示
G-150AD (EC) /G-50 の設定数を表示します。

G-150AD (EC) /G-50 選択
G-150AD /G-50 No. を選択します。
(拡張コントローラ接続の G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位)

冷媒系情報
ビルマルチの冷媒系情報を表示します。

未接続室内系ユニット
冷媒系接続表示されていない室内機、加熱加湿付ロスナイ (IC, FU) を表示します。

未接続室外サブユニット
冷媒系接続表示されていない OS, BC, IU, TU を表示します。

冷媒系情報を確認します。

[操作方法]

- 1) G-150AD (EC) /G-50 の No. ▲/▼ ボタンで選択します
冷媒系情報を確認する G-150AD /G-50 の No. を ▲/▼ ボタンで選択します。
※ 拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位を選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 2) 冷媒系情報の確認後、[OK] ボタンを選択します
各 G-150AD /G-50 の冷媒系情報を確認し、変更や修正の必要がなければ、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

冷媒系情報を変更します。

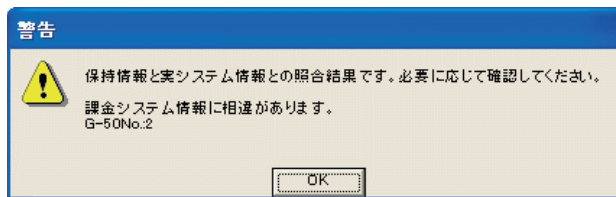
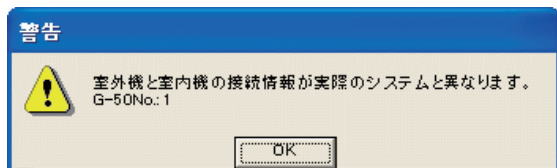
[操作方法]

- 1) G-150AD (EC) /G-50 の No. ▲/▼ ボタンで選択します
冷媒系情報を変更する G-150AD /G-50 の No. を ▲/▼ ボタンで選択します。
※ 拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位を選択します。
- 2) ユニットアイコンの削除・追加します
削除方法 : 削除したいユニットアイコンをクリックします
追加方法 : 追加したいユニットアイコンを「未接続室内系ユニット」欄と「未接続室外サブユニット」から冷媒系接続するユニットアイコンをクリックして選択状態にします。
(選択したユニットの記号がポインタに表示されます。)
次に、追加したい OC 欄の行をクリックすると、ユニットアイコンが表示されます。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

お知らせ

- ・ 本冷媒系設定変更の画面で、追加または削除しても実際の冷媒系システムは変更できません。
- ・ 本冷媒系情報は電力按分課金機能に使用しますので、電力按分課金機能を使用する場合は、必ず設定および確認を実施してください。また、本冷媒系情報は異常発生表示にも使用します。
- ・ G-150AD /G-50 の立ち上げ時の状態によっては、冷媒系情報を全て収集できない場合があります。この場合は、本冷媒系設定変更の画面で追加または変更してください。
- ・ G-150AD /G-50 からの収集データによる表示が実際のシステムと異なっている場合は、G-150AD /G-50 の再立ち上げや空調機の確認をしてください。
- ・ 本冷媒系設定変更画面で、A 制御、K 制御機種は設定不要です。

統合ソフトTG-2000を起動時に、統合ソフトで保持している情報とG-150AD/G-50の冷媒情報を比較して、不一致または未受信時は注意表示のメッセージを本冷媒系設定変更の画面を選択したときに表示します。



8. 7. 5 グループ設定 (STEP 4)

各G-150AD (EC) /G-50内の室内機および換気グループ情報の確認と変更ができます。

G-150AD (EC) /G-50 No. を選択します。
(拡張コントローラ接続のG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位)

グループ番号
グループ番号を表示します。

グループ情報
室内機、または、換気のグループ構成を表示します。

G-150AD (EC) /G-50設定数表示
G-150AD (EC) /G-50の設定数を表示します。

未接続室内系ユニット
グループ設定されていない室内機、ロスナイ (IC, KIC, AIC, LC) を表示します。

未接続リモコン
グループ設定できるSC, GR, SR, AN, RCを表示します。

グループ情報を確認します。

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50のNo. ▲/▼ボタンで選択します
グループ情報を確認するG-150AD/G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 2) グループ情報の確認後、[OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

グループ情報を変更します。

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50のNo. ▲/▼ボタンで選択します
グループ情報を変更するG-150AD/G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
- 2) ユニットアイコンの削除・追加します
削除方法 : 削除したいユニットアイコンをクリックします。
追加方法 : 追加したいユニットアイコンを「未接続室内系ユニット」欄と「未接続リモコン」欄からグループ設定するユニットアイコンをクリックして選択状態にします。
(選択したユニットの記号がポインタに表示されます。)
次に、追加したいグループ欄の行をクリックすると、ユニットアイコンが表示されます。
- 3) 設定変更後に [OK] ボタンを選択します

お知らせ

- ・本グループ設定変更の画面で変更すると、G-150AD/G-50システムに変更内容を反映することができます。
- ・室内機（M-NET機種）、K制御用ユニット、A制御用ユニット、ロスナイ、汎用機器（汎用DC）は同じグループにすることはできません。
- ・複数のアドレスを使用する大型室内機のユニットアドレスは、同一グループに設定してください。
- ・ナイトパージ機能ありのロスナイと、機能なしのロスナイを同一グループに設定しないでください。
- ・GR, SR, ANには接続できるグループ数や室内機台数に制限がありますので、制限にあったグループ設定をしてください。
- ・DC（汎用DC）にはRC, GR, SR, AN, SCは接続できません。

本グループ設定画面にて、GR, SR, ANおよびSCが新たにグループ編成できるグループ数と室内機台数を示します。

表・管理グループ数と室内機台数

記号	機種名	管理グループ数と室内機台数
GR	グループリモコン	8グループ - 16室内機
SR	システムリモコン	50グループ - 50室内機
AN	ON/OFFリモコン	16グループ - 50室内機
SC	システムコントローラ	50グループ - 50室内機

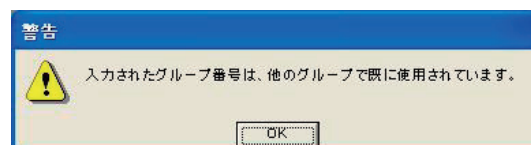
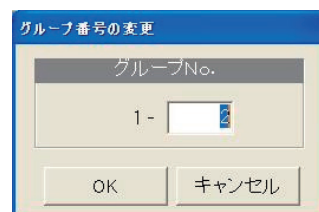
お知らせ

- ・「表・管理グループ数と室内機台数」とは、本グループ設定画面にて、新たにグループ編成したときに制限されるシステムコントローラ（GR, SR, AN, SC）の管理グループ数と室内機台数です。
 - ・G-150AD/G-50から収集したグループ編成はそのまま使用できます。
- 例えば、ON/OFFリモコン（AN）などです。

グループ番号を変更します

[操作方法]

- 1) グループ番号の表示セルを選択します
グループ番号を変更したいセルをクリックします。
グループ番号の変更画面が表示されます。
- 2) グループ番号を変更します
変更したいグループ番号をキーボード入力で変更します。
※設定可能グループ番号：1～50
- 3) 変更後に [OK] ボタンを選択します
重複したグループ番号があれば、エラーメッセージを表示します。



お知らせ

- ・本機能は、下位システムコントローラ（GR, SR, AN, SC）を使用したグループ変更する際に使用できます。グループリモコンやシステムリモコン、および、ON/OFFリモコンはアドレス200の値から設定可能なグループ数まで管理対象となります。

8. 7. 6 換気連動設定 (STEP 5)

各G-150AD/G-50内の室内機に換気連動運転する連動情報の確認と変更ができます。

G-150AD (EC) /G-50 選択
G-150AD/G-50 No. を選択します。
(拡張コントローラ接続の G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位)

換気連動ユニット
連動先の換気ユニット (LC, FU) を表示します。

G-150AD (EC) /G-50 設定数表示
G-150AD (EC) /G-50 の設定数を表示します。

連動元未設定ユニット
連動設定していない室内機 (IC, AIC) を表示します。

換気連動設定情報を確認します

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50 の No. ▲/▼ ボタンで選択します
換気連動設定情報を確認する G-150AD/G-50 の No. を ▲/▼ ボタンで選択します。
※ 拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 2) 換気連動情報の確認後、[完了] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

換気連動設定情報を変更します

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50 の No. ▲/▼ ボタンで選択します
換気連動設定を変更する G-150AD/G-50 の No. を ▲/▼ ボタンで選択します。
※ 拡張コントローラ (EC) を接続した G-150AD の場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
- 2) ユニットアイコンの削除・追加します
削除方法 : 削除したいユニットアイコンをクリックします。
追加方法 : 追加したいユニットアイコンを「連動元未設定ユニット」欄からクリックして選択状態にします。
(選択したユニットの記号がポインタに表示されます。)
次に、連動先の換気装置表示行をクリックすると、ユニットアイコンが追加されます。
- 3) 変更完了後に [完了] ボタンを選択します

お知らせ

- ・ 本換気連動設定変更の画面で変更すると、G-150AD/G-50 システムに変更内容を反映することができます。
- ・ 一つの換気連動ユニットには最大 16 台まで室内機を連動設定ができます。
- ・ [完了] ボタンをクリックすると、換気連動設定が完了しているかの確認画面が表示されます。

8. 8 汎用DC、環境MC、計量MCの設定

汎用DC（汎用インターフェース）、環境MC（環境用計測コントローラ）、計量MC（計量用計測コントローラ）の各機能の設定をします。

8. 8. 1 設定手順と制約

汎用DC、環境MC、計量MCの設定の前に、注意事項と手順を確認します。

[操作方法]

1) [汎用DC、環境MC、計量MCの設定] ボタンを選択します

初期画面のシステム設定グループにある [汎用DC、環境MC、計量MCの設定] ボタンをクリックします。

2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します

準備画面の警告表示の内容について、問題が無いかどうかを確認します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

汎用DC、計測MC、計量MCの設定は、以下の手順で実施します。

- STEP 1 汎用DC（汎用機器）の設定
- STEP 2 環境MC設定
- STEP 3 計量MC（計量計）設定



準備画面

8. 8. 2 汎用DC（汎用機器）の設定（STEP 1）

汎用DC（汎用機器）の機能を設定します

[操作方法]

1) G-150AD/G-50のNo. ▲/▼ボタンで選択します

汎用DCが接続されたG-150AD/G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。

※拡張コントローラ（EC）を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。

このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。

2) 汎用機器（汎用DC）の詳細設定をします

設定する汎用機器（汎用DC）を選択してください。汎用機器（汎用DC）の詳細設定画面が表示されますので以下の項目を設定してください。

グループ名：ショートネーム（8文字以内）
ロングネーム（20文字以内）を設定します。

操作区分：対象汎用機器の操作制限を設定します。

[操作可能（一括、グループ単位）]

一括操作時に運転・停止状態を反映させる場合

[操作可能（グループ単位）]

グループ単位での操作のみを行なう場合

[操作禁止（監視のみ）]

操作を禁止し、監視のみを行なう場合

表示設定：対象汎用機器の運転・停止状態の表示を設定します。

[接点出力状態]

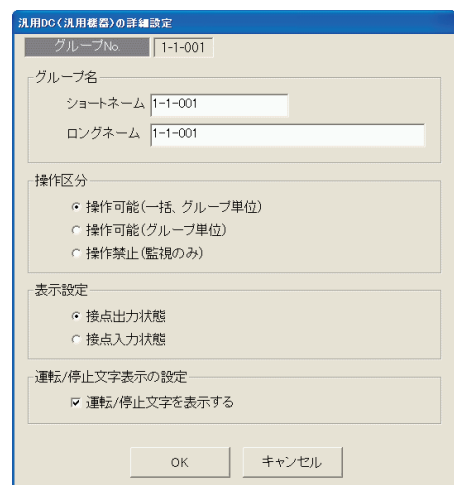
汎用機器に対する出力状態を表示させる場合

[接点入力状態]

汎用機器からの入力状態を表示させる場合



汎用機器（汎用DC）の設定画面



汎用機器（汎用DC）の詳細設定

運転/停止文字表示の設定：

監視画面での対象汎用機器の運転・停止状態の文字表示を設定します。

[表示する]

グループアイコン、およびブロック表示の運転・停止文字を表示させる場合。

[表示しない]

グループアイコン、およびブロック表示の運転・停止文字を表示させない場合。

お知らせ

- ・ 1ブロックに運転/停止文字表示の設定を「表示しない」に設定した汎用DCグループとそれ以外の種類のグループ（室内機グループや、運転/停止文字表示の設定を[表示する]に設定した汎用DCグループなど）が混在する場合は、ブロック表示に運転・停止文字が表示されます。
- ・ 運転/停止文字表示の設定を「表示しない」に設定した場合でも、リモコン設定や操作履歴などの画面では運転・停止の文字が表示されます。

3) [OK] ボタンを選択します

設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

8. 8. 3 環境MC設定 (STEP 2)

環境MCの機能を設定します

[操作方法]

1) G-150AD/G-50のNo. ▲/▼ボタンで選択します

環境MCが接続されたG-150AD/G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。

このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。

2) 環境MCの詳細設定をします

設定する計測機器を選択してください。

環境MCの詳細設定画面が表示されますので以下の項目を設定してください。

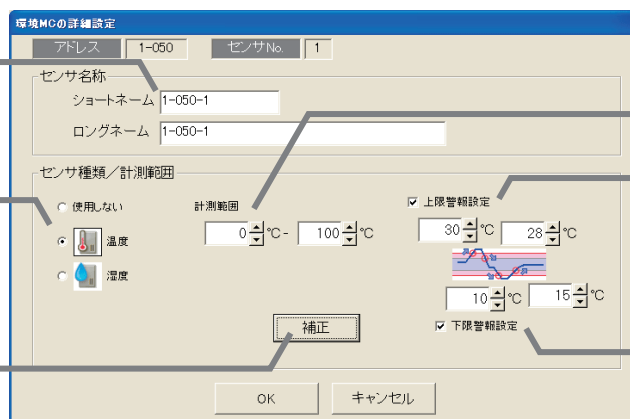


計測設定画面

センサ名称の設定

センサ種類選択

センサの補正



センサの計測範囲の設定

上限警報設定

下限警報設定

環境MCの詳細設定画面

センサ名称 : ショートネーム (8文字以内)
ロングネーム (20文字以内) を設定します。

センサ種類 : 使用しない (センサを使用しない)
温度 (温度センサを使用する)
湿度 (湿度センサを使用する)

接続したセンサの温度範囲、または湿度範囲を入力します。

※Pt100センサを接続した場合は、 $-30^{\circ}\text{C}\sim+60^{\circ}\text{C}$ で設定してください。

その他のセンサの場合は各センサの取扱説明書に記載されている範囲を入力してください。

計測範囲 : 温度選択時は $-100^{\circ}\text{C}\sim100^{\circ}\text{C}$

湿度選択時は $0\%\sim100\%$ の範囲で設定します。

※不正な値が入力された場合は警告が表示されます。

温度、湿度が一定値を超えたときに警報通知したい場合は、上限警報値/解除値、下限警報値/解除値を設定します。

※警報、解除が過度に検出しないよう、警報値と解除値の間は 1°C または 1% 程度離すことを推奨します。

上限警報設定 : チェックボックスにチェックを入れた後、計測範囲内で値を入力します。

※不正な値が入力された場合は警告が表示されます。

下限警報設定 : チェックボックスにチェックを入れた後、計測範囲内で値を入力します。

※不正な値が入力された場合は警告が表示されます。

お知らせ :

- ・ 上限・下限警報設定にて、その設定値にて警報アイコン表示 (オレンジ色表示) します。
(「環境MCの上下限警報表示」を「しない」に設定した場合は、その設定値にて警報アイコン表示しません。)
- ・ なお、上限・下限警報は「異常発生中の機器」(異常のポップアップ表示) の表示対象ではありません。
- ・ G-150AD/G-50では、上下限警報のメールを送信する機能をもっています。

3) 計測値の補正をします

センサの設定位置等の影響で計測値の補正が必要な場合、補正を行ないます。

計測の詳細設定画面内の補正ボタンを押します。

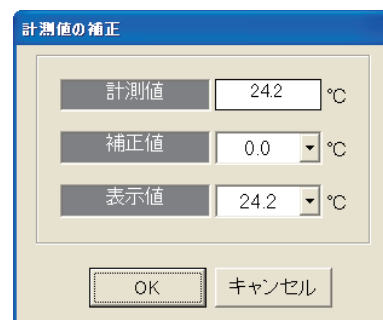
計測値の補正の画面が表示されますので、補正值もしくは表示値の設定をしてください。

(補正值と表示値は連動しています。)

補正值 : $-10.0\sim+10.0$ の範囲を 0.1 刻みで設定できます。

表示値 : 計測値を基準に $-10.0\sim+10.0$ の範囲を 0.1 刻みで設定できます。

※初回設定時は計測を行っていない為、計測値、表示値が表示されません。



計測値の補正画面

4) 計測トレンド情報を設定します

トレンドデータを取得する間隔を設定します。

▼ボタンをクリックし、1/2/5分から選択してください。

5) G-50のCSV形式を設定します

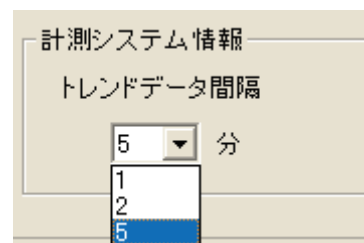
CSVに用いる単位、区切り文字を設定します。

小数点単位 : ドットもしくはカンマを選択します。

CSV区切り文字 : カンマもしくはセミコロンを選択します。

※小数点単位にカンマを選択した場合は、CSV区切り文字は自動的にセミコロンの選択 (固定) になります。

また、CSV区切り文字にカンマを選択した場合は、小数点単位は自動的にドットの選択 (固定) になります。



6) [OK] ボタンを選択します

設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります

8. 8. 4 計量MC (計量計) 設定 (STEP 3)

計量MCの機能を設定します

[操作方法]

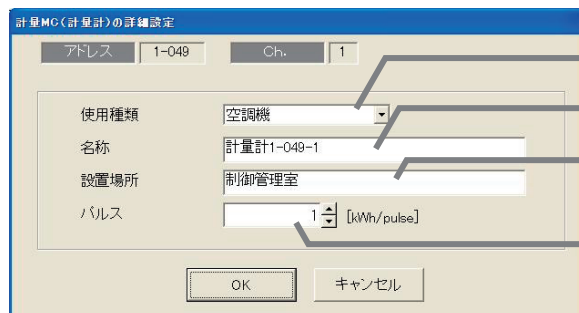
- 1) G-150AD/G-50のNo. ▲/▼ボタンで選択します
計量MCが接続されたG-150AD/G-50のNo. を
▲/▼ボタンで選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、
拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で
表示/選択します。

- 2) 計量計の詳細設定をします
設定する計量計を選択してください。
計量計の詳細設定画面が表示されますので、以下の項目
を設定してください。



計量計設定画面



計量計詳細設定画面

- 使用種類の選択
- 計量計名称の設定
- 設置場所の設定
- パルス値の設定

- 使用種類：空調機/電気1/電気2/ガス/水道/熱量/その他
より選択してください。
- 計量計名：20文字以内で設定してください。
- 設置場所：20文字以内で設定してください。
- パルス：1pulseあたりの計量値(kWh等)を、
0.01～100の範囲で設定してください。

G-150AD/G-50に登録されている計量MCのパルス設定内容をモニタすることができます。
全G-150AD/G-50に対してモニタする場合は [全モニタ] ボタンを、
選択しているG-150AD/G-50のみをモニタする場合は [モニタ] ボタンを押してください。
モニタ結果が、「計量MC (計量計) 設定」画面に表示されます。
(TG-2000に未登録の計量MCに対しては、パルス設定のモニタはできません。)

- 3) [OK] ボタンを選択します
設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・計量計を使用する場合は、ある期間を必ず試運転して計量計本体とモニタ値にてそれぞれの差分値が合っているかを確認ください。
- ・パルス設定は、計量MCの使用する接点 (Ch.) のDipスイッチが、「入力接点使用：有り」、「パルス単位 (重み) 値設定：SC設定」になっていることを確認してください。
計量MCのDipスイッチが「入力接点使用：有り」以外の場合は、計量MCへのパルス入力は無効になり、計量が行われません。
また、「パルス単位 (重み) 値設定：SC設定」以外の場合は、TG-2000からのパルス設定は有効にならず、計量MCのDipスイッチの設定が優先されます。
計量MCのDipスイッチ設定については、計量MCの「据付/取扱説明書」を参照してください。
- ・按分対象に使用する電力量計は、1kWh以下のパルスのものを使用ください。

8. 9 汎用制御PLC設定

汎用制御PLCの機能設定や、本統合ソフトTG-2000で監視する汎用制御PLCに接続する汎用機器の情報を設定します。(デマンド入力PLC含む)

8. 9. 1 設定手順と制約

汎用制御PLC設定の前に、注意事項と手順を確認します。

[操作方法]

- 1) [汎用制御PLC設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある [汎用制御PLC設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
準備画面の警告表示の内容について、問題が無いかどうかを確認します。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

汎用制御PLC設定は、以下の手順で実施します。

- | | |
|--------|----------------------|
| STEP 1 | PLC台数設定 |
| STEP 2 | PLC設定とイニシャル設定 |
| STEP 3 | 機能設定 |
| STEP 4 | アドバンス設定 (空調機状態監視設定) |
| STEP 5 | アドバンス設定 (ピークカット機能設定) |
| STEP 6 | 汎用機器設定 |



準備画面

8. 9. 2 PLC台数設定 (STEP 1)

PLC (シーケンサ) の接続台数を設定します

[操作方法]

- 1) PLCの接続台数を選択します
PLCの接続台数を▲/▼をクリックして選択します。
接続台数: 1~20台
※キーボードからも入力できます。
- 2) [OK] ボタンを選択します
設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります



PLC台数設定画面

8. 9. 3 PLC設定とイニシャル設定 (STEP 2)

PLCのIPアドレスを設定する

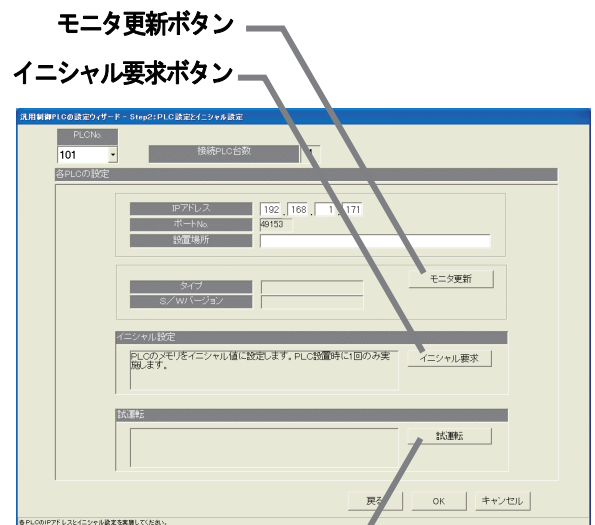
[操作方法]

- 1) PLCのNo. を▼ボタンで選択します
IPアドレスを設定するPLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) IPアドレスを設定します
PLCのIPアドレスを統合ソフトに登録します。
※PLCへのIPアドレスの設定は、PLC側で実施します。
※推奨IPアドレス:
空調機状態監視用 : 192.168.1.171~190
汎用機状態監視用 : 192.168.1.171~190
ピークカット用 : 192.168.1.191~194
上記1)~2)を繰り返して、全接続の汎用制御PLCのIPアドレスを設定します。

PLCのバージョンをモニタする

[操作方法]

- 1) PLCのNo. を選択します
PLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。



試運転ボタン

PLC接続設定画面

2) [モニタ更新] ボタンを選択します

PLC接続設定画面の [モニタ更新] ボタンをクリックすると、PLCソフトの種類とバージョンをモニタし、その結果が表示されます。

※アドレス設定や通信確認に失敗すると、注意メッセージが表示されます。設定内容を確認してください。

※PLCのバージョンモニタで通信できているかを確認することができます。

PLCのイニシャル設定を実施する

[操作方法]

1) PLCのNo. を選択します

PLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。

2) [イニシャル設定] ボタンを選択します

PLC接続設定画面の [イニシャル要求] ボタンをクリックすると、PLCのメモリを初期値に設定し、使用できる状態に変更します。

注意

・PLCへイニシャル設定すると、全設定値を初期値に変更しますので、今までの全データが削除されます。
本「イニシャル設定」機能は、PLCの初期設定時に1回のみ実施してください。

運用中に実施すると、汎用機器の制御データも消去され、正常に動作することができなくなります。

PLCを試運転モードにする (汎用制御PLC Ver. 2用)

G-150AD/G-50に『汎用制御PLC』のライセンスが登録されていない時に、一時的に汎用制御PLCが空調機、または、室内機フリー接点に接続された汎用機器を連動制御するか確認 (試運転) したい場合に実施します。

(デマンド入力PLCソフト用PLCには不要です。)

[操作方法]

1) PLCのNo. を選択します

PLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。

2) [試運転] ボタンを選択します

PLC接続設定画面の [試運転] ボタンをクリックすると、PLCが試運転モードで動作します。

試運転モードで動作した場合、運転モード表示が「試運転モード」となります。

試運転モードが動作しなかった場合は「通常モード」となります。

お知らせ

・PLCは午前2時20分を経過すると自動的に「試運転モード」から「通常モード」に切り替わります。

本PLC接続設定画面を終了する

[操作方法]

1) 全設定を完了すると、[OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

8. 9. 4 機能設定 (STEP 3)

PLCの機能を設定する

[操作方法]

1) 機能設定をします

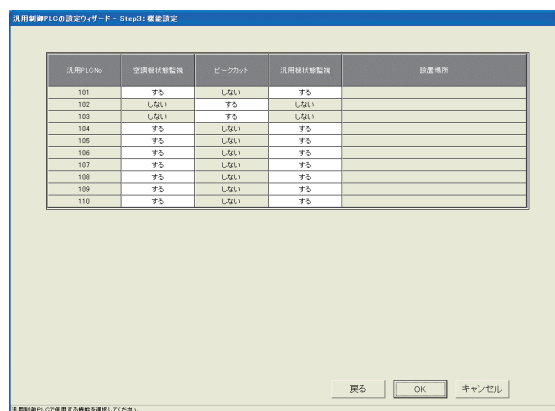
各PLCで使用する機能を選択します。

2) 設定終了後、[OK] ボタンを選択します

お知らせ

・汎用制御PLCソフト搭載のPLCには、「空調機状態監視」機能と「汎用機状態監視」機能の要否を設定します。

・デマンド入力ソフト搭載のPLCには、「ピークカット」機能の要否を設定します。



※連動制御を行なう場合は、「空調機状態監視」機能を“する”に設定してください。

お知らせ

・「空調機状態監視」とは室内機フリー接点機能に接続された汎用機器を監視する機能、および、連動制御の機能になります。

8. 9. 5 アドバンス設定（空調機状態監視設定）（STEP 4）

空調機状態監視対象のG-150AD/G-50を設定する（汎用制御PLC Ver. 2用）

[操作方法]

- 1) PLCのNo. を選択します
PLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) 監視対象のG-150AD/G-50 No. を選択します
各PLCが監視対象とするG-150AD/G-50のNo. を選択します。

※STEP 3で空調機状態監視が選択されていないPLCを選択した場合は「この機能はご使用できません。」のメッセージが表示されます。この機能をご使用になる場合は前画面に戻り、機能設定をやりなおしてください。

PLCの設定値を確認する場合、モニタ更新ボタンを押してください。



お知らせ

- ・連動制御する場合は、空調機と連動しなくても、監視対象のG-150AD/G-50を設定する必要があります。

8. 9. 6 アドバンス設定（ピークカット機能設定）（STEP 5）

ピークカット操作対象のG-150AD/G-50を設定する（デマンド入力PLC用）

[操作方法]

- 1) PLCのNo. を選択します
PLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) 操作対象のG-150AD/G-50 No. を選択します
各PLCがピークカット操作対象とするG-150AD/G-50のNo. を選択します。

※STEP 3でピークカットが選択されていないPLCを選択した場合は「この機能はご使用できません。」のメッセージが表示されます。この機能をご使用になる場合はSTEP 3に戻り、機能設定をやりなおしてください。

PLCの設定値を確認する場合、「モニタ更新」ボタンを押してください。



お知らせ

- ・本画面ではPLCにデマンド制御機器を接続して行なうピークカット機能の機器設定を行ないます。ピークカットの制御内容の設定については、「8. 15 省エネ/ピークカット設定」で設定してください。

8. 9. 7 汎用機器設定 (STEP 6)

PLC NO. 選択

PLCを選択します。

汎用機器ボタン

汎用機器の設定ができます。メニューには、変更/コピー/貼り付けがあります。

選択ボタン

汎用機器の有無を選択します。

■ : 選択 (あり)

□ : 未選択 (なし)

※No. 1**-033 以降は選択できません。

選択	汎用機No. (アドレス)	汎用機器名 (ショート/ロング)	操作	状態表示	スケジュール	異常・警報数と内容
■	101-1	1F-001 1F管理室空調機	あり	運転 停止	なし	4.緊急停止 故障 停電 火災
■	101-2	1F-002 1F機械室空調機	あり	運転中 停止中	なし	4.緊急停止 故障 停電 火災
□	101-3	101-3 101-3	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-4	101-4 101-4	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-5	101-5 101-5	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-6	101-6 101-6	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-7	101-7 101-7	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-8	101-8 101-8	あり	運転 停止	なし	0.
□	101-9	101-9 101-9	あり	運転 停止	なし	0.

接続PLC台数

接続しているPLCの台数を表示します。

設定汎用機器台数

設定している汎用機器の台数を表示します。

機能表示

設定した汎用機器の機能を表示します。

汎用機器設定画面

汎用機器のアドレスや機能および名称を設定する

[操作方法]

1) PLC No. を▼ボタンで選択します

使用するPLC No. を▼ボタンをクリックして選択します。 ※PLCはシーケンサを指します

2) 選択欄の□をクリックします

■ : 選択

□ : 未選択

※汎用機 No. 1**-1~32 のみ使用してください。

3) 名称や機能および表示内容を設定する

汎用機器詳細設定画面にて、以下の項目などを設定します。

機器名称 (ショート名、ロング名)

操作設定 (操作、スケジュール)

操作表示 (表示、更新選択)

異常・警告状態表示

TG-2000旧バージョンアイコンの使用可否設定

選択	汎用機No. (アドレス)	汎用機器名 (ショート/ロング)
■	101-1	1F-001 1F管理室空調機
■	101-2	1F-002 1F機械室空調機
□	101-3	101-3 101-3

汎用機器設定画面

汎用機アドレス

汎用機器のアドレスを表示します。

機器名称設定

汎用機器の名称 (ショート名、ロング名) を設定します。

操作設定

汎用機器の操作設定の機能を設定します。

- ・操作
- ・スケジュール

操作表示設定

汎用機器の操作表示の機能を設定します。

- ・表示の有無
- ・更新選択

※表示文字を変更可能。

旧バージョン

アイコン使用設定

管理画面にて旧バージョンアイコンの使用可否を設定します。

異常・警告状態表示の設定

汎用機器の異常表示の有無と表示文字を設定します。

OK ボタン

汎用機器の機能を設定後には、[OK]ボタンをクリックします。

汎用機器詳細設定画面

4) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、汎用機器設定画面に戻ります。

5) 全汎用機器の設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。新規の場合は初期値が設定されます。

お知らせ

- 汎用機器名称は最大20文字まで入力できます。
- 運転、停止、異常の表示文字は最大4文字まで入力できます。
- 名称や表示文字には「'」（シングルクォーテーション）は使用できません。
- 汎用機器の操作設定・表示機能は「操作」「運転状態自動更新」を推奨致します。「操作指令時のみ更新」を使用した場合は、画面表示と汎用機器の実状態とミスマッチになるケースがあります。

汎用機器の設定内容を変更する

[操作方法]

1) 汎用機器 No. を選択します

変更したい汎用機器 No. をクリックすると、サブメニューが表示されます。

2) [変更] ボタンを選択します

サブメニューから [変更] を選択すると、汎用機器詳細設定画面が表示されます。

3) 変更内容を設定します

汎用機器詳細設定画面で変更する内容を設定します。

4) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、汎用機器設定画面に戻ります。

選択	汎用機No. (アドレス)	汎用機器名 (ショート/ロング)
<input checked="" type="checkbox"/>	101-1	1F-001 1F管理室空調機
<input checked="" type="checkbox"/>	101-2	1F-002 1F機械室空調機
<input type="checkbox"/>	101-3	101-3 101-3

変更
コピー
貼り付け

汎用機器の機能をコピーする

[操作方法]

1) 汎用機器 No. を選択します

変更したい汎用機器 No. をクリックすると、サブメニューが表示されます。

2) [コピー] ボタンを選択します

サブメニューから [コピー] を選択すると、汎用機器の設定内容がコピーされます。

3) 汎用機 No. をクリックし、[貼り付け] を選択します

貼り付けたい汎用機 No. をクリックして、[貼り付け] を選択すると、設定内容が汎用機器設定画面に反映されます。

※汎用機器名称はそのままコピーされますので、汎用機器詳細設定画面にて変更してください。

選択	汎用機No. (アドレス)	汎用機器名 (ショート/ロング)
<input checked="" type="checkbox"/>	101-1	1F-001 1F管理室空調機
<input checked="" type="checkbox"/>	101-2	1F-002 1F機械室空調機
<input type="checkbox"/>	101-3	101-3 101-3

変更
コピー
貼り付け

8. 10 室内機フリー接点機能設定

本統合ソフトTG-2000で監視する室内機フリー接点に接続する汎用機器の情報を設定します。

お知らせ

室内ユニットのフリー接点を使用するためには室内機のディップスイッチを変更し、フリー接点を有効にする必要があります。下記を参照して設定してください。

室内ユニットのフリー接点对応機種はR410A対応機種またはR407C対応 Ver. 33以降（*1）になります。

*1: メンテナンスツールにて室内ユニットのバージョン表示部分で確認できます。また、フリー接点に未対応の室内モデルがあります。室内ユニットの据付または取扱説明書にその旨の記載がありますので、参照ください。

機能	スイッチ設定値			他の機能		備考
	SW1-10	SW1-9	SW1-5	電源発停・ 停電自動復帰	遠方表示切換	
フリー接点	SW1-10	SW1-9	SW1-5	電源発停・ 停電自動復帰	遠方表示切換	備考
有効	ON	ON	ON	停電自動復帰	無効	従来のスイッチ設定内容と異なる。
			OFF	無効		
無効	ON	OFF	ON	電源発停	サーモ ON 信号表示	従来のスイッチ設定内容による。
			OFF		送風機出力表示	
	OFF	ON	ON	停電自動復帰	サーモ ON 信号表示	
			OFF		送風機出力表示	
	OFF	OFF	ON	無効	サーモ ON 信号表示	
			OFF		送風機出力表示	

(参考) フリー接点对応機種以前は、SW1-5：遠方表示切換、SW1-9：停電自動復帰、SW1-10：電源発停の意味づけとなります。

室内ユニットのフリー接点を有効にすると、外部入出力 CN32, CN51, CN52 の従来機能（CN51 の運転状態、異常出力以外）は動作しません。

8. 10. 1 設定手順と制約

室内機フリー接点機能設定の前に、注意事項と手順を確認します。

[操作方法]

- 1) [室内機フリー接点機能設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある
[室内機フリー接点機能設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
準備画面の警告表示の内容について、問題が無いかどうかを確認します。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

室内機フリー接点機能設定は、以下の手順で実施します。

STEP 1 汎用機器設定



準備画面

8. 10. 2 汎用機器設定 (STEP 1)

汎用機器ボタン
汎用機器の設定ができません。メニューには、変更／コピー／貼り付けがあります。

選択ボタン
汎用機器の有無を選択します。
■：選択（あり）
□：未選択（なし）

ジャンプボタン
入力した番号の行に移動します。

設定汎用機器台数
設定している汎用機器の台数を表示します。

機能表示
設定した汎用機器の機能を表示します。

選択	番号	名称	操作出力		操作状態入力		異常状態入力	
			接点番号	状態表示	接点番号	状態表示	接点番号	状態表示
<input checked="" type="checkbox"/>	1	FC1 FC1	01-001 CN52-2	運転 停止	01-001 CN32-2	運転 停止	01-001 CN32-3	異常
<input checked="" type="checkbox"/>	2	FC2 FC2	01-001 CN52-3	運転 停止	01-001 CN51-2	運転 停止	01-001 CN52-5	異常
<input checked="" type="checkbox"/>	3	FC3 FC3	01-001 CN52-4	運転 停止	01-002 CN32-2	運転 停止	01-002 CN32-3	異常
<input type="checkbox"/>	4	FC4 FC4						
<input type="checkbox"/>	5	FC5 FC5						
<input type="checkbox"/>	6	FC6 FC6						
<input type="checkbox"/>	7	FC7 FC7						
<input type="checkbox"/>	8	FC8 FC8						
<input type="checkbox"/>	9	FC9 FC9						
<input type="checkbox"/>	10	FC10 FC10						
<input type="checkbox"/>	11	FC11 FC11						
<input type="checkbox"/>	12	FC12 FC12						
<input type="checkbox"/>	13	FC13 FC13						
<input type="checkbox"/>	14	FC14 FC14						

汎用機器の項目を設定します。

完了 キャンセル

汎用機器設定画面

汎用機器のアドレスや機能および名称を設定する

[操作方法]

1) 選択欄の□をクリックします

■：選択

□：未選択

※設定できる汎用機器台数はG-150AD/G-50の台数により異なります。また、最大で2000台になっています。

お知らせ

・汎用制御PLC (Ver. 2以降) を接続しない場合、本機能は使用できません。

汎用機番号

汎用機器の番号を表示します。

名称設定

汎用機器の名称（ショート名、ロング名）を設定します。

入出力設定

使用する入出力接点を設定します。また、表示文字や表示色の設定もします。

汎用機器番号
汎用機器番号: 1

名称設定
ショート名: FC1, ロング名: FC1

入出力設定

- 操作出力
 - IC: 01-001
 - 接点: CN52-2 [選択]
 - 表示文字の設定: 運転 (緑)
 - 停止 (黒)
- 操作状態入力
 - IC: 01-001
 - 接点: CN32-2 [選択]
- 異常状態入力
 - IC: 01-001
 - 接点: CN32-3 [選択]
 - 表示文字の設定: 運転 (異常) (オレンジ)

OK キャンセル

接点設定ボタン
接点番号を設定する時にクリックします。

OK ボタン
汎用機器の機能を設定後には、[OK]ボタンをクリックします。

汎用機器詳細設定画面

2) 名称を設定する

名称設定でロング名、ショート名を設定します。

3) 入出力を設定する

接点の設定で使用する入出力を設定します。

4) 接点番号を設定する

接点の設定で使用する接点番号を設定します。

[選択] ボタンを選択します。

接点選択画面が表示されます。G-50番号に接続されている室内機アドレスが表示されます。

室内機アドレスの \oplus マークをクリックすると接点番号が表示されます。ご使用になる接点番号をクリックし [OK] ボタンを選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。

G-50番号の下の \oplus マークをクリックすると、EC番号が表示されます。

5) 表示文字と表示色を設定する

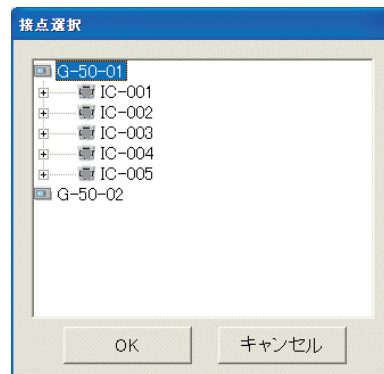
接点の設定でアイコンに使用する表示文字と表示色を設定します。

6) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、汎用機器設定画面に戻ります。

7) 全汎用機器の設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。新規の場合は初期値が設定されます。



お知らせ

- 汎用機器名称は最大20文字まで入力できます。
- 運転、停止、異常の表示文字は最大8文字まで入力できます。
- 名称や表示文字には「」(シングルコーテーション) は使用できません。
- 汎用機器の機能は次の項目が設定できます。
 - 操作用出力設定、操作用状態入力設定、異常状態入力設定
- 接点設定で「操作用出力設定」を有効に「操作用状態入力設定」を無効にした場合は、画面表示と汎用機器の実状態とミスマッチになるケースがあります。
- 本機能にスケジュール機能はありません。
- 接点設定した接点番号は、他の汎用機器に使用できません。

汎用機器の設定内容を変更する

[操作方法]

1) 番号を選択します

変更したい番号をクリックすると、サブメニューが表示されます。

2) [変更] ボタンを選択します

サブメニューから [変更] を選択すると、汎用機器詳細設定画面が表示されます。

3) 変更内容を設定します

汎用機器詳細設定画面で変更する内容を設定します。

4) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、汎用機器設定画面に戻ります。



汎用機器の機能をコピーする

[操作方法]

1) 番号を選択します

変更したい番号をクリックすると、サブメニューが表示されます。

2) [コピー] ボタンを選択します

サブメニューから [コピー] を選択すると、汎用機器の設定内容がコピーされます。

3) 番号をクリックし、[貼り付け] を選択します

貼り付けたい番号をクリックして、[貼り付け] を選択すると、設定内容が汎用機器設定画面に反映されます。

※汎用機器名称はそのままコピーされますので、汎用機器詳細設定画面にて変更してください。



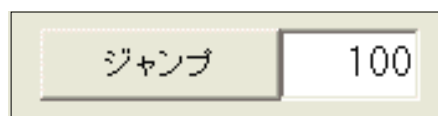
希望の番号へジャンプする

[操作方法]

1) ジャンプ欄に移動したい行番号を入力します

2) [ジャンプ] ボタンを選択します

[ジャンプ] ボタンをクリックすると、入力した行番号へジャンプします。



8. 1.1 監視表示設定

本統合ソフトG-2000の管理画面で監視表示するためのフロア名称、平面図、および、操作用ブロック等の情報を設定します。

8. 1.1. 1 設定手順と制約

監視表示設定の前に、注意事項と手順を確認します。

監視表示設定前に確認します

[操作方法]

- 1) [監視表示設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある[監視表示設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示の内容を確認し、問題なければ、[OK] ボタンをクリックして、設定に進みます。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

監視表示設定は、以下の手順で実施します。

- | | |
|--------|---------------------|
| STEP 1 | 形名設定 |
| STEP 2 | 全体フロア数と全体フロア名の設定 |
| STEP 3 | 全体平面図の作成 |
| STEP 4 | フロア数とフロア名の設定 |
| STEP 5 | 平面図の作成 |
| STEP 6 | 全体フロアとフロアの関連設定 |
| STEP 7 | フロアとG-150AD/G-50の設定 |
| STEP 8 | グループアイコンの配置と名称設定 |
| STEP 9 | ブロック設定 |



監視表示設定準備画面

ユーザー設定1でフロア分割の設定が「しない」の場合は以下の表示となります。

- | | |
|--------|---------------------|
| STEP 1 | 形名設定 |
| STEP 2 | フロア数とフロア名の設定 |
| STEP 3 | 平面図の作成 |
| STEP 4 | フロアとG-150AD/G-50の設定 |
| STEP 5 | グループアイコンの配置と名称設定 |
| STEP 6 | ブロック設定 |

お知らせ

- ・機能の有無により、表示しない画面があります。

8. 1.1. 2 形名設定 (STEP 1)

本システムに接続される空調機ユニット (室外機、室内機、サブユニット、ロスナイ等) の形名を設定します。

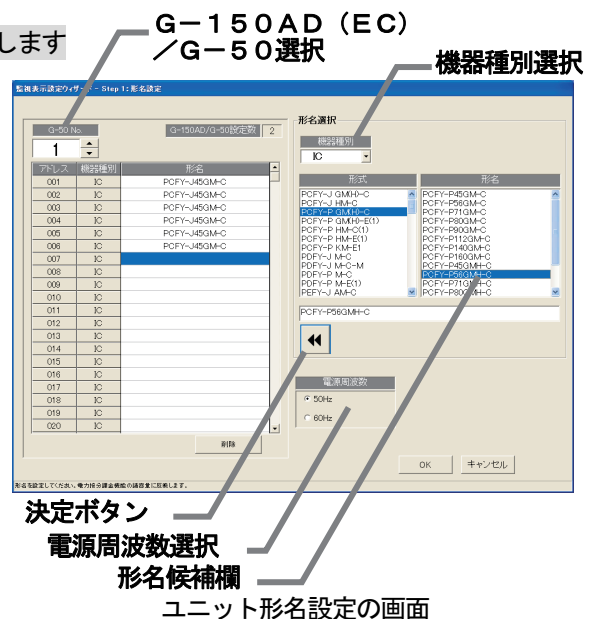
お知らせ

- ・課金機能に本形名設定のデータを使用しています。
形名変更すると、データが更新され、そのデータを用いて計算されますので、ご注意ください。
- ・複数の室外機構成の場合、OCには、セット形名のものを設定してください。
- ・本機能を使用すると、メンテナンス時に形名確認が容易になります。

ユニットに形名を設定します

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50 No. の▲/▼ボタンを選択します
ユニット形名を設定するG-150AD/G-50の番号を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 2) 設定するユニットを選択します
同じ形名を設定するユニットをクリックして選択します。該当ユニットのセルが青色表示し、形名設定対象になります。
※クリックする度に選択、未選択に切り替わります。
また、複数ユニットを選択できます。
- 3) 種別、分類、形名を選択します
設定したいユニットの形名を種別、形名から選択します。(種別: IC, LC, FU, OC, BC/BS, OS, DC, MCT, MCP) 選択すると、形名候補欄に形名が表示されます。
※機器種別の内容は8.7.3章を参照ください。



- 4) 形名決定後に [決定] ボタンを選択する
 選択した形名がユニット形名欄に反映されます。

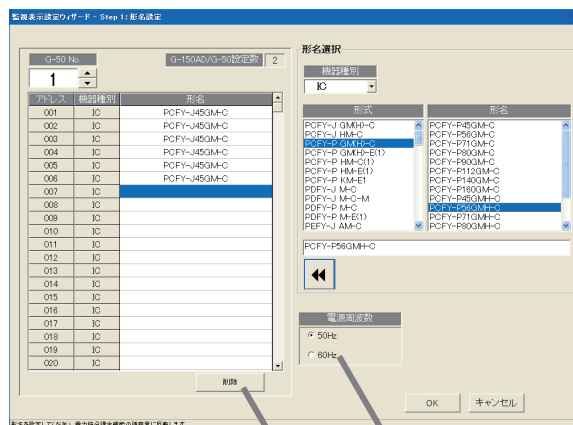
お知らせ

- ・形名は形名候補欄に手入力することもできます（候補にない形名は手入力できません）。「」（シングルコーテーション）は使用できません。
- ・KIC, AICの種別はデータベースにありませんので、手入力してください。
 AICには、A制御機種種のセット形名の入力を推奨します。
- ・リモコンやシステムコントローラ等の形名設定はできません。
- ・電力按分課金支援機能を使用し、かつ、形名変更した場合、課金システム設定の設定内容を確認してください。各ユニットの容量値が変更されています。

形名の設定を削除します

[操作方法]

- 1) 形名を削除するユニットを選択します
 形名を削除したいユニットをクリックして選択します。選択した対象セルが青色表示し、形名削除対象になります。また、複数ユニットを選択できます。
- 2) [削除] ボタンを選択します
 [削除] ボタンをクリックします。選択したユニットの形名が削除されます。



電源周波数選択

形名削除ボタン

使用周波数を設定します

[操作方法]

- 1) 周波数を選択します
 電源周波数選択により、使用周波数を選択します。
 50Hz：電源周波数50Hz（初期値）
 60Hz：電源周波数60Hz

形名設定の終了方法

[操作方法]

- 1) 全形名の設定完了後に [OK] ボタンを選択します
 ※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

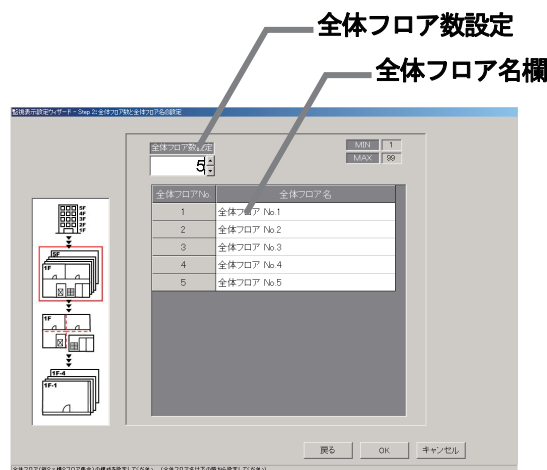
8. 1. 1. 3 全体フロア数と全体フロア名の設定 (STEP 2)

管理するビル全体のフロア数と全体フロア名称を設定します。

全体フロア数と全体フロア名称を設定します

[操作方法]

- 1) 全体フロア数を▲/▼ボタンで選択します
 ▲/▼ボタンをクリックして必要な全体フロア数を設定します。
- 2) 全体フロア名欄を選択し、全体フロア名を入力します
 選択した全体フロアに対して、名称を設定します。
 ※全体フロア名を設定したい全体フロア名欄をクリックすると、全体フロア名を入力できる状態になり、全体フロア名を入力します。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
 ※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



全体フロア数と全体フロア名称の設定画面

お知らせ

- ・全体フロア数は1～99まで設定できます。
- ・全体フロア名称は最大16文字まで入力できます。
 (フロア名称は重複しても設定可能です。「」（シングルコーテーション）は使用できません。)

8. 11. 4 全体フロアの平面図の作成 (STEP 3)

各全体フロアの平面図を作成します。この平面図が空調機の操作・監視を行なうときにサブ画面で表示するフロア分割前の全体フロア画面になります。

平面図を表示しない場合は作成する必要はありません（背景は白色となります）。

注意

- ・ TG-2000用として作成したフロア図を、G-150AD用のフロア図として使用することはできません。また、G-150AD用として作成したフロア図を、TG-2000用のフロア図として使用することも同様にできません。

全体フロアの平面図を作成します

【操作方法】

1) ベース図面の [変更] アイコンを選択します

平面図の設定画面にて、ベース平面図を編集するために、ベース図面の [変更] ボタンをクリックします。ペイントが自動的に立ち上がります。

ベース図面は、全体フロア画面の元となる平面図です。各全体フロア画面は、このベース図面をコピーして各フロアに合わせて変更して作成します。

お願い

- ・ ペイントが起動された段階でファイル名・画面サイズは、設定されていますので、これらについては変更しないでください。変更すると、作成した図が正しく表示されない場合があります。

(※全体フロアのベース平面図 4 分割用

名前 : BaseFloor1000.bmp サイズ : W174 H100

全体フロアのベース平面図 6 分割用

名前 : BaseFloor2000.bmp サイズ : W261 H100)

2) ベースの平面図を作成します

ペイントでベース平面図を作成します。

※詳細は、Windows のユーザーズガイドを参照ください。

3) ペイントを終了します

ペイントのメニューバー中の [ファイル] をクリックして、[ペイントの終了] を選択します。保存確認画面で [はい] を選択して、上書きします。

4) 選択フロアを▲/▼ボタンで選択します

平面図を表示または作成・変更したいフロアを▲/▼ボタンでクリックします。

5) [コピー] ボタンを選択します

選択したフロアの平面図にベース図面を流用するときに [コピー] ボタンをクリックします。

※新規に平面図を作成する場合は、フロア図面の [コピー] ボタンをクリックする必要はありません。

6) フロア図面の [変更] ボタンを選択します

選択したフロアの平面図を編集・作成するために、フロア図面の [変更] ボタンをクリックします。ペイントが起動し、平面図を編集できます。

7) フロアの平面図を作成します

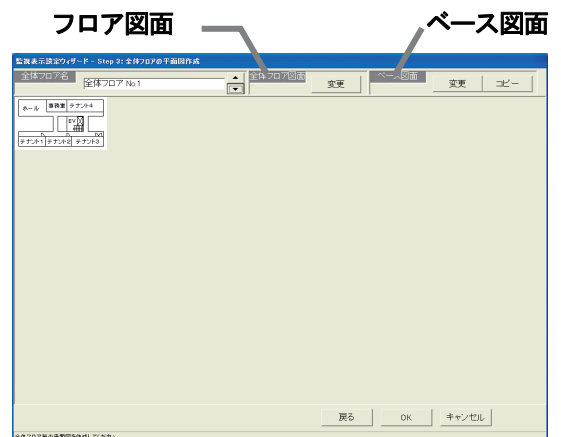
選択したフロアの平面図からペイントを使用して、作成したい図に編集してください。

8) ペイントを終了します

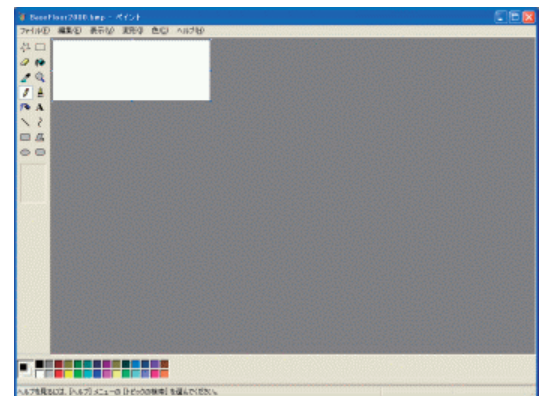
ペイントのメニューバー中の [ファイル] をクリックして、[ペイントの終了] を選択します。保存確認画面で [はい] を選択して保存します。

9) 全平面図を作成完了すると、[OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



平面図の設定画面



ペイントの画面 (初期状態)

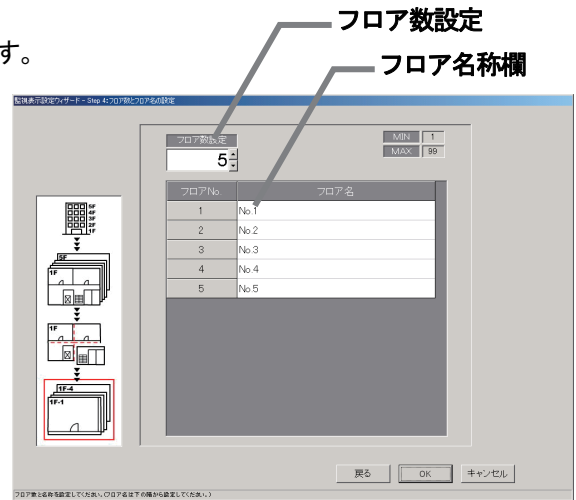
8. 11. 5 フロア数とフロア名の設定 (STEP 4)

管理するビルフロアのフロア数 (区画数) とフロア名称を設定します。

フロア数とフロア名称を設定します

[操作方法]

- 1) フロア数を▲/▼ボタンで選択します
▲/▼ボタンをクリックして必要なフロア数を設定します。
- 2) フロア名称欄を選択し、フロア名称を入力します
設定したフロアに対して、フロア名称を設定します。
※フロア名称を設定したいフロア名称欄をクリックすると、フロア名称を入力できる状態になり、フロア名称を入力します。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



フロア数とフロア名称の設定画面

お知らせ

- ・フロア数は1～99まで設定できます。
- ・フロア名称は最大16文字まで入力できます。
(フロア名称は重複しても設定可能です。「r」(シングルコーテーション) は使用できません。)

8. 11. 6 フロアの平面図の作成 (STEP 5)

各フロアの平面図を作成します。この平面図が空調機の操作・監視を行なうときのフロア画面になります。平面図を表示しない場合は作成する必要はありません (背景は白色となります)。

各フロアの平面図を作成します

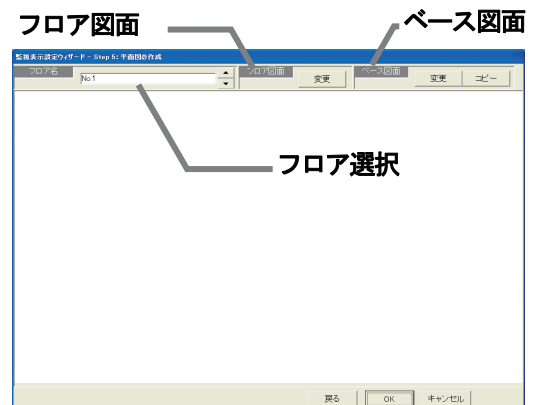
[操作方法]

- 1) ベース図面の [変更] アイコンを選択します
平面図の設定画面にて、ベース平面図を編集するために、ベース図面の [変更] ボタンをクリックします。ペイントが自動的に立ち上がります。
ベース図面は、各フロア画面の元となる平面図です。各フロア画面は、このベース図面をコピーして各フロアに合わせて変更して作成します。

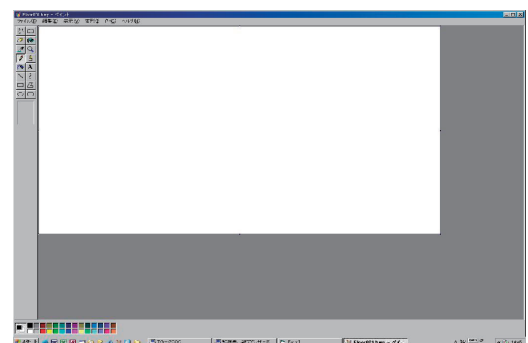
お願い

- ・ペイントが起動された段階でファイル名・画面サイズは、設定されていますので、これらについては変更しないでください。変更すると、作成した図が正しく表示されない場合があります。
(※ベース平面図 名前: Floor000.bmp サイズ: W 1000 H 575)

- 2) ベースの平面図を作成します
ペイントでベース平面図を作成します。
※詳細は、Windows のユーザーズガイドを参照ください。
- 3) ペイントを終了します
ペイントのメニューバー中の [ファイル] をクリックして、[ペイントの終了] を選択します。保存確認画面で [はい] を選択して、上書きします。
- 4) 選択フロアを▲/▼ボタンで選択します
平面図を表示または作成・変更したいフロアを▲/▼ボタンでクリックします。
- 5) [コピー] ボタンを選択します
選択したフロアの平面図にベース図面を流用するときに [コピー] ボタンをクリックします。
※新規に平面図を作成する場合は、フロア図面の [コピー] ボタンをクリックする必要はありません。



平面図の設定画面



ペイントの画面 (初期状態)

- 6) フロア図面の [変更] ボタンを選択します
 選択したフロアの平面図を編集・作成するために、フロア図面の [変更] ボタンをクリックします。
 ペイントが起動し、平面図を編集できます。
- 7) フロアの平面図を作成します
 選択したフロアの平面図からペイントを使用して、作成したい図に編集してください。
- 8) ペイントを終了します
 ペイントのメニューバー中の [ファイル] をクリックして、[ペイントの終了] を選択します。
 保存確認画面で「はい」を選択して保存します。
- 9) 全平面図を作成完了すると、[OK] ボタンを選択します
 ※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

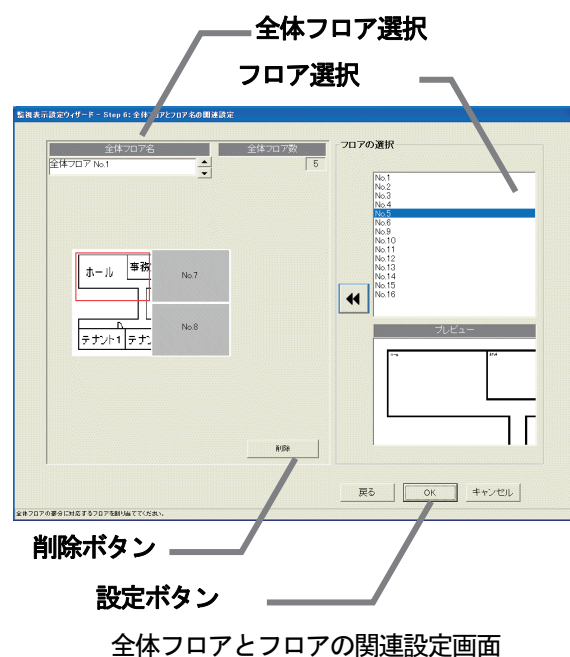
8. 1.1. 7 全体フロアとフロアの関連設定 (STEP 6)

全体フロア画面であるサブ画面に表示する部分とフロアの関連を設定します。

全体フロアとフロアの関連を設定します

[操作方法]

- 1) 全体フロア名を選択します
 サブ画面に表示する全体フロア名を▲/▼ボタンで選択します。
 - 2) 関連づける位置を選択します
 全体フロアから関連づけたい位置をクリックします。
 選択された状態になります。
 - 3) 関連づけるフロアを選択します
 フロアの選択から関連づけるフロアを選択します。
 - 4) 設定ボタンをクリックします
 全体フロアに選択したフロアが関連づけられ、フロア名称が表示されます。
 - 5) 全設定が完了すると、[OK] ボタンを選択します
 全体フロア分の関連づけを完了してから、[OK] ボタンをクリックします。
- ※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



全体フロアとフロアの関連設定画面

お知らせ

- ・ [OK] ボタン選択時には、すべてフロアの関連づけが設定されていない場合は、注意メッセージが表示されます。設定の必要なフロアは設定しているかを確認ください。

全体フロアとフロアの関連づけ設定を削除します

[操作方法]

- 1) 全体フロアを選択します
 サブ画面に表示する全体フロアを▲/▼ボタンで選択します。
- 2) 削除したい部分を選択します
 全体フロア画面で削除したいフロアを選択します。
- 3) [削除] ボタンをクリックします
 [削除] ボタンをクリックすると、そのフロアはフロア選択に移動します。

8. 11. 8 フロアとG-150AD/G-50の設定 (STEP 7)

ビルの各フロアに対応するG-150AD/G-50を設定します。

フロアとG-150AD (EC) /G-50の対応を設定します [操作方法]

1) 対応G-150AD (EC) /G-50を選択します
各フロアに対応するG-150AD (EC) /G-50のチェックボタン (□) をクリックします。

- : 未選択状態
- : 選択状態

すべてのフロアに対して、対応するG-150AD (EC) /G-50を設定します。

(一つフロアに対して、G-150AD (EC) /G-50を5つまで設定可能)。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、拡張コントローラ単位で未選択/選択を設定します。

2) [OK] ボタンを選択します

フロアとG-150AD (EC) /G-50の対応を全フロアに対して設定完了後、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



フロアとG-150AD/G-50の設定画面

8. 11. 9 グループアイコンの配置と名称設定 (STEP 8)

各フロアの平面図にグループアイコンを配置します。また、グループの名称 (LCD名、ショート名、ロング名) を設定します。

各フロアにグループアイコンを配置し、グループ名を設定します [操作方法]

1) フロアを▲/▼ボタンで選択します

グループアイコンの配置設定画面にて、フロアを▲/▼ボタンで選択します。

2) グループを選択します

配置するグループをグループリスト画面から室内機または換気グループをクリックして選択します。

3) 配置場所を設定します

選択したグループを配置したい場所にマウスポインタを移動して、クリックします。すると、グループ名設定画面が表示されます。

※グリッドを有効にすると、グループアイコン配置がきれいにできます。

4) グループ名称を設定します

LCD名、ショート名、ロング名を設定します。

※汎用機器にはLCD名称はありません。

5) 表示アイコンを設定します

ユニット毎に表示するアイコンを設定します。左右の矢印ボタンを押し、アイコンを選択してください。

ユーザーアイコン登録の方法

アイコンをユーザー側で独自に作成し、ファイルで取込みができます。

ユーザーアイコン登録ボタンを押すと、ユーザーアイコン登録画面が表示されます。

設定するアイコンNo. を指定します。(1~10)

画像ファイル選択ボタンを押し、用意した画像を指定してください。

※画像サイズ: 幅 50pixel、高さ 40pixel

登録完了後、設定ボタンを押して確定してください。

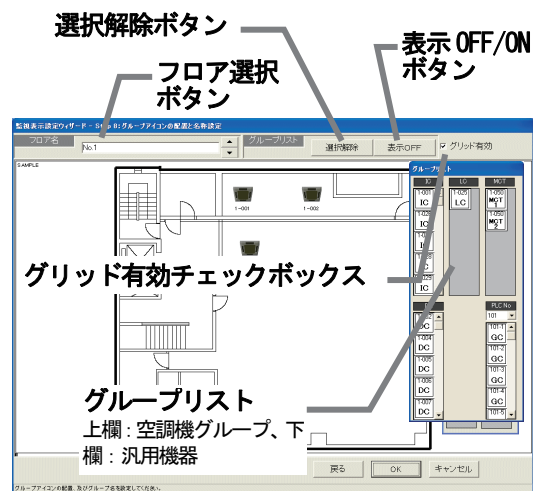
6) 上記1) ~ 5) を繰り返します

各フロアのすべてのグループアイコンを配置し、グループ名を設定します。

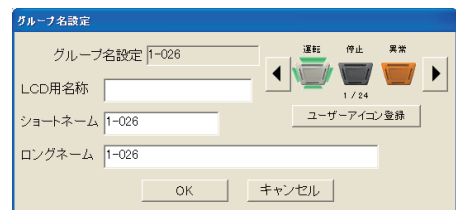
7) 配置完了すると、[OK] ボタンを選択します

全フロア完了してから、[OK] ボタンをクリックします。

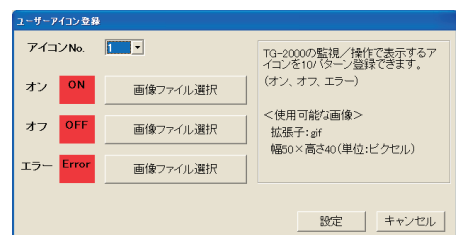
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



グループアイコンの配置設定画面



グループ名設定画面



ユーザーアイコン登録設定画面

お知らせ

- グループ名称は以下の文字数まで入力できます。
※LCD名称とは、G-50本体の液晶に表示するグループ名です。
(LCD名称の「-」はマイナスを使用)
LCD名称：10文字 ショート名称：8文字 ロング名称：20文字
管理画面フロア表示でのグループアイコンには、ショート名称が表示されます。
(使用する文字(半角/全角)によっては8文字全て表示できない場合があります。
「」(シングルコーテーション)「<」「>」「&」「'」(ダブルコーテーション)は使用できません。
(全て半角文字です。))
 - グループアイコンをすべてフロアに配置していない状態で[OK]ボタンをクリックすると、注意表示をします。再度、グループ配置と名称設定を行なってください。
 - G-150AD/G-50から収集したグループ名はそのまま使用できます。
- ※配置されていないグループは次ステップの操作ブロック設定が行なえません。操作ブロックが設定されていないと、課金ブロックを設定できませんので、課金按分計算の対象となりません。
ご注意ください。(配置されていなくても全館一括での運転操作は可能です。)**

アイコン配置の削除、名称変更、配置移動します

配置したグループアイコンの削除、グループ名称の変更、または、グループ配置の移動を行ないます。

[操作方法]

1) 配置アイコンをクリックします

サブメニューの削除・名称変更・移動が表示されます。

2) 「削除」「名称・アイコン変更」または「移動」を選択します

アイコン配置の削除 : [削除] ボタンをクリックすると、グループアイコンがフロア表示から削除され、グループリスト欄に戻ります。

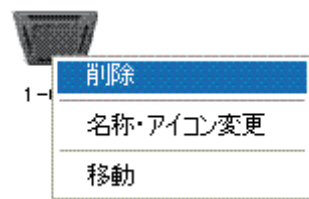
名称・アイコンの変更 : [名称・アイコン変更] ボタンをクリックします。

グループ名設定画面が表示され、設定したい名称・アイコンに変更します。

アイコンの移動 : [移動] ボタンをクリックすると、そのアイコンが選択された状態になります。

次に、移動したい場所にマウスポインタを移動し、クリックすると

アイコンが移動されます。



お知らせ

- 画面上部の[選択解除]ボタンをクリックすると、選択したグループアイコンを解除できます。
- 画面上部の[表示OFF]ボタンをクリックすると、グループリスト画面が表示されなくなります。また、[表示ON]ボタンをクリックすれば表示されます。

8. 11. 10 ブロック設定 (STEP 9)

操作作用のブロックとしてグループ単位に設定することができます。本(操作作用)ブロックは電力按分課金支援にも使用されます。

グループのブロックを設定します

[操作方法]

1) フロアを▲/▼ボタンで選択します

ブロック設定画面にて、ブロックを設定したいフロアを▲/▼ボタンで選択します。

2) グループアイコンを選択します

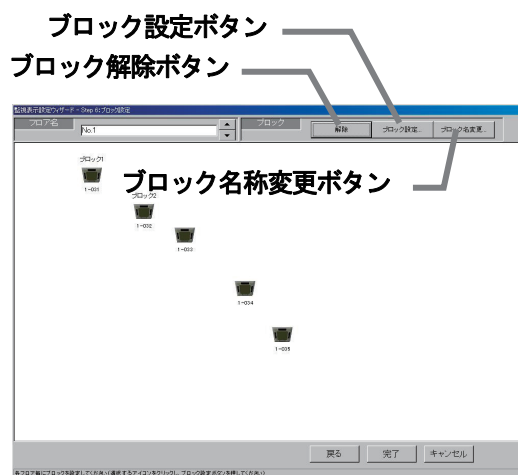
ブロック設定したいグループアイコンをクリックして、選択状態(赤枠表示)にします。グループアイコンは複数選択できます。

※グループアイコンをクリックする毎に選択/未選択が切り替わります。

3) [ブロック設定] ボタンをクリックします

ブロック設定するグループアイコンを選択した状態で、

[ブロック設定] ボタンをクリックします。ブロック設定と名称の設定画面が表示されます。

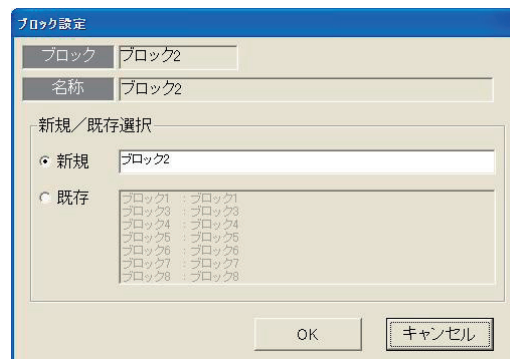


ブロック設定の設定画面



グループアイコン選択/未選択状態表示

- 4) [新規] または [既存] を選択します
ブロック設定と名称の設定画面で、ブロックを新規設定するか、あるいは、既に設定されたブロックに設定するかをオプションボタンで選択します。
- 5) ブロック名を設定または選択します
ブロックが新規の場合は、ブロック名称を入力設定します。また、既存のブロックを使用する場合は、設定するブロック名をリストから選択します。
- 6) ブロック設定後に [OK] ボタンをクリックします
ブロック設定されたグループアイコンには、「ブロック**」が表示されます。(** : ブロックNo.)
※最大2000ブロック
- 7) 上記1)～6)を繰り返します
各フロアのグループをすべてブロック設定します。
- 8) 設定完了後に、[完了] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



ブロック設定と名称の設定画面

お知らせ

- ・ブロック名称は最大20文字まで入力できます（「' < > & “ 」は使用できません）。
- ・グループアイコンをすべてブロック設定していない状態で [完了] ボタンをクリックした場合は注意を表示します。本画面に戻って、再度ブロック設定を全て行なってください。
- ・電力按分課金機能を有する場合は、すべてのグループをブロック設定していない場合、空調料金に反映されませんので、必ずブロック設定してください。
- ・基本的に操作ブロックはG-150AD/G-50のブラウザ（またはG-150AD液晶画面）のブロック設定と同じになります。
統合ソフトG-2000の操作ブロック設定はG-150AD/G-50をまたがって設定できますが、この場合はG-150AD/G-50内部では別々のブロック設定になります。

ブロック設定を解除します

ブロック設定したグループをブロック解除します。

[操作方法]

- 1) グループアイコンを選択します
ブロック設定を解除したいグループアイコンをクリックして、選択状態にします。
- 2) [解除] ボタンを選択します
[解除] ボタンをクリックすると、選択されたグループのブロック設定が解除されます。グループアイコンに表示している「ブロック**」は消えます。

お知らせ

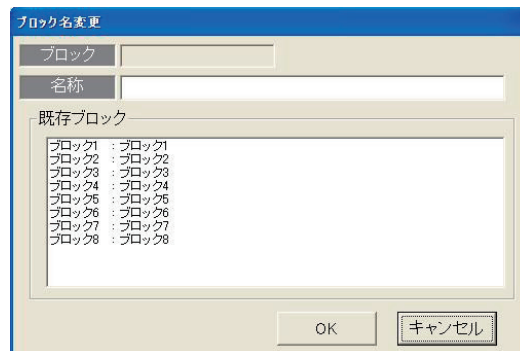
- ・ブロックに属しているグループが一つなくなると、ブロック自体解除しても良いかの確認表示を表示します。ブロック自体削除しても良い場合は、[OK] ボタンを選択してください。
解除しない場合は、[キャンセル] ボタンを選択してください。

ブロック名称を変更します

設定したブロック名称を変更します。

[操作方法]

- 1) 「ブロック名変更」ボタンをクリックします
ブロック設定の設定画面にある [ブロック名変更] ボタンをクリックします。
- 2) ブロックを選択します
名称を変更したい既存ブロックをクリックします。上部のブロックと名前欄に選択したブロックのブロック名称が表示されます。
- 3) ブロック名称を変更します
変更したいブロック名称に変更します。引き続き、他の変更したいブロック名称を変更します（上記の2）～3）。
- 4) 変更完了後に、[OK] ボタンを選択します
名称変更したい全てのブロックのブロック名称変更を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。
変更したブロック名に反映されます。



ブロック名称の変更画面

※ [キャンセル] ボタンを選択すると変更したブロック名は無効になり、前のブロック名のままです。

8. 1 2 計量計設定

計量計の接続を設定します

この計量計設定では、接続する電力量カウンタPLCの台数およびIPアドレスの設定と、計量計台数、種類、アドレス、名称およびパルス単位等を設定します。電力量計/計量計接続ありの場合のみ、設定できます。

※計量MCの計量計については、8.8.4章を参照ください。

お願い（注意）

- 課金機能に関わる設定内容を変更する場合は、前日までの精算（期日指定）を先に実施し、印刷あるいは手元に結果を残してから、変更してください。精算を実施しない場合は課金按分が正常に計算できません。当月の精算は a) + b) + 基本料金になります。
 - a) 精算日翌日～前日→期日指定精算
 - b) 当日～次の精算日→期日指定精算また、変更した日は正常に計算できないケースがあります。
※期日指定精算についての詳細は管理編「9. 3 空調料金出力」を参照ください。

8. 1 2. 1 設定手順と制約

電力量計の設定や変更する前に、注意事項を確認します。

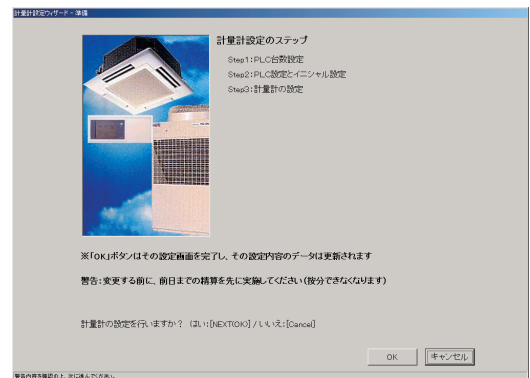
計量計設定の準備します

[操作方法]

- 1) [電力量計設定] ボタンを選択します
初期画面から、システム設定グループの [計量計設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

電力量計 (WHM) 設定は、以下の順番で実施します。

- STEP 1 PLC台数設定
- STEP 2 PLC設定とイニシャル設定
- STEP 3 計量計の設定

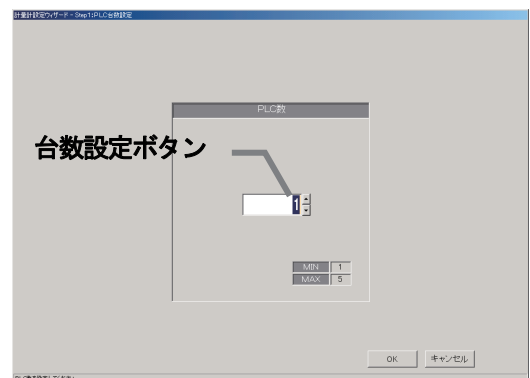


計量計設定の準備画面

8. 1 2. 2 PLC台数設定 (STEP 1)

PLC (シーケンサ) の接続台数を設定します

- 1) PLCの接続台数を選択します
PLCの接続台数を▲/▼をクリックして選択します。
※接続台数：1～5台
- 2) [OK] ボタンを選択します
設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



PLC台数設定画面

お知らせ

- 計量計（電力量計含む）台数は、PLC 1台につき32台まで設定できます。
- 計量計はパルス発信装置付き機種のみ接続が可能で、レベル出力式には対応していません。（電力量カウンタソフトの据付説明書を参照ください。）

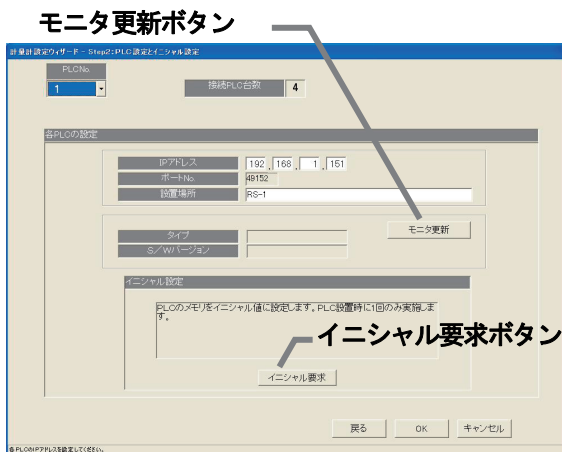
8. 12. 3 PLC設定とイニシャル設定 (STEP 2)

PLCのIPアドレスを設定します

- 1) PLCのNo. を▼ボタンで選択します
IPアドレスを設定するPLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) IPアドレスを設定します
PLCのIPアドレスを統合ソフトに登録します。
※PLCへのIPアドレスの設定は、PLC側で実施します。
推奨IPアドレス：192.168.1.151～155
上記1)～2)を繰り返して、全接続PLCのIPアドレスを設定します。

PLCのバージョンをモニタします

- 1) PLCのNo. を選択します
バージョンモニタするPLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) [モニタ更新] ボタンを選択します
PLC接続設定画面の[モニタ更新] ボタンをクリックすると、PLCソフトの種類とバージョンをモニタし、その結果が表示されます。
※アドレス設定や通信確認に失敗すると、注意メッセージが表示されます。設定内容を確認してください。
※PLCのバージョンモニタで通信できているかを確認することができます。



PLC接続設定画面

PLCのイニシャル設定を実施します

- 1) PLCのNo. を選択します
イニシャル設定するPLCのNo. を▼ボタンをクリックして選択します。
- 2) [イニシャル設定] ボタンを選択します
PLC接続設定画面の[イニシャル要求] ボタンをクリックすると、PLCのメモリを初期値に設定し、使用できる状態に変更します。

注意

- ・PLCへイニシャル設定すると、全設定値を初期値に変更しますので、今までの全データが削除されます。
本「イニシャル設定」機能は、PLCの初期設定時に1回のみ実施してください。
運用中に実施すると、電力量データも消去され、電力課金按分が正しく算出できません。

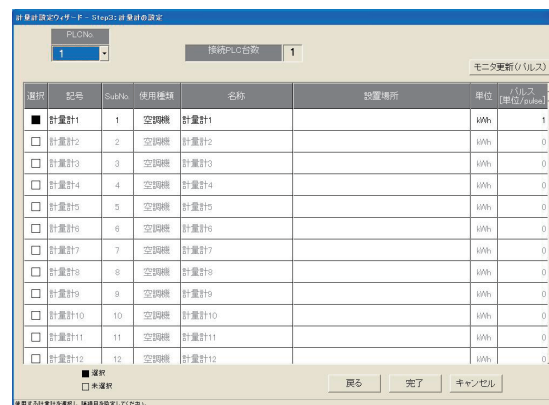
本PLC接続設定画面を終了します

- 1) 全設定を完了すると、[OK] ボタンを選択します
※[キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

8. 12. 4 計量計の設定 (STEP 3)

計量計の種類、名称、設置場所およびパルス単位を設定します

- 1) PLC No. を▼ボタンで選択します
設定するPLC No. を▼ボタンをクリックして選択します。 ※PLCはシーケンサを指します。
- 2) 使用する計量計を選択します
■：選択
□：未選択
- 3) 名称や設置場所およびパルス単位を設定する
選択した計量計の使用種類、名称、設置場所、パルスの単位を設定します。
※使用種類：空調機、電気1、電気2、ガス、水道、熱量
- 4) 設定完了後に[完了] ボタンを選択します
※[キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



計量計設定画面

お知らせ

- ・名称と設置場所は最大20文字まで入力できます。(「」(シングルクォーテーション)は使用できません。)
- ・計量計のパルス単位は必ず設定してください。使用積算量が正しく計測できないため、課金機能が正常に動作しません。
- ・モニタ更新ボタンでパルス設定のみPLCからモニタできます。

8. 1.3 課金システム設定

本統合ソフト（TG-2000）システムの電力按分課金支援のシステム情報を設定します。本設定を行わないと正常に電力按分課金支援が動作しません。

お願い（注意）

- ・設定内容を変更する場合は、前日までの精算（全期日指定）を先に実施し、印刷などを行なって手元に結果を残してから、変更してください。精算を実施しない場合は課金按分が正常に計算できません。当月の精算は a) + b) + 基本料金になります。
 - a) 精算日翌日～前日→全期日指定精算
 - b) 当日～次の精算日→全期日指定精算
- また、変更した日は正常に計算できないケースがあります。
 - ※期日指定精算についての詳細は管理編「9. 3 空調料金出力」を参照ください。

8. 1.3. 1 設定手順と制約

課金システム設定の手順と注意事項を確認します。

課金システムを設定します

[操作方法]

- 1) 「課金システム設定」ボタンを選択します
初期画面からシステム設定グループの「課金システム設定」ボタンをクリックします。課金システム設定の準備画面が表示されます。
- 2) 表示内容を確認後、「OK」ボタンを選択します
警告表示の内容を確認し、問題なければ、「OK」ボタンをクリックして、設定に進みます。
 - ※「キャンセル」ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

課金システム設定は、以下の順番で実施します。

- STEP 1 按分モードの設定
- STEP 2 室外機－電力量計対応の設定
- STEP 3 室外機設定
- STEP 4 室内機－電力量計対応の設定
- STEP 5 室内機設定
- STEP 6 課金用ブロック設定



課金システム設定の準備画面

お知らせ

- ・[OK] [完了] ボタンは、その設定内容を反映させます。
- ・[キャンセル] ボタンはその画面の設定変更内容を無効として、課金システム設定を終了します。
- ・[戻る] ボタンは、その画面の変更内容を無効として、一つ前の設定画面に戻ります。
- ・数字・文字入力の項目は、右クリックによりコピーやペーストが可能です。
- ・本統合ソフトTG-2000の「電力量計接続なし」電力按分課金（電力量手入力）の場合、下記のステップは表示されずにスキップします。
 - STEP 2 室外機－電力量計対応の設定
 - STEP 3 室外機設定
 - STEP 4 室内機－電力量計対応の設定

8. 13. 2 按分モードの設定 (STEP 1)

本電力按分課金支援の按分計算に使用する基準データや按分モードを選択します。

按分モードや按分基準データを選択します

〔操作方法〕

- 1) 按分モードを選択します
 選択する按分モードのオプションボタンをクリックします。
- 2) 選択後に、[OK] ボタンを選択します
 設定を完了すると、本設定画面の [OK] ボタンをクリックします。
 ※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

①按分基準データ

室外機は、運転電力量と待機電力量の2つに分けられます。室外機の運転電力量を室内機の運転の基準データを元に按分します。

- 基準データ 1** : 能力セーブ量 (使用電力量) … (初期値)
基準データ 2 : サーモ時間 (圧縮機使用時間)
基準データ 3 : FAN 運転時間 (使用時間)

②室外機の按分モード

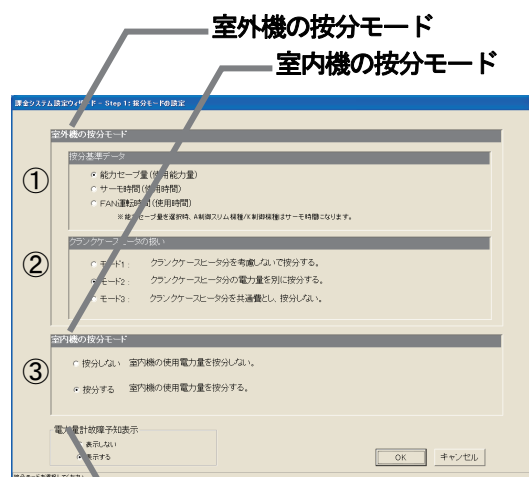
待機電力量相当であるクランクケースヒータ分をどのようなモードで按分するかを選択します。

- モード 1** : クランクケースヒータ分を考慮しないで按分する … (初期値)
モード 2 : クランクケースヒータ分の電力量を別に按分する … (初期値)
モード 3 : クランクケースヒータ分を共通費とし、按分しない

③室内機の按分モード

室内機の使用電力量 (主に FAN) を按分するモードを選択します。

- 按分しない** : 室内機の使用電力量を按分しない
按分する : 室内機の使用電力量を積算時間×消費電力で按分する … (初期値)



按分モードの設定画面

電力量計故障予知表示

室外機または室内機用の電力量計に対して故障予知機能を有しており、故障予知の表示機能を有効/無効を選択できます。(初期値は「表示する」) 故障予知は管理画面に表示されます。

お知らせ

- ・ 電力按分課金 (電力量手入力) 機能 (WHM接続なし) は「按分基準データ」の選択しかできません。
- ・ 能力セーブ量とは、室内機の使用運転能力 (係数) に応じた使用量を時間として積算したものです。
- ・ 按分モードの選択は、そのシステムや要求に適したものを設定してください。
- ・ 電力按分課金 (電力量手入力) 機能では、室内機の運転量 (基準データ) を基に計算します。
- ・ フリープランシステム以外の機種が存在する場合は、按分基準を「能力セーブ量」以外に設定してください。フリープランシステム以外の機種は「能力セーブ量」での按分ができません。
- ・ A制御機種、及び、K制御機種が存在する場合、按分基準に「能力セーブ量」が選択されていても、自動的に「サーモ ON 時間」に変更して按分を実行します。(室外機用電力量計単位。電力量手入力方式では全館。)

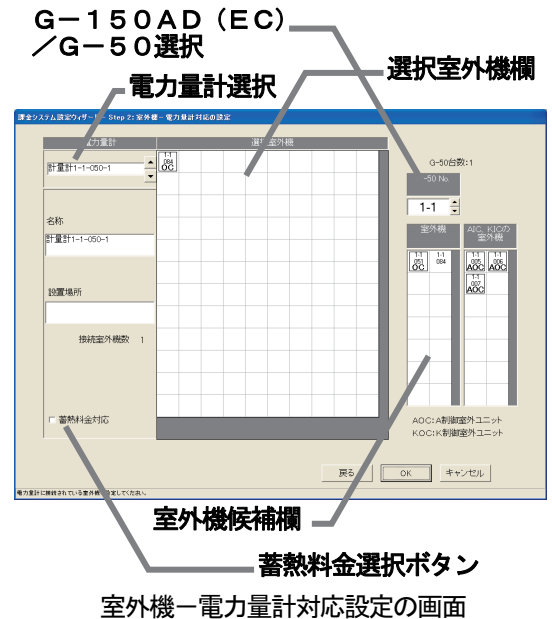
8. 1.3.3 室外機—電力量計対応設定 (STEP 2)

電力量計に接続されている全室外機を設定します。

室外機と電力量計の対応を設定します

[操作方法]

- 1) 電力量計を▲/▼ボタンで選択します
室外機に接続する電力量計を▲/▼ボタンで選択します。
※選択するのは、室外機に対応する電力量計のみです。
- 2) G-150AD (EC) / G-50のNo. を▲/▼ボタンで選択します
電力量計に接続する室外機があるG-150AD (EC) / G-50番号を選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 3) OC/OC-I, AOC, KOCのアイコンを選択し、**選択室外機欄**をクリックします
電力量計に接続された室外機のアイコンをクリックして選択します。その後、**選択室外機欄**をクリックします。すると、室外機はその電力量計に接続されます。
- 4) 上記1), 2), 3) を繰り返します
その電力量計に接続されている室外機を全て設定します。また室外機との接続がある全ての電力量計に対して設定します。
- 5) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



電力量計接続の解除方法

電力量計との接続設定した室外機を解除できます。

[操作方法]

- 1) 解除したいアイコンを選択します
解除したい室外機のアイコンをクリックすると、そのユニットの電力量計接続は解除されます。

お知らせ

- ・電力量計と未対応の室外ユニットが存在する場合、注意表示します。再度確認して再設定してください。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金 (電力量手入力) の場合、本設定画面は表示されません。

蓄熱料金対応の電力量計設定方法

電力量計単位で蓄熱料金を適用したいときに設定します。

[操作方法]

- 1) [蓄熱料金選択] ボタンを選択します
設定したいWHMを選択し、[蓄熱料金選択] ボタンをクリックして、有効にします。

お知らせ

- ・電力量計単位で蓄熱料金を適用する場合に選択します。
ただし、空調機の電力量按分にはOC-Iの存在により自動的に蓄熱料金を適用します。
- ・本電力量計に蓄熱料金を適用し、選択室外機には蓄熱課金の按分方法を適用しますのでご注意ください。

お願い (注意)

課金計算方法の相違、空調機器の性能 (COP) の相違により、正確な課金結果が得られなくなるため、下記の場合は機種毎に別々の電力量計に接続してください。

- ・蓄熱機種と非蓄熱機種
- ・ビルマルチ、A制御機種、K制御機種、設備PAC

8. 13. 4 室外機設定 (STEP3)

電力量計に接続されている室外機のクランクケースヒータを設定します。接続されている室外機全てに対し、設定します。

室外機のクランクケースヒータを設定します

【操作方法】

1) G-150AD (EC) /G-50のNo.を▲/▼ボタンで選択します

クランクケースヒータを設定したい室外機が接続されたG-150AD (EC) /G-50の番号を▲/▼ボタンで選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。

このとき、G-50 No.は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。

2) クランクケースヒータを設定します

各室外機のクランクケースヒータ欄をクリックして、クランクケースヒータの値 (W) を設定します。

クランクケースヒータは各機種により異なりますので、カタログ等を参照ください。

※データベースに存在するユニット形名を設定した室外機は、クランクケースヒータの値を自動的に表示します。

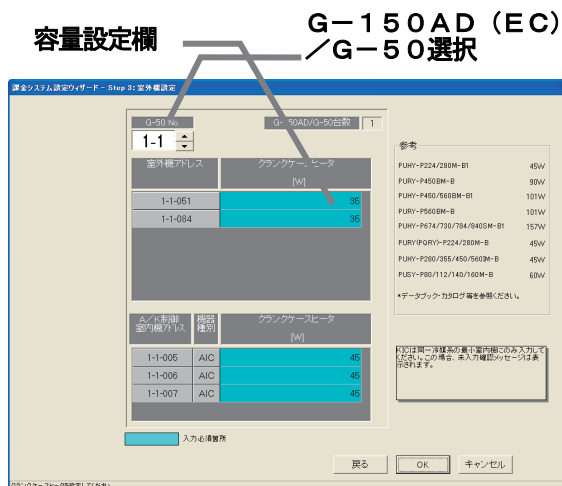
3) 上記1), 2) を繰り返します

電力量計に接続された全室外機を設定します。

A/K制御機種については、AIC、KICと表示されます。

4) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



室外機の設定画面

形名 (一例)	クランクケースヒータ
PUHY-P224/280RM-C	45W
PURY-P450M-B	90W
PUHY-P450/560M-B1	101W
PUHY-P674/730/784/840SM-B1	157W
PUSY-P80/112/140/160M-B	60W(相当)

お知らせ

- ・電力量計に接続された室外機は水色表示しています。形名設定した室外機がデータベースに該当している場合、そのクランクケースヒータが自動表示されます。その値を確認し、必要に応じて修正ください。
- ・クランクケースヒータは機種形名により異なりますので、データブック、カタログ等を参照ください。
- ・[OK] ボタンを選択したとき、電力量計に接続された室外機のうち、クランクケースヒータ容量を設定していない (0W) 室外機は黄色表示されます。必要に応じて修正してください。
- ・電力量計に接続された室外機に1台でもクランクケースヒータ容量を設定していない場合 (0W)、注意表示します。再度設定値を確認してください。
- ・クランクケースヒータを設定しないと課金按分に影響を及ぼす場合があります。
- ・SET-Y および大型機種の組み合わせマルチの場合は、OCに、セット形名での合計クランクケースヒータを使用ください。(OSは本設定画面に表示されません。)
- ・按分モード1を選択した場合、本設定画面は表示されません。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金 (電力量手入力) の場合、本設定画面は表示されません。
- ・室外機に複数のK制御室内機 (KIC) が接続されている場合、その冷媒系内では、アドレスの最も小さいKICにのみクランクケースヒータを設定しその他は0Wに設定してください。
この場合、未入力確認メッセージが表示されますが、無視して設定を継続してください。
- ・登録されている形名以外の、クランクケースヒータ等のデータはカタログ等を参照して入力してください。また、K制御機種のクランクケースヒータは自動設定されません。
- ・待機電力量の主な部分として、クランクケースヒータの値を使用しており、その値が実際の待機電力量ではありません。クランクケースヒータ電力量は固定値となります。実際の待機電力量がクランクケースヒータ電力量を上回った場合、室外機使用電力量分として停止中の室内機に按分される場合があります。
- ・「8. 11. 2 形名設定」にて、候補の形名を設定した時点で、クランクケースヒータの値を自動的に反映します。候補にない形名を手動入力された場合は、手動でクランクケースヒータの値を入力する必要があります。
クランクケースヒータなしのA制御機種に対しては、A制御室外機の待機電力相当値をクランクケースヒータに設定してください。

8. 13. 5 室内機一電力量対応設定 (STEP 4)

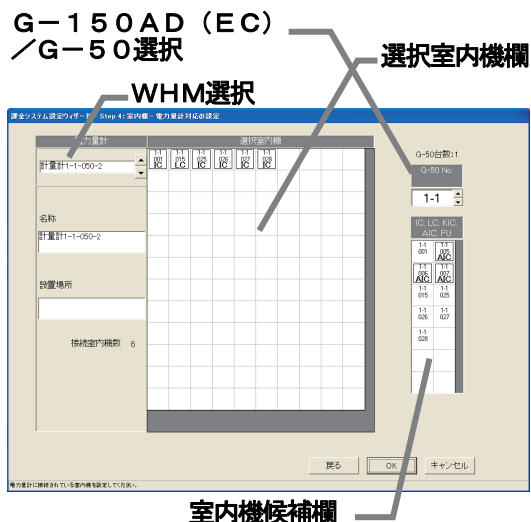
電力量計に接続されている室内機を設定します。

室内機と電力量計の対応を設定します

[操作方法]

- 1) 電力量計を▲/▼ボタンで選択します
室内機に接続する電力量計を▲/▼ボタンで選択します。選択するのは、室内機に対応する電力量計のみです。
- 2) G-150AD (EC) /G-50のNo.を▲/▼ボタンで選択します
電力量計に接続する室内機があるG-150AD (EC) /G-50の番号を選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No.は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。
- 3) ICのアイコンを選択し、選択室内機をクリックします
電力量計に接続された室内機のアイコンをクリックして選択します。その後、選択室内機欄をクリックします。選択された室内機は、その電力量計に接続されます。
- 4) 上記1), 2), 3)を繰り返します
その電力量計に接続されている室内機を全て設定します。また、室内機との接続がある全ての電力量計に対して設定します。
- 5) 設定完了後に [OK] を選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。



室内機一電力量計対応設定の画面

お知らせ

- ・「A/K課金しない」設定の場合、IC, LC, FUとKIC, AICを一緒に同じ電力量計に接続できません。また、KICとAICも別の電力量計に接続してください。
- ・大型室内機 (2台以上のユニットに換算する形名) は、専用の電力量計に接続してください。
- ・電力量計と未対応の室内ユニットが存在する場合、注意表示します。確認して再設定してください。
- ・室内機の按分モードを“按分しない”に選択した場合、本設定画面は表示されません。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金 (電力量手入力) の場合、本設定画面は表示されません。

電力量計接続の解除方法

電力量計との接続設定した室内機を解除できます。

[操作方法]

- 1) 解除したいアイコンを選択します
解除したい室内機のアイコンをクリックすると、そのユニットの電力量計接続は解除されます。

8. 13. 6 室内機設定 (STEP 5)

G-150AD (EC) /G-50に接続される全ての室内機にパラメータを設定します。

室内機の能力、消費電力と補助電気ヒータを設定します

[操作方法]

- 1) G-150AD (EC) /G-50のNo.を▲/▼ボタンで選択します
能力を設定する室内機が接続されたG-150AD (EC) /G-50の番号を▲/▼ボタンで選択します。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No.は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。



室内機の設定画面

2) 能力、消費電力と補助電気ヒータを設定します

室内機の能力と消費電力及び補助電気ヒータを「室内機冷房能力」「消費電力（冷房）」「補助電気ヒータ」欄をクリックして入力します。

※室内機の能力は室内機の「冷房能力」の値を、消費電力は室内機の「冷房」の消費電力の値を、補助電気ヒータには室内機の「組み込み補助電気ヒータ仕様」の値（補助電気ヒータが接続されていない場合は0）を設定します。

※「8. 1. 1. 2 形名設定」にて設定した形名がデータベースに存在する室内機は、値を自動的に表示しますので、値を確認します。

3) 全室内機を設定した後、[OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- 全ての室内機の各容量欄は設定必須項目として水色表示しています。室内機における冷房能力と消費電力（冷房）及び補助電気ヒータを入力してください。
 ※補助電気ヒータが接続されていない室内機は、補助電気ヒータの設定は「0kW」にしてください。
 ※補助電気ヒータが接続されている室内機の場合、補助電気ヒータには、補助電気ヒータ個別の消費電力ではなく、組み込み補助電気ヒータ仕様の値を設定してください。
- 「8. 1. 1. 2 形名設定」にて形名を設定した室内機の形名が内部データに該当している場合、その設定が自動表示されます。その値を確認して、必要に応じて修正ください。
- [OK] ボタンを選択したとき、補助電気ヒータを除いた設定必須項目のうち、「0kW」の項目は黄色表示されます。必要に応じて修正してください。
- 課金按分対象ではないユニットの設定は「0kW」にしてください。
- 室内機の各設定は、機種形名により異なりますので、データブック、カタログ等を参照ください。
 A制御機種で複数の室内機を同時運転するセット形名の場合は、室内機の能力はセット形名の室外機の冷房能力を入力してください。
 フリーコンポマルチ仕様の場合は、室内機の能力は室内機の冷房能力の合計を入力してください。
 また、室内機の消費電力、補助電気ヒータも各合計を入力してください。
 ※室内機の按分モードを「按分しない」の設定の場合でも、室外機・室内機同一電源の構成のA制御機種を接続している場合、A制御機種の室内機の消費電力を必ず入力してください。
- 複数のアドレスを使用する大型室内機の場合は、それぞれのアドレスに、データブック、カタログ等に記載の「室内機冷房能力」「消費電力（冷房）」「補助電気ヒータ」をアドレス数で等分した値を設定してください。
 例) 2アドレスの大型室内機 冷房能力 45kW、消費電力（冷房）1.62kW、補助電気ヒータなしの場合
 2つの個々のアドレスに、冷房能力 22.5kW、消費電力（冷房）0.81kW、補助電気ヒータ 0kW を設定
 ※なお、複数のアドレスを使用する大型室内機のユニットアドレスは、同一グループに設定してください。（「8. 7. 5 グループ設定」を参照ください。）
- 本設定が必要なユニットにて、一台でも設定しないユニットが存在した場合、注意表示します。設定内容を確認して、再設定してください。
- 電力按分課金対象の全室内機に各設定を正しく設定していないと、正しく按分計算できませんのでご注意ください。
- 室内機の按分モードを「按分しない」に選択した場合、室内機の冷房能力および消費電力（冷房）を設定してください。
- **電力量計接続なしの電力按分課金（電力量手入力）の場合、**
 室内機の冷房能力、消費電力（冷房）および補助電気ヒータを設定してください。
 ※課金ブロックに属するユニットの各容量を「0kW」以外にすると、比率計算に含むことができます。
 （フリープランロスナイ：消費電力、K制御・A制御室内機：冷房能力、消費電力（冷房）、補助電気ヒータ
 K制御は按分基準データの「能力セーブ量」は使用できません。
 一部機種は対応できないケースがあります。フリープラン室内機のみデータの保守ができます。）

8. 1. 3. 7 課金用ブロック設定（STEP 6）

操作作用ブロックを使用して、課金用ブロックを設定します。
 この課金用ブロック毎に電力按分課金支援の空調料金を算出します。

課金用ブロックを設定します

[操作方法]

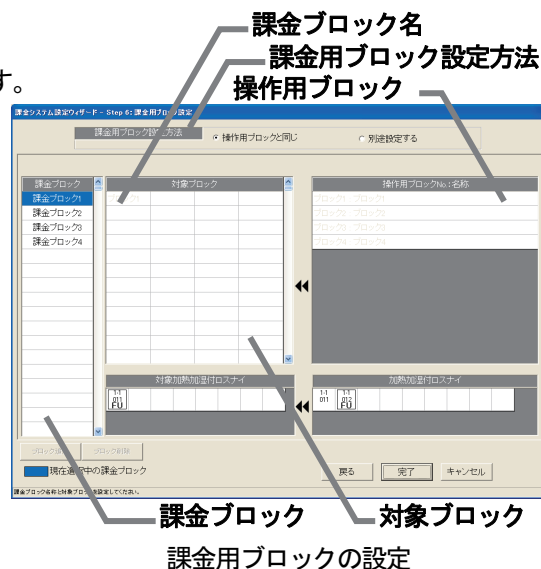
1) 課金用ブロック設定方法を選択します

「操作作用ブロックと同じ」または「別途設定する」の方法をオプションボタンで選択します。

操作作用ブロックと同じ：課金用ブロックを操作作用ブロックと同じにする。

別途設定する：課金用ブロックを別途設定する

操作作用ブロックと同じにする場合は、「操作作用ブロックと同じ」を選択されていることを確認し、6)に進みます。



別途設定の「設定方法」

「別途設定する」を選択すると、操作ブロックと同じ内容が課金用ブロックとして表示されます。

2) 課金用ブロックを選択します

設定したい課金用ブロックを課金ブロック欄から選択します。選択された課金ブロックはセルが青色になります。

3) 課金ブロック名称を入力します

課金ブロック名欄に課金ブロックの名称を入力します。

4) 操作ブロックを選択します

操作ブロック（操作ブロック No.・名称）欄から課金ブロックとして設定したい操作ブロックをクリックして、選択状態にします。

※未設定操作ブロックがないと表示されません。「課金用ブロックを削除します」の方法で、選択したい操作ブロックを未設定状態にします。

5) 対象ブロック欄に移動します

選択したブロックを課金対象ブロック欄をクリックします。その操作ブロックがその課金用ブロックに登録されます。

6) 加熱加湿付ロスナイ（FU）をブロック設定します

加熱加湿付ロスナイを課金対象ブロックに含める場合、対象加熱加湿付ロスナイ欄に移動させます。

7) 全ての設定を完了した後、[完了] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・ブロック名称は、最大20文字まで設定できます。（「'」（シングルコーテーション）は使用できません。）
- ・課金用ブロック設定は最大2000ブロックまで設定可能であり、課金用ブロックは操作ブロックから構成されます。
- ・空調料金の精算は課金用ブロック単位で行います。按分可能空調機のみ、対象となります。
- ・課金用ブロックに設定していない操作ブロックが存在した場合、注意表示します。設定内容を確認して、再設定してください。
- ・ユーザー設定2で、加熱加湿付ロスナイ課金“しない”に設定した場合は、加熱加湿付ロスナイは表示されません。

課金用ブロックを削除します

課金用ブロックを削除し、設定されていた操作ブロックを未設定状態にします。

[操作方法]

1) 課金用ブロックを選択します

設定解除したいブロックをクリックすると、そのブロックが選択されます。（青色表示）

2) [ブロック削除] ボタンをクリックします

[ブロック削除] ボタンをクリックすると、その課金用ブロックが削除され、設定されていた操作ブロックは「操作ブロック No.・名称」欄に戻ります。

課金用ブロックから操作ブロックを設定解除します

ある操作ブロックを課金用ブロックから設定解除します。

[操作方法]

1) 対象の課金ブロックを選択します

設定解除したい操作ブロックが設定している課金ブロックをクリックします。選択された課金ブロックは青色表示します。

2) 対象ブロックを選択します

「ブロック対象」欄にある解除したい操作ブロックをクリックします。その操作ブロックは、設定解除され「操作ブロック No. : 名称」欄に移動されます。

課金用ブロックを追加します

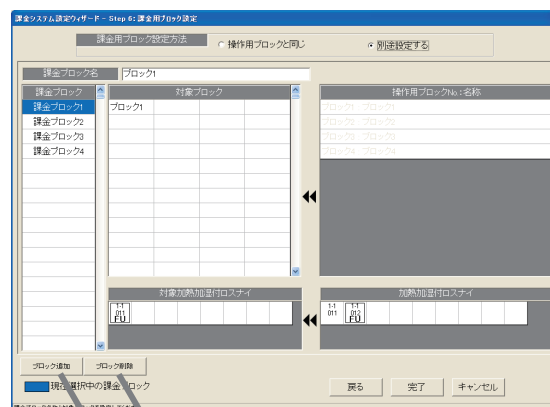
新しい課金用ブロックを追加します。

[操作方法]

1) [ブロック追加] ボタンを選択します

課金用ブロックを追加する場合は、[ブロック追加] ボタンをクリックします。存在しない最小のブロック No. として、課金ブロックが追加されます。

※課金用ブロック名や設定などは、前述の「課金用ブロック設定します」を参照ください。



ブロック削除ボタン
ブロック追加ボタン
課金用ブロックの設定

8. 14 料金設定

本統合ソフト（TG-2000）システムの電力按分課金支援の基本料金、週間料金、年間料金などを設定します。

本設定を行なわないと正常に電力按分課金支援と電力量カウンソフトが動作しません。基本料金設定は管理画面からも設定できます。

お願い（注意）

- 設定内容を変更する場合は、前日までの精算（全期日指定）を先に実施し、印刷あるいは手元に結果を残してから、変更してください。精算を実施しない場合は課金按分が正常に計算できません。

当月の精算は a) + b) + 基本料金になります。

a) 精算日翌日～前日→全期日指定精算

b) 当日～次の精算日→全期日指定精算

また、変更した日は正常に計算できないケースがあります。

※期日指定精算についての詳細は管理編「9. 3 空調料金出力」を参照ください。

- 週間料金、年間料金の料金時間帯の設定変更は、変更当日から有効です。変更の前日以前は設定変更前の料金時間帯で精算が行なわれます。

8. 14. 1 設定手順と制約

料金設定の手順と項目を確認します

料金設定を実施します

[操作方法]

- 1) [料金設定] ボタンを選択します

初期画面からシステム設定グループの [料金設定] ボタンをクリックします。料金設定の画面が表示されます。

※ [設定完了] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。

設定項目：

- ・基本料金
- ・週間料金（電気の料金単価）
- ・計量計の料金単価
- ・季節期間
- ・年間料金
- ・精算日設定

料金設定を終了します

[操作方法]

- 1) [設定完了] ボタンを選択します

諸項目の設定を完了し、料金設定画面の [設定完了] ボタンをクリックすると、初期設定画面に戻ります。

料金設定画面のスクリーンショット。項目と設定値は以下の通りです。

使用通貨	円
基本料金	設定無し
季節期間	設定無し
週間料金 (電気の料金単価)	
年間料金	設定無し
計量計の料金単価	設定有り
精算日設定	月末

各種設定内容を変更した時点でその設定値に変更されますのでご注意ください。変更する前に前日までの空調料金の精算を先に実施してください。

設定完了

料金設定画面

8. 14. 2 基本料金設定（STEP 1）

ブロック単位および電力量計／計量計単位の基本料金（月当り）を設定します。

ただし、按分課金対象の電力量計は除きます。

基本料金を設定します

[操作方法]

- 1) 基本料金の [変更] ボタンを選択します

料金設定画面にて、基本料金の [変更] ボタンを選択して、基本料金画面を表示させます。

- 2) 基本料金を設定します

計量計、あるいは、ブロック単位に基本料金を入力設定します。

※空調機ユニットの対応電力量計には基本料金は設定できません。

- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、料金設定画面に戻ります。

基本料金

ブロック、計量計単位に基本料金（月単位）を設定します

基本料金の設定画面のスクリーンショット。2つのテーブルが表示されています。

計量計の基本料金			課金ブロックの基本料金		
計量計	名称	基本料金(円)	ブロック	名称	基本料金(円)
計量計1	ACF-F11電力量計		ブロック1	ブロック1	1000
計量計2	ACF-F12電力量計		ブロック2	ブロック2	1000
計量計3	ACF-F13電力量計		ブロック3	ブロック3	1000
計量計4	ACF-F14電力量計	1000	ブロック4	ブロック4	1000
計量計5	電灯電力量計	1000	ブロック5	ブロック5	1000
計量計6	電灯電力量計	1000	ブロック6	ブロック6	1000
計量計7	電灯電力量計	1000	ブロック7	ブロック7	1000
計量計8	電灯電力量計	1000	ブロック8	ブロック8	1000
計量計9	集水器	1000			
計量計10	ガスメータ	1000			
計量計13	ACF-F21電力量計				

ユニットの按分対応の電力量計は、設定できません。

OK キャンセル

基本料金の設定画面

お知らせ

- ・電力量計接続なしの電力按分課金（電力量手入力）の場合、本設定画面は表示されません。
- ・管理画面からでも基本料金を設定できます。

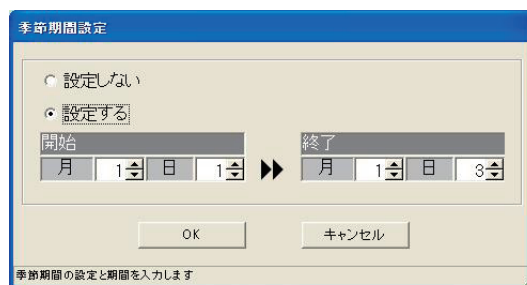
8. 1 4. 3 季節期間設定 (STEP 2)

季節料金を使用する場合に、適用する期間を設定します。

基本料金を設定します

[操作方法]

- 1) 季節期間の [変更] ボタンを選択します
料金設定画面にて、季節期間の [変更] ボタンを選択して、季節期間設定画面を表示させます。
- 2) 季節の設定有無と期間を設定します
季節料金の設定有無を選択し、設定ありの場合は、期間を設定します。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、料金設定画面に戻ります。



季節期間設定画面

お知らせ

- ・ 季節期間設定画面では、季節の設定有無と期間を設定します。料金単価は週間料金設定にて設定します。
- ・ 管理画面からでも季節期間を設定できます。

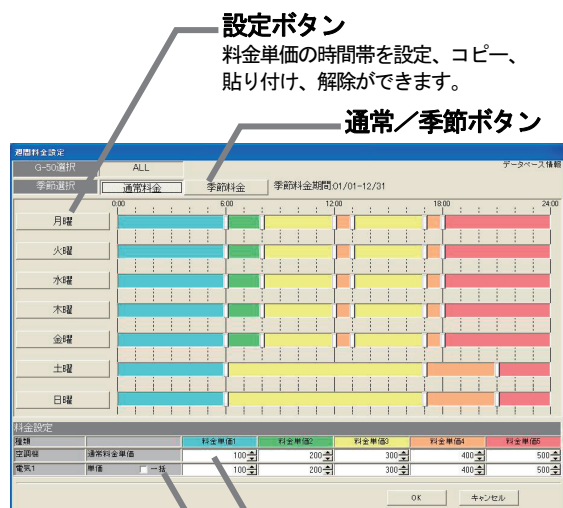
8. 1 4. 4 週間料金設定

週間の料金単価と料金時間帯を設定します。料金単価は最大5つ、料金時間帯は1日につき最大10パターンまで設定できます。また、料金単価は通常と季節期間の2系統を設定できます。

料金単価と料金時間帯を設定します

[操作方法]

- 1) 週間料金の [変更] ボタンを選択します
料金設定画面にて、週間料金の [変更] ボタンを選択して、週間料金設定画面を表示させます。
 - 2) 設定する曜日を選択します
設定する曜日をクリックして、サブメニューから [設定] ボタンを選択すると、時間帯設定画面が表示されます。
 - 3) 料金単価と料金帯時刻を設定します
時間帯の開始と終了時刻を設定し、料金単価を選択します。
 - ・ 料金単価：最大5つ
 - ・ 時間帯：最大10 (曜日毎に)
 - 4) 時間帯設定画面の [OK] ボタンを選択します
料金単価と時間帯の設定を終えると、時間帯設定画面の [OK] ボタンを選択します。
 - ※ 2) ~ 4) を繰り返し、全曜日を設定します。
 - ※ 設定には、キーボードからの入力もできます。
 - ※ 季節期間ありの場合は通常と季節の両方を設定してください。[通常料金] と [季節料金] ボタンで切替できます。
 - 5) 料金単価を設定します
料金単価 1 ~ 5 に料金単価を設定します。
 - ※ 設定には、キーボードからの入力もできます。また、蓄熱料金対応の料金単価は口をクリックします。
 - (選択)
 - (未選択)※使用する料金単価のみ設定してください。季節料金や蓄熱料金を使用する場合もそれらの料金単位も設定してください。
 - ※ 電気 1、電気 2 は一括ボタンを選択すると、全料金単価を一括設定できます。
- 6) 設定完了後に、[OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、料金設定画面に戻ります。



設定ボタン

料金単価の時間帯を設定、コピー、貼り付け、解除ができます。

通常/季節ボタン

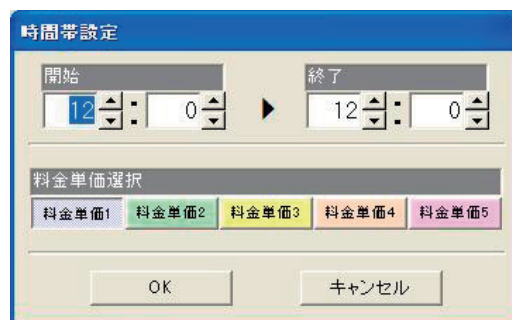
料金単価

料金単価を設定します。

一括ボタン

全料金単価を一括設定できます。

週間料金設定画面



時間帯設定画面

お知らせ

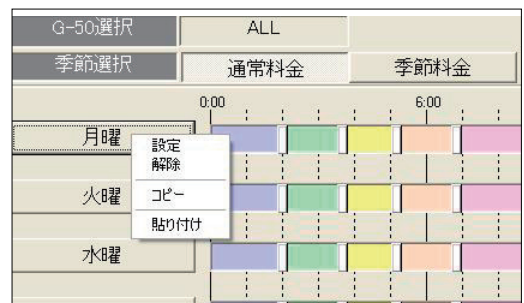
- ・設定項目に未設定箇所（0値含む）が存在する場合、注意表示しますので、確認してください。
- ・管理画面からでも週間料金設定を実施できます。
- ・初期値は料金単価 1 のみの時間帯になっています。また、料金単価の初期値は0になっています。
※蓄熱機種接続「する」の場合、初期値は料金単価 1 と 2 になります。
（蓄熱機種接続している場合、料金単価は1つにすることはできません。）
- ・電力按分課金（電力量手入力）機能（※1）でも、本画面で設定された料金単価を利用して空調料金の「料金比率」を算出します。必ず料金設定を実施してください。
※1：電力量計接続なしの電力按分課金機能です。
- ・時間帯の1日単位のスタート時刻は以下となります。
非蓄熱のみ … 00:00
蓄熱あり … 08:00
- ・料金単価は年間料金設定と共通ですので、変更の際には注意してください。

料金時間帯のコピー、貼り付け、削除します

料金の時間帯設定内容をコピー、貼り付け、または、削除を行ないます。

[操作方法]

- 1) 曜日のボタンを選択します
週間料金設定画面の曜日ボタンをクリックすると、サブメニューが表示されます。
- 2) [コピー] [貼り付け] [解除] ボタンを選択します
コピー：[コピー] ボタンをクリックすると、その曜日の時間帯設定の内容をコピーします。
貼り付け：[貼り付け] ボタンをクリックすると、コピーされている時間帯設定の内容を貼り付けします。
削除：[解除] ボタンをクリックすると、その曜日の時間帯設定内容を削除し、初期値の料金単価 1 のみの時間帯設定になります。



パターンを変更します

設定したパターンを変更する場合、本機能を使用できます。

[操作方法]

- 1) 時間帯の区切りマークをドラッグします
時間帯の区切り時刻を移動したいとき、区切りマークをドラッグして移動することができます。
移動時刻単位：10分

時間帯区切りマーク

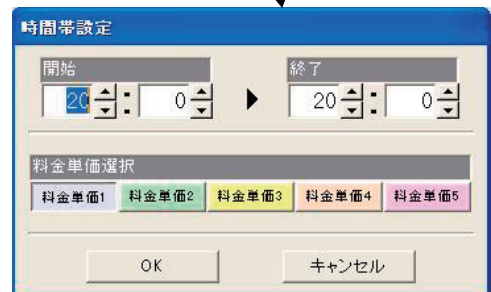


料金単価の選択を変更します

設定しているパターンのある時間帯の料金単価を変更できます。

[操作方法]

- 1) 時間帯の帯を選択します
料金時間帯の変更したい帯をクリックすると、時間帯設定画面が表示されます。(単位：1分)
- 2) 適用する料金単価を選択します
変更する料金単価ボタンをクリックして選択します。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します



8. 14. 5 年間料金設定

年間料金設定は祝日や夏季休暇などの週間料金設定にて当てはまらない日の料金を設定することができ、また、24ヶ月先（今月含む）までの範囲で50日分設定できます。

年間料金設定を行なうには、まず料金のパターン（最大5つで、パターン1～5）を設定した後に、祝日や夏季休暇などの日にパターンを割り当てます。料金単価は週間料金設定の値を使用しますので、設定は不要です。

パターンボタン

年間用のパターンを選択できます。最大5つのパターンを設定できます。

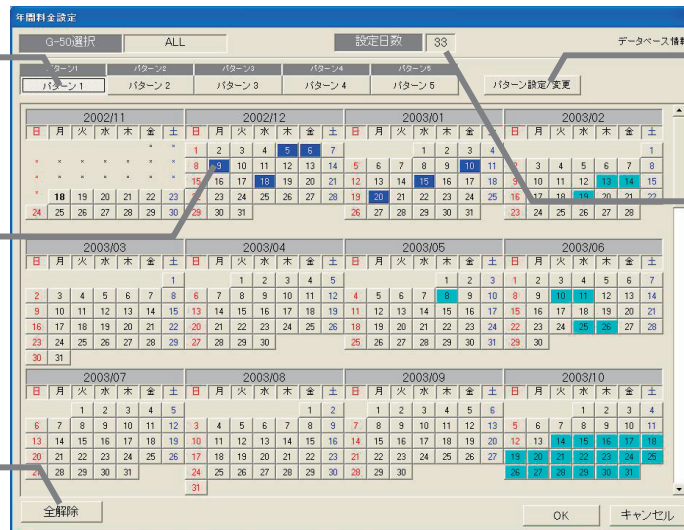
年間設定状態

年間料金の設定状態を表示します。

青色：該当パターンの設定
水色：他のパターンの設定

全解除ボタン

年間料金設定を全て解除できます。



年間料金設定画面

パターン設定/変更ボタン

年間用のパターンを設定します。クリックすると、設定画面に移行します。

年間設定日数

年間料金設定されている日数を表示します。

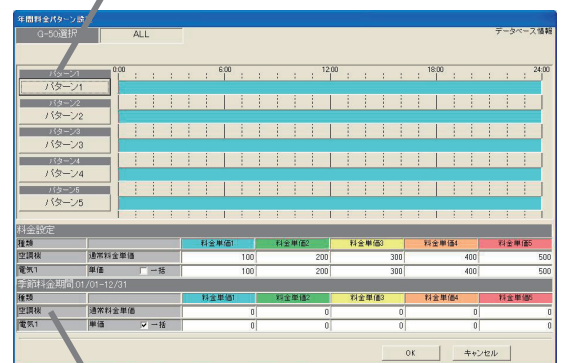
パターンと料金時間帯を設定します

【操作方法】

- 1) 年間料金の [変更] ボタンを選択します
料金設定画面にて、年間料金の [変更] ボタンを選択して、年間料金設定画面を表示させます。
- 2) [パターン設定/変更] ボタンを選択します
年間料金画面の [パターン設定/変更] ボタンを選択し、年間料金パターン設定画面が表示されます。
※初期値は料金単価1のみの時間帯になっています。
- 3) パターンボタンをクリックして、[設定] を選択します
時間帯設定画面が表示されます。
- 4) 適用料金単価と料金帯時刻を設定します
時間帯設定画面にて、時間帯の開始と終了時刻を設定し、料金単価を選択します。
※時刻設定には、キーボードからの入力もできます。
- 5) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
料金時間帯の設定を終えると、時間帯設定画面の [OK] ボタンを選択します。設定には、キーボードからの入力もできます。
※2)～4) を繰り返し、必要パターンを設定します。
- 6) [OK] ボタンを選択します
年間料金パターン設定画面を終了し、年間料金設定画面に戻ります。
- 7) パターンボタンを選択します
設定したい時間帯パターンのボタンをクリックして、選択状態にします。
- 8) 日付を選択します
そのパターンの年間料金設定したい日付をクリックします。すると、日付枠が青色に変わり年間料金を設定されます。
- 9) 設定完了後に、[OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、料金設定画面に戻ります。

パターンボタン

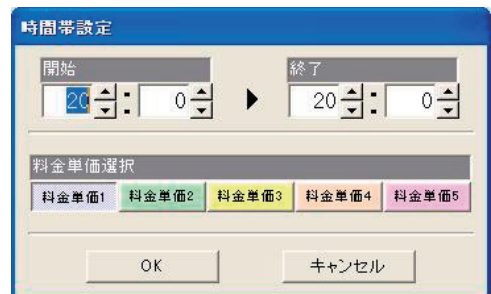
パターンの設定/解除/コピー/貼り付け/パターン名称設定ができます。



年間料金パターン設定画面

料金単価表示

通常/季節料金の料金単価を表示します。料金単価の設定は週間料金で実施します。



お知らせ

- ・設定項目に未設定箇所（0値含む）が存在する場合、注意表示しますので、確認してください。
- ・管理画面からでも年間料金を設定できます。

年間料金設定の表示

年間料金設定では、当月から24ヶ月先まで表示され、当日以降の年間料金設定の変更ができます。

カレンダーの日付枠の色

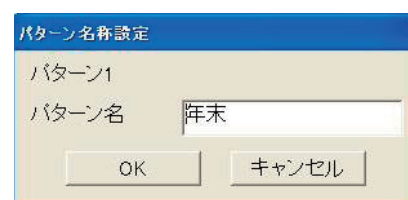
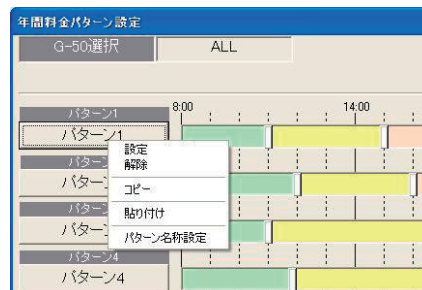
- 青色：対象パターンの年間料金設定あり
- 濃灰色：未対象パターンの年間料金設定あり
- 薄灰色：年間料金設定なし

年間パターンの名称を設定します

年間料金パターン設定画面で、パターン1～5の名称（例：休日設定）を設定することができます。

[操作方法]

- 1) パターンボタンを選択します
年間料金パターン設定画面のパターンボタンを選択すると、サブメニューが表示されます。
- 2) [パターン名称設定] ボタンを選択します
サブメニューの [パターン名称設定] を選択すると、パターン名称設定画面が表示されます。
- 3) パターン名称を設定します
使用する用途などをパターン名称で入力でき、年間料金設定画面に本名称が表示されます。
※最大10文字まで設定できます。
- 4) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、年間料金パターン設定画面に戻ります。



パターンを変更します

設定したパターンを変更することができます。

[操作方法]

- 1) [パターン設定/変更] を選択します
年間料金設定画面の [パターン設定/変更] ボタンを選択すると、年間料金パターン設定画面が表示されます。
- 2) 時間帯の設定内容を変更します
操作方法については、週間料金のパターン変更やコピー、貼り付け、削除の方法と同じです。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します

お知らせ

- ・パターンを変更する際は、そのパターンを使用している年間料金の日付にも影響しますので、ご注意ください。
- ・管理画面からでも年間料金設定を実施できます。

年間料金パターンを解除します

[操作方法]

- 1) 年間料金設定されている日付を選択します
年間料金パターンを解除したい日付をクリックします。選択されているパターンと同じ場合は、設定が解除されます。
- 2) サブメニューから [パターン解除] ボタンを選択します
選択されているパターンと異なる場合は、サブメニューが表示されますので、[パターン解除] ボタンを選択します。その日付に設定されているパターン割付を解除します。



8. 1 4. 6 計量計の料金単価の設定

電力量計以外の料金単価を設定します。料金単価は通常と季節期間の2系統を設定できます。

計量計の料金単価を設定します

ガス、水道、熱量計の料金単価を設定できます。適用する時間帯やスタート時間などは空調機と同じになります。

通常料金/季節料金ボタン
通常料金または季節料金の画面を切替できます。

曜日表示

料金設定
計量計の料金単価を設定できます。

一括ボタン
料金単価1~5を一括設定できます。
デフォルト：一括

計量計の料金単価設定画面

料金時間帯の表示
料金単価の時間帯を表示します。時間帯は空調機の設定内容を表示し、使用します。

時間帯区切りマーク表示
時間帯の区切りを示します。

料金単価
料金単価を設定します。

料金単価を設定します

[操作方法]

- 1) 計量計の料金単価の [変更] ボタンを選択します
料金設定画面にて、計量計の料金単価の [変更] ボタンを選択して、設定画面を表示させます。
- 2) 料金単価を設定します
各計量計の料金単価を設定します。
※料金単価1~5全てに設定してください。設定には、キーボードからの入力もできます。
※一括ボタンを選択すると、全料金単価を一括で設定ができます。
季節期間ありの場合は通常と季節の両方を設定してください。
([通常料金] と [季節料金] ボタンで切替。)
- 3) 設定完了すると [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、料金設定画面に戻ります。

8. 1 4. 7 精算日設定

空調料金は1ヶ月毎に精算しますので、精算日を設定します。

精算日を設定する

[操作方法]

- 1) [精算日指定] ボタンを選択します
空調料金画面の右中段にある [精算日指定] ボタンをクリックすると、精算日設定画面が表示されます。
- 2) 精算日を設定します
・月末 : [月末] を選択する。
・月末以外 : [日指定] を選択し、「▲/▼」ボタンで日付を設定する。
※キーボードから直接数値入力することもできます。
- 3) 設定完了後に [OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を無効にして、管理画面に戻ります。

精算日設定画面

お知らせ

- ・精算日の設定は29日、30日、31日を指定することはできません(ただし、月末は設定できます)。
- ・非蓄熱のみのシステムでは翌日に、蓄熱ありのシステムでは、翌々日に精算処理を実施します。
- ・精算後に自動印刷または自動ファイル出力をすることもできます。

8. 15 省エネ／ピークカット設定

省エネ／ピークカットの設定をします

省エネ設定では、省エネ運転対象のG-150AD/G-50設定と操作ブロック毎の室内機の制御状態と室外機毎の制御状態を設定します。

また、ピークカット設定では、計測対象の電力量計の設定（電力量計接続時）とそれぞれのレベル毎の制御状態を設定します。

表・省エネ・ピークカットの設定項目

項目		設定内容	備考
ブロック (※1)	制御内容	制御なし、温度制御、送風/サーモ OFF 制御、停止制御 (※4)	省エネ期待度順 温度<送風/サーモ OFF<停止 (快適性はその逆になります)
	制御時間 (※2)	3分、6分、9分、15分、30分	制御あり時のみ選択可能
	省エネ無効差温 (※3)	無効、有効 (3℃~9℃の1℃単位)	制御あり時のみ選択可能
室外機	制御内容	制御なし、能力セーブ率 (90%, 80%, 70%, 60%)	能力の上限を指定します。(定格能力100%に対する運転可能な率です。)
	制御時間 (※2)	3分、6分、9分、15分、30分	制御あり時のみ選択可能

※1：省エネ/ピークカット設定を行なう前に、必ずブロック設定を行なってください。

※2：30分間に制御する時間を設定します。

※3：「省エネ無効差温」とは、省エネ（レベル0）の時、設定温度と吸込温度の差温が設定した温度以上の場合に、省エネ（レベル0）の制御を無効にします。

※4：24時間換気機能ありのロスナイに停止制御を設定しないでください。

8. 15. 1 省エネ設定

8. 15. 1. 1 設定手順と制約

省エネ機能の設定や変更をする前に、注意事項を確認します。

省エネ設定の準備をします

[操作方法]

1) [省エネ設定] ボタンを選択します

初期画面から、システム設定グループの [省エネ設定] ボタンをクリックします。

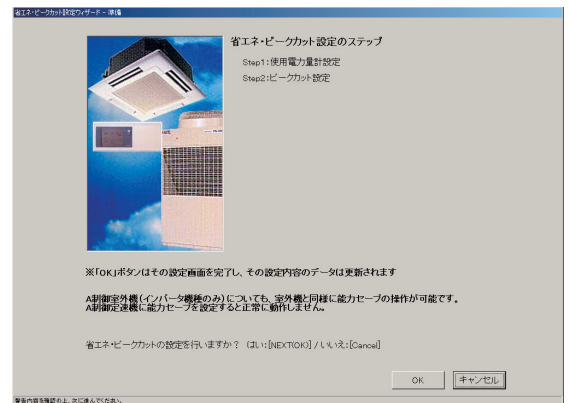
2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します

警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

省エネ設定は、以下の順番で実施します。

STEP 1 省エネ設定



省エネ設定の準備画面

8. 15. 1. 2 省エネ設定 (STEP 1)

G-150AD/G-50に設定されている省エネ設定内容をモニタします

[操作方法]

1) [モニタ更新] ボタンをクリックします

すでに省エネ設定がされている場合は設定内容が表示されます。

省エネ制御対象のG-150AD/G-50を設定します

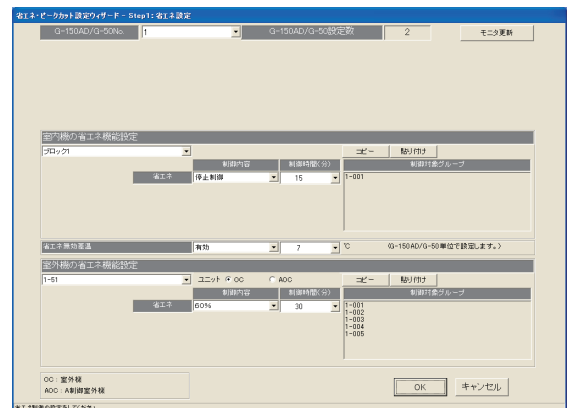
[操作方法]

1) G-150AD/G-50 No. を▼ボタンで選択します

省エネ制御対象のG-150AD/G-50を▼をクリックして選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、省エネ設定は、拡張コントローラ単位ではなく、G-150AD単位で設定します。

または、「全館一括設定」も可能です。



省エネ設定画面

お知らせ

- ・全ての操作ブロック（室外機）を対象に同設定内容とする場合は、1) のピークカット制御対象の G-150AD/G-50 を「全館一括設定」に設定すると一括設定が可能になります。

全館一括設定について

「全館一括設定」の場合、既に G-150AD/G-50 単位に設定済みで異なる設定内容が存在するとき、設定項目が「空白」で表示されます。

設定内容が異なるままでよい（変更しない）項目に対しては「空白」のままとして、設定を変えないことができます。全てを同じ設定にする場合は、「空白」を設定する内容に変更してください。

（TG-2000 Ver.5.11 まででは、「空白」のまま設定ができません。設定内容が異なる場合は、G-50 単位に設定を行なってください。）

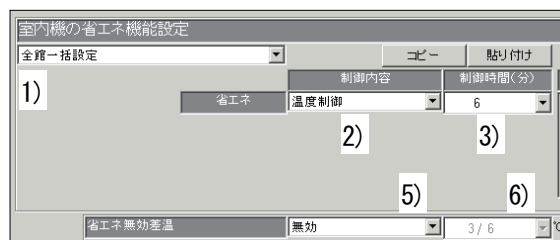
室内機の省エネ機能を設定します

[操作方法]

- 1) 設定対象操作ブロックを▼ボタンで選択します
設定対象の操作ブロックを▼をクリックして選択します。
- 2) 制御内容を▼ボタンで選択します
省エネ運転時の制御内容を▼をクリックして選択します。

制御内容：制御なし
温度制御
送風/サーモ OFF 制御
停止制御

- 3) 制御時間を▼ボタンで選択します。
省エネ運転時の制御時間を▼をクリックして選択します。
制御内容が「制御なし」以外のときに下記時間を設定できます。
制御時間：3分/6分/9分/15分/30分
- 4) 1)～3) を繰り返します。
省エネ設定する操作ブロックの数だけ 1)～3) を繰り返し設定します。



お知らせ

- ・対象の室内機は「制御対象グループ」欄に表示されます。
- ・ブロック毎の設定が同じ場合は「コピー」、「貼り付け」機能を使用すると便利です。

省エネ運転対象から除外されるブロックの設定をします

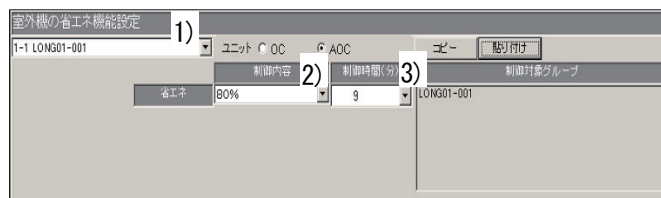
[操作方法]

- 5) 省エネ無効差温を▼ボタンで選択します
省エネ無効差温の有効を▼をクリックして選択します。
- 6) 対象除外温度差を▼ボタンで選択します
省エネ運転の対象から除外する条件の温度差を▼をクリックして選択します。
設定可能温度差：3℃～9℃（1℃刻み）

お知らせ

- ・この省エネ運転対象除外設定は G-150AD/G-50 毎の一括設定となります。
- ・省エネ無効差温とは、冷房時の温度差「吸込温度－設定温度」、暖房時の温度差「設定温度－吸込温度」のことです。設定された温度差以上の場合、快適性を維持するため省エネ制御から除外されます。

室外機の省エネ機能を設定します



[操作方法]

- 1) 設定対象室外機を▼ボタンで選択します
設定対象の室外機を▼をクリックして選択します。
「ユニット」のオプションでOCを選択するとA制御機種以外の室外機が選択できます。
(室外機のアドレスを表示)
AOCを選択するとA制御機種の室外機が選択できます。(室外機のアドレス+グループ名を表示)
- 2) 制御内容を▼ボタンで選択します
省エネ運転時の制御内容を▼をクリックして選択します。
制御内容：制御なし
能力セーブ率 60～90% (10%刻み)
- 3) 制御時間を▼ボタンで選択します。
省エネ運転時の制御時間を▼をクリックして選択します。
制御内容が「制御なし」以外のときに下記時間を設定できます。
制御時間： 3分/6分/9分/15分/30分
- 4) 1)～3)を繰り返します。
省エネ設定する室外機の数だけ1)～3)を繰り返し設定します。

お知らせ

- ・対象室外機に接続されている室内機は「制御対象グループ」欄に表示されます。
- ・室外機毎の設定が同じ場合は「コピー」、「貼り付け」機能を使用すると便利です。

省エネ設定を終了します

[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。

注意

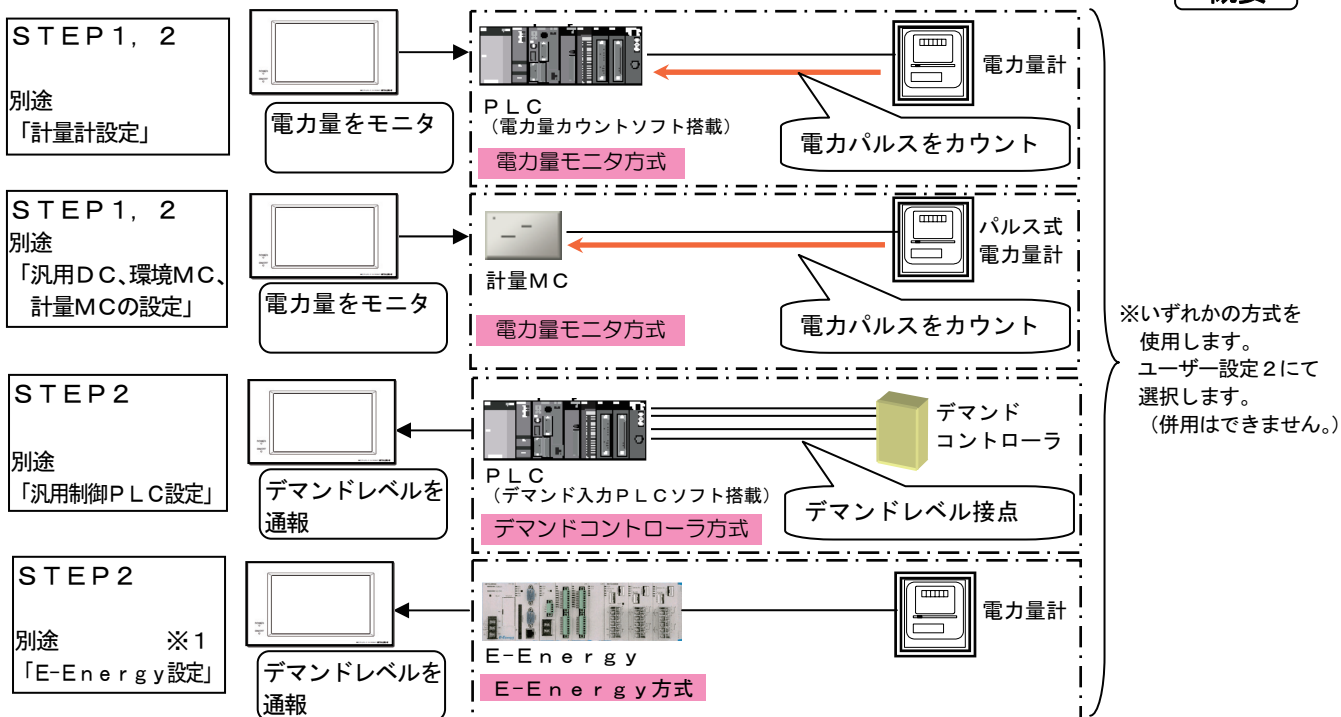
室外機の省エネ機能設定について

- ・ A制御機種室外機についてはインバータ機種にのみ省エネ制御が可能です。
- ・ G-150AD/G-50への設定送信時、A制御機種室外機についてはインバータ機種にのみ設定を行ないます。
但し、一部のA制御一定速機種には設定されてしまう場合があるため、A制御一定速機種には省エネ設定しないでください。
- ・ G-150AD/G-50からA制御機種の機種情報をモニタするため、設定画面への移行には時間がかかります。
- ・ 初めて省エネ機能を設定する場合、G-150AD/G-50が接続されていない状態ではG-150AD/G-50から機種情報をモニタできないため、A制御一定速機種が表示されます。
- ・ 「ユニット」オプションで、OCはA制御機種以外の室外機、AOCはA制御機種の室外機を指します。
- ・ モニタ更新ボタンでG-50から省エネ設定をモニタした場合、G-50のバージョンが2.90以上の場合のみ、接続されているA制御機種の室外機を表示します。G-50のバージョンが2.80以下の場合、A制御機種室外機への省エネ制御機能は利用できません。

8. 15. 2 ピークカット設定

<設定>

概要



※1: E-Energyの「接続先設定-外部機器」設定にて、外部機器 (G-150AD/G-50) のIPアドレスの設定が必要です。

E-Energy側の初期設定を実施しないと、正常には動作しません。
詳細についてはE-Energyの取扱説明書をご覧ください。

注意

- ・ピークカット機能は、必ず、ピークカット制御の設定を確認するため、動作チェックを行なってください。
- ・集中コントローラの故障、伝送線の切断等により、実際の使用電力が設定したデマンド値を超えてしまう場合があります。この場合でも当社は一切の責任を負いませんので、ご了承の上、ご利用願います。

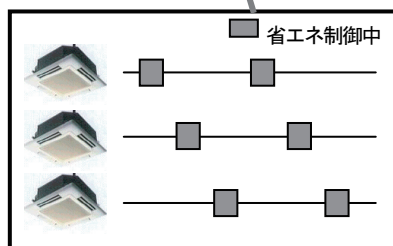
お知らせ（ピークカットの制御内容設定例）

- ・電力量モニタ方式のピークカット制御では、電力の変化量をもとに、今後30分間の平均電力（デマンド値）を予測して制御を実施します。
そのため、現時点でレベル値を超えていない場合でも、予測したレベルで徐々に省エネ制御をかけていき、急に省エネレベルが上がらないようにしております。
- ・ピークカット制御時はレベル4に目標の最大平均電力値を入力し、[30分][停止]（常時停止）を全ブロックに設定します。
- ・空調機の室外機種種により、空調負荷の追従性に時間を要するケースがありますので、ご考慮の上、設定してください。
- ・レベル4（最上位）の設定は、契約値よりも余裕をもった値に設定してください。
- ・高いレベルほど、制御内容に省エネ期待度の高い項目を設定してください。
- ・デマンドコントローラ方式のピークカット制御では、レベル接点3点以下のデマンドコントローラを使用する場合、レベル4（最上位）を使用して、ピークカット制御の設定をしてください。

[設定例] ※設定の一例ですので、各ビル環境に合わせ適宜設定願います。

	対象	制御内容	制御時間	備考
レベル4	ブロック	停止制御	30分	
	室外機	なし	—	
レベル3	ブロック	送風制御	6分	
	室外機	能力セーブ率60%	30分	
レベル2	ブロック	送風制御	3分	
	室外機	能力セーブ率70%	30分	
レベル1	ブロック	温度制御	3分	
	室外機	能力セーブ率90%	30分	
レベル0	ブロック	温度制御	3分	※省エネ設定として、必要に応じて設定ください。
	室外機	なし	—	

ブロック（室内機）と室外機の制御は同じレベルで組合せができます。



■ : 3分省エネ制御

8. 15. 2. 1 設定手順と制約

ピークカット機能の設定や変更をする前に、注意事項を確認します。

ピークカット設定の準備します

[操作方法]

- 1) [省エネ設定] ボタンを選択します
初期画面から、システム設定グループの [省エネ設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

ピークカット設定は、以下の順番で実施します。

STEP 1 使用電力量計設定 ※1

STEP 2 ピークカット設定 ※2

※1：電力量計接続の場合のみ表示されます。

※2：デマンド制御機器接続の場合はSTEP 2からの設定となりますが、設定画面上はSTEP 1と表示します。



ピークカット設定の準備画面

8. 15. 2. 2 使用電力量計設定 (STEP 1)

G-150AD/G-50に設定されているピークカット用電力量計の設定内容をモニタします

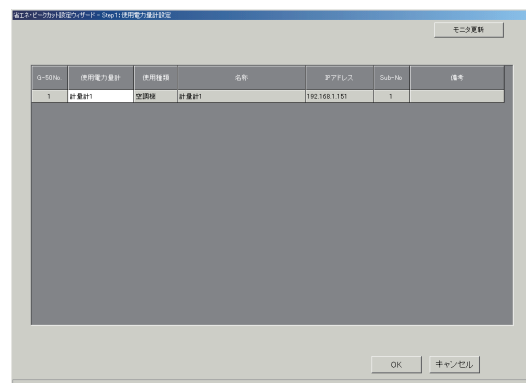
[操作方法]

- 1) [モニタ更新] ボタンをクリックします
すでにピークカット用電力量計の設定がされている場合は設定内容が表示されます。

ピークカット用電力量計の設定をします

[PLCを使用したケース]

- 1) 使用電力量計の▼ボタンで選択します
ピークカットの制御判断に使用する電力量計を▼をクリックしてG-150AD/G-50単位で選択します。
- 2) [OK] ボタンをクリックします
ピークカット用電力量計の設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。次のSTEPに進みます。

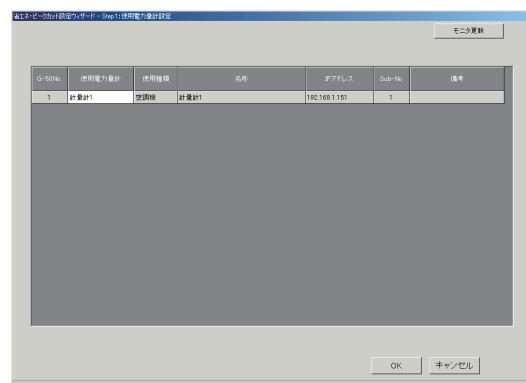


使用電力量計設定画面 (PLC)

[計量MCを使用したケース]

- 1) 使用電力量計の▼ボタンで選択します
ピークカットの制御判断に使用する電力量計を▼をクリックしてG-150AD/G-50単位で選択します。
- 2) [OK] ボタンをクリックします
ピークカット用電力量計の設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。次のSTEPに進みます。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、拡張コントローラ単位ではなく、G-150AD単位で電力量計を選択します。



使用電力量計設定画面 (計量MC)

お知らせ

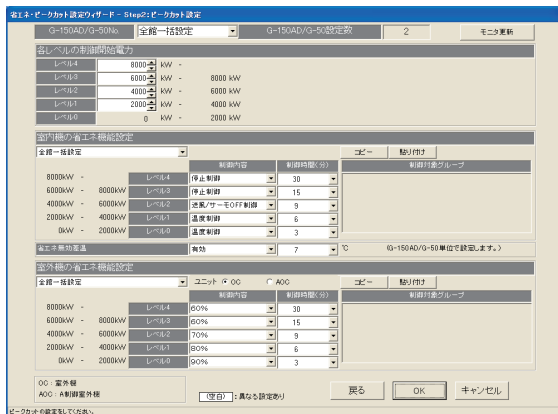
- ・ピークカット用電力量計には、使用機種が空調機/電気1/電気2のものが設定可能です。
- ・計量MCに接続の電力量計を使用するピークカット制御において、G-150AD/G-50で管理している電力量計1台を選択できます。
- また、他のG-150AD/G-50の電力量計を使用する場合 (*1) は、電力量計が接続されたG-150AD/G-50に対し、最大3台のG-150AD/G-50が接続できます。
- *1：ピークカット制御の制御レベルが1分前のもので制御されます。

8. 15. 2. 3 ピークカット設定 (STEP 2)

G-150AD/G-50に設定されているピークカット設定内容をモニタします

[操作方法]

- 1) [モニタ更新] ボタンをクリックします
すでにピークカット設定がされている場合は設定内容が表示されます。



ピークカット設定画面

ピークカット制御対象のG-150AD/G-50を設定します

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50 No. を▼ボタンで選択します

ピークカット制御対象のG-150AD/G-50を▼をクリックして選択します。

- ※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、ピークカット設定は、拡張コントローラ単位ではなく、G-150AD単位で設定します。
- または、「全館一括設定」も可能です。

お知らせ

- ・全ての操作ブロック (室外機) を対象に同設定内容とする場合は、1) のピークカット制御対象のG-150AD/G-50を「全館一括設定」に設定すると一括設定が可能になります。

全館一括設定について

「全館一括設定」の場合、既にG-150AD/G-50単位に設定済みで異なる設定内容が存在するとき、設定項目が「空白」で表示されます。

設定内容が異なるままでよい (変更しない) 項目に対しては「空白」のままとして、設定を変えないことができます。全てを同じ設定にする場合は、「空白」を設定する内容に変更してください。

(TG-2000 Ver. 5.11 まででは、「空白」のまま設定ができません。設定内容が異なる場合は、G-150AD/G-50単位に設定を行ってください。)

制御開始電力を設定します

[操作方法]

- 1) レベル1を▲/▼ボタンで設定します
レベル1の制御開始電力を▲/▼ボタンで設定します。
- 2) レベル2~4も▲/▼ボタンで設定します
レベル2~4の制御開始電力を▲/▼ボタンで設定します。

レベル	設定値	単位	既定値
レベル4	450	kW	450 kW
レベル3	400	kW	400 kW
レベル2	350	kW	400 kW
レベル1	300	kW	350 kW
レベル0	0	kW	300 kW

お知らせ

- ・電力量計接続の場合のみ設定可能です。
デマンド入力PLC接続またはE-Energy接続を選択している場合は設定できません。
※制御レベルを直接読み取るため、設定の必要はありません。

室内機のピークカット機能を設定します

[操作方法]

- 1) レベル毎に設定対象操作ブロックを▼ボタンで選択します
レベル毎に設定対象の操作ブロックを▼をクリックして選択します。レベルは制御開始電力で設定された数だけ設定できます。

- 2) 制御内容を▼ボタンで選択します
省エネ運転時の制御内容を▼をクリックして選択します。

- 制御内容: 制御なし
温度制御
送風/サーモOFF制御
停止制御

全館一括設定	制御内容	制御時間(分)
-	レベル4	3
-	レベル3	3
-	レベル2	3
-	レベル1	3
0kW	レベル0	6
省エネ無効差温	無効	3/6

3) 制御時間を▼ボタンで選択します。

省エネ運転時の制御時間を▼をクリックして選択します。
制御内容が「制御なし」以外のときに下記時間を設定できます。
制御時間： 3分/6分/9分/15分/30分

4) 1)～3)を繰り返します。

省エネ設定する操作ブロックの数だけ1)～3)を繰り返し設定します。

お知らせ

- ・指定したブロックに含まれる室内グループは「制御対象グループ」欄に表示されます。
- ・ブロック毎の設定が同じ場合は「コピー」、「貼り付け」機能を使用すると便利です。
- ・送風/サーモOFF制御を選択した場合、フリープラン機種に対してはサーモOFF（能力セーブ）指令を、K制御機種に対しては送風モード切り換えを送信します。サーモOFF制御を選択した場合、リモコン表示が変わらないため、他の人に気付かれずに省エネ制御を実施できます。
温度制御を選択した場合、冷房時には+2℃、暖房時には-2℃に設定温度を切り換えます。
- ・蓄冷熱機種の蓄冷熱運転時には、能力セーブ率を制御しないように「制御なし」の設定する等、運用上注意してください。（蓄冷熱運転時の到達するレベルには「制御なし」の設定で運用ください。）

省エネ運転対象から除外されるブロックの設定をします

[操作方法]

1) 省エネ無効差温を▼ボタンで選択します

省エネ無効差温の有効を▼をクリックして選択します。

2) 対象除外温度差を▼ボタンで選択します

省エネ運転の対象から除外する条件の温度差を▼をクリックして選択します。
設定可能温度差：3℃～9℃（1℃刻み）

お知らせ

- ・この省エネ運転対象の除外設定はG-150AD/G-50毎の一括設定となります。

室外機のピークカット機能を設定します

制御内容	制御時間(分)
レベル4	60%
レベル3	60%
レベル2	70%
レベル1	80%
レベル0	90%

[操作方法]

1) レベル毎に設定対象室外機を▼ボタンで選択します

レベル毎に設定対象の室外機を▼をクリックして選択します。レベルは制御開始電力で設定された数だけ設定できます。

2) 制御内容を▼ボタンで選択します

省エネ運転時の制御内容を▼をクリックして選択します。
制御内容：制御なし
能力セーブ率 60～90%（10%刻み）

3) 制御時間を▼ボタンで選択します

省エネ運転時の制御時間を▼をクリックして選択します。
制御内容が「制御なし」以外のときに下記時間を設定できます。
制御時間： 3分/6分/9分/15分/30分

4) 1)～3)を繰り返します

省エネ設定する室外機の数だけ1)～3)を繰り返し設定します。

お知らせ

- ・対象室外機に接続されている室内機は「制御対象グループ」欄に表示されます。
- ・室外機毎の設定が同じ場合は「コピー」、「貼り付け」機能を使用すると便利です。
- ・A制御機種室外機への設定方法、注意事項は省エネ設定と同様です。

ピークカット設定を終了します

[操作方法]

1) [OK] ボタンをクリックします

設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。

8. 16 ナイトモード設定

夜間のみ室外ユニットの運転を低騒音化したい場合などに利用することができます。

8. 16. 1 設定手順と制約

ナイトモード機能の設定や変更をする前に、注意事項を確認します。

ナイトモード設定の準備します

[操作方法]

- 1) [ナイトモード設定] ボタンを選択します
初期画面から、システム設定グループの [ナイトモード設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

ナイトモード設定は、以下の順番で実施します。

STEP 1 ナイトモード設定



ナイトモード設定の準備画面

G-150AD/G-50

選択欄

設定するG-150AD/G-50を選択します

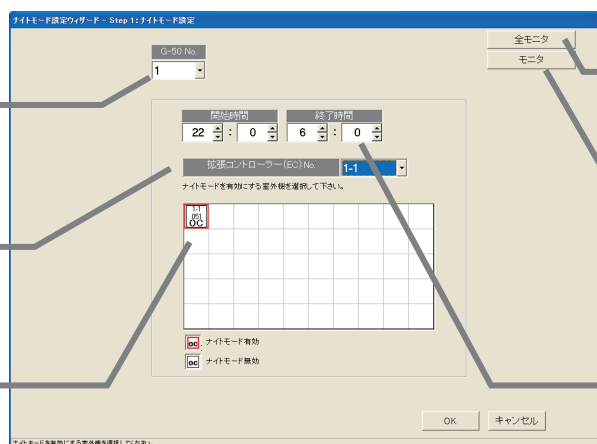
拡張コントローラ (EC)

選択欄

対象室外機の選択に対して対象の拡張コントローラを選択します

対象室外機選択欄

ナイトモード制御を行なう室外機を選択します。



ナイトモード設定画面

全G-150AD/
G-50からモニタ

接続された全てのG-150AD/
G-50から設定状態をモニタ
する時に使用

G-150AD/
G-50からモニタ

選択されたG-150AD/
G-50から設定状態をモニタ
する時に使用します。

開始・終了時刻設定欄

ナイトモードを開始・終了する
時刻を設定します。

8. 16. 2 ナイトモード設定 (STEP 1)

G-150AD/G-50に設定されているナイトモード設定内容をモニタします

[操作方法]

- 1) [モニタ更新] ボタンまたは[全モニタ更新] をクリックします
すでにナイトモード設定がされている場合は、設定内容が表示されます。

ナイトモード制御対象のG-150AD/G-50、および、開始・終了時刻を設定します

[操作方法]

- 1) G-150AD/G-50 No. を▼ボタンで選択します
ナイトモードを設定するG-150AD/G-50を選択します。
- 2) ナイトモードを開始・終了する時刻を設定します
ナイトモードを開始・終了する時刻を▲/▼をクリックして選択します。
設定可能な範囲は「00時00分~23時59分」までです。
※ナイトモードの開始・終了時刻の設定は、G-150AD/G-50単位です。

ナイトモード機能を使用する室外機を設定します

[操作方法]

- 1) 設定対象の室外機アイコンをクリックして選択します
設定したい室外機アイコンをクリックします。選択された室外機アイコンは赤枠付きで表示されます。
※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ No. を選択後、室外機を選択してください。

お知らせ

- ・開始時刻と終了時刻が同一の場合、24時間ナイトモード運転を実施します。
- ・一部機種にはナイトモード機能を搭載していない室外機があります。

ナイトモード設定を終了します

[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。

8. 17 オートチェンジオーバー設定

運転モードに「自動」のない機種（Yシリーズ）において、室内温度の変化に合わせて冷房・暖房運転を自動的に切替えたい場合にこの機能（冷暖自動切換）をご利用ください。冷房（暖房）運転しているユニット全てを自動的に暖房（冷房）運転に切替えることができます。

8. 17. 1 設定手順と制約

オートチェンジオーバー（冷暖自動切換）機能の設定や変更をする前に、注意事項を確認します。

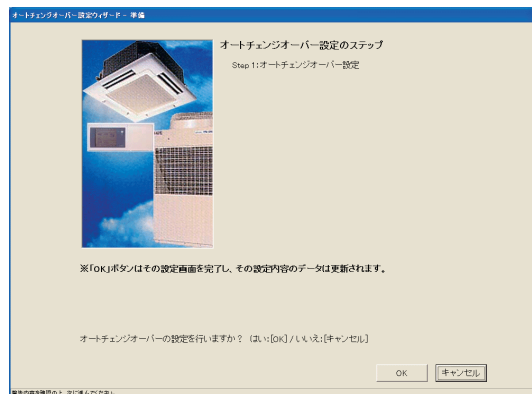
オートチェンジオーバー設定の準備をする

〔操作方法〕

1) [オートチェンジオーバー設定] ボタンを選択します
初期画面から、システム設定グループの [オートチェンジオーバー設定] ボタンをクリックします。

2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。



オートチェンジオーバー設定の準備画面

オートチェンジオーバー（冷暖自動切換）設定は、以下の順番で実施します。

STEP 1 オートチェンジオーバー設定

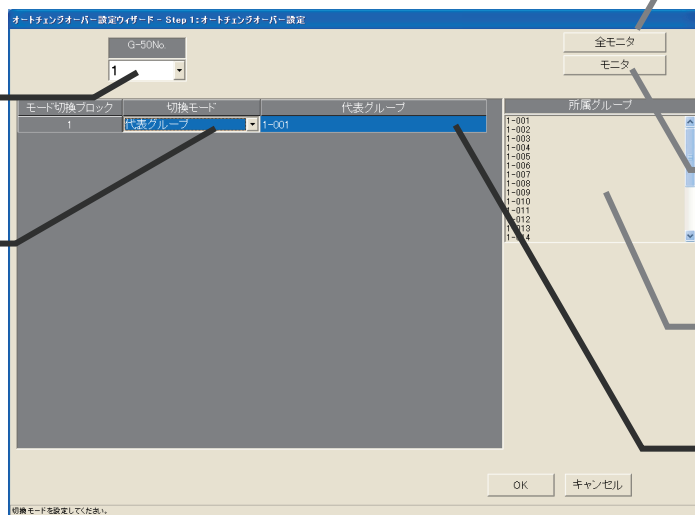
8. 17. 2 オートチェンジオーバー設定（STEP 1）

G-150AD (EC) / G-50 選択欄

設定するG-150AD/G-50を選択します

切換モード選択欄

オートチェンジオーバーのブロックごとに切換モード（なし、代表グループ、自動切換）を選択します。



オートチェンジオーバー設定画面

全G-150AD / G-50からモニタ
接続された全てのG-150AD / G-50から設定状態をモニタする時に使用します。

G-150AD / G-50からモニタ
選択されたG-150AD / G-50から設定状態をモニタする時に使用します。

所属グループ表示欄
選択しているオートチェンジオーバーブロックのグループを表示します。

代表グループ選択欄
「代表グループ」切換モードでの代表グループを選択します。

G-150AD (EC) / G-50 に設定されているオートチェンジオーバーの設定内容をモニタします

〔操作方法〕

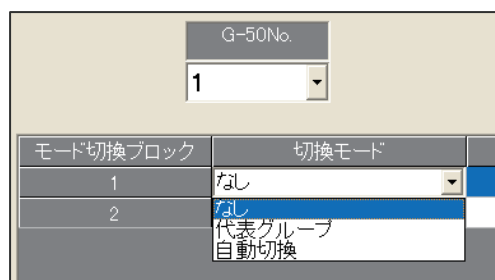
1) [モニタ更新] ボタンまたは[全モニタ更新] をクリックします
すでに設定がされている場合は、その内容が表示されます。

オートチェンジオーバー設定対象のG-150AD (EC) / G-50を設定します

〔操作方法〕

1) G-150AD / G-50 No. を▼ボタンで選択します

※拡張コントローラ（EC）を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。



モード切替ブロックの切替モードを設定します

[操作方法]

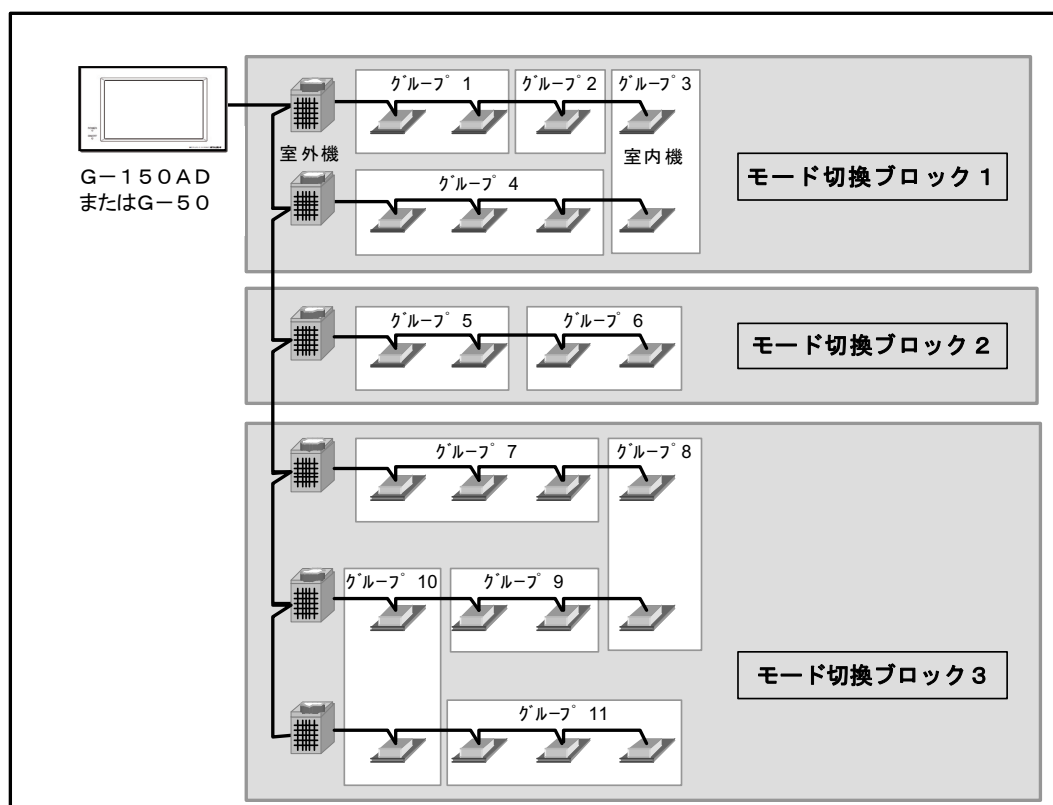
- 1) 切替モードを▼ボタンで選択します
モード切替ブロックごとに、切替モードを選択します。

切替モード	内容
なし	オートチェンジオーバー（冷暖自動切替）機能を使用しない（初期値）
代表グループ	代表グループの設定温度と室温の差で運転モード（冷房・暖房）を切替えます。 ※代表グループの空調機が停止している場合、および、運転モードが送風・自動モードの場合は、代表グループモードでなく、自動切替モードにて制御します。
自動切替	室外機に接続された全ての室内グループの設定温度と室温の差、および、室内グループに含まれる各室内機の能力値を考慮して運転モード（冷房・暖房）を切替えます。 ※停止しているグループ、送風・自動モードで運転しているグループは運転モードを切替えません。

お知らせ

- ・シティマルチのM-NET 制御室内機のみ制御対象です。A制御・K制御の空調機は対象外です。
- ・モード切替ブロックは冷媒系単位の室内機で構成されています。異なる冷媒系でグループ構成されている場合は、それらの複数冷媒系を一つのモード切替ブロックになります。
- ・R2機種も表示しますので、本機能を設定しないように運用ください（R2機種は設定不要です）。
- ・室外機に保有する“オートチェンジオーバー”の機能と併用で使用しないでください。

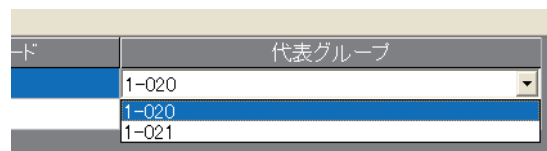
モード切替ブロックは下図のようになります。



代表グループを設定します

[操作方法]

- 1) 代表グループを▼ボタンで選択します
[代表グループ] モードを選択時に、オートチェンジオーバーのブロック内の室内グループから代表グループを選択します。



オートチェンジオーバー設定を終了します

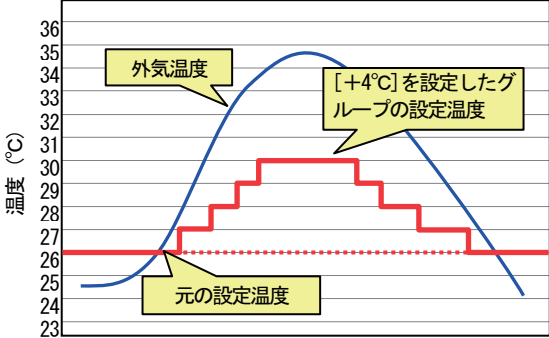
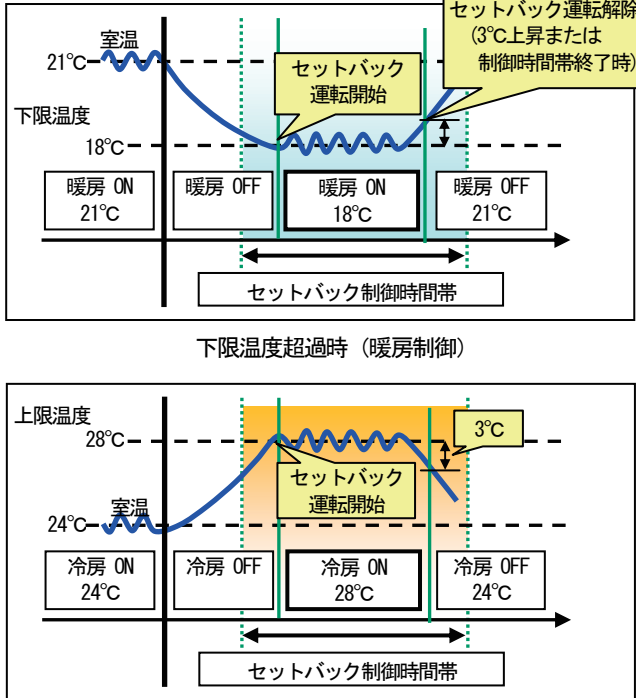
[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。

8. 18 その他設定

下記の機能に対して、機能の設定を行いません。

なお、これら機能は、G-150AD/GB-50ADのみが対象です。

機能	内容										
<p>外気温度連動制御設定</p>	<p>外気温度連動制御とは冷房期間中に外気温と建物内（入口）の温度差が小さくなるように制御し、外部から建物内に入ったときの人体へのヒートショック（急激な温度差による身体への負担）を防止する機能です。</p> <p>外気温度連動制御を設定した空調グループは、下図のように外気温度の上昇に伴って空調機の設定温度が徐々に上昇し、外気温度が下がってくると徐々に元の設定温度に戻ります。</p>  <table border="1" data-bbox="922 817 1428 963"> <thead> <tr> <th>外気温度</th> <th>設定温度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外気温度 > 元の設定温度 + 1.5°C</td> <td>元の設定温度 + 1°C</td> </tr> <tr> <td>外気温度 > 元の設定温度 + 4.5°C</td> <td>元の設定温度 + 2°C</td> </tr> <tr> <td>外気温度 > 元の設定温度 + 6.5°C</td> <td>元の設定温度 + 3°C</td> </tr> <tr> <td>外気温度 > 元の設定温度 + 7.5°C</td> <td>元の設定温度 + 4°C</td> </tr> </tbody> </table> <p>※本機能は、運転モードが「冷房」または「ドライ」のときのみ有効です。 ※本機能を使用する際には、「ユーザー設定」の「外気温度連動制御」を「する」にしてください。 ※G-150AD/GB-50ADのみが対象です。G-50では使用できません。</p>	外気温度	設定温度	外気温度 > 元の設定温度 + 1.5°C	元の設定温度 + 1°C	外気温度 > 元の設定温度 + 4.5°C	元の設定温度 + 2°C	外気温度 > 元の設定温度 + 6.5°C	元の設定温度 + 3°C	外気温度 > 元の設定温度 + 7.5°C	元の設定温度 + 4°C
外気温度	設定温度										
外気温度 > 元の設定温度 + 1.5°C	元の設定温度 + 1°C										
外気温度 > 元の設定温度 + 4.5°C	元の設定温度 + 2°C										
外気温度 > 元の設定温度 + 6.5°C	元の設定温度 + 3°C										
外気温度 > 元の設定温度 + 7.5°C	元の設定温度 + 4°C										
<p>セットバック制御設定</p>	<p>セットバック制御とは、上限温度と下限温度を設定し、その温度を外れた場合に自動的に空調機を運転させ、室温が一定の温度範囲内になるようする機能です。</p> <p>セットバック制御を設定した空調グループは、下限、上限温度を超えた場合に自動的に運転を開始します。また、下限、上限温度から3°C以上戻った場合に自動的に空調機を停止します。</p>  <p>※本機能を使用する際には、「ユーザー設定」の「セットバック制御」を「する」にしてください。 ※G-150AD/GB-50ADのみが対象です。G-50では使用できません。</p>										

8. 18. 1 設定手順と制約

その他設定の設定や変更をする前に、注意事項を確認します。

その他設定の準備します

[操作方法]

- 1) [その他設定] ボタンを選択します
初期画面から、システム設定グループの [その他設定] ボタンをクリックします。
- 2) 表示内容を確認後、[OK] ボタンを選択します
警告表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

その他設定は、以下の順番で実施します。

- STEP 1 外気温度連動制御設定
- STEP 2 セットバック制御設定
- STEP 3 ナイトパージ設定
- STEP 4 24時間換気制御設定



その他設定の準備画面

お知らせ

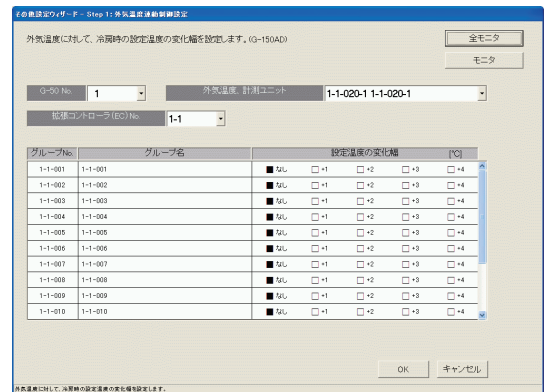
- ・「ユーザー設定」で「しない」に設定している機能に対しては、設定画面の表示はありません。

8. 18. 2 外気温度連動制御設定 (STEP 1)

外気温度連動制御の設定を行ないます

[操作方法]

- 1) G-150ADのNo. を選択します
外気温度連動制御の設定を行なうG-150ADをG-50 No. から選択します。
- 2) [モニタ] または [全モニタ] ボタンをクリックします
すでに設定がされている場合は、その内容が表示されます。
全てのG-150ADの設定内容を反映させる場合は、[全モニタ] ボタンをクリックしてください。
- 3) 温度計を選択します
「外気温度計測ユニット」から外気温度を計測している温度計を選択します。
※環境用計測コントローラ（環境MC）に接続されている温度計が対象です。
- 4) 設定温度の変化幅を選択します
グループ単位で、「設定温度の変化幅」に外気温度連動制御の設定温度の変化幅を設定（選択）します。
[なし], [+1], [+2], [+3], [+4] (°C)
※拡張コントローラ（EC）を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラNo. を選択後、グループを選択してください。



外気温度連動制御の設定を終了します

[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

8. 18. 3 セットバック制御設定 (STEP 2)

セットバック制御の設定を行いません

[操作方法]

1) G-150ADのNo. を選択します

セットバック制御の設定を行なうG-150ADをG-50 No. から選択します。

2) [モニタ] または [全モニタ] ボタンをクリックします すでに設定がされている場合は、その内容が表示されます。

全てのG-150ADの設定内容を反映させる場合は、[全モニタ] ボタンをクリックしてください。

3) セットバック制御の利用を選択します

セットバック制御を利用する／しないを選択します。
利用する／利用しない

※セットバック制御を利用する／しないの設定はG-150AD単位です。

4) 開始・終了時刻を設定します

セットバック制御の開始時刻と終了時刻を設定します。

24時間設定にする場合は、開始時刻と終了時刻を同じ時刻に設定してください。

※セットバック制御の開始・終了時刻の設定はG-150AD単位です。

5) 制限温度範囲（下限・上限温度）を設定します

グループ単位で、セットバック制御の制限温度範囲（下限温度・上限温度）を設定します（1℃単位）。暖房機能なしの機種に対しては、下限温度の設定はできません。（“--”が表示されます。）

制限温度範囲（下限温度・上限温度）設定の「コピー&貼り付け」

セットバック制御を設定したグループの制限温度範囲を、他のグループに「コピー&貼り付け」を行なうことができます。

コピー元のグループをマウスでクリックし、「コピー」を選択します。

続いて、貼り付け先のグループをマウスでクリックし、「貼り付け」を選択すると、そのグループに設定内容がコピーされます。

* 貼り付け先の設定温度範囲がコピー元の制限温度範囲より狭い場合、設定温度範囲を調整して貼り付けを行いません。

セットバック制御の設定を終了します

[操作方法]

1) [OK] ボタンをクリックします

設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。



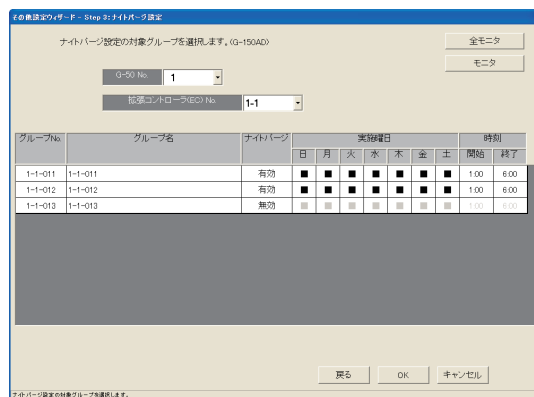
8. 18. 4 ナイトパーズ設定 (STEP 3)

外気温度の低い夜間に外気を取り入れ、室内の空気を排出することで翌日の冷房の立ち上がり時の冷房負荷を軽減することができます。

ナイトパーズの設定を行ないます

[操作方法]

- 1) G-150ADのNo. を選択します
ナイトパーズの設定を行なうG-150ADをG-50 No. から選択します。
- 2) [モニタ]または[全モニタ]ボタンをクリックします
すでに設定されている場合は、その内容が表示されます。
全てのG-150ADの設定内容を反映させる場合は、[全モニタ] ボタンをクリックしてください。
- 3) ナイトパーズを設定するグループを選択します
グループを選択したとき、下記メニューが表示されます。
設定 : ナイトパーズの詳細設定画面を開きます。
コピー : 選択したグループの設定内容をコピーします。
貼り付け : コピーした設定内容を選択したグループに貼り付けます。
- 4) ナイトパーズの詳細設定を行ないます。
ナイトパーズ詳細設定画面で、以下の項目を設定してください。



ナイトパーズ

ナイトパーズ機能有効/無効を設定します。

開始時刻

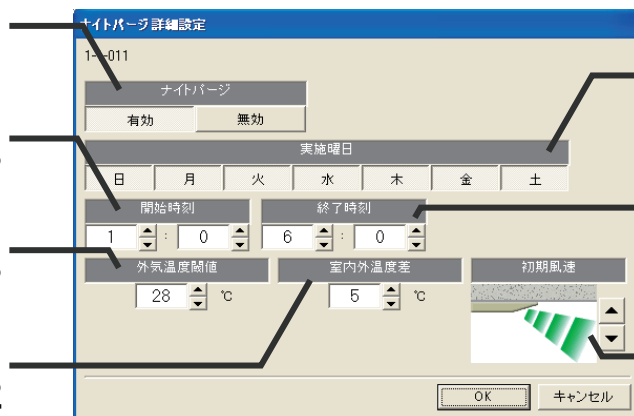
ナイトパーズ動作を開始させる時刻を設定します。

外気温度閾値

ナイトパーズの動作条件となる外気温度を設定します。

室内外温度差

ナイトパーズの動作条件となる外気温度と室内温度の差を設定します。



実施曜日

ナイトパーズを動作させる曜日を設定します。

終了時刻

ナイトパーズ動作を終了させる時刻を設定します。

初期風速

ナイトパーズ動作を開始するときの風速を設定します。

ナイトパーズ詳細設定画面での設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。

お知らせ

- ・ナイトパーズは、外気温度閾値と室内外温度差の合計が室内温度を超えたときに自動的に動作します。そのため、ナイトパーズの動作時刻内でも室内温度により動作しない場合があります。
- ・自動あり機種でも風速自動は表示されません。

ナイトパーズの設定を終了します

[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・ナイトパーズ設定可否に関わらず、すべてのロスナイグループが表示されます。ナイトパーズ設定が可能なロスナイグループに対してのみ設定を行なってください。
- ・設定送信または全設定送信を行なったときに、ナイトパーズ設定を無効に設定したロスナイはナイトパーズが終了します。

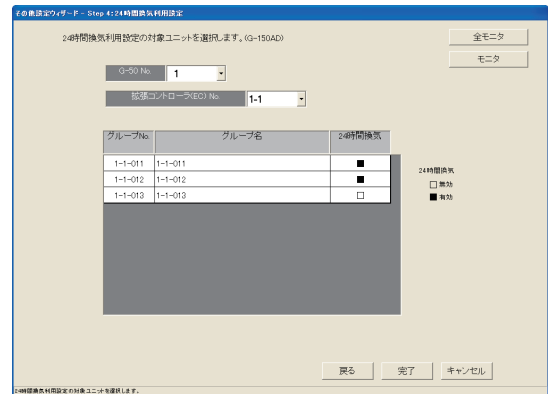
8. 18. 5 24時間換気設定 (STEP 4)

24時間換気機能を利用するかしないかを設定します。

24時間換気の設定を行ないます

[操作方法]

- 1) G-150ADのNo. を選択します
24時間換気の設定を行なうG-150ADをG-50 No. から選択します。
- 2) [モニタ]または[全モニタ]ボタンをクリックします
すでに設定されている場合は、その内容が表示されます。
全てのG-150ADの設定内容を反映させる場合は、[全モニタ] ボタンをクリックしてください。
- 3) 24時間換気有効/無効を選択します
24時間換気機能の有効/無効を選択します。
■ : 有効
□ : 無効



24時間換気の設定を終了します

[操作方法]

- 1) [OK] ボタンをクリックします
設定が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・ 24時間換気設定可否に関わらず、すべてのロスナイグループが表示されます。
24時間換気設定が可能なロスナイグループに対してのみ設定を行なってください。
- ・ 24時間換気機能ありのロスナイと、機能なしのロスナイが混在したグループに対しては、TG-2000の24時間換気設定を無効に設定してください。
- ・ 設定送信または全設定送信を行なったときに、24時間換気設定を無効に設定したロスナイが停止する場合があります。停止した場合は監視画面から運転を行なって復旧させてください。

8. 19 時刻設定

時刻設定の機能には、「日付・時刻設定」と「時刻モニタ」の2種類の機能があります。

機能	内容
日付・時刻設定	PC（パソコン）に接続される全てのG-150AD/G-50およびPLCの日付・時刻をPCの日付・時刻設定と同時に設定する機能です。 G-150ADに接続した拡張コントローラ（EC）に対しては、G-150ADを經由して日付・時刻設定が行なわれます。 ※運用する前の初期設定時には必ずG-150AD/G-50とPLCに時刻設定してください。
時刻モニタ	本システムの時刻の基準機（G-150AD/G-50 No. 1）と残り全てのG-150AD/G-50、PLC、および、PCとの時刻の誤差を確認する機能です。 ※G-150ADに接続した拡張コントローラの時刻モニタはありません。

※PCとは本統合ソフト（TG-2000）をインストールされたPC（パソコン）です。

お知らせ

・「時刻設定」のみを行なう場合は、管理画面からメンテナンスユーザー用のパスワードで初期画面を表示させて実施してください。

<本機能使用時の注意事項>

基本的に本システムでは初期設定時を除いて手動で時刻合わせを行なう必要はありません（時刻の誤差修正は除く）。電力按分課金支援を使用している場合は不必要な時刻合わせは実施しないでください。

特に、**電力按分課金支援の運用後は日付を絶対に変更しないでください。**

[説明]

本システムではG-150AD/G-50本体より空調機運転データを、また、PLC（シーケンサ）より電力量データを収集し、そのデータを元に本統合ソフト（TG-2000）が設定された諸容量と料金単価を使用して空調料金を算出しています。PLC、G-150AD/G-50本体、および、統合ソフト（TG-2000）が動作するPCに時刻の差が存在すると計算結果が正しく算出できません。

そのため、統合ソフト、G-150AD/G-50、および、PLCの間で時刻合わせを毎日実施し、各機器間の時刻誤差を修正しています。（**時刻合わせの基準はG-150AD/G-50 No. 1**です。）

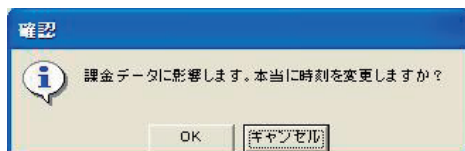
日付・時刻を設定します

[操作方法]

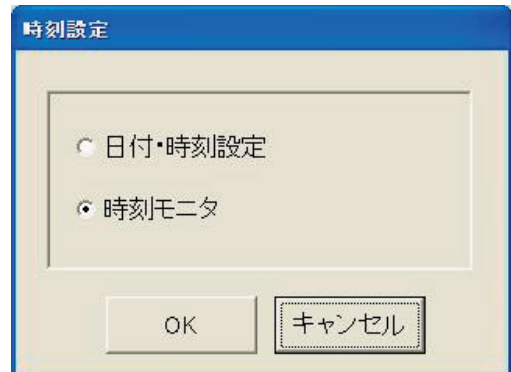
- 1) [時刻設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある [時刻設定] ボタンをクリックします。
- 2) [日付・時刻設定] 選択し、[OK] ボタンを選択します
時刻設定機能選択画面から [日付・時刻設定] をクリックした後、[OK] ボタンをクリックします。
※時刻モニタが初期選択状態になっています。
- 3) 変更したい部分を選択します
変更する「年」「月」「日」「時」「分」「秒」をマウスポインタでクリックして、反転させます。
- 4) ▲/▼ボタンを選択します
変更する部分の数字を▲/▼ボタンにて変更します。
※キーボードからも数字入力ができます。
- 5) 設定・変更の完了後に、[OK] ボタンを選択します
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本画面の設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

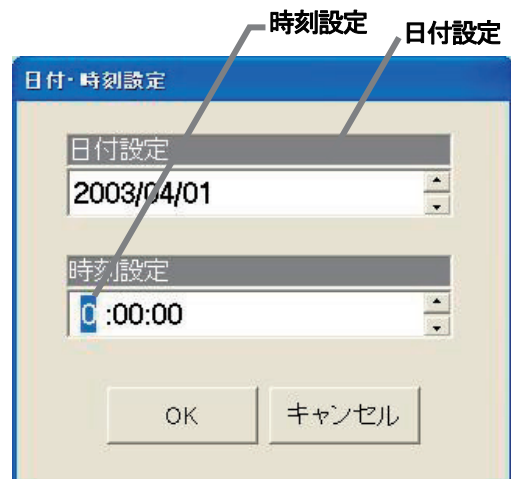
- ・ [日付・時刻設定] ボタンをクリックした時、下画面の警告メッセージが表示されます。
OK : 日付・時刻設定画面が表示されます。
キャンセル : 日付・時刻設定を表示せずにシステム設定画面に戻ります。



時刻設定警告画面



時刻設定選択画面



日付・時刻設定画面

お知らせ

- ・電力按分課金機能を有する場合、または、トレンド機能を有する場合、下記の時間帯からの時刻変更や、下記の時間帯への時刻変更はしないでください。
時間帯 02:00~07:00
- ・一ヶ月に一度は時刻の確認と修正を実施することをお勧めします。
時刻の修正を実施する場合は、08:00~21:45 の間で実施してください。
- ・日付の「年」「月」「日」の表示順番はWindows (OS) の設定によります。
- ・運用開始後に日付を越えて、時刻を戻すと、空調料金の計算が正しく行なわれませんので、ご注意ください。

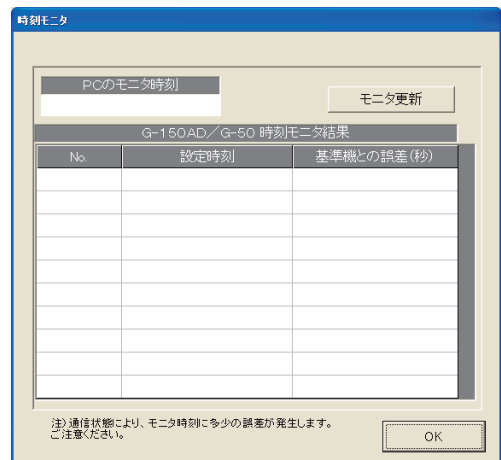
お願い

- ・統合ソフトTG-2000のプログラム動作中は、本時刻設定で年月日や時刻を変更してください。
なお、統合ソフトTG-2000のプログラム動作時、Windows (OS) の時刻設定での変更はしないでください。

時刻をモニタします

PCおよび接続されたG-150AD/G-50、PLC、TG-2000の年月日・時刻をモニタします。
[操作方法]

- 1) [時刻設定] ボタンを選択します
初期画面のシステム設定グループにある [時刻設定] ボタンをクリックします。
- 2) [時刻モニタ] を選択します
時刻設定機能選択画面から [時刻モニタ] オプション ボタンをクリックして、[OK] ボタンを選択します。
- 3) [モニタ更新] を選択します
時刻モニタ画面にて、「モニタ更新」ボタンをクリックします。クリックすると本統合ソフト (TG-2000) が動作するPC (パソコン) と接続される全てのG-150AD/G-50の日付時刻および基準機との誤差が表示されます。
※モニタのタイミングにより数秒の誤差があります。
- 4) [OK] ボタンを選択します
時刻の確認を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。初期画面に戻ります。



時刻モニタ画面 (モニタ前)

PCの日付・時刻表示

G-150AD/G-50、
PLC、TG-2000の
日付・時刻表示

No.	設定時刻	基準機との誤差 (秒)
G50No.1	2008/11/05 09:46:06	---
G50No.2	2008/11/05 09:46:04	-2
PLCNo.1	2008/11/05 09:46:08	2
TG-2000	2008/11/05 09:46:05	-1

モニタ更新ボタン

基準機 (G-150AD/
G-50 No.1) との誤差

時刻モニタの画面 (モニタ更新後)

8. 20 計量計の現在値モニタと変更

課金データの保守画面から現在の計量計の値をモニタして、表示できます。また、現在値を変更することもできます。

計量計のモニタ確認方法

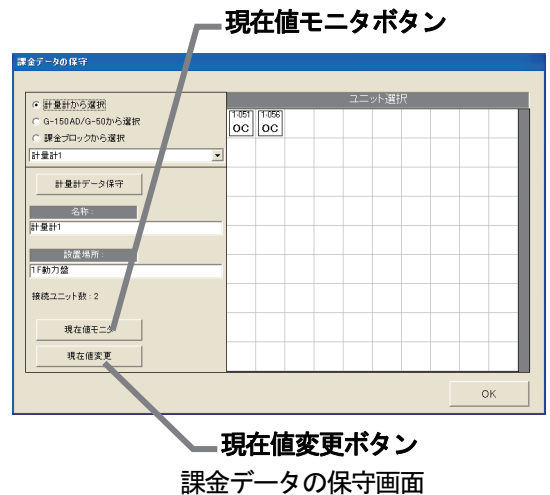
[操作方法]

- 1) 計量計を選択します
課金データの保守画面にて、モニタする計量計（電力量計）を▼ボタンで選択します。
- 2) 現在値モニタのボタンを選択します
「現在値モニタ」のボタンをクリックすると、計量計の現在積算値画面が表示されます。
- 3) 確認完了後に [OK] ボタンを選択します

再度、[現在値モニタ] ボタンを押すと、計量計の積算値を表示します。

お知らせ

- ・本画面にて、計量計（電力量計）との接続確認を行なえません。
- ・計量計の積算値は約1分間の定時モニタで行なっています。
タイムラグ：最大10～60秒程度
- ・計量計の現在値は特定日からの積算値のため、電力按分課金支援の按分電力量とは無関係です。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金支援（電力量手入力）の場合、本機能は使用できません。
- ・管理画面でも計量計の現在値モニタができます。
取扱説明書の管理編 8. 6章を参照ください。



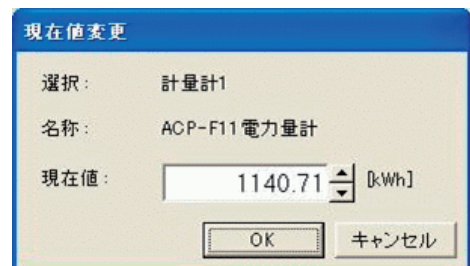
計量計の現在積算値画面

計量計の現在値変更方法

[操作方法]

- 1) [現在値変更] ボタンを選択し、変更値を設定します
課金データの保守画面にて、モニタする計量計を▼ボタンで選択し、[現在値変更] ボタンをクリックすると、現在値の変更画面が表示され、値を変更できます。

※変更する電力量計の計測電線の電源ブレーカーをOFFにした状態で実施してください。また、その他の計量計も使用を停止した状態で実施してください。



計量計の現在積算値変更画面

お知らせ

- ・本機能では、現在の積算値を実際の計量計の積算値に合わせることができます。
- ・本機能では、電力按分課金に使用する値を変更することはできません。

9. 課金データの修正方法

9. 1 空調料金の計算結果

電力按分課金支援で求めた空調料金は、室内機の運転量データを基に行なっています。何らかの原因によりデータ収集ができないケースなどが発生した場合、イレギュラー処理を行なっています。このイレギュラー処理の内容によっては、「課金データの保守」または「救済按分」が必要になります。想定されるケースは下表に示します。

表：想定ケースと復旧方法（電力量計接続なしの電力按分課金（電力量手入力）の場合）

想定ケース	空調料金画面	課金データの状態	修復要否／方法
パソコンの故障 (HDDの故障)	(表示不可)	データの破壊	運転量データモニタ +救済按分 ※1
パソコンの故障	赤文字 (異常)	翌日に繰り越して復旧した日に按分 します。 (複数日以上まとめて按分します)	修復は不要です。 ※2
G-150AD/ G-50通信異常	黒文字 (正常)		
G-150AD/ G-50本体の故障	黒文字 (正常)	按分されているが、データは正しく ない状態です。 (期間：異常当日～復旧日)	課金データの保守
システム情報設定ミス	黒文字 (正常)	設定された情報を基に按分します。	課金データの保守

※1：修復には、修復する期間の運転量をモニタし、救済按分機能を使用することにより修復できます。

※2：精算日を跨るような長期間の繰り越しが発生した場合、「課金データの保守」画面で修正することを推奨します。但し、繰り越し精算が発生しても、翌日分で回収することができるような契約をテナント側と交わしている場合は不要です。

お知らせ

- ・想定ケースが複数重なった場合は、総合的に判断してください。
- ・按分の繰り越しが精算日を跨った場合、繰り越し分は翌月に加算されます。もし、当月分と翌月分とを分けたい場合、「課金データの保守」の画面にて繰り越しまとめの按分パラメータを当月と翌月の日数で分けてください。
- ・課金データの状態は、発生するケースによりイレギュラー処理します。

表：想定ケースと復旧方法（電力量計接続ありの電力按分課金（電力量パルスカウント）の場合）

想定ケース	空調料金画面	課金データの状態	修復要否／方法
パソコンの故障 (HDDの故障)	(表示不可)	データの破壊	救済按分
パソコンの故障 (バックアップあり)	赤文字 (異常)	課金データが異常で按分していない (期間：故障日～復旧日)	救済按分
WHMの故障 (PLCモニタ不可) (計量MCモニタ不可)	黒文字 (正常)	翌日に繰り越して、按分します	(不要) ※1
WHMの故障 (PLCモニタ可) (計量MCモニタ可)	黒文字 (正常)	翌日に繰り越して復旧日に按分します (データが正しくない可能性あり)	課金データの保守
G-150AD/ G-50通信異常	黒文字 (正常)	翌日に繰り越して復旧日に按分する (複数日以上まとめて按分する)	(不要) ※1
G-150AD/ G-50本体の故障	黒文字 (正常)	按分されているが、データは正しくな い状態です。 (期間：異常当日～復旧日)	課金データの保守
計算ミスマッチ	黒文字 (正常)	イレギュラー処理を行ない、按分また は翌日に繰り越しする	(不要) ※1
システム情報設定ミス	黒文字 (正常)	設定された情報を基に按分します。	課金データの保守

※1：精算日を跨るような長期間の繰り越しが発生した場合は、「課金データの保守」画面で修正することを推奨します。但し、繰り越し精算が発生しても、翌日分で回収することができるような契約をテナント側と交わしている場合は不要です。

お知らせ

- ・想定ケースが複数重なった場合は、総合的に判断してください。参考までに下記の復旧順位になります。
課金データの保守 > 救済按分 > 不要
- ・按分の繰り越しが精算日を跨った場合、繰り越し分は翌月に加算されます。もし、当月分と翌月分とを分けたい場合、「課金データの保守画面」にて繰り越しまとめの按分電力量を当月と翌月の日数で分けてください。
- ・課金データの状態は、発生するケースによりイレギュラー処理します。
- ・システム情報設定ミスの場合、ミス設定の種類によっては救済按分できないケースがあります。

修復方法の概要を説明します。

	概要	用途
課金データの保守 →9. 2章参照 ※1	修正したい按分パラメータ／按分電力量のデータを1日毎の室内機単位で変更します。全ての変更完了後に再計算を行ない、電力按分課金計算して、空調料金を算出します。	・繰り越しまとめ按分値の発生 ・G-150AD/G-50の故障 ・パソコンのダウン 等の現象が発生し、算出された按分パラメータ、または、按分電力量を修正・変更したいときに使用します。
救済按分 →9. 5章参照	救済する期間をG-150AD/G-50やPLCの運転量や電力量等から再度按分計算を実施して按分電力量を求め、正常な期間と併せて空調料金を算出します。	・HDDの故障 ・電力量計の故障（PLCモニタ不可） ・パソコンのダウン 等で発生したを対象に使用する。

※1：本機能にて、電力量計接続ありの場合、現在の電力量計積算値をモニタすることができます。

9. 2 課金データの保守

ユニット按分値データである按分パラメータ、または、按分電力量、および、電力量計（WHM）の電力量値を日単位で変更・修正することができます。

9. 2. 1 課金データの保守の準備

課金データの保守を行なうために、下記の項目を準備します。

(1) 保守する対象及び日付の確認

故障等による按分パラメータ、または、按分電力量等を修正したい対象室内機、および対象日付を確認します。

故障の復旧日や課金データの表示色（正常、異常、メンテナンス）、システム構成等を参照して確認を行ないます。

(2) 参考データの準備

正常時の按分データや室内ユニットのFAN運転量、能力セーブ率量、能力等の必要なデータを準備します。

※FAN運転量、能力セーブ率量および室内機の冷房能力、消費電力、補助電気ヒータは「課金データの保守」画面に表示されます。

(3) 修正課金データ値の検討

上記(1)と(2)より、保守する対象室内機・期間（日付）と課金データの修正値を検討します。

上記の事前準備を終えてから、課金データの保守を実施してください。

お知らせ

- ・ 課金データの結果（正常、異常、メンテナンス）は、「9. 2. 3 室内機データのメンテナンス」を参照ください。
- ・ 課金データの保守を終えて、再計算を実施すると、その内容が空調料金に反映します。

9. 2. 2 保守方法と制約

課金データの保守画面を表示します。

保守画面を表示します

[操作方法]

1) 「課金データの保守」ボタンを選択します

初期画面のメンテナンスグループにある「課金データの保守」ボタンをクリックします。課金データの保守画面が表示されます。

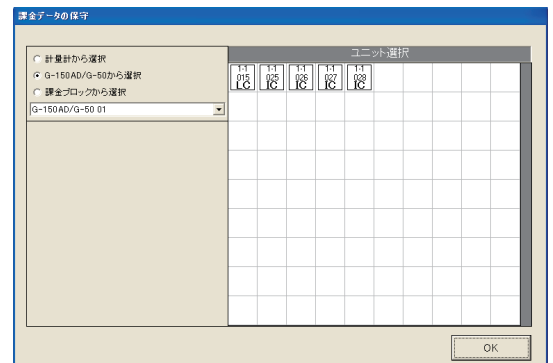
お知らせ

- ・ 画面でメンテナンスできる項目は、室内機の按分パラメータです。室外機分と室内機分を別々にメンテナンスできます。
- ・ 課金データを保守できる期間は、当日を除いた122日分です。

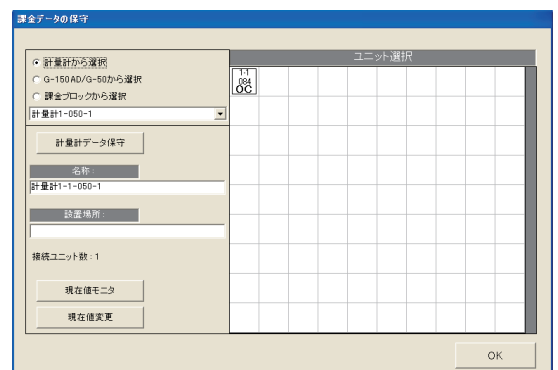
ユニットデータのメンテナンス → 9. 2. 3章参照

計量計データのメンテナンス → 9. 2. 4章参照

計量計のモニタ → 9. 2. 5章参照



課金データの保守画面（WHM 接続なし）



課金データの保守画面（WHM 接続あり）

[電力量計 (WHM) 接続ありの場合]

- 室外機按分電力量** : 室内機の按分基準データと室内機的能力等を用いて、該当の室内機が室外機使用 (冷熱) 分として、電力量計の使用電力量から按分した電力量です。
- 室内機按分電力量** : 室内機の FAN 運転時間や消費電力等を用いて、該当の室内機が自身の室内機使用 (動力および補助電気ヒータ) 分として、電力量計の使用電力量から按分した電力量です。

[電力量計 (WHM) 接続なしの場合]

- 室外機按分パラメータ** : 選択した按分基準データと室内機的能力等を用いて、該当の室内機が室外機使用 (冷熱) 分として算出した按分パラメータです。
- 室内機按分パラメータ** : 室内機の FAN 運転時間や消費電力等を用いて、該当の室内機が自身の室内機使用 (動力および補助電気ヒータ) 分として算出した按分パラメータです。

9. 2. 3 ユニットデータのメンテナンス

室内機単位のデータを変更できます。能力セーブ量、サーモ ON 時間、FAN 運転時間、および、補助電気ヒータ運転時間を料金単価別に表示します。

ユニット按分データのメンテナンス方法

[操作方法]

1) 選択方法を選択します
課金データの保守画面の左上にある [G-150AD/G-50から選択] または [課金ブロックから選択] のオプションボックスをクリックして選択方法を選択します。

2-1) G-150AD/G-50から選択します
[G-150AD/G-50から選択] ボタンを選択し、「G-150AD/G-50 No.」選択ボックスの▼マークをクリックしてG-150AD (EC) /G-50 No. を選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。
このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。

選択すると、そのG-150AD/G-50に接続している室内機がユニット選択欄に表示されます。

2-2) 課金ブロックから選択します
[課金ブロックから選択] を選択し、「課金ブロック選択」ボックスの▼マークをクリックして、課金ブロックを選択します。

選択すると、その課金ブロックに設定しているグループがユニット選択欄に表示されます。次に、グループをクリックして選択します。選択すると、そのグループに設定されている室内機がユニット選択欄に表示されます。

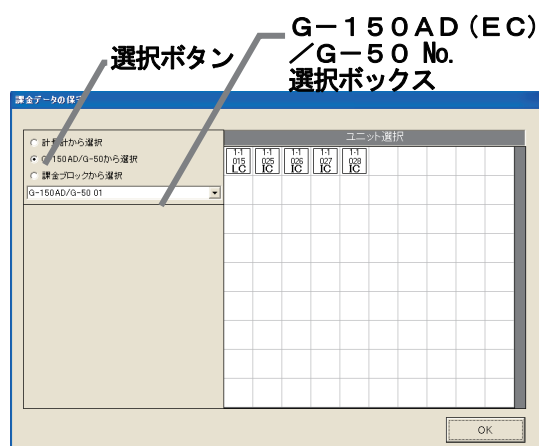
2-3) 計量計から選択します
[計量計から選択] を選択し、「電力量計」ボックスの▼マークをクリックして電力量計を選択します。選択すると、その電力量計に設定しているユニットがユニット選択欄に表示されます。

室外機が表示されている場合は、室外機をクリックすると、その室内機に構成されている室内機がユニット選択欄に表示されます。

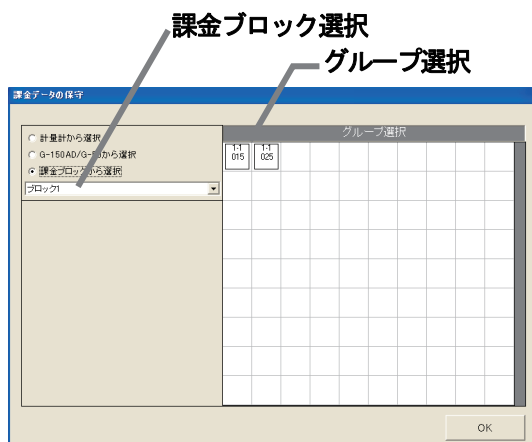
3) 室内機アイコンを選択します
室内機アイコンをクリックすると、「ユニット按分データのメンテナンス」画面が表示されます。

4) 按分パラメータを選択します
ユニットの変更したい按分パラメータ (料金単価別) および (室外機分・室内機分) のセルを選択します。

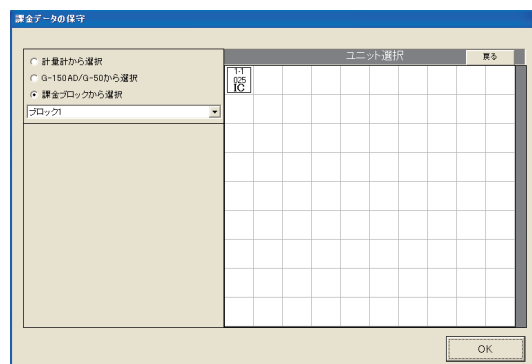
5) データを修正入力します
ユニットの日単位 (料金単価別) の按分データ値を修正入力します。



課金データの保守画面
(G-150AD/G-50から選択)



課金データの保守画面 (課金ブロックから選択)



課金データの保守画面 (室内機アイコン表示)

<修正方法>

変更したい按分パラメータのセルをクリックします。
 クリックしてセルが選択されると、そのセルに▲/▼ボタンが表示されます。▲/▼ボタンをクリックしてデータを修正します（キーボードから直接数値を入力することもできます）。
 修正したデータによるブロックの空調料金の計算結果を、全ての日付のデータ修正が終わった時点、または、途中でも画面下部の「修正計算」ボタンをクリックすると、修正前の合計按分パラメータと一緒に表示されます。データ修正の目安として使用することができます。

<ご注意>

- ・「修正計算」ボタンにより計算された値は仮計算ですので、按分電力量値と仮計算値には誤差があります。課金のデータを保守する前に仮計算値を確認してから使用ください。空調料金に反映するには全ての室内機のデータを修正後、空調料金画面より再計算を実施してください。
- ・按分電力量や按分パラメータの表示と入力は小数点1桁までです。表示の値は小数点2桁目を四捨五入しています。

[電力量計接続あり]

按分電力量

[ユニットデータの表示色]
 黒色：正常
 赤色：異常（未按分）
 青色：メンテナンス済み
 緑色：繰り越し
 グレー色：データなし

[料金単価]
 料金単価○：5種類

修正計算ボタン

項目	06/08		06/09			06/10	
	料金単価	料金単価1	料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5	料金単価1
室外按分電力量 [kWh]	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
室内按分電力量 [kWh]	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
クランケースヒータ電力量 [kWh]	0.000	0.288	0.000	0.000	0.000	0.000	0.096
*能力セーブ量 (容量4.50 [kW])	0	4303	0	0	0	0	1440
*FAN運転時間 (消費電力0.100 [kW])	0	4305	0	0	0	0	1440
*サーモON時間	0	4305	0	0	0	0	1440
*補助ヒータON時間 (補助電圧ヒータ0.000 [kW])	0	0	0	0	0	0	0

室内機データの保守画面

[電力量計接続なし]

按分パラメータ

[ユニットデータの表示色]
 黒色：正常
 赤色：異常（未按分）
 青色：メンテナンス済み
 緑色：繰り越し
 グレー色：データなし

[料金単価]
 料金単価○：5種類

修正計算ボタン

項目	06/08		06/09			06/10	
	料金単価	料金単価1	料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5	料金単価1
室外按分パラメータ	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
室内按分パラメータ	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
*能力セーブ量 (容量4.50 [kW])	0	4303	0	0	0	0	1440
*FAN運転時間 (消費電力0.100 [kW])	0	4305	0	0	0	0	1440
*サーモON時間	0	4305	0	0	0	0	1440
*補助ヒータON時間 (補助電圧ヒータ0.000 [kW])	0	0	0	0	0	0	0

室内機データの保守画面

- 6) 1) 項～5) 項を繰り返し、全ての室内機を修正します
修正したい按分データ値を、1) 項～5) 項の方法を用いて修正します。
- 7) 修正を完了すると、[OK] ボタンを選択します

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・ユニットの按分データ（按分パラメータ値、按分電力値）を修正した場合、再計算すると空調料金に反映されます。
- ・前日が異常の場合、その当日のデータが正しくないケースがあります。（例えば、前日が異常の場合、翌日に繰り越し処理していることがあります。）
- ・赤色表示の按分パラメータをメンテナンス色（青色）にして再計算することにより、空調料金の結果表示に反映します。（ただし、空調料金の精算期間内にある全ての異常色（赤色：未按分）、データなし色（グレー色）をメンテナンスする必要があります。）
- ・室外機按分がモード2の場合、クランクケースヒータ按分電力量も変更できます。

<メンテナンス例>

→添付3参照

G-150AD/G-50故障時の「課金データの保守」実施例（電力按分課金（電力量パルスカウント）の場合）

- 1) 故障期間の按分電力量を『0』に修正します。修正すると、値が青色になります。
※復旧当日分も含む。
- 2) 故障期間の修正方法を下記案から選択し、修正します。
案：故障前一週間の平均値使用
→故障前の一週間の平均値を1日分の按分電力量とし、故障期間の使用電力量を比率で按分計算し、その値を復旧日の前日付に按分電力量として入力します。
- 3) 既に精算されている場合は、再計算を選択して、該当月分を再精算します。

<メンテナンス例>

→添付3参照

G-150AD/G-50故障時の「課金データの保守」実施例（電力按分課金（電力量手入力）の場合）

- 1) 故障期間の按分パラメータを『0』に修正します。修正すると、値が青色になります。
※復旧当日分も含む。
- 2) 故障期間の修正方法を下記案から選択し、修正します。
案①：故障前一週間の平均値使用
→故障前の一週間の平均値を1日分の按分パラメータとし、故障期間の日数を掛けた按分パラメータを計算し、復旧日の前日付にその按分パラメータを入力します。
案②：正常期間のみ使用
→故障した期間の全室内機分の按分パラメータを使用せずに、正常期間のみを使用します。故障期間の全室内機分の按分パラメータを『0』に修正します。
- 3) 既に精算されている場合は、再計算を選択して、該当月分を再精算します。

お知らせ

- ・G-150AD/G-50交換当日分の課金データの保守は、G-150AD/G-50交換翌日以降に実施する必要があります。
ただし、復旧時刻まで本機能で行ない、課金比較データの保守を使用すると、当日で完了できます。
- ・G-150AD/G-50を交換した場合は、完全修正することはできませんので、故障時の特別修正を実施する必要があります。

9. 2. 4 計量計データのメンテナンス

電力量計データを修正することができます。電力量計データの料金単価 1～5 を表示します。

計量計データのメンテナンス方法

[操作方法]

- 1) 計量計を▼ボタンで選択します
課金データの保守画面の計量計欄にある▼ボタンを押すと、全ての電力量計を表示します。表示したい電力量計を選択して、[計量計データの保守] ボタンをクリックすると、電力量計のメンテナンス画面が表示します。
- 2) 計量計データを選択します
電力量計の修正したい料金単価のセルをクリックすると、カーソルがそのセルに移動します。
- 3) データを修正入力します
計量計の日単位（時間別）のデータを修正入力します。
- 4) 上記1)～3)を繰り返します
修正したい箇所を、上記1)～3)の方法を用いて実施します。
- 5) [OK] ボタンを選択します
計量計データのメンテナンスを完了すると、[OK] ボタンをクリックします。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

料金単価表示

料金単価別に積算計量値を表示します。

項目	料金単価	03/28	03/29	03/26	03/26	03/27	03/28
使用電力量	料金単価1	0.0	0.0	46.9	999952.2	142.2	0.0
B kWh	料金単価2	0.0	0.0	999998.2	19.9	44.1	0.0
	料金単価3	0.0	0.0	34.2	999974.3	102.1	0.0
	料金単価4	0.0	0.0	58.9	999971.1	30.7	0.0
	料金単価5	0.0	0.0	14.0	999994.5	7.7	0.0

計量計のメンテナンス画面

[計量計データの表示色]

- 黒色：正常
- 緑色：異常（繰り越し）
- 青色：メンテナンス
- グレー色：データなし

[料金単価]

料金単価 1～5

お知らせ

- ・計量計データを修正した場合、再計算すると空調料金に反映されます。室内機の按分データには反映しませんので、ユニットデータのメンテナンスを実施してください。
- ・前日が異常の場合、その当日のデータが正しくないケースがあります。例えば、前日が異常の場合、翌日に繰り越ししていることがあります。
- ・赤色表示の計量値をメンテナンス（青色）にして再計算することにより、空調料金の結果表示に反映します。（ただし、空調料金の精算期間内にある全ての赤色をメンテナンスする必要があります。）
- ・電力量計接続無しの電力按分課金（電力量手入力）の場合、本機能は使用できません。

9. 2. 5 計量計のモニタ

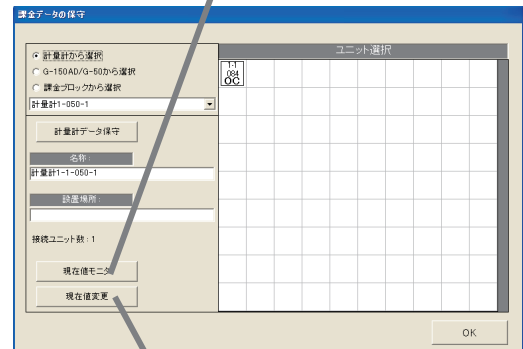
現在の計量計の値をモニタして、表示します。

計量計のモニタ確認方法

[操作方法]

- 1) 計量計を選択します
課金データの保守画面にて、モニタする計量計を▼ボタンで選択します。
- 2) 現在値モニタのボタンを選択します
「現在値モニタ」のボタンをクリックすると、計量計の現在積算値画面が表示されます。
- 3) 確認完了後に [OK] ボタンを選択します
再度 [現在値モニタ] ボタンをクリックすると、計量計の積算値が表示されます。

現在値モニタボタン



現在値変更ボタン

課金データの保守画面

お知らせ

- ・本画面にて、計量計との接続確認を行えます。
- ・計量計の積算値は約1分間の定時モニタで行なっています。
タイムラグ：最大10～60秒程度
- ・計量計の現在値は特定日からの積算値のため、電力按分課金支援の按分電力量とは無関係です。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金支援（電力量手入力）の場合、本機能は使用できません。
- ・管理画面でも計量計の試運転ができます。取扱説明書の管理編 8. 6章を参照ください。



計量計の現在積算値画面

電力量計の現在値変更方法

[操作方法]

- 1) [現在値変更] ボタンを選択し、変更値を設定します
課金データの保守画面にて、モニタする計量計を▼ボタンで選択し、[現在値変更] ボタンをクリックします。
現在値変更画面が表示され、値を変更できます。
※変更する電力量計の計測電線の電源ブレーカーをOFFにした状態で実施してください。
※課金計算に使用するデータは変更できません。



計量計の現在積算値変更画面

9. 3 運転量・電力量データモニタ

運転量・電力量データモニタにより、各G-150AD/G-50が保持している室内機の運転量データ、または、各PLCが保持している電力量計（全計量計含む）の積算値データを読み出すことができます。計量MCを使用している場合は、各G-150AD/G-50が保持している電力量計の積算値データを読み出します。

<機能説明>

本システムでは電力按分課金計算のために、全てのG-150AD/G-50から室内機運転量をモニタします。

[実施タイミング] 毎日4:00以降

(室内機運転量 : 能力セーブ量, FAN 運転時間, サーモ ON 時間, 補助電気ヒータ 運転時間,
計量計積算量 : 計量計積算値 (累計))

以下のケースでは、正常に按分計算が実施されません。

ケース : PC (本統合ソフト (TG-2000) が動作しているパソコン) の電源OFFや故障
G-150AD/G-50とのLAN回線断やHUBの故障などによりモニタできなかった
ただし、復旧後 (翌日など) 繰越し計算が行なわれるため、計算結果は正となり、精算結果は正常 (黒色) 表示します。

「課金データの保守」、または、9. 5章で説明する「救済按分」を利用して、按分パラメータ値あるいは按分電力量のメンテナンスを実施される場合に、目安となる運転量データ (モニタできなかった) や電力量データ (計量計データ) を日付指定してモニタするのが「運転量・電力量データモニタ」機能です。

<補足> G-150AD/G-50とPLCは基本的に62日前までのデータを日付つきで料金単価毎に保持しています。

(計量MCの課金システムでは、G-150AD/G-50に62日前までの運転量・電力量データを保持しています。)

<ご注意>

運転量データモニタを実施しても下記理由により運転量がモニタできない場合があります。

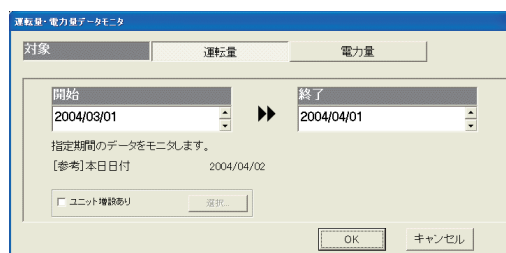
- ・ G-150AD/G-50の電源断 (24時間以上) によりデータ蓄積がない場合。
- ・ 日付・時刻を24時間以上進めたことによるデータ蓄積がない場合。
- ・ G-150AD/G-50、PLCまたは計量MCの故障により、G-150AD/G-50を交換した場合。
- ・ 現在時刻が 22:00~00:30 または 4:00~6:00 の場合。この期間はモニタができません。

2000台システムで1ヶ月分を運転量データモニタすると、約1時間程度かかります。

運転量・電力量データをモニタします。

[操作方法]

- 1) 「運転量・電力量データモニタ」ボタンを選択します
初期画面のメンテナンスグループにある [運転量・電力量データモニタ] ボタンをクリックします。
- 2) モニタする対象のボタンを選択します
運転量・電力量データモニタ設定画面にて、対象のデータ [運転量]、または、[電力量] ボタンをクリックして選択します。
- 3) モニタする期間を設定します
モニタ期間を▲/▼ボタンをクリックして設定します。
※ 数字はキーボードから直接入力できます



運転量・電力量データモニタ (設定) 画面

4) 増設ユニットを設定します

増設ユニット/WHMが存在する場合、「ユニット増設あり」のオプションボタンを選択し、「選択」ボタンをクリックします。増設ユニット選択画面で、増設ユニットと設置日付を設定して、「OK」ボタンをクリックします。

※増設前の期間を考慮してモニタすることができます。

5) 設定後に、[OK] ボタンを選択します

運転量・電力量データモニタ確認画面が表示されます。

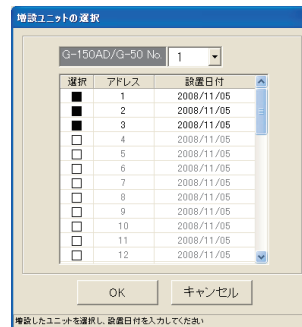
※[キャンセル] ボタンをクリックすると、本モニタを中止し、運転量・電力量データモニタ設定画面に戻ります。

6) モニタ開始を確認し、[OK] ボタンを選択します

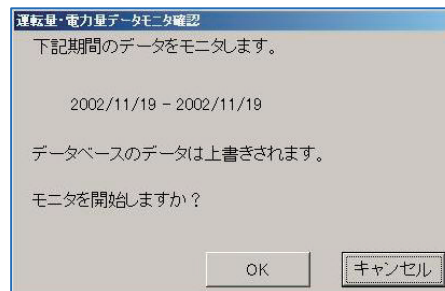
[OK] ボタンをクリックするとモニタ禁止時間に該当しないかを自動的に判断します。

禁止時刻範囲でない場合は、「しばらくお待ちください」画面を表示し、運転量・電力量データモニタを開始します。モニタを完了すると、システム設定画面に戻ります。

※モニタには、時間を要しますので、しばらくお待ちください。



増設ユニット設定画面



運転量・電力量データモニタ確認画面

お知らせ

- ・運転量・電力量データのモニタは、対象日付の全室内機が対象となり、本統合ソフト（TG-2000）のデータベースに上書きします。必要な日付のみモニタしてください。
- ・前日分のモニタは、**8:00以降に実施してください（蓄熱機種のみは9:00以降としてください）。**
- ・運転量・電力量モニタを実施しても、電力課金按分計算の再計算には使用できません。9. 2章の「課金データの保守」の機能、または、9. 5章の「救済按分」の機能を使用してください。
- ・本機能で運転量・電力量データを収集しても、「課金データの保守」画面には反映しません。課金パラメータの出力には反映されます。

9. 4 課金パラメータの出力

課金パラメータである運転量データ（室内機の能力セーブ量積算値、FAN 運転時間積算値、サーモ ON 時間積算値および補助電気ヒータ運転時間）、または、電力量データをファイルに出力する機能です。

お知らせ

- ・統合ソフトのPCに保持している値をそのまま出力しています。データ加工方法等は別途お問い合わせください。
 - ※能力セーブ量、FAN 運転時間、サーモ ON 時間および補助電気ヒータ運転時間の値は累積積算値であり、「999999」を越えると「000000」に戻ります。
 - ※計量計データは累積積算値であり、「999999.99」を越えると「000000.00」に戻ります。
- ・ファイル出力単位はG-150AD/G-50またはPLC単位毎となります。
- ・データは前日から最大122日分しか保存されていないので、保存外日付はデータ出力できません。

課金パラメータである運転量データをファイル出力します。

[操作方法]

1) 「課金パラメータ出力」メニューを選択します

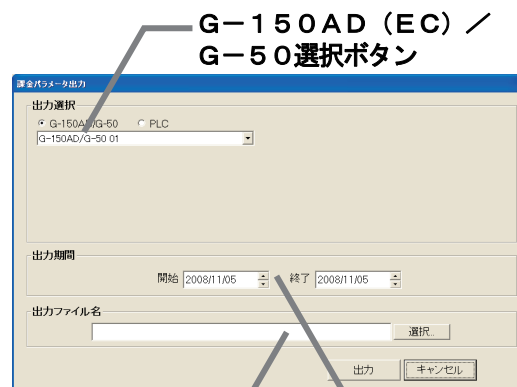
初期画面の[ツール]メニューにある[課金パラメータ出力]を選択します。課金パラメータ出力画面が表示されます。

※管理画面では本メニューを選択できません。

2) 出力対象を選択します

出力単位の種類をPLCまたはG-150AD (EC) / G-50を選択し、出力選択の▼ボタンをクリックして、選択します。

※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合は、拡張コントローラ単位に選択します。このとき、G-50 No. は「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示/選択します。



出力ファイル名設定 出力期間設定
課金パラメータ出力 (設定) 画面

3) 出力期間を設定します

出力したい期間を▲/▼ボタンで年月日を設定します。前日から122日前まで設定できます。

※該当日付のデータ有無に関わらず、設定できます。

4) ファイル出力先を設定します

ファイル出力先のフォルダとファイル名を設定します。

※[選択]ボタンをクリックすると任意のフォルダを選択できます。

お知らせ

- ・ファイル出力先に存在しないフォルダを記述して[出力]ボタンをクリックすると、フォルダを新規作成してファイルを保存します。

5) 設定完了後に、[出力]ボタンを選択します

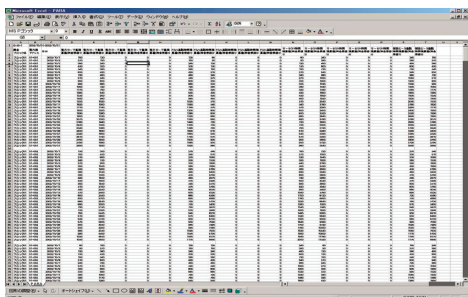
ファイルが保存され、終了すると、画面が閉じます。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、出力せずに画面が閉じます。

<出力ファイルのデータ形式>

出力形式はCSV形式となり、データは古い日付順に出力されます。

出力したファイルをEXCELにて取り込んだサンプル(運転量)を示します。



出力ファイルのEXCEL 取込画面

お知らせ

- ・料金単価が一つの場合、基本的に料金単価1のみとなり、他の料金単価の値は増加しません。
(料金単価1を使用している場合)
- ・積算値が存在しない場合は、『-99』または、空白になります。

<課金パラメータ自動出力について>

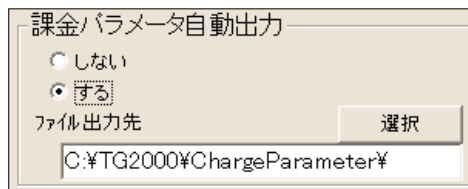
「ユーザー設定」にて課金パラメータ自動出力を「する」に設定した場合、自動的に課金パラメータを出力します。ファイルは「ユーザー設定」のファイル出力先で設定したフォルダの下に年と月を表す¥yyyy¥mm¥という自動作成されたフォルダに保存されます。

(出力される課金パラメータ)

手動出力の場合：指定期間を出力

自動出力(月毎)：前月精算日～当月精算日を出力

自動出力(日毎)：前日のみを出力



9. 5 課金の救済按分

課金の救済を実施する

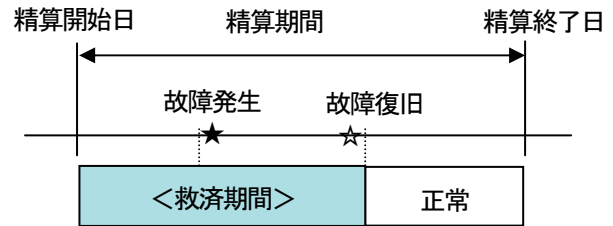
HDD故障による課金データの破損（バックアップあり／なし）が発生した場合、本救済機能を使用して、応急的にパソコン復旧前の按分課金計算を再実施することにより空調料金を算出できます。

9. 5. 1 課金の救済按分の準備

救済按分は救済期間分を1日毎に按分し、正常按分データと合わせて空調料金を算出します。救済按分には、

- ・精算期間
- ・救済期間
- ・運転量データのモニタ
- ・電力量データのモニタ

の準備または実施が必要になります。



救済按分 + 正常按分
パソコンのHDD故障し、バックアップなしの場合

救済按分を実施するために、下記の手順で行ないます。

- ステップ1：パソコンを復旧させ、TG-2000の初期設定を完了したことを確認します。
- ステップ2：運転量のデータモニタを実施します … 9. 3章参照
- ステップ3：電力量のデータモニタを実施します … 9. 3章参照
- ステップ4：救済按分を実施します

お知らせ

- ・精算期間が1ヶ月の場合、基本料金を含む空調料金を算出できます。
- ・運転量・電力量データモニタの実施は、救済按分よりも先に実施してください。

注意

- ・運転量・電力量データモニタ期間は**必ず故障発生期間とその前後1日分も含めて**実施してください。
- ・救済按分を実施した数日後、または、精算日に正常動作していることを確認してください。

9. 5. 2 救済按分の設定画面

HDD故障による課金データの破損（バックアップあり／なし）が発生した場合、本救済機能を使用して空調料金を応急的に算出することができます。

(1) 救済按分の各設定項目を設定する

[操作方法]

1) 「救済按分」ボタンを選択します

初期画面の「救済按分」ボタンをクリックします。すると、救済按分の設定画面が表示されます。

2) 精算期間を設定します

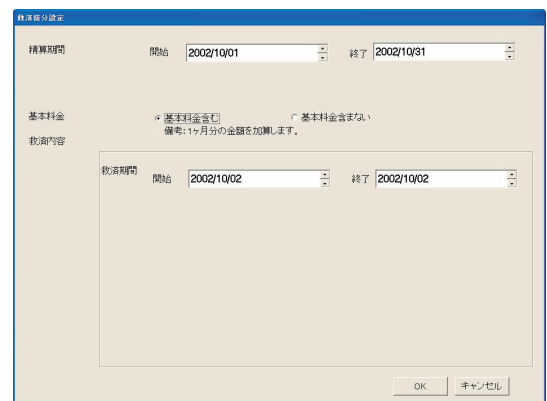
本救済按分で精算する期間をクリックと▲／▼ボタンで年月日を設定します。過去1日から過去122日まで設定できます。

3) 基本料金の設定を選択します

精算期間が1ヶ月の場合、基本料金の有無を選択できます。オプションボタンで「基本料金含む」または「基本料金含まない」を選択します。

4) 救済期間を設定します

救済する期間をクリックと▲／▼ボタンで日付を設定します。



救済按分設定の画面

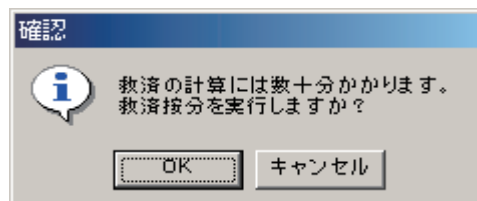
お知らせ

- ・HDD故障時の場合、前日までの期間で救済按分を実施してください。
- ・精算期間の初期値は、前月分の期間となっています。
- ・「基本料金含む」の選択は、精算期間が1ヶ月の場合のみ可能です。
- ・復旧日が精算日を跨った場合、当月と翌月の期間も救済按分を実施することを推奨します。
- ・電力量計接続なしの電力按分課金（電力量手入力）の場合、基本料金の有無は選択できません。

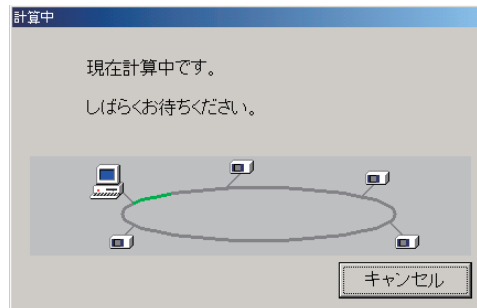
(2) 救済按分の計算を実施する

[操作内容]

- 1) [OK] ボタンを選択します
救済按分設定の画面にて、必要な設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックする。すると、救済按分の確認画面が表示します。
- 2) 確認完了後に [OK] ボタンを選択します
選択すると、計算中の画面が表示します。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、按分計算を中止します。



救済按分の確認画面



計算中の表示画面

お知らせ

- ・救済按分設定の画面で [OK] ボタンを選択すると、設定内容に誤りが無いかを確認し、誤りがあれば、警告画面が表示します。
- ・計算中の画面の [キャンセル] ボタンを選択すると、救済按分の計算をキャンセルできます。
- ・救済の計算には数十分程度要します。また、パソコンの性能により所要時間は異なります。

救済按分の設定に誤りがある場合、次のような設定ミスの警告メッセージを表示します。



警告表示 1



警告表示 2

(3) 救済按分の計算結果の表示

救済按分の計算が終了すると、救済按分結果の画面が表示されます。

救済按分結果の画面

[表示および各ボタンの説明]

項目	内容
按分条件表示	精算・救済按分した条件を表示します。
救済空調料金	救済した空調料金の精算結果がブロック及び電力量計単位で表示されます。ブロック単位表示においては、救済按分期間の参考値を表示しています。
出力ボタン	救済按分の空調料金結果を印刷またはファイル出力できます。
精算書き換えボタン	救済按分の空調料金結果が精算結果（基本料金含む）と同じ場合、1ヶ月単位の空調料金結果に上書きができます。
戻るボタン	再度、救済按分条件の設定画面に戻ることができます。
終了ボタン	本救済按分画面を終了することができます。

9. 6 G-150AD/G-50、PLC故障交換時の課金比較データの保守

G-150AD/G-50、または、PLC（シーケンサ）の故障により、運転量または電力量／計量が0から積算開始したときに、電力按分課金支援に使用している課金比較データを0にクリアする必要があります。

課金比較用データのクリア方法

[操作方法]

- 1) [課金比較データの保守] ボタンを選択します
初期画面のメンテナンスグループにある [課金比較データの保守] ボタンをクリックすると、課金比較データの保守画面が表示されます。
- 2) 対象ユニットを選択します
クリアしたい対象を選択します。
対象：「PLC」、「G-150AD (EC) /G-50」
対象ユニット：G-150AD (EC) /G-50、計量計（対象選択ボックスにて）
- 3) [一括リセット] ボタンを選択します
課金按分計算用の課金比較データをクリアするために、[一括リセット] ボタンをクリックします。すると、選択対象の課金比較データが0クリアされます。
- 4) 完了後に [OK] ボタンを選択します
初期画面に戻ります。

お願い

- ・故障にて交換していない対象を本機能でクリアすると、課金按分が正しく計算できませんので、注意してください。

お知らせ

- ・交換による故障期間は、9. 2. 3章または9. 2. 4章の課金データの保守でメンテナンスしてください。



9. 7 料金単価削除時の課金データの保守

料金単価1～5に対して、一部の料金単価を未使用にした場合、その料金単価の繰り越し分が残っているために、課金のトレンドデータが正しく出力されない場合があります。（課金の按分結果は問題ありません。）未使用にした料金単価の繰り越し分をクリアすることで、課金のトレンドデータを正しく出力することができます。

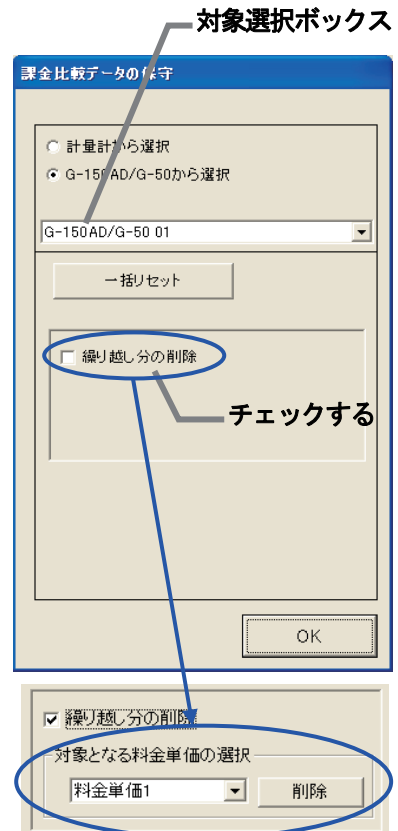
繰り越し分のクリア方法

[操作方法]

- 1) [課金比較データの保守] ボタンを選択します
初期画面のメンテナンスグループにある [課金比較データの保守] ボタンをクリックすると、課金比較データの保守画面が表示されます。
- 2) 対象ユニットを選択します
クリアしたい対象を選択します。
対象：「PLC」、「G-150AD (EC) /G-50」
対象ユニット：G-150AD (EC) /G-50、計量計（対象選択ボックスにて）
- 3) 「繰り越し分の削除」をチェックします
繰り越し分をクリアするために、「繰り越し分の削除」をチェックします。
「対象となる料金単価の選択」が表示されます。
- 4) 未使用にした料金単価を選択します
「対象となる料金単価の選択」に、未使用にした料金単価を選択し、[削除] ボタンをクリックします。すると、対象の料金単価の繰り越し分がクリアされます。
- 5) 完了後に [OK] ボタンを選択します
初期画面に戻ります。

お知らせ

- ・前日分（蓄熱機種ありの場合は2日前）の課金データが取得できていない場合は、繰り越し分のクリアはできません。課金データを取得後、再度実施してください。



10. 異常コード一覧

(1) 空調ユニットの異常コード

空調ユニットの異常コードと意味を記載します。(A)はA制御機種。

0000	異常総合一括
0100	ユニット異常一括
01*0	機器異常(*系統エラー)
0403	シリアル通信異常
0404	室内機 EEPROM 異常 (A)
0701	燃焼回路異常 (A)
0702	燃焼熱交過昇保護 (A)
0703	失火異常 (A)
0704	ヒータ異常 (A)
0705	感震器作動異常 (A)
0706	炎電流センサ異常 (A)
0707	着火異常 (A)
0708	ブロアモータ回転数異常 (A)
0709	油ポンプ回路異常 (A)
0900	試運転モード
1000	冷媒系異常一括
10*0	冷媒系異常 *系統一括
1102	吐出温度異常 (TH4) (A)
1108	インナーサーモ (49C) 作動 (A)
11**	冷媒系温度異常 部位共通 [°] ラント [°] :**
12**	冷媒系温度異常猶予 部位共通 [°] ラント [°] :**
1300	低圧圧力異常(63L 作動) (A)
13**	冷媒系圧力異常 部位共通 [°] ラント [°] :**
14**	冷媒系圧力異常猶予 部位共通 [°] ラント [°] :**
1500	冷媒系 冷媒過充填
1501	冷媒系 冷媒不足 (ノ圧縮機シエル温度異常)
1502	冷媒系 液バックノ低吐出スーパーヒート異常 (A)
1503	冷媒系 凍結保護
1504	冷媒系 過昇保護
1505	冷媒系 圧縮機真空運転保護ノ冷媒低温異常
1506	冷媒系 冷媒ポンプ一括異常
1507	冷媒系 組成検知異常
1508	冷媒系 制御弁不良
1509	冷媒系 高圧圧力異常(ホーバルブ閉)
1510	冷媒系 ガス漏れ異常
1511	冷媒系 油面異常
1512	冷媒系 凍結予防停止
1513	冷媒系 ブライン凍結異常
1559	均油回路不良
1600	冷媒系 冷媒過充填異常猶予
1601	冷媒系 冷媒量不足
1605	冷媒系 真空運転保護猶予
1606	冷媒系 ガスポンプ異常
1607	冷媒系 CS 回路閉塞異常猶予
1608	冷媒系 制御弁不良異常猶予
1659	冷媒系 均油回路不良異常猶予
2000	水系異常一括 (ポンプインターロック異常)
20*0	水系異常 *系統一括
21**	水系温度異常 部位共通 [°] ラント [°] :**
22**	水系温度異常猶予 部位共通 [°] ラント [°] :**
23**	水系圧力異常 部位共通 [°] ラント [°] :**
24**	水系圧力異常猶予 部位共通 [°] ラント [°] :**
2500	水系 漏水異常
2501	水系 断水
2502	水系 ドレンポンプ異常

2503 水系 ドレンセンサ異常／フロートスイッチ作動
 2504 水系 液面レベル異常
 2505 水系 冷水電動弁異常
 2506 水系 温水電動弁異常
 2507 水系 結露防止制御作動
 2600 水系 漏水
 2601 水系 断水／加湿器断水
 2602 水系 ドレンポンプ異常
 2603 水系 ドレンセンサ異常
 2604 水系 液面レベル異常
 3152 空気系 インバータ制御箱内温度異常
 3182 空気系 庫内温度異常
 3252 空気系 インバータ制御箱内温度異常猶予
 3600 空気系 フィルター目詰まり
 3601 空気系 フィルターメンテナンス
 3602 空気系 ダンパ位置検出異常
 37** 空気系 異常猶予 部位共通ラウンド：**
 38** 空気系 湿度異常 部位共通ラウンド：**
 4000 電気系 異常一括
 40*0 電気系 異常 *系統一括
 4100 電気系 過電流遮断
 4101 電気系 過電流保護
 4102 電気系 欠相異常／欠相 (T相) (A)
 4103 電気系 逆相／欠相異常
 4104 電気系 漏電
 4105 電気系 短絡
 4106 電気系 自電源 OFF／停電異常
 4107 電気系 過負荷
 4108 電気系 過負荷保護／OCR51C／欠相 (S相)、51CM コネクタオープン (A)
 4109 電気系 OCR51F
 4110 電気系 高電圧部
 4111 電気系 母線電流
 4112 電気系 巻線過熱 4 9℃
 4113 電気系 ヒータ過熱
 4114 電気系 ファンコントローラ異常
 4115 電気系 電源同期異常／入力回路 (基板) 不良
 4116 電気系 モータ異常／回転数異常
 4117 圧縮機自己保護機能作動 (A)
 4118 逆相検出回路 (基板) 不良 (A)
 4119 コネクタ 2 本以上オープン (A)
 4121 電気系 高調波対策機器異常
 4123 電気系 インバータ出力異常
 4124 電気系 ダンパ異常
 4125 電気系 突防回路異常
 4158 電気系 過負荷保護／OCR 5 1 C 異常猶予
 4162 電気系 圧縮機巻線温度異常猶予
 4163 電気系 ファンコントローラ異常猶予
 4165 電気系 電源同期異常猶予
 4171 電気系 高調波対策機器異常猶予
 4200 インバータ異常一括
 420* インバータ異常一括 インバータ番号：*
 4210 インバータ過電流遮断異常一括
 421* インバータ過電流遮断 インバータ番号：*
 4220 インバータ母線電圧不足異常一括／電圧異常 (A)
 422* インバータ母線電圧不足 インバータ番号：*
 4230 インバータ放熱サーモ異常一括
 423* インバータ放熱サーモ異常 インバータ番号：*
 4240 インバータ過電流 (過負荷) 保護異常一括
 424* インバータ過電流保護異常 インバータ番号：*
 4250 インバータ IPM／母線電圧異常一括／パワーモジュール異常 (A)
 425* インバータ IPM 異常 *

4260 インバ-タ冷却ファン異常
 426* インバ-タ冷却ファン異常 インバ-タ番号: *
 4300 インバ-タ異常猶予一括
 430* インバ-タ異常猶予一括 インバ-タ番号: *
 4310 インバ-タ過電流遮断異常猶予一括
 431* インバ-タ過電流遮断異常猶予 インバ-タ番号: *
 4320 インバ-タ母線電圧不足異常猶予一括
 432* インバ-タ母線電圧不足異常猶予 インバ-タ番号: *
 4330 インバ-タ放熱サーモ異常猶予一括
 433* インバ-タ放熱サーモ異常猶予 インバ-タ番号: *
 4340 インバ-タ過電流保護異常猶予一括
 434* インバ-タ過電流保護異常猶予 インバ-タ番号: *
 4350 インバ-タ IPM 異常猶予一括
 435* インバ-タ IPM 異常猶予 *
 4360 インバ-タ冷却ファン異常猶予一括
 436* インバ-タ冷却ファン異常猶予 インバ-タ番号: *
 5000 センサ故障一括
 50*0 センサ故障 * 系統一括
 51** 温度センサ故障 センサ番号: **
 5202 コネクタ (63L) オープン (A)
 52** 圧力センサ故障 センサ番号: **
 5300 電流センサ異常 (A)
 53** 電流センサ故障 センサ番号: **
 54** 湿度センサ故障 センサ番号: **
 55** ガスセンサ故障 センサ番号: **
 56** 風速センサ故障 センサ番号: **
 57** リミットスイッチ故障 スイッチ番号: **
 58** センサ故障 センサ番号: **
 59** その他センサ故障 センサ番号: **
 6000 システム異常一括
 6101 システム異常 不能 応答フレーム有り
 6102 アンサーバック無し
 6200 コントローラ H/W 異常一括
 6201 E 2 PROM異常
 6202 RTC異常
 6500 通信異常一括
 6600 通信異常 アドレス二重定義エラー
 6601 通信異常 極性未設定エラー
 6602 通信異常 伝送プロトコル ハードウェアエラー
 6603 通信異常 伝送路 BUSY エラー
 6604 通信異常 ACK (06H) 無し (通信回路異常)
 6605 通信異常 応答フレーム無し
 6606 通信異常 伝送プロトコルとの通信異常
 6607 通信異常 ACK無返送エラー
 6608 通信異常 応答フレーム無返送エラー
 6609 通信異常
 6610 通信異常
 6700 通信異常 K伝送異常一括
 6701 通信異常 K伝送エラー
 6702 通信異常 Kアドレス二重定義エラー
 6750 通信異常 K異常コード PO
 6751 K異常 吸い込みセンサ異常
 6752 K異常 配管センサ異常 凝縮温度検出センサ異常
 6753 K異常 送受信エラー
 6754 K異常 ドレンセンサ異常 フロートスイッチ作動
 6755 K異常 ドレンポンプ異常
 6756 K異常 凍結/過昇保護
 6757 K異常 システムエラー
 6758 K異常 室外機異常 室内外通信エラー
 6761 K異常 吸い込みセンサ異常
 6762 K異常 配管センサ異常 凝縮温度検出センサ異常

6763	K異常	送受信エラー
6764	K異常	ドレンセンサ異常
6765	K異常	ドレンポンプ異常
6766	K異常	凍結／過昇保護
6767	K異常	室外機異常 室内外通信エラー
6771	K異常	高圧圧力異常 低圧圧力異常
6772	K異常	インナーサーモ作動 吐出温度異常 シェルサーモ作動 過電流保護
6773	K異常	放熱板サーモ作動
6774	K異常	室外サーミス異常
6775	K異常	圧力センサ異常 室内外通信異常
6776	K異常	過電流遮断
6777	K異常	システムエラー
6778	K異常	正常
6779	K異常	冷媒過充填 電圧異常 CTセンサ異常
6800	通信異常	その他の通信異常一括
6801	通信異常	V制御通信異常
6810	通信異常	UR通信異常一括
6811	通信異常	UR通信同期回復不能エラー
6812	通信異常	UR通信ハードウェアエラー
6813	通信異常	UR通信スタートビット検出エラー
6820	その他の通信異常	
6821	その他の通信異常	伝送路 BUSY
6822	その他の通信異常	通信 ACK 無し
6823	その他の通信異常	応答コマンド無し
6824	その他の通信異常	受信データ誤り
6830	通信異常	MA 通信冷媒アドレス二重設定異常
6831	通信異常	MA 通信受信なし異常
6832	通信異常	MA 通信同期回復異常
6833	通信異常	MA 通信送受信H/W 異常
6834	通信異常	MA 通信スタートビット検出異常
6840	通信異常	A制御内外通信受信無し異常
6841	通信異常	A制御内外通信同期回復異常
6844	通信異常	A制御内外通信内外接続誤配線、室内ユニット台数オーバー（5台以上）
6845	通信異常	A制御内外通信内外接続誤配線（テレコ、外れ）
6846	通信異常	A制御内外通信立ち上げ時間オーバー
6900	く～るリモートメンテナンス	RMP通信異常
6901	く～るリモートメンテナンス	G-50通信異常
6903	く～るリモートメンテナンス	PLC通信異常
6904	く～るリモートメンテナンス	PLC停電検知
6905	く～るリモートメンテナンス	PLC電池切れ警告検知
6906	く～るリモートメンテナンス	PLC診断エラー
6907	く～るリモートメンテナンス	PLC停止
6908	く～るリモートメンテナンス	G-50通信異常（PLC検知）
6910	く～るリモートメンテナンス	TG-2000通信異常
6920	通信異常	応答なしエラー（拡張コントローラ）
6922	通信異常	受信フレームID エラー（拡張コントローラ）
7000	システム異常一括	
7100	システム異常	合計能力エラー
7101	システム異常	能力コードエラー
7102	システム異常	接続ユニット台数オーバー
7103	システム異常	配管長設定エラー
7104	システム異常	階高設定エラー
7105	システム異常	アドレス設定エラー
7106	システム異常	属性設定エラー
7107	システム異常	分岐口設定エラー
7108	システム異常	冷媒系設定エラー
7109	システム異常	接続設定エラー
7110	システム異常	冷媒系統接続／接続情報未設定エラー
7111	システム異常	I/O接続機器未接続／リモコンセンサ異常
7112	システム異常	I/O種別設定異常
7113	システム異常	機器未設定

7116	システム異常	リプレイス未洗浄設定異常
7117	システム異常	機種識別未設定異常
7130	システム異常	組合せ異常
7131	システム異常	H/P冷専混在接続異常（設備PAC）
7132	システム異常	運転操作複数入力異常（設備PAC）
7200	システム異常	数値未設定一括
7201	システム異常	数値未設定
73**	システム異常	LON系機器異常
7901	システム異常	接続台数オーバーエラー（拡張コントローラ）
7902	システム異常	接続ロックエラー（拡張コントローラ）
7903	システム異常	ユニット情報エラー（拡張コントローラ）
7904	システム異常	システム設定エラー（拡張コントローラ）
7905	システム異常	バージョンエラー（拡張コントローラ）
8000		異常解除

お知らせ

・一部に本機のシステムでは表示されない異常コードも記載されています。

(2) システムの異常コード

下記に異常コードと意味を記載します。

G-150AD/G-50異常

0003	通信異常
0008	通信異常（PLC - G-150AD/G-50）
0009	運転量カウンタ異常

PLC異常

0003	通信異常
0004	停電検知
0005	電池切れ警告検知
0006	PLCの診断エラー
0007	PLCの停止

汎用機器異常（PLC、室内機フリー接点用ともに）

0091	汎用機器異常
------	--------

室内機フリー接点異常

0090	室内機フリー接点異常
------	------------

WHM故障予知（電力量0が3日続いたとき）

0095	電力量カウンタ故障予知異常
------	---------------

空調料金のファイル自動出力が行なわれなかったとき

0096	空調料金ファイル自動出力異常
------	----------------

お知らせ

・統合ソフトTG-2000、G-150AD/G-50、PLCおよび汎用機器の異常コードも数字4桁以内で表示しますが、空調機の異常コードとは意味づけが異なります。

11. 設定のチェックリスト

11.1 設定のチェックリスト

運用したい機能内容に従って、設定項目のチェックを行なってください。

	機能内容
ケース1	グループをアドレスで管理します（平面図なし）。
ケース2	グループ、ブロックを名前で管理します（平面図あり）。
ケース3	上記ケース2＋スケジュールを管理します。
ケース4	上記ケース3＋空調料金を管理します。
ケース5	上記ケース4＋汎用機器を管理します。

上記のケースにより、下記の項目をチェックする。

設定項目	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5
ユーザー設定	○	○	○	○	○
自動リポート	○	○	○	○	○
ビル名設定	○	○	○	○	○
G-150AD/ G-50接続設定	○	○	○	○	○
G-150AD (EC) /G-50 接続設定	○	○	○	○	○
G-150AD/G-50 IPアドレス設定	○	○	○	○	○
システム 構成設定	○	○	○	○	○
ユニット構成設定	○	○	○	○	○
冷媒系設定	○	○	○	○	○
グループ設定	○	○	○	○	○
換気連動設定	○	○	○	○	○
監視表示 設定	○	○	○	○	○
形名設定	○	○	○	○	○
フロア数とフロア名の設定 ※1	○	○	○	○	○
平面図の作成 ※1		○	○	○	○
フロアとG-150AD (EC) /G-50の設定	○	○	○	○	○
グループアイコンの配置と 名称設定	○	○	○	○	○
ブロック設定		○	○	○	○
時刻設定	○	○	○	○	○
パスワードの変更	○	○	○	○	○
オプション			○	○	○
スケジュール設定（年間/週間）			○	○	○
電力量計設定				○	○
課金システム設定				○	○
料金設定				○	○
課金システム設定の 初期設定と確認				○	○
汎用制御PLC設定					○
省エネ/ピークカット設定 ※2					
オートチェンジオーバー設定					
汎用DC、環境MC、計量MC設定					

※1 サブ画面も含みます。

※2 「11.4 省エネ・ピークカットの設定チェック」を参照ください。

お知らせ

- ・G-50でオプションの年間/週間スケジュールの機能を使用するには、G-50に「年間スケジュール/週間スケジュール」のライセンス番号を登録する必要があります。
（G-150ADまたはGB-50ADでは標準機能です。）
- ・電力按分課金の機能を使用するには、G-150AD、GB-50ADまたはG-50に「電力按分課金」のライセンス番号を登録する必要があります。
- ・省エネ機能を使用するには、G-150AD、GB-50ADまたはG-50に「省エネ制御」のライセンス番号を登録する必要があります。
- ・ピークカット機能を使用するには、G-150AD、GB-50ADまたはG-50に「省エネ制御（ピークカット）」のライセンス番号を登録する必要があります。
- ・パスワードの変更は必要に応じて実施してください。
- ・G-150AD/G-50、電力量カウントPLC、および、汎用制御PLCの時刻を試運転する前に合っていることを確認してください。

11. 2 試運転チェック

お願い

- ・試運転チェックを行なう前に集中コントローラG-150AD/G-50システムでの試運転チェックを完了させておいてください。また、空調機単体での試運転を完了させておいてください。
- ・現地調整の内容に関しては、3章に記載していますので、参照ください。

試運転チェックシートについて

本書の現地調整編にて初期設定が完了したら、試運転チェックシートの試験手順に従って、以下の(1)～(4)の項目を確認します。

(1) 立ち上げ確認

- ・初期画面の設定が終わりましたら、管理画面にします。
- ・立ち上げ中の画面が表示されていることを確認します。
- ・接続されている空調機の台数により異なりますが、10～20分程度で立ち上げを完了します。
- ・各フロアの表示を確認し、異常が発生していないことを確認します。
- ・異常発生時は、履歴画面で異常履歴を確認し、異常の要因を取り除いてください。

(2) TG-2000 (マンマシン) からの発停

- ・TG-2000から空調機を運転します。
- ・空調機が運転することを手元リモコン、集中コントローラG-150AD/G-50、TG-2000の表示で確認します。
- ・空調機の運転は、グループ、ブロック、フロア、全館の順番で行ないます。
- ・TG-2000からの運転操作により、異なる空調機が運転した場合は以下の設定を確認します。
 - グループアイコンの配置と名称設定 (8. 11. 9章参照)
 - グループ設定 (8. 7. 5章参照)
 - ブロック設定 (8. 11. 10章参照)

汎用機器を接続している場合

- ・マンマシンからの運転操作により、異なる汎用機器が運転した場合は以下の設定を確認します。
 - 汎用機器設定 (8. 9. 7章、8. 10. 2章、または、8. 8. 2章参照)

(3) 手元リモコン発停

- ※手元リモコンを接続していない場合は実施しません。
- ・手元リモコンから空調機を運転します。
- ・空調機が運転することを集中コントローラG-150AD/G-50、TG-2000で確認します。
- ・マンマシンの表示はフロア画面、ブロック画面、全館画面で確認します。

(4) 集中コントローラG-150AD/G-50発停

- ・集中コントローラG-150AD/G-50から空調機を運転します。
- ・空調機が運転することを手元リモコン、TG-2000で確認します。
- ・TG-2000の表示はフロア画面、ブロック画面、全館画面で確認します。

チェックシートを見やすく作成するために、1枚のチェックシートに対して、設置フロア一つ分、あるいは、集中コントローラG-150AD/G-50の1台分のユニットのみを記入します。

汎用機器を管理している場合は、汎用制御PLCごとに記入して使用します。

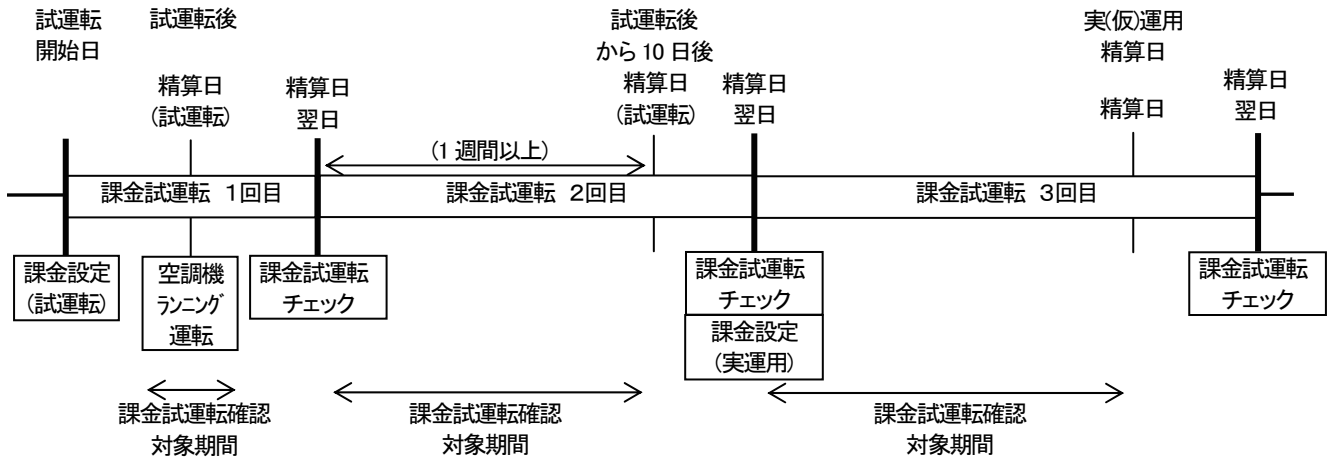
お知らせ

- ・試運転後にTG-2000のデータベース (MJ310G.lbf、MJ310G.mdf、MJ310GT.lbf、MJ310GT.mdf) のバックアップを取り、保存してください。
バックアップの方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

11.3 課金試運転チェック

課金試運転チェックは、3回の実施を推奨しています。

- 1回目：空調機試運転前後の確認
(空調機のランニング運転で課金試運転を行ないます。)
- 2回目：空調機試運転後から10日後(1週間以上経過後)の確認
(空調機のランニング運転をせずに、通常の運転/停止操作で課金試運転を行ないます。)
- 3回目：運用開始後(または仮運用開始後)から精算日までの確認



お願い

- ・課金試運転チェックは3回の実施を推奨していますが、少なくとも2回(空調機試運転前後と、実(仮)運用精算日の確認)は必ず実施してください。(ただし、04:00以前に1日目の確認内容を実施し、00:00~04:00まで空調機が停止していれば、2日間 で実施することができます。)
- ・課金試運転チェックは、引き渡しまでに余裕を持って実施してください。
- ・システム稼働中にシステム変更を実施した場合もチェックを実施してください。
- ・課金試運転2回目と3回目の精算結果に、前回分の課金試運転の料金が含まれる場合があります。その場合は、救済按分から期間計算を行なって、精算結果の確認を行なってください。(空調料金の自動計算や、自動出力が正しく行なわれているかの確認も行なってください。)

11.3.1 電力按分課金(電力量手入力)の試運転チェック …WHM接続無し

試運転チェックが完了しましたら、課金試運転チェックを行ないます。
以下の課金試運転フローにしたがって、課金設定内容を確認します。

課金試運転フロー

	実施日	実施項目	備考
1回目	1日目	(1) TG-2000の課金設定の内容確認	※設定確認後、TG-2000を動作させたままにします。
	2日目	(2) 空調機ランニング運転(冷房または暖房)	
	3日目	(3) 電力按分課金計算結果確認 (4) 精算結果の確認 (5) 判定確認 (6) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(6)を実施します。
2回目	1日目	(1) TG-2000の課金設定の内容確認(変更あり、なしを確認)	※空調機は、運転/停止操作可とします。
	10日後の翌日	(2) 電力按分課金計算結果確認 (3) 精算結果の確認 (4) 判定確認 (5) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(5)を実施します。
	3回目	(1) TG-2000の課金設定を実運用(または仮運用)へ変更	※空調機の運転は、実運用(または仮運用)とします。
	精算日の翌日	(2) 電力按分課金計算結果確認 (3) 精算結果の確認 (4) 判定確認 (5) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(5)を実施します。

お願い

- ・ **実運用開始後にシステム変更を行なった場合は、変更日翌日の空調機の課金データ、および、次回精算日の計算結果を必ず確認してください。**

お知らせ

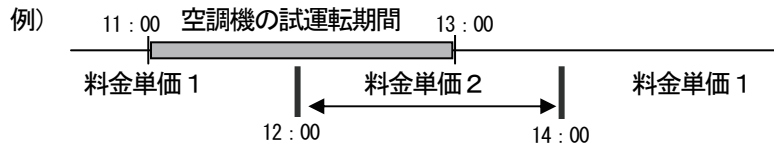
- ・ 1回目の3日目の課金試運転結果確認で問題がなければ、引続き、2回目の1日目の作業を同じ日に行なっても構いません。同様に、2回目の10日後の結果確認で問題がなければ、引続き、3回目の1日目の作業を同じ日に行なっても構いません。
各結果確認で問題があれば、問題を取り除き、再度、課金試運転の確認を実施してください。
- ・ **課金の試運転に実運用設定を用いることは可能です。その場合は、以下の説明内容を実運用設定に読み替えて課金試運転を行なってください。**
(使用する料金単価数や料金時間帯など)
- ・ チェックシートを見やすく作成するために、1枚のチェックシートに対して、設置フロア1つ分あるいはG-150AD/G-50 1台分のユニットを記入してください。
※チェックリストは料金単価を2つ使用するケースになっていますが、必要に応じて変更ください。

1回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定の内容確認

課金設定内容を課金試運転チェックシートに記入します。
課金を運用するためのデータの内容を確認してください。

- ・ 按分モード選択 (8. 13. 2章参照)
→ 実運用で使用するモードを設定してください。
- ・ 料金時間帯設定 (8. 14章参照)
→ 課金試運転チェック時には、年間料金時間帯と季節料金時間帯をなしに設定し、週間料金時間帯設定を料金単価1が夜間、料金単価2が昼間として設定します。
使用単価は料金単価1と料金単価2とも「10」を設定します。
時間帯は、空調機の試運転時間が料金単価1と2の両方に跨るように設定します。



- ・ 基本料金設定 (8. 14. 2章参照)
→ 基本料金が設定されている場合、値を設定してください。
- ・ 精算日設定 (管理編の9. 3章参照)
→ 課金試運転チェック時には、翌日(2日目)に設定してください。
- ・ 課金ブロック設定 (8. 13. 7章参照)
→ 実運用する課金用ブロックを設定してください。
※課金用ブロックを設定するためには、(操作) ブロック設定をする必要があります。(8. 11. 10章参照)

室内機ごとに、以下の内容を確認してください。

- ・ 同一冷媒系統の室外機アドレス (8. 7. 4章参照)
- ・ 室内機の能力 (8. 13. 6章参照)
- ・ 室内機の消費電力 (8. 13. 6章参照)
- ・ 室内機の補助電気ヒータ (8. 13. 6章参照)

お願い

- ・ 各設定内容が合っていることを必ず確認してください。設定値が合っていない場合は空調料金に影響します。

(2) 空調機ランニング運転 (冷房または暖房)

TG-2000から全空調機を運転します。

(G-150AD/G-50の本体画面から空調機を試運転モードにすることが可能です。)

全空調機が運転することを確認し、空調機の運転時間(分単位)を課金試運転チェックシートに記入します。

お願い

- ・空調機ランニング運転では、必ず全空調機を冷房または暖房で2時間以上運転してください。
(運転しないと、判定確認でNGとなります。)
(手元リモコンや集中リモコンから、空調機を試運転モードにすることをお勧めします。)
- ・消費電力許容値が小さい場合は、許容値範囲内で運転する対象の空調機を分割して実施してください。
- ・空調機の運転時間は必ず分単位でメモしてください。判定確認で空調機の運転時間を使用します。

(3) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、前日分の全室内機の按分パラメータ(料金単価1、料金単価2)を課金試運転チェックシートに記入します。

お願い

- ・空調機ランニング運転(冷房または暖房)を実施した翌日の07:15以降に行なってください。

(4) 精算結果の確認

空調料金画面の全館出力機能にて、精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。(空調料金の出力方法は管理編の「9.3 空調料金の出力」を参照してください。)

お願い

- ・空調機ランニング運転(冷房または暖房)を実施した翌日の07:15以降に行なってください。
- ・ユーザー設定で空調料金自動出力を有効にしている場合は、自動的に印刷またはファイル出力されていることを確認してください。

(5) 判定確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面にて、下記の判断条件が全て満足しているかを確認します。(試運転按分結果出力ファイルは「11.6 試運転按分結果出力」を、課金データの保守は「9.2 課金データの保守」を、それぞれ参照してください。)

条件①: 各課金ブロックの按分パラメータの値が「0」でないこと

条件②: 室内機のFAN運転時間(使用パラメータ)の値が空調機ランニング運転をした時間(分単位)以下の値であること

判定確認でNGと判断した場合は、以下の内容を確認して修正してください。

- ・課金用ブロック設定(ブロック設定)
- ・室内機能力
- ・室内機消費電力
- ・室内機の補助電気ヒータ

基本料金が設定されている場合

空調料金画面の全館出力機能から出力したCSVファイルにて、課金ブロックごとの基本料金の値が合っているかを確認します。

判定確認でNGと判断した場合は、以下の内容を確認して修正してください。

- ・基本料金設定

お願い

- ・判定確認結果がNGだった場合、設定を修復した後に、1日目から再度課金試運転を行なってください。ただし、基本料金の設定のみNGだった場合は、設定を修復した後に、空調料金画面の再計算を実施してから再度判定確認を行なうだけかまいません。
- ・料金単価3~5を設定している場合は、料金単価3~5に対しても確認を行なってください。

(6) データベースのバックアップ

データベース(MJ310G.mdf、MJ310G.ldf、MJ310GT.mdf、MJ310GT.ldf)のバックアップを実施して、課金試運転チェックシートとともに保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5: システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

2回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定の内容確認（変更あり、なしを確認）

精算日を2回目の課金試運転終了日（10日後）に設定した後、TG-2000の課金設定内容に誤りがないかを再度確認します。

確認方法は1回目の「(1) TG-2000の課金設定の内容確認」を参照してください。1回目の課金試運転から設定内容を変更する場合は、変更した内容がわかるように課金試運転チェックシートに記入してください。

(2) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、2回目の課金試運転日数分の全室内機の按分パラメータ（料金単価1、料金単価2）を課金試運転チェックシートに記入します。

(3) 精算結果の確認

2回目の課金試運転後の翌日に精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。

出力方法は1回目の「(4) 精算結果の確認」を参照してください。

(4) 判定確認

1回目と同様に、2回目の課金試運転期間分の確認を行なって、正しく課金設定が行なえているかを確認します。

確認方法は1回目の「(5) 判定確認」を参照してください。

(5) データベースのバックアップ

2回目の課金試運転時点のデータベース（MJ310G.mdf、MJ310G.ldf、MJ310GT.mdf、MJ310GT.ldf）のバックアップを実施して、2回分の課金試運転チェックシートと、1回目のバックアップデータとを共に保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

3回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定を実運用（または仮運用）へ変更

下記項目を、実運用設定（または仮運用設定）に変更してください。

- ・ 季節期間設定
- ・ 週間料金時間帯設定
- ・ 年間料金時間帯設定
- ・ 季節料金時間帯設定
- ・ 精算日設定
- ・ (基本料金設定)
- ・ (その他、課金試運転用に変更した設定)

変更した内容を試運転チェックシートに記入してください。

(2) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、3回目の課金試運転日数分の全室内機の按分パラメータ（料金単価1～5）を課金試運転チェックシートに記入します。

(3) 精算結果の確認

精算日の翌日に精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。

出力方法は1回目の「(4) 精算結果の確認」を参照してください。

(4) 判定確認

2回目と同様に、3回目の課金試運転期間分の確認を行なって、正しく課金設定が行なえているかを確認します。

確認方法は1回目の「(5) 判定確認」を参照してください。

お願い

- ・ 3回目の課金試運転の判定確認では、必ず料金単価1～5すべてに対して確認を行なってください。

(5) データベースのバックアップ

3回目の課金試運転時点のデータベース（MJ310G.mdf、MJ310G.ldf、MJ310GT.mdf、MJ310GT.ldf）のバックアップを実施して、3回分の課金試運転チェックシートと、1回目と2回目のバックアップデータとを共に保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

11.3.2 電力按分課金（電力量パルスカウント）の試運転チェック

試運転チェックが完了しましたら、課金試運転チェックを行ないます。

以下の課金試運転フローにしたがって、課金設定内容を確認します。

課金試運転フロー

	実施日	実施項目	備考
1回目	1日目	(1) TG-2000の課金設定の内容確認	※設定確認後、TG-2000を動作させたままにします。
	2日目	(2) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（空調機試運転前） (3) 空調機ランニング運転（冷房または暖房） (4) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（空調機試運転後）	
	3日目 ※1	(5) 電力按分課金計算結果確認 (6) 精算結果の確認 (7) 判定確認 (8) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(8)を実施します。
2回目	1日目	(1) TG-2000の課金設定の内容確認（変更あり、なしを確認） (2) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（2回目課金試運転前）	※空調機は、運転/停止操作可とします。
	10日後の翌日 ※1	(3) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（2回目課金試運転後） (4) 電力按分課金計算結果確認 (5) 精算結果の確認 (6) 判定確認 (7) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(7)を実施します。
3回目	1日目	(1) マンマシンの課金設定を実運用（または仮運用）へ変更 (2) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（3回目課金試運転前）	※空調機の運転は、実運用（または仮運用）とします。
	精算日の翌日 ※1	(3) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（3回目課金試運転後） (4) 電力按分課金計算結果確認 (5) 精算結果の確認 (6) 判定確認 (7) データベースのバックアップ	※判定確認でOKの場合に(7)を実施します。

※1 蓄熱課金ありの場合は、精算結果が精算日の翌々日に算出されますので、実施日は精算日の翌々日に設定してください。

お願い

- ・ **実運用開始後にシステム変更を行なった場合は、変更日翌日の空調機と電力量計の課金データ、および、次回精算日の計算結果を必ず確認してください。**

お知らせ

- ・ 1回目の3日目の課金試運転結果確認で問題がなければ、引続き、2回目の1日目の作業を同じ日に行なっても構いません。同様に、2回目の10日後の結果確認で問題がなければ、引続き、3回目の1日目の作業を同じ日に行なっても構いません。
各結果確認で問題があれば、問題を取り除き、再度、課金試運転の確認を実施してください。
- ・ **課金の試運転に実運用設定を用いることは可能です。その場合は、以下の説明内容を実運用設定に読み替えて課金試運転を行なってください。**
(使用する料金単価数や料金時間帯、基本料金、など)
- ・ チェックシートを見やすく作成するために、1枚のチェックシートに対して、設置フロア1つ分あるいはG-150AD/G-50 1台分のユニットを記入してください。
※チェックリストは料金単価を2つ使用するケースになっていますが、必要に応じて変更ください。

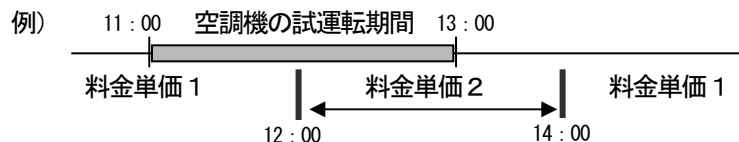
1回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定の内容確認

課金設定内容を課金試運転チェックシートに記入します。

課金を運用するためのデータの内容を確認してください。

- ・ 按分モード選択（8. 13. 2章参照）
→ 実運用で使用するモードを設定してください。
- ・ 料金時間帯設定（8. 14章参照）
→ 課金試運転チェック時には、年間料金時間帯と季節料金時間帯をなしに設定し、週間料金時間帯を料金単価1が夜間、料金単価2が昼間として設定します。
使用単価は料金単価1と料金単価2とも「10」を設定します。
時間帯は、空調機の試運転時間が料金単価1と2の両方に跨るように設定します。



- ・基本料金設定（8. 1 4. 2章参照）
→ 課金試運転チェック時には、「10,000」を設定してください。
- ・精算日設定（管理編の9. 3章参照）
→ 1回目の課金試運転チェックでは、翌日（2日目）に設定してください。
（蓄熱課金ありの場合も翌日（2日目）に設定します。）
- ・課金ブロック設定（8. 1 3. 7章参照）
→ 実運用する課金用ブロックを設定してください。
※課金用ブロックを設定するためには、（操作用）ブロック設定をする必要があります。（8. 1 1. 10章参照）

電力量計ごとに、以下の内容を確認してください。

- ・使用電力量計（8. 1 2. 4章、または、8. 8. 4章参照）
- ・パルスの単位設定（8. 1 2. 4章、または、8. 8. 4章参照）

室内機ごとに、以下の内容を確認してください。

- ・同一冷媒系統の室外機アドレス（8. 7. 4章参照）
- ・室内機と電力量計との対応（8. 1 3. 5章参照）
- ・室内機能力（8. 1 3. 6章参照）
- ・消費電力（8. 1 3. 6章参照）
- ・室内機の補助電気ヒータ（8. 1 3. 6章参照）
※課金按分の方法（モード）により、確認する項目数は異なります。

室外機ごとに、以下の内容を確認してください。

- ・室外機と電力量計との対応（8. 1 3. 3章参照）
- ・クランクケースヒータ容量（8. 1 3. 4章参照）
（室外サブユニット（OS）のクランクケースヒータ容量も合わせて入力してください。）
※課金按分の方法（モード）により、確認する項目数は異なります。

注意

- ▲パルスの単位設定時には、必ず電力量計の現物に記載されているパルス単位を目視確認ください。
パルス単位：電力量計には、pulse/kWhの単位で記載されています。パルス単位の設定は、その逆数kWh/pulseを設定してください。
- 【例】電力量計表示 10pulse/kWh⇒パルス単位0.1kWh/pulse
電子式電力量計 出力パルス単位=乗率×設定値
※詳しくは、電力量計の取扱説明書を参照してください。
- ・各設定内容が合っていることを必ず確認してください。
（設定値が合っていない場合は空調料金へ影響いたします）
 - ・電力量計パルスや、電力量計接続のテレコ確認を空調機試運転前に実施してください。

(2) 電力量計のメータ値およびTG-2000のモニタ値の確認（空調機試運転前）

PLCまたは計量MCに接続されている全電力量計の形名とメータ読み値（目視）、および、モニタ値を確認し、課金試運転チェックシートに記入します。（電力量計のメータ値モニタは「課金データの保守」の機能から確認できます。詳しくは、9. 2. 5章を参照ください。）

お願い

- ・マンマシンの課金設定内容確認を実施した翌日の07:15以降に行なってください。

(3) 空調機ランニング運転（冷房または暖房）

TG-2000から全空調機を運転します。
（G-150AD/G-50の本体画面から空調機を試運転モードにすることが可能です。）
全空調機が運転することを確認し、課金試運転チェックシートに記入します。

お願い

- ・空調機ランニング運転では、必ず全空調機を冷房または暖房で2時間以上運転してください。
(運転しないと、判定確認でNGとなります)
(手元リモコンや集中リモコンから、空調機を試運転モードにすることを勧めます。)
- ・消費電力許容値が小さい場合は、許容値範囲内で運転する対象の空調機を分割して実施してください。

(4) 電力量計のメータ値、およびTG-2000のモニタ値の確認 (空調機試運転後)

空調機のランニング運転を終了したら、PLCまたは計量MCに接続されている全電力量計の形名とメータ読み値(目視)、および、モニタ値を確認し、課金試運転チェックシートに記入します。

お知らせ

- ・測定したメータ値が空調機試運転前の測定値より大きくなっていることを確認してください。
もし同じ場合は、電力量計の設定を確認、修正後に再度空調機ランニング運転を行なってください。

(5) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、課金試運転期間分の全室内機の電力量(料金単価1、料金単価2)と、電力量計の電力量(料金単価1、料金単価2)を課金試運転チェックシートに記入します。(試運転按分結果出力ファイルは「11.6 試運転按分結果出力」を、課金データの保守は「9.2 課金データの保守」を、それぞれ参照してください。)

お願い

- ・空調機ランニング運転(冷房または暖房)を実施した翌日の07:15以降に行なってください。

(6) 精算結果の確認

空調料金画面の全館出力機能にて、精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。(空調料金の出力方法は管理編の「9.3 空調料金の出力」を参照してください。)

お願い

- ・空調機ランニング運転(冷房または暖房)を実施した翌日の07:15以降に行なってください。
ただし、蓄熱課金の場合は翌々日の07:15以降に行なってください。
- ・ユーザー設定で空調料金自動出力を有効にしている場合は、自動的に印刷またはファイル出力されていることを確認してください。

(7) 判定確認

- 試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面にて、課金試運転を行なった期間の電力量計の電力量に「0」の値が無いかを確認する
電力量(料金単価1・料金単価2)が「0」の値でなければOKと判断します。
電力量が「0」の値の場合、以下の内容を確認し修復してください。
 - ・電力量計のメータ値が空調機ランニング運転前後で値が1kWh以上増えているかを確認してください。もし増えていなければ、電力量計の確認および空調機のランニング運転を再度実施してください。
 - ・PLC(シーケンサ)とパソコンのLAN接続(または、計量MCとG-150AD/G-50の接続)を確認してください。
 - ・PLC(シーケンサ)と電力量計のパルス配線(または、計量MCと電力量計のパルス配線)を確認してください。
- 電力量計のメータ読み値とモニタ値に大きな相違がないかを確認する
電力量計のメータ読み値(目視)と、モニタ値の各差分値がほぼ同じで、大きな相違がないかを確認してください。
$$\text{メータ読み値(空調機試運転後)} - \text{メータ読み値(空調機試運転前)}$$
$$\approx \text{メータモニタ値(空調機試運転後)} - \text{メータモニタ値(空調機試運転前)}$$

メータごとの各差分値に大きな差異があれば、以下の内容を確認して修正してください。
 - ・パルスの単位設定
 - ・PLC(シーケンサ)と電力量計のパルス配線(または、計量MCと電力量計のパルス配線)

- c. 試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面にて、課金試運転を行なった期間の按分電力量に「0」の値は無いかを確認する
按分電力量（料金単価1・料金単価2）が「0」の値でなければOKと判断します。

お知らせ

- ・設定誤りなどが原因で按分されていない場合は「0」表示になります。按分電力量が小さい場合は「0.0」表示になります。

（参考）按分電力量とモード選択の関係は下表の通りです。

	按分モード選択	確認内容
室外機按分電力量	モード1	室外按分電力量=0 値以外
	モード2	室外按分電力量=0 値以外 クランクケースヒータ電力量=0 値以外
	モード3	室外按分電力量=0 値以外
室内機按分電力量	按分する	室内按分電力量=0 値以外
	按分しない	—

按分電力量が「0」の値の場合、以下の内容を確認し修復してください。

- ・室内機能力
 - ・室内機消費電力
 - ・室内機の補助電気ヒータ
 - ・課金データ保守画面での、FAN運転時間、能力セーブ量
 - ・室外機—電力量計の関連づけ
 - ・室内機—電力量計の関連づけ
- d. 空調料金画面にて、全室内機の按分結果の合計が、電力量計の合計と一致しているかを確認する
按分誤差や表示桁数による誤差が発生するため、差が（ブロック数×0.1）kWh 以下であればOKと判断します。
差が（ブロック数×0.1）kWh を超える場合は、以下の設定を確認して修復してください。
（ただし、パルスの単位が 1kWh/Pulse 以下の場合は、正しい設定でも誤差がブロック数×0.1kWh を超える可能性があります。）
- ・課金ブロック設定（ブロック設定）
- e. 空調料金画面にて、精算結果のブロック精算額に基本料金分が含まれた値であるかを確認する
ブロックの精算金額＝（ブロックの室内機按分電力量合計）× 単価＋基本料金
計算誤差が発生するため、差がブロック数×最小通貨単位（1円）以下であればOKと判断します。
差がブロック数×最小通貨単位を超える場合は、以下の設定を確認して修復してください。
- ・課金ブロック設定（ブロック設定）
 - ・基本料金設定
- f. ブロックの課金電力量に「0」の値は無いかを確認する
課金電力量に「0」の値でなければOKと判断します。
課金電力量に「0」の値がある場合、以下の内容を確認し修復してください。
- ・課金ブロック設定（ブロック設定）
 - ・室内機能力

お知らせ

- ・設定誤りなどが原因で按分されていない場合は「0」表示になります。按分電力量が小さい場合は「0.0」表示になります。

- g. 按分結果の電力量が電力量計の電力量と一致しているかを確認する
試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、電力量計に対応する以下の表の合計按分電力量が、その電力量計の電力量と一致しているかを確認してください。ただし、イレギュラー処理（通信異常による繰り越しが発生した場合など）が行なわれたときは、異なる場合があります。

電力量計対象	按分モード	合計按分電力量	備考
室外機	モード1	・電力量計に対応する全室外機按分電力量	
	モード2	・電力量計に対応する全室外機按分電力量 ・電力量計に対応する全クランクケースヒータの電力量	※1
	モード3	・電力量計に対応する全室外機按分電力量 ・電力量計に対応する共通電力量（クランクケースヒータ）	※1
室内機	する	・電力量計に対応する全室内機按分電力量	

※1：クランクケースヒータは1日24時間連続通電されているものとして計算されます。
 ※計算誤差および表示桁数による誤差により、最大0.5kWh/ユニットの誤差がでる可能性があります。

お願い

- ・判定結果がNGだった場合、設定を修復した後に、1日目から再度課金試運転を行なってください。ただし、判定確認eのみNGだった場合は、設定を修復した後に、空調料金画面の再計算を実施してから再度判定確認を行なうだけでかまいません。
- ・料金単価3～5を設定している場合は、料金単価3～5に対しても確認を行なってください。

(8) データベースのバックアップ

データベース（MJ310G.mdf、MJ310G.lfd、MJ310GT.mdf、MJ310GT.lfd）のバックアップを実施して、課金試運転チェックシートとともに保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

2回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定の内容確認（変更あり、なしを確認）

精算日を2回目の課金試運転終了日（10日後）に設定した後、TG-2000の課金設定内容に誤りがないかを再度確認します。

確認方法は1回目の「(1) マンマシンの課金設定の内容確認」を参照してください。1回目の課金試運転から設定内容を変更する場合は、変更した内容がわかるように課金試運転チェックシートに記入してください。

(2) 電力量計のメータ値、およびTG-2000のモニタ値の確認（2回目課金試運転前）

2回目の課金試運転を行なう前に、電力量計のメータ値を確認します。

確認方法は1回目の「(2) 電力量計のメータ値確認（空調機試運転前）」を参照してください。

(3) 電力量計のメータ値、およびTG-2000のモニタ値の確認（2回目課金試運転後）

2回目の課金試運転を行なった後に、電力量計のメータ値を確認します。

確認方法は1回目の「(4) 電力量計のメータ値確認（空調機試運転後）」を参照してください。

(4) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、2回目の課金試運転日数分の全室内機の電力量（料金単価1、料金単価2）と、電力量計の電力量（料金単価1、料金単価2）を課金試運転チェックシートに記入します。

(5) 精算結果の確認

2回目の課金試運転後の翌日に精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。

出力方法は1回目の「(6) 精算結果の確認」を参照してください。

(6) 判定確認

1回目と同様に、2回目の課金試運転期間分の確認を行なって、正しく課金設定が行なえているかを確認します。

確認方法は1回目の「(7) 判定確認」を参照してください。

(7) データベースのバックアップ

2回目の課金試運転時点のデータベース（MJ310G.mdf、MJ310G.lfd、MJ310GT.mdf、MJ310GT.lfd）のバックアップを実施して、2回分の課金試運転チェックシートと、1回目のバックアップデータとを共に保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

3回目の課金試運転チェック

(1) TG-2000の課金設定を実運用(または仮運用)へ変更

下記項目を、実運用設定(または仮運用設定)に変更してください。

- ・季節期間設定
- ・週間料金時間帯設定
- ・年間料金時間帯設定
- ・季節料金時間帯設定
- ・精算日設定
- ・基本料金設定
- ・(その他、課金試運転用に変更した設定)

変更した内容を試運転チェックシートに記入してください。

(2) 電力量計のメータ値、およびTG-2000のモニタ値の確認(3回目課金試運転前)

3回目の課金試運転を行なう前に、電力量計のメータ値を確認します。

確認方法は1回目の「(2)電力量計のメータ値確認(空調機試運転前)」を参照してください。

(3) 電力量計のメータ値、およびTG-2000のモニタ値の確認(3回目課金試運転後)

3回目の課金試運転を行なった後に、電力量計のメータ値を確認します。

確認方法は1回目の「(4)電力量計のメータ値確認(空調機試運転後)」を参照してください。

(4) 電力按分課金計算結果確認

試運転按分結果出力ファイルまたは課金データの保守画面から、3回目の課金試運転日数分の全室内機の電力量(料金単価1~5)と、電力量計の電力量(料金単価1~5)を課金試運転チェックシートに記入します。

(5) 精算結果の確認

精算日の翌日に精算結果を印刷またはファイル出力して、正しく精算結果が出力できることを確認します。

出力方法は1回目の「(6)精算結果の確認」を参照してください。

(6) 判定確認

2回目と同様に、3回目の課金試運転期間分の確認を行なって、正しく課金設定が行なえているかを確認します。

確認方法は1回目の「(7)判定確認」を参照してください。

お願い

・3回目の課金試運転の判定確認では、必ず料金単価1~5すべてに対して確認を行なってください。

(7) データベースのバックアップ

3回目の課金試運転時点のデータベース(MJ310G.mdf、MJ310G.ldf、MJ310GT.mdf、MJ310GT.ldf)のバックアップを実施して、3回目の課金試運転チェックシートと、1回目と2回目のバックアップデータとを共に保存してください。データベースのバックアップ方法は、「添付5：システム設定データのバックアップ方法」を参照してください。

実施日

作業者	承認

◆課金試運転の結果は必ず保存してください。

TG-2000 Ver. _____ G-150AD/G-50 Ver. _____

[確認手順]

項目	チェック/結果	MEMO
1	按分モード選択	
2	料金時間帯設定	
3	基本料金設定	
4	精算日設定	
5	課金ブロック設定	
6	電力量計の設定内容	
7	室内機の設定内容	
8	室外機の設定内容	
9	メータ値確認 (試運転前)	
10	運転確認	
11	メータ値確認 (試運転後)	
12	課金按分結果確認	
13	判定確認	a.
		b.
		c.
		d.
		e.
		f.
		g.
14	精算確認	
15	自動リポート説明	

[各室内機の確認シート]

→ (2/2) のチェックシートを使用ください。

[電力量計の確認シート]

<確認日時> 試運転前 (メータ確認値: [] モータ値: [])
 試運転後 (メータ確認値: [] モータ値: [])

電力量計の結果確認		[PLC No.] *PLC の場合	IP アドレス :				[G-150AD (EC) / G-50No.] *計量 MC の場合		M-NET アドレス :	(d) チェック
電力量計 No. (計量計)	形名/製造番号	単位 [kWh / pulse]	メータ値				課金按分結果			
			項目	試運転前 [kWh]	試運転後 [kWh]	差分値 [kWh]	(b) チェック	料金単価1 [kWh]	料金単価2 [kWh]	
WHM1			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM2			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM3			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM4			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM5			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM6			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM7			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM8			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM9			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		
WHM10			メータ確認値							
			モータ値					(合計)		

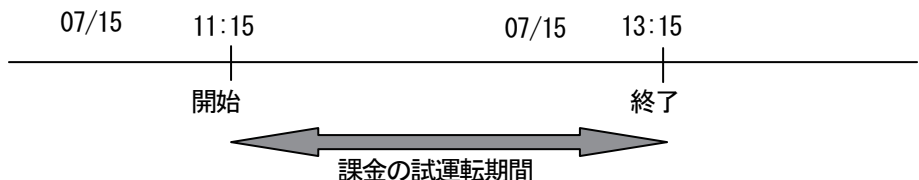
1 1. 3. 3 課金試運転の操作方法

前述の課金試運転方法では、最低3日間、あるいは、時刻変更による短縮方法で実施しておりましたが、模擬的にある時刻間の課金試運転を提供する機能について操作方法を記述します。

お知らせ

- ・本機能では、運用する料金設定、時間帯設定、基本料金設定などで課金計算を行います。
- ・1 1. 3章の試運転チェックシートを使用ください。

本課金試運転機能では、ある当日の任意の開始時刻から任意の終了時刻の期間を空調料金計算して、結果を表示することができます。



[操作方法]

1) 初期画面のメンテナンスグループにある[課金試運転] ボタンをクリックします。

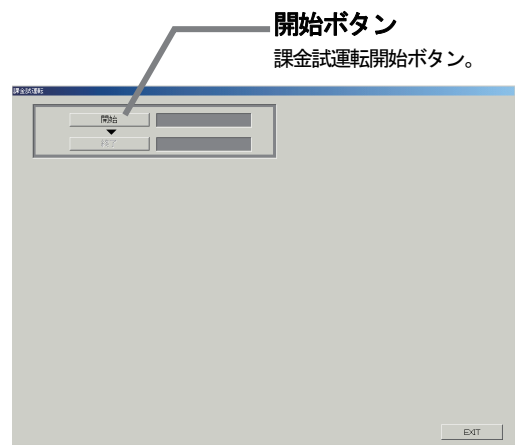
2) [開始] ボタンをクリックします。
課金の諸設定や電力量（計量計）の表示値の確認などを実施した後に、課金試運転画面の [開始] ボタンを選択します。

3) 確認メッセージが表示されます。[はい]をクリックします。
[はい] ボタンを選択すると、課金試運転時点での各データを収集します。

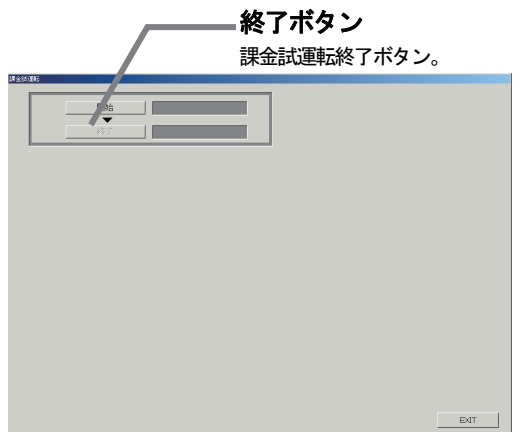
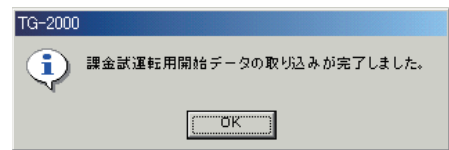
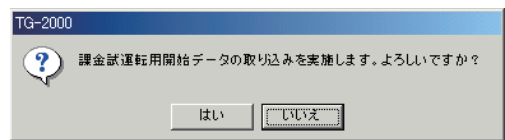
4) 完了メッセージが表示され、[OK] ボタンをクリックします。
課金データの開始時点での各種データ収集が完了すると、完了メッセージが表示されます。

5) 2時間そのまま空調機を試運転します。
空調機を約2時間運転させます。
(できたら、G-150AD/G-50側で空調機をモードを「試運転」に設定して、運転してください)

6) 2時間経過したら、[終了] ボタンをクリックします。



課金試運転の画面



7) 確認メッセージが表示され、[はい]ボタンをクリックします。



8) 試運転結果が表示されます。

「開始」と「終了」ボタンを選択された期間で、空調料金の計算がされます。しばらくすると、課金試運転結果の画面が表示されます。

クラックケースヒータの計算結果
クラックケースヒータの合計や1時間の電力量を表示されます。

計量計選択ボタン
計量計の分類を選択できます。

計量計の計算結果
計量計単位での料金結果を表示します。

終了ボタン
本課金試運転画面を閉じます。

出力ボタン
課金試運転の結果を出力(CSVファイル)します。

料金単価
空調計算に使用された料金単価を表示されます。

ブロックの按分結果
ブロック単位での按分結果を表示します。

お知らせ

- ・ 室外機のクラックケースヒータ分は1時間として計算されます。

お願い

- ・ 本機能は簡易確認になりますので、必ず、数日後および、第1回目の精算日計算結果を確認して、問題がないことを確認してください。

11. 4 省エネ・ピークカットの設定チェック

省エネ・ピークカットの設定チェックシートについて

省エネおよびピークカット設定時に下記の設定チェックシートを使用して確認します。ピークカットの場合は、本チェックシートをコピーして使用ください。

11. 5 システム情報CSV出力

TG-2000の試運転（監視・操作・課金）時に、TG-2000に設定した内容をCSVファイル出力し、チェックシートへ使用することができます。

CSVファイル出力により、試運転時の効率化や転記ミス防止などが図れます。

出力したCSVファイルは、TG-2000システムに付属の試運転チェックシートツール（試運転チェックシート.xls）により、EXCEL上に自動的にチェックシート形式で表示され、チェックシートとして利用することができます。

（※本機能を使用するには、統合ソフトのバージョンが Ver. 5.02 以上 である必要があります。）

11. 5. 1 空調発停試運転情報のCSV出力

監視・操作（汎用制御・フリー接点等も含む）のシステム構成情報、各種設定データをCSVファイルに出力します。

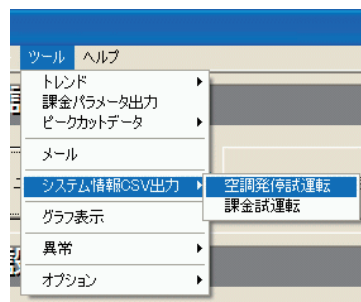
CSVファイル出力方法

CSVファイル出力は「初期画面」からのみ出力可能です。

「初期画面」より操作して下さい。

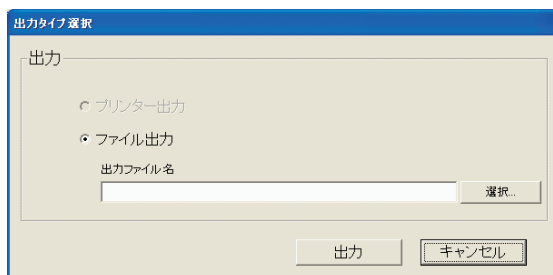
[操作方法]

- 1) メニューバーの [ツール] - [システム情報CSV出力] - [空調発停試運転] を選択します。



- 2) 出力ファイル名を入力します

[選択] ボタンをクリックすると、出力先のフォルダを参照できます。



- 3) [出力] ボタンを選択します。

[出力] ボタンをクリックすると、出力処理を行ないます。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

注意

CSVファイルは、直接修正しないでください。
試運転チェックシートツールでチェックシートが作成できなくなる場合があります。

11.5.2 課金試運転情報のCSV出力

課金システム（簡易課金、PLC課金）のシステム構成情報、各種設定データをCSVファイルに出力します。
（課金機能（を利用しない場合）がない場合は、本機能はありません。）

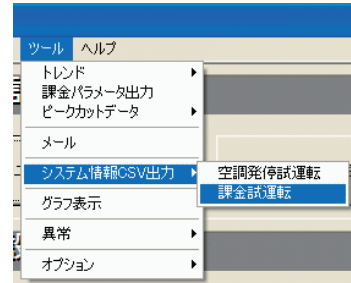
CSVファイル出力方法

CSVファイル出力は「初期画面」からのみ出力可能です。
「初期画面」より操作してください。

[操作方法]

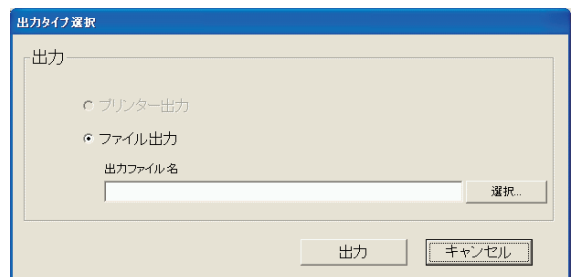
- 1) メニューバーの [ツール] -
[システム情報CSV出力] - [課金試運転]
を選択します。

※課金機能がない場合は、選択できません。



- 2) 出力ファイル名を入力します

[選択] ボタンをクリックすると、出力先のフォルダを参照できます。



- 3) [出力] ボタンを選択します。

[出力] ボタンをクリックすると、出力処理を行いません。

※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、本設定を中止し、初期画面に戻ります。

注意

CSVファイルは、直接修正しないでください。
試運転チェックシートツールでチェックシートが作成できなくなる場合があります。

1.1.5.3 試運転チェックリストの作成

システム情報CSV出力機能により、出力したCSVファイルを使用して、試運転チェックシートを作成できます。

試運転チェックシートツールは、統合ソフトTG-2000のセットアップディスク(CD-ROM)内にありますのでコピーして使用します。

CD-ROM内のファイル

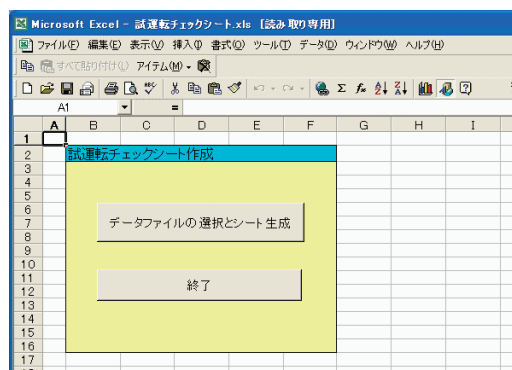
¥Tool¥試運転チェックシート.xls

お知らせ

- ・「試運転チェックシート.xls」のファイルはマクロを使用していますので、マクロを使用できない旨のメッセージが表示された場合、マクロ・セキュリティのレベルをマクロが使用できるように変更してください。

[操作方法]

- 1) 「試運転チェックシート.xls」ファイルを起動します
エクスプローラにて、「試運転チェックシート.xls」ファイルをダブルクリックして、EXCELで開きます。すると、試運転チェックシート画面が表示されます。
- 2) [データファイルの選択とツール生成] ボタンを選択します
試運転チェックシート画面にある[データファイルの選択とツール生成] ボタンをクリックします。すると、「ファイルを開く」画面が表示されます。
- 3) データファイルを選択します
ファイル読みをするデータファイルを選択します。
- 4) [開く] ボタンを選択します
データファイル読みをするために、[開く] ボタンを選択します。すると、自動的に別ファイル名で「試運転チェックシート」のEXCEL画面が表示されます。



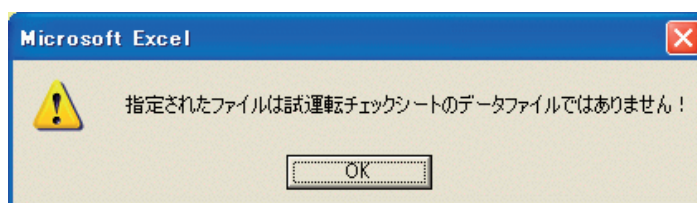
※試運転チェックシート.xlsは閉じて、新しいBookのEXCELファイルを作成して表示します。

PLC No.	PLC IPアドレス	設置場所	PLCタイプ	PLC S/Wバージョン	機能設定		
101					空調機状態監視	ピークカット	汎用機表示
					しない	しない	す
汎用機器情報				機能設定			
汎用機No.	シードネーム	ロングネーム	操作設定	状態表示	スケジュール	異常内容	
101-1	101-1	101-1	あり	運転/停止	なし		

お知らせ

- ・「試運転チェックシートツール」は、開いたCSVファイルが、「空調発停試運転チェックシート」「課金試運転チェックシート」のどちらであっても、ファイル形式を自動で判別してそれぞれのチェックシートを作成します。

※選択したファイルが、試運転チェックシートのデータ形式ではないCSVファイルの場合は、以下のメッセージが表示され、試運転チェックシートは作成されません。



作成したチェックシートは印刷して使用できます。

試運転チェックシートには以下の2種類のファイルがあり、それぞれに数種類のシートがあります。

- ・空調発停試運転CSVファイルから作成されるチェックシート

①	②	③	④	⑤	⑥
接続G-50	ユニットG-50No.1	フリー接点用汎用機	汎用機	DDC接続汎用機	計測MCセンサ

- シート名
- ① 「接続G-50」 …接続されているG-150AD (EC) /G-50情報
 - ② 「ユニットG-50 No.1」 …G-150AD (EC) /G-50に接続されているユニット
「ユニットG-50 No.2」 情報
・ (※接続されているG-150AD (EC) /G-50の台数
・ 分だけシートが作成されます)
・ ※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、G-50 No.
・ は、「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示します。
 - ③ 「フリー接点用汎用機」 …接続されているフリー接点情報
 - ④ 「汎用機」 …接続されているPLC、汎用機情報
 - ⑤ 「DDC 接続汎用機」 …接続されている汎用DC、汎用機情報
 - ⑥ 「計測MC センサ」 …接続されている計測MC、センサ情報

- ・課金試運転CSVファイルから作成されるチェックシート

課金試運転CSVファイルから、3回分の課金試運転チェックシートが出力されます。

各回のチェック内容については、「11.3 課金試運転チェック」を参照してください。

1回目のチェックシート：空調機試運転前後の確認に使用します。

2回目のチェックシート：空調機試運転後から10日後(1週間以上経過後)までの確認に使用します。

3回目のチェックシート：実運用開始(または仮運用開始)から精算日までの確認に使用します。

⑦	⑧
課金関連(1回目)	ユニットG-50No.1(1回目)
課金関連(2回目)	ユニットG-50No.1(2回目)
課金関連(3回目)	ユニットG-50No.1(3回目)

- シート名
- ⑦ 「課金関連」 …課金に関する設定情報
 - ⑧ 「ユニットG-50 No.1」 …G-150AD (EC) /G-50に接続されているユニット
「ユニットG-50 No.2」 の課金情報
・ (※接続されているG-150AD (EC) /G-50の台数
・ 分だけシートが作成されます)
・ ※拡張コントローラ (EC) を接続したG-150ADの場合、G-50 No.
・ は、「(G-50 No.) - (EC No.)」で表示します。

お知らせ

- ・ Ver. 6.35/5.39 以前の「試運転チェックシート.xls」を利用した場合、課金試運転チェックシートのExcel ファイル出力数は1つのみです。
- ・ 課金試運転チェックシートを作成するとき、按分結果(詳細)CSVファイルや、計量計(詳細)CSVファイルを参考に入力することができます。詳細は「11.6 試運転按分結果出力」を参照してください。

試運転チェックシートの例を次ページに示します。

① 「空調発停試運転チェックシート (出力例)」 「接続G-50」

空調発停試運転チェックシート 物件名

CSV出力日時: 2012/08/08 16:46

TG-2000 S/W Ver
6.39

G-150AD/G-50No.	G-150AD/G-50 IPアドレス	G-150AD/G-50 名称	G-150AD/G-50 識別番号	G-150AD/G-50 製造番号	G-150AD/G-50 S/W Ver	Db No.	EC1			EC2	
							IPアドレス	S/W Ver.	Db No.	IPアドレス	S/W Ver.
1	192.168.1.1	G-50 for debug	000001	0000-00	3.33	-	-	-	-	-	-
2	192.168.1.2	MTSUBISHI	999999	00000-001	2.90	01	-	-	-	-	-
3	192.168.1.3	-	000001	00000-002	2.90	01	-	-	-	-	-

ユーザー設定						
スケジュール	トレンド	汎用制御PLC	省エネ/ピークカット	課金	自動リポート設定 (種類)	自動リポート設定 (値)
する	する	あり	する	あり	曜日指定	日曜

オプション機能利用状況													
ラウザ	メンテナンスツール		BACnet		汎用制御PLC		連動制御		ヒートポンプ給湯機		E制御		
無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	-	-	-	-	-	-	
無制限	利用不可	0	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	
無制限	利用不可	0	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	利用可能	無制限	

② 「空調発停試運転チェックシート」 (出力例) 「ユニットG-50 No.*」

空調発停試運転チェックシート 物件名

CSV出力日時:

フロアNo.	フロア名	G-150AD/G-50No.	室外機アドレス	室外機型名	室内機アドレス	室内機型名	属性	リモコンアドレス
1	フロア1	1	51	PQHY-P224SCM-E	1	PCFY-J45GM-C	IC	-
1	フロア1	1	51	PQHY-P224SCM-E	2	PCFY-J45GM-C	IC	-
1	フロア1	1	51	PQHY-P224SCM-E	3	PCFY-J45GM-C	IC	-
1	フロア1	1	51	PQHY-P224SCM-E	4	PCFY-J45GM-C	IC	-
1	フロア1	1	51	PQHY-P224SCM-E	5	PCFY-J45GM-C	IC	-
1	フロア1	1	-	-	6	LB-50F2-50	LC	-
1	フロア1	1	-	-	10	PAC-YG66DC	DC	-
1	フロア1	1	-	-	20	PAC-YG63MC	MCT	-

2010/01/21 15:20

実施日 担当者

連動ロスナイアドレ	グループ情報				操作ブロック情報		TG-2000⇒空調機動作確認		手元リモコン⇒TG-2000表示	
	グループアドレス	LCD名称	ショートネーム	ロングネーム	ブロックNo.	ブロック名称	グループ単位	異常表示確認	グループ単位	異常表示確認
6	1-001	1-001	1-001	1-001	1	ブロック1				
-	1-002	1-002	1-002	1-002	2	ブロック2				
-	1-003	1-003	1-003	1-003	3	ブロック3				
-	1-004	1-004	1-004	1-004	4	ブロック4				
-	1-005	1-005	1-005	1-005	5	ブロック5				
-	1-006	1-006	1-006	1-006	6	ブロック6				
-	-	-	-	-	-	-				
-	-	-	-	-	-	-				

③「空調発停試運転チェックシート」(出力例) 「フリー接点用汎用機」

空調発停試運転チェックシート 物件名 XXXビル

CSV出力日時:2010/01/21 15:20

番号	名称		操作出力		操作状態入力		異常状態入力		フロア名
	ショートネーム	ロングネーム	接点番号	状態表示	接点番号	状態表示	接点番号	状態表示	フロアNo.
1	FC1	FC1	CN52-2	運転/停止	CN32-2	運転/停止	CN32-3	異常	1
2	FC2	FC2	CN52-2	運転/停止	CN32-2	運転/停止	CN32-3	異常	1

実施日		担当者	
-----	--	-----	--

フロア名	表示色情報								確認項目			
	操作出力(運転/停止)				操作状態入力(運転/停止)				異常状態入力		運転表示確認	異常表示確認
フロア1F		色なし		色なし		色なし		色なし		色なし		
フロア1F		薄い緑		グレー		薄い緑		グレー		薄いオレンジ		

④「空調発停試運転チェックシート」(出力例) 「汎用機」

空調発停試運転チェックシート 物件名 XXXビル

PLCNo.	PLC IPアドレス	設置場所	PLCタイプ	PLC S/Wバージョン	機能設定		
					空調機状態監視	ピークカット	汎用機状態監視
101	192.168.1.171	-	-	-	する	しない	する

汎用機器情報			機能設定			
汎用機No.	ショートネーム	ロングネーム	操作設定	状態表示	スケジュール	異常内容
101-1	101-1	101-1	あり	-	あり	-
101-2	101-2	101-2	あり	運転/停止	なし	異常

CSV出力日時:2010/01/21 15:20

実施日		担当者	
-----	--	-----	--

フロア情報		表示色情報						確認項目	
フロアNo.	フロア名	操作表示				異常・警告状態表示		運転表示確認	異常表示確認
1	フロア1F		色なし		色なし		色なし		
1	フロア1F		薄い緑		グレー		薄いオレンジ		

⑤ 「空調発停試運転チェックシート」(出力例) 「DDC 接続汎用機」

空調発停試運転チェックシート 物件名

CSV出力日時:2012/07/30 16:27

汎用機器(DDC)情報				機能設定		
グループアドレス	ショートネーム	ロングネーム	Ch.	操作区分	表示設定	運転/停止文字表示の設定
1-011	1-011	1-011	1-011-1	操作可能(一括、グループ単位)	接点出力状態	表示する
1-012	1-012	1-012	1-011-2	操作可能(一括、グループ単位)	接点出力状態	表示する

出力日時:2012/07/30 16:27

実施日	担当者
-----	-----

停止文字表示の設定	フロア情報		操作ブロック情報		確認項目	
	フロアNo.	フロア名	ブロックNo.	ブロック名称	運転表示確認	異常表示確認
示す	-	-	-	-		
示す	-	-	-	-		

⑥ 「空調発停試運転チェックシート」(出力例) 「計測MC センサ」

空調発停試運転チェックシート 物件名

CSV出力日時:2012/07/30 16:27

計測情報			計測設定				警報設定	
センサアドレス	ショートネーム	ロングネーム	センサ種類	計測範囲下限	計測範囲上限	補正	上限検知	上限復旧
1-049-1	1-049-1	1-049-1	温度	-10.0	50.0	0.0	35.0	30.0
1-049-2	1-049-2	1-049-2	湿度	0.0	100.0	0.0		

出力日時:2012/07/30 16:27

実施日	担当者
-----	-----

警報設定			フロア情報		確認項目	
復旧	下限検知	下限復旧	フロアNo.	フロア名	計測表示確認	警報表示確認
0.0	5.0	10.0	-	-		
			-	-		

⑦「課金試運転チェックシート」 「課金関連」

課金試運転チェックシート
[試運転時の確認]

物件名 [ビル]

CSV出力日時:2012/08/08 16:46

計量計・P.LOの有無	蓄熱の有無	按分基準データ	室外機の按分モード	室内機の按分モード	料金設定					ユーザー設定				
					格算日	通貨	基本料金	季節料金	週間料金	年間料金	加熱加温付ロス率(課金)	A/E制御課金	自動リポート設定(種類)	自動リポート設定(値)
あり	なし	能力セーブ量	モード2	按分する	月末	円	なし	なし	あり	なし	する	しない	曜日指定	日曜

	通常					季節				
	料金単価1	料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5	料金単価1	料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5
空調機	0	12	0	0	0	-	-	-	-	-

確認項目	チェック
電力計単位で室外機/室内機を運転させ、該当する電力計のみがカウントされているか？ (電力計と空調機の供給電源の電力線にテロがないか？)	

TG-2000設定情報											目録			
											試運転前 (//.....)			
アドレス	IPアドレス	Ch.	計量計名称	計量計種類	パルス設定値	ユニット	基本料金	計量計型名	製造番号	パルス値	パルス単位	乗率	メータ表示	計量値
1-1-030	-	1	計量計1-1-030-1	空調機	1	kWh	0							
1-1-030	-	2	計量計1-1-030-2	空調機	1	kWh	0							

確認項目	チェック
電力計のパルス単位とTG-2000で設定したパルス単位が合っているか？	
該当する電力計の電力量が、TG-2000で等しくカウントされているか？ (電力計と計量MC間にテロがないか？)	

実運用設定に変更後の設定内容確認

項目	按分モード設定		料金設定				格算日設定	基本料金設定
	室外機	室内機	週間料金	年間料金	季節料金	料金単価 通常 季節		
チェック								

確認項目	チェック
お客様に定期的にパソコンの再起動が必要な旨、説明したか？	
お客様に手動での再起動が自動での再起動とずれるが説明し承認を得たか？	
手動の場合、パソコンの再起動方法および再起動後の確認方法を説明したか？	
自動の場合、再起動後の確認方法を説明したか？	

実施日	担当者
-----	-----

作業者	承認者
-----	-----

認情報		計量計本体					TG-2000の現在値							
試運転後 (//.....)		メータ差分値	試運転前 モニタ値 (//.....)		モニタ差分値	チェック	計量結果							
メータ表示	計量値		運転チェック	料金単価1			料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5	チェック			

空調機電力計合計	
電気1・電気2電力計合計	
ガス計合計	
水計合計	
熱量計合計	

⑧ 「課金試運転チェックシート」 「ユニットG-50 No.*」

課金試運転チェックシート
【試運転時の確認】

物件名

CSV出力日時:2010/09/14 17:09

フロアNo.	フロア名	G-150AD/G-50 No.	室外機アドレス	室外機型名	クランクケースヒータ	室内機アドレス	室内機型名	室内機WHM	室外機WHM	項目設定		
										室内機能力(冷房能力)	消費電力	補助電気ヒータ
1	1階	1	51	PURY-P335CM-E1	-	1	PEFY-P224M-E(1)	34	35	22.40	1.000	-
1	1階	1	51	PURY-P335CM-E1	-	2	PEFY-P224M-E(1)	34	35	22.40	1.000	-
1	1階	1	53	PURY-P335CM-E1	-	3	PFFY-P224DM-E(1)	34	36	22.40	0.750	-
1	1階	1	53	PURY-P335CM-E1	-	4	PFFY-P224DM-E(1)	34	36	22.40	0.750	-
1	1階	1	55	PUHY-RP224CM-E3	-	5	PEFY-P112M-E(1)	-	-	11.20	0.490	-

実施日

担当者

グループ情報			ブロック情報					運転チェック	料金単価1			料金単価2		
ループアドレス	ショートネーム	ロングネーム	操作ブロックNo.	操作ブロック名称	課金ブロックNo.	課金ブロック名称	基本料金		室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機
1-001	1F-W-1	1F-W-1	42	01階 〇〇店舗	42	01階 〇〇店舗	0							
1-002	1F-W-2	1F-W-2	42	01階 〇〇店舗	42	01階 〇〇店舗	0							
1-003	1F-E-1	1F-E-1	42	01階 〇〇店舗	42	01階 〇〇店舗	0							
1-004	1F-E-2	1F-E-2	42	01階 〇〇店舗	42	01階 〇〇店舗	0							
1-005	1F-1	1F-1	-	-	-	-	0							

按分電力量									チェック
試運転前 (/ /) - 試運転後 (/ /)									
料金単価3			料金単価4			料金単価5			
室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機	

按分電力量合計

11.6 試運転按分結果出力

TG-2000の課金試運転の按分結果や計量値をCSVファイル出力することができます。
(※本機能を使用するには、統合ソフトのバージョンがVer. 6.37/5.41以上である必要があります。)

ユーザー設定の常時接続課金がない場合 (TG-2000が24時間運転でない場合) は、以下の操作を行ってから試運転按分結果を出力してください。

[操作方法]

- 1) 運転量・電力量データモニタを行ないます。
課金試運転期間の運転量と電力量のデータをモニタします。
モニタ方法は9.3章の「運転量・電力量データモニタ」を参照してください。

お知らせ

- ・モニタは課金試運転期間とその前後1日分を含めて実施してください。
- ・電力量計接続なしの課金の場合は運転量のデータモニタのみ実施してください。

- 2) 救済按分を行ないます。

課金試運転期間の救済按分を行ないます。
救済按分の方法は9.5章の「救済按分」を参照してください。

11.6.1 按分結果(詳細)のCSV出力

指定した期間の課金試運転の按分結果をCSVファイルに出力します。料金単価別按分電力量の期間合計の値と、日毎の料金単価別按分電力量値および運転量データが出力できます。

ファイル出力はG-150AD/G-50単位で行ないます。
(課金機能があり(利用する)の場合に、本機能を使用することができます。)

お知らせ

- ・4:00~6:00の間はファイル出力を行なうことはできません。
- ・出力可能期間は122日前から前日までの間の62日間です。ただし、ユーザー設定で蓄熱機種接続をありにした場合は、出力可能期間が123日前から2日前までの間の62日間になります。

CSVファイル出力方法

CSVファイル出力は「初期画面」からのみ出力可能です。
「初期画面」より操作してください。

[操作方法]

- 1) メニューバーの [ツール] - [オプション] - [試運転按分結果出力] - [按分結果(詳細)] を選択します。

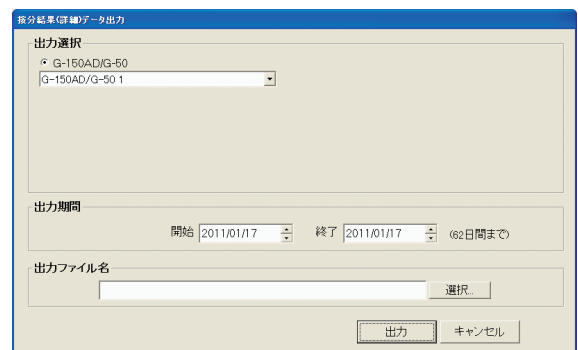
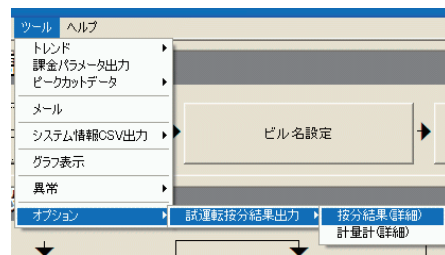
※課金機能がない場合は、選択できません。

- 2) 出力するG-150AD/G-50を選択します

- 3) 出力する期間を設定します
課金試運転を行なった期間を設定します。

- 4) 出力ファイル名を入力します
[選択] ボタンをクリックすると、出力先のフォルダを参照できます。

- 5) [出力] をクリックします
[出力] ボタンをクリックすると、出力処理を行ないます。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。



按分結果(詳細)のCSV出力例(電力量計接続ありの場合)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
1	120 按分結果(詳細)												
2	期間:2011/1/11 - 2011/1/21												
3	G-150AD/G-50No 1-1												
4	按分電力量												
5	料金単価1			料金単価2			料金単価3			料金単価4			
6	室外機		クランクケースヒータ	室内機		クランクケースヒータ		室内機		クランクケースヒータ		室内機	室外機
7	アドレス	日付	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]
8	1	期間合計	24.242	0.25	16.785	11.114	0.1	6.284	0	0	0	0	0
9	2	期間合計	19.644	0.152	11.888	8.458	0.104	4.217	0	0	0	0	0
10	3	期間合計	39.118	0.678	26.651	18.531	0.362	10.683	0	0	0	0	0
11	4	期間合計	21.734	0.125	13.389	6.932	0.042	2.358	0	0	0	0	0
12	5	期間合計	29.076	0.289	19.386	14.323	0.127	7.511	0	0	0	0	0
13	日別詳細												
14	按分電力量												
15	料金単価1			料金単価2			料金単価3			料金単価4			
16	室外機		クランクケースヒータ	室内機		クランクケースヒータ		室内機		クランクケースヒータ		室内機	室外機
17	アドレス	日付	[kWh]	ステータス	[kWh]	ステータス	[kWh]	ステータス	[kWh]	ステータス	[kWh]	ステータス	ステータス
18	1	2011/1/11	2.504		0.025		1.317		1.589		0.01		
19		2011/1/12	2.156		0.025		1.115		1.165		0.01		
20		2011/1/13	1.751		0.025		0.816		0.951		0.01		
21		2011/1/14	2.356		0.025		1.475		1.266		0.01		

	AE	AF	AG	AH	AI	AJ	AK	AL	AM	AN	AO
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17	室内機	能力セーブ量	サーモON時間	FAN運転時間	補助電気ヒータ時間	能力セーブ量	サーモON時間	FAN運転時間	補助電気ヒータ時間	能力セーブ量	
18	[kWh]	ステータス	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]
19	0		49	85	202	0	25	39	95	0	0
20	0		41	76	191	0	16	27	76	0	0
21	0		27	58	174	0	11	19	53	0	0
22	0		47	73	216	0	20	32	85	0	0

課金按分が行なえなかったなどの理由で、日別詳細の「ステータス」の項目に番号が表示されることがあります。ステータス番号の意味は以下の通りです。

ステータス番号	ステータス内容
(表示なし)	・正常
-1	・該当日前日分の按分計算が行なえなかったなどの理由で、該当日の按分結果に繰り越し分が含まれているとき。 ・該当日がTG-2000で初めて按分計算が行なわれた日だったとき。
-2	・該当日に按分計算を行なえなかったなどの理由で、該当日に繰り越しが発生したとき。
-3	・ユニット按分データのメンテナンスを利用して該当日のデータを修正していたとき。
-4	・該当日がTG-2000を動作させた初日だったため、按分計算できなかったとき。
-5	・TG-2000が停止していたなどの理由で、データが無かったとき。
-9	・上記に該当しない何らかの異常が発生した場合

お知らせ

- ・クランクケースヒータの按分結果は、室外機の按分モードを「モード2:クランクケースヒータ分の電力量を別に按分する」以外に設定した場合は「0」が出力されます。ただし、室外機の按分モードを途中でモード2からモード2以外に変更した場合は、変更日より前の日のクランクケースヒータ値が「0」以外の値で出力される場合があります。
- ・日別詳細の按分電力量[kWh]は小数点以下4桁目を四捨五入した値を出力しています。そのため、期間合計の値と、日別詳細の値の合計値が異なる場合があります。
- ・室外機按分モードを途中で変更した場合は、変更日からモード変更後の計算方法で按分計算が行なわれず、変更前の期間に対して救済按分を行なった場合は、変更後のモードの計算方法で行なわれます。

按分結果(詳細)のCSV出力例(電力量計接続なしの場合)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	121 按分結果(詳細)											
2	期間:2011/1/11 - 2010/1/21											
3	G-150AD/G-50No 1-1											
4	按分パラメータ											
5			料金単価1			料金単価2			料金単価3			料金単価4
6			室外機		室内機	室外機		室内機	室外機		室内機	室外機
7	アドレス	日付										
8	1	期間合計	24.242		16.785	11.114		6.284	0		0	0
9	2	期間合計	19.644		11.888	8.458		4.217	0		0	0
10	3	期間合計	39.118		26.651	18.531		10.683	0		0	0
11	4	期間合計	21.734		13.389	6.932		2.358	0		0	0
12	5	期間合計	29.076		19.386	14.323		7.511	0		0	0
13												
14	日別詳細											
15	按分パラメータ											
16			料金単価1						料金単価2			
17			室外機				室内機		室外機			
18	アドレス	日付		ステータス				ステータス		ステータス		
19	1	2011/1/11	2.504				1.317		1.589			
20		2011/1/12	2.156				1.115		1.165			
21		2011/1/13	1.751				0.816		0.951			
22		2011/1/14	2.356				1.475		1.266			

	AE	AF	AG	AH	AI	AJ	AK	AL	AM	AN	AO
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15			室内機運転時間								
16			料金単価1				料金単価2				料金単価3
17	室内機	能力セーブ量	サーモON時間	FAN運転時間	補助電気ヒータ時間	能力セーブ量	サーモON時間	FAN運転時間	補助電気ヒータ時間	能力セーブ量	
18		ステータス [分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	[分]	
19	0		49	85	202	0	25	39	95	0	0
20	0		41	76	191	0	16	27	76	0	0
21	0		27	58	174	0	11	19	53	0	0
22	0		47	73	216	0	20	32	85	0	0

お知らせ

- ・ 期間合計の値は四捨五入前の日毎データの合計を出力し、日別詳細の値は四捨五入後の日毎データを出力しています。そのため、期間合計の値と、日別詳細の値の合計値が異なる場合があります。

11.6.2 計量計(詳細)のCSV出力

指定した期間の課金試運転の計量値をCSVファイルに出力します。指定した期間の料金単価別計量値の合計と、日毎の料金単価別計量値が出力できます。

(電力量計を接続した課金機能があり(利用する)の場合に、本機能を使用することができます。)

お知らせ

- ・ 4:00~6:00の間はファイル出力を行なうことはできません。
- ・ 出力可能期間は122日前から前日までの間の62日間です。ただし、ユーザー設定で蓄熱機種接続をありにした場合は、出力可能期間が123日前から2日前までの間の62日間になります。

CSVファイル出力方法

CSVファイル出力は「初期画面」からのみ出力可能です。

「初期画面」より操作してください。

[操作方法]

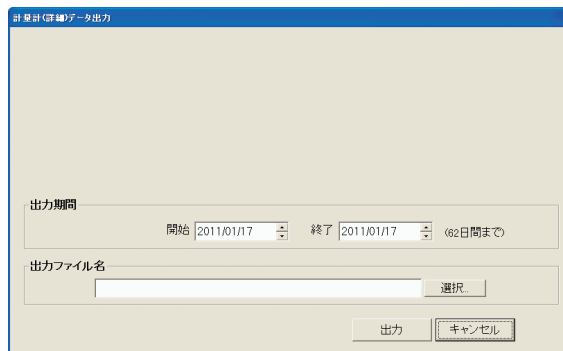
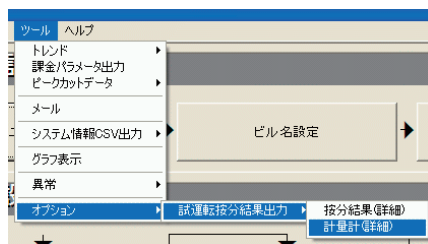
- 1) メニューバーの [ツール] - [オプション] - [試運転按分結果出力] - [計量計(詳細)] を選択します。

※課金機能がなしの場合、または電力量計を接続しない課金の場合は、選択できません。

- 2) 出力する期間を設定します
課金試運転を行なった期間を設定します。

- 3) 出力ファイル名を入力します
[選択] ボタンをクリックすると、出力先のフォルダを参照できます。

- 4) [出力] をクリックします
[出力] ボタンをクリックすると、出力処理を行います。
※ [キャンセル] ボタンをクリックすると、初期画面に戻ります。



計量計(詳細)のCSV出力例

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	124 計量計(詳細)														
2	期間: 2011/1/11 - 2011/1/21														
3				料金単価1		料金単価2		料金単価3		料金単価4		料金単価5			
4				計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分		
5	計量計	単位	日付												
6	計量計1	kWh	期間合計	89.42	8.621	47.51	3.896	0	0	0	0	0	0		
7	計量計2	kWh	期間合計	75.34	5.237	39.86	2.465	0	0	0	0	0	0		
8	計量計3	kWh	期間合計	57.88	4.725	29.05	2.107	0	0	0	0	0	0		
9	計量計4	kWh	期間合計	21.56	2.141	93.46	8.597	0	0	0	0	0	0		
10															
11	日別詳細														
12				料金単価1		料金単価2		料金単価3		料金単価4		料金単価5			
13				計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分	計量値	共通費分		
14	計量計	単位	日付		ステータス		ステータス		ステータス		ステータス		ステータス		ステータス
15	計量計1	kWh	2011/1/11	10.19	0.955		5.75		0.486						
16			2011/1/12	9.65	0.899		3.46		0.293						
17			2011/1/13	8.78	0.802		2.98		0.244						
18			2011/1/14	12.53	1.116		7.51		0.676						

	P	Q	R	S	T	U	V	W
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12	料金単価4				料金単価5			
13	計量値	共通費分		計量値	共通費分			
14		ステータス		ステータス		ステータス		ステータス
15								
16								
17								
18								

電力量を取得できなかったなどの理由で、日別詳細の「ステータス」の項目に番号が表示されることがあります。ステータス番号の意味は以下の通りです。

ステータス番号	ステータス内容
(表示なし)	・ 正常
-1	・ 該当日の前日にTG-2000とG-150AD/G-50間の通信異常が原因で電力量を取得できなかったなどの理由で、該当日の電力量に繰り越し分が含まれているとき。 ・ 該当日がTG-2000で初めて電力量を取得した日だったとき。
-2	・ 該当日にTG-2000とG-150AD/G-50間の通信異常が原因で電力量を取得できなかったなどの理由で、該当日に繰り越しが発生したとき。
-3	・ 計量計データのメンテナンスを利用して該当日のデータを修正していたとき。
-4	・ 該当日がTG-2000を動作させた初日だったため、電力量データが無かったとき。
-5	・ TG-2000が停止していたなどの理由で、データが無かったとき。
-9	・ 上記に該当しない何らかの異常が発生した場合

お知らせ

- ・ クランクケースヒータの共通費分は、室外機の按分モードを「モード3：クランクケースヒータ分を共通費とし、按分しない」以外に設定した場合、0が出力されます。ただし、室外機の按分モードを途中でモード3からモード3以外に変更した場合、変更日より前の日のクランクケースヒータの共通費分が0以外の値で出力されることがあります。
- ・ 期間合計値は四捨五入前の日毎データの合計を出力、日毎の値は四捨五入後の日毎データを出力しています。そのため、期間合計値と、日毎の値の合計値が異なる場合があります。
- ・ 室外機按分モードを途中で変更した場合は、変更日からモード変更後の計算方法で按分計算が行なわれます。変更前の期間に対して救済按分を行なった場合は、変更後のモードの計算方法で行なわれます。

11. 7. 課金試運転チェックシートの記入例

11. 7. 1 課金試運転チェックシート (1/2) (2/2) の記入例
 課金試運転チェックシート (1/2) ... A3サイズ

(見開き左ページ)

実施日 2011-1-28

【記入例】

◆課金試運転の結果は必ず保存してください。

作業者	承認
〇〇〇 サイン	△△△ サイン

TG-2000 Ver. 6.37 G-150AD/ **G-50** Ver. 3.29

【確認手順】

項目	チェック/結果	MEMO
1	按分モード選択	√
2	料金時間帯設定	√
3	基本料金設定	√
4	精算日設定	√ 空調機試運転日 (1/27)
5	課金ブロック設定	√
6	電力量計の設定内容	√
7	室内機の設定内容	√
8	室外機の設定内容	√
9	メータ値確認 (試運転前)	√
10	運転確認	√ 2時間試運転モードで運転
11	メータ値確認 (試運転後)	√ 目視値とモニタ値の各差分値はほぼ一致
12	課金按分結果確認	OK
13	判定確認	OK
	a.	OK
	b.	OK
	c.	OK
	d.	OK
	e.	OK
	f.	OK
14	精算確認	OK
15	自動レポート説明	済 2011年1月27日に説明

(ポイント) 設定のチェックと確認時の結果を記入する。

【各室内機の確認シート】

→ (2/2) のチェックシートを使用ください。

【電力量計の確認シート】

<確認日時> 試運転前 (メータ確認値: [1/26 10:00] モータ値: [1/26 10:20])
 試運転後 (メータ確認値: [1/27 14:50])

電力量計の結果確認

(ポイント) 電力量計のメータ目視読み値を記入する。

(ポイント) 差分値がほぼ同じであること。

電力量計 No. (計量計)	形名	単 [kWh /pulse]	メータ値				(b) 差分値 [kWh]	(c) チェック	課金按分結果		(d) チェック
			項目	試運転前 [kWh]	試運転後 [kWh]	差分値 [kWh]			料金単価1 [kWh]	料金単価2 [kWh]	
WHM1	M2LM-K11	1.0	メータ確認値	25.6	50.9	25.3	√	15.0	10.0	√	
	123 456		モータ値	25	50	25		(合計) 25.0			
WHM2	M2LM-K11	1.0	メータ確認値	31.1	56.8	25.7	√	15.0	10.0	√	
	123 567		モータ値	31	56	25		(合計) 25.0			
WHM3	M1LM-K11	1.0	メータ確認値	10.5	20.9	10.4	√	6.1	3.9	√	
	123 678		モータ値	10	20	10		(合計) 10.0			
WHM4			メータ確認値								
WHM5			メータ確認値								
WHM6			メータ確認値								
WHM7			メータ確認値								

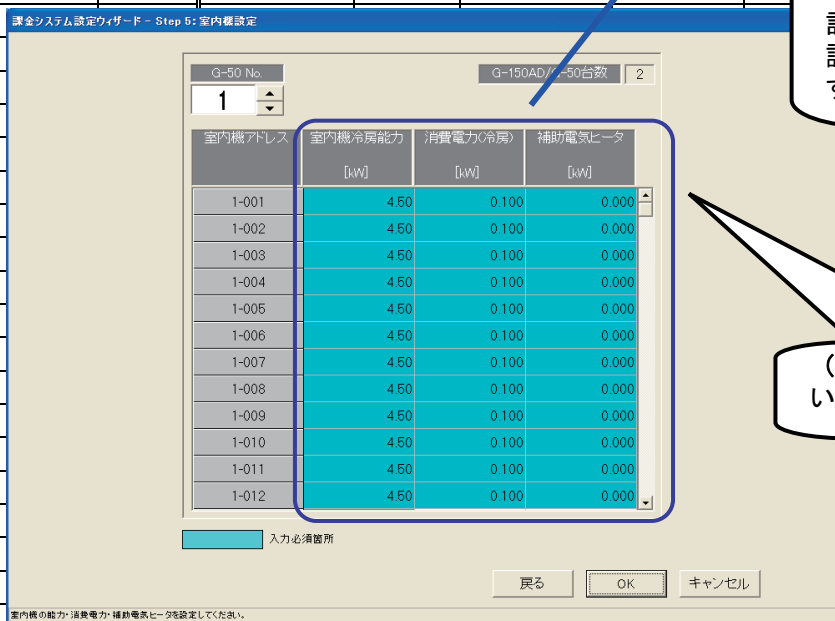
(ポイント) TG-2000での現在モニタ値を記入する。

課金データの保守画面の計量計現在値モニタから入力する場合

計量計 (詳細) CSVファイルから計量結果を入力する場合 (期間合計) (共通費分がある場合は、それも含める。)

【記入例】

管理機器名称										
フロア	G-150AD (EC) /G-50 No.	ユニットアドレス	室内機形名	グループアドレス	課金ブロック名称	室内機能力 (冷房能力) [kW]	消費電力 [kW]	補助電気ヒータ [kW]	室内機WHM No.	室外機WHM No.
1 F	1	001	PLFY-P56...	001	事務所A	4.5	0.1	0.0	3	1
1 F	1	002	PLFY-P56...	002	事務所A	4.5	0.1	0.0	3	1
1 F	1	003	...	003	事務所A	0.0	3	1
1 F	1	004	...	004	事務所B	0.0	3	1
1 F	1	005	...	005	事務所B	0.0	3	1
1 F	1	006	...	006	事務所B	0.0	3	1
1 F	1	007	...	007	〇〇クリニック	0.0	3	1
1 F	1	008	...	007	〇〇クリニック	0.0	3	1
1 F	1	009	...	009	〇〇クリニック	0.0	3	1
1 F	1	010	...	010	〇〇クリニック	0.0	3	1
2 F	1	011	...	011	〇〇クリニック	0.0	3	2
2 F	1	012	...	012	〇〇クリニック	0.0	3	2
2 F	1	013	...	013	△△販売	0.0	3	2
2 F	1	014	...	014	△△販売	0.0	3	2
2 F	1	015	...	015	△△販売	0.0	3	2
2 F	1	016	...	016	□□電機	0.0	3	2
2 F	1	017	...	017	□□電機	0.0	3	2
2 F	1	018	...	018	□□電機	0.0	3	2
2 F	1	019	...	018	□□電機	0.0	3	2
2 F	1	020	...	019	□□電機	0.0	3	2



(ポイント) 各室内機がどの電力量計に接続されているかを記入する。設定内容に間違いがないことを確認する。

(ポイント) 各室内機の各値に間違いがないかを確認する。

11. 7. 2 課金試運転CSVファイルから作成した課金試運転チェックシートの記入例

「課金試運転チェックシート」 「課金関連」

【記入例】

課金試運転チェックシート (試運転時の確認) 物件名 XXXビル CSV出力日時: 2011/01/11 17:09

計量計・PLCの有無	蓄熱の有無	按分基準データ	室外機の按分モード	室内機の按分モード	料金設定					ユーザー設定				
					精算日(日)	通貨	基本料金	季節料金	週間料金	年間料金	加熱加温付ロスライズ金	A/K制御	自動料金	
あり	なし	能力セーブ重	モード1	按分する	20	円	なし	なし	あり	なし	なし	する	しない	なし

(ポイント) 各計量計の型名、製造番号、設定値を確認する。

通常	料金単価1		料金単価2		料金単価3		料金単価4		料金単価5		季節	
空調機	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

確認項目

電力計単位で室外機/室内機を運転させ、該当する電力計のみがカウントされているか? (電力計と空調機の供給電源の電力線にテロがないか?) OK

TG-2000設定情報

PLCNo.	PLC IPアドレス	計量計No.	計量計名称	計量計種類	バルブ設定値	ユニット	基本料金	計量計型名	製造番号	バルブ値	バルブ単位	乗率
1	192.168.1.151	1	12層北系統	空調機	0.1	kWh	0	XXXXX	11111	0.1	kWh	1.0
1	192.168.1.151	2	11層北系統	空調機	0.1	kWh	0	XXXXX	11111	0.1	kWh	1.0

(ポイント) 実運用設定を行なった後、課金設定内容を確認する。

確認項目

お客様に定期的にパソコンの再起動が必要か、説明したか? OK

お客様に手動での再起動が自動での再起動とするか説明し承認を得たか? OK

手動の場合、パソコンの再起動方法および再起動後の確認方法を説明したか? OK

自動の場合、再起動後の確認方法を説明したか? OK

(ポイント) パソコンの再起動について説明したことを確認する。

項目	按分モード設定		料金設定					精算日設定	基本料金設定
	室外機	室内機	週間料金	年間料金	季節料金	通常	乗率		
チェック	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	

実施日 2010年1月

(ポイント) 試運転を行なう前と、試運転を行なった後に、それぞれのTG-2000の値から、メータ差分値とモニタ差分値がほぼ同じであることを確認する。

(ポイント) 試運転を行なう前と、試運転を行なった後に、それぞれの計量計の値を確認する。

(ポイント) 料金単価別に正しく電力量が計量できていたかどうかを記入する。料金単価 1~5 すべての計量値が0のときは、正しく設定が行なわれているかどうかを再確認すること。

目標確認情報					TG-2000の現在値				計量結果						
計量計本体		メータ差分値			試運転前モニタ値	試運転後モニタ値	モニタ差分値	チェック	運転チェック	料金単価1	料金単価2	料金単価3	料金単価4	料金単価5	チェック
試運転前 (10/01/11 00:00)	試運転後 (10/01/21 00:00)	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値	メータ表示	計量値
5	0.5	289	28.9	284	0.5	28.7	28.2	OK	OK	21.4	6.8	0	0	0	28.2
2	0.2	74	7.4	72	0.2	7.3	7.1	OK	OK	5.8	1.4	0	0	0	7.2

(ポイント) 試運転期間中、正常に計量できたかどうか(異常が発生しなかったか)を記入する。

空調機電力計合計	電気・電気と電力計合計	ガス計合計	水量計合計	熱量計合計
35.3	0	0	0	0

現在値モニタ

選択: 計量計1

名称: ACP-F11電力計

現在値: 7.3 [kWh]

課金データの保守画面の計量計現在値モニタから入力する場合

A	B	C	D	E	F	G
1	123	計量計(詳細)				
2	期間:	2011/1/11 - 2011/1/21				
3						
4			料金単価1	料金単価2		
5	計量計	単位	計量値	共通費分	計量値	共通費分
6	計量計1	kWh	21.4	0	6.8	0
7	計量計2	kWh	5.8	0	1.4	0
8						
9	日別詳細					
10			料金単価1		共通費分	
11			計量値			
12	計量計	単位	日付	ステータス		ステータス
13	計量計1	kWh	2011/1/11	5.4		0
14			2011/1/12	3.0		0

計量計(詳細) CSVファイルから計量結果を入力する場合(期間合計)(共通費分は計量値に含まれています。)

「課金試運転チェックシート」 「ユニットG-50 No.*」

【記入例】

課金試運転チェックシート
[試運転時の確認]

物件名

(ポイント) 各室内機・室外機がどの電力量計に接続されているかを確認する。

(ポイント) 各室内機の各値に間違いがないかを確認する。

フロアNo.	フロア名	G-150AD/G-50No.	室外機アドレス	室外機型名	クランクケースヒータ	室内機アドレス	室内機型名	室内機WHM	室外機WHM	室内機能力(冷房能力)	消費電力	補助電気ヒータ
1	1階	1	51	PURY-P335CM-E1	-	1	PEFY-P224M-E(1)	34	35	22.40	1.000	-
1	1階	1	51	PURY-P335CM-E1	-	2	PEFY-P224M-E(1)	34	35	22.40	1.000	-
1	1階	1	53	PURY-P335CM-E1	-	3	PEFY-P224DM-E(1)	34	36	22.40	0.750	-
1	1階	1	53	PURY-P335CM-E1	-	4	PEFY-P224DM-E(1)	34	36	22.40	0.750	-
1	1階	1	55	PUHY-RP224CM-E3	-	5	PEFY-P112M-E(1)	-	-	11.20	0.490	-

実施日

担当者

(ポイント) 課金ブロックの設定を確認する。

(ポイント) 試運転期間中、正常に運転できたかどうか(異常が発生しなかったか)を記入する。

グループ情報									課金ブロック					
グループアドレス	ショートネーム	ロングネーム	操作ブロックNo.	操作ブロック名称	課金ブロックNo.	課金ブロック名称	基本料金	運転チェック	料金単価1			料金単価2		
									室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機
1-001	1F-W-1	1F-W-1	42	01階 〇〇店舖	42	01階 〇〇店舖	0	OK	4.2	0.2	1.5	1.4	0.1	0.6
1-002	1F-W-2	1F-W-2	42	01階 〇〇店舖	42	01階 〇〇店舖	0	OK	3.4	0.3	2.6	1.8	0.1	0.9
1-003	1F-E-1	1F-E-1	42	01階 〇〇店舖	42	01階 〇〇店舖	0	OK	1.5	0.1	0.8	1.1	0.1	0.4
1-004	1F-E-2	1F-E-2	42	01階 〇〇店舖	42	01階 〇〇店舖	0	OK	7.4	0.8	3.3	0	0	0
1-005	1F-1	1F-1	-	-	-	-	0	OK	0	0	0	9.9	0.7	3.5

(ポイント) 試運転開始日、終了日、精算日などを記入する。

検査番号

試運転前 (G1/1/10) - 試運転後 (G1/1/20)

料金単価1			料金単価2			料金単価3			チェック
室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機	室外機	クランクケースヒータ	室内機	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	OK
0	0	0	0	0	0	0	0	0	OK
0	0	0	0	0	0	0	0	0	OK
0	0	0	0	0	0	0	0	0	OK
0	0	0	0	0	0	0	0	0	OK

按分電力量合計 xxx

(ポイント) 各料金単価の期間合計値を記入する。
※小数点 4 桁目で四捨五入後の表示になります。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	120 按分結果(詳細)							
2	期間:2011/1/11 - 2011/1/21							
3	G-150AD/G-50No 1-1							
4	按分電力量							
5	料金単価1				料金単価2			
6	室外機		クランクケースヒータ		室内機		クランクケースヒータ	
7	アドレス	日付	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]	[kWh]
8	1	期間合計	4.2	0.2	1.5	1.4	0.1	0.6
9	2	期間合計	3.4	0.3	2.6	1.8	0.1	0.9
10	3	期間合計	1.5	0.1	1.6	1.1	0.1	0.4
11	4	期間合計	7.4	0.8	3.3	0	0	0
12	5	期間合計	0	0	0	9.9	0.7	3.5

按分結果(詳細)CSVファイルから入力する場合(期間合計)

添付1： Windows の Service Pack とメモリ容量の確認

本章では、Windows の Service Pack とメモリ容量の確認方法を記載します。
パソコンの環境が、TG-2000が動作可能な十分な環境でない場合、TG-2000が正しく動作しない原因になります。

パソコンの環境が「2. 1 動作環境（推奨システム）」の条件を満たしているかを確認した上で、TG-2000のセットアップを実施してください。

確認方法は、Windows 7、Vista、XP、2000 で異なりますのでご注意ください。

Windows の Service Pack の条件を満たしていない場合

Windows の Service Pack のアップデート CD を入手してアップデートインストールを実施するか、マイクロソフトのホームページから Service Pack のインストールを実施してください。

マイクロソフト(日本)のホームページ URL : <http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx>
(変更されることがあります。予めご了承願います。)

メモリ容量が不足している場合

メモリ増設を行なってください。

メモリ増設後、仮想メモリ容量の設定が「自動的に管理する」または「推奨のサイズ」になっているかを確認し、異なる場合はその設定にしてください。

1. Windows 7、Vista での確認

1) Windows の Service Pack とメモリ容量の確認

- ① 「コンピュータ」をマウスの右クリックで「プロパティ」を選択します。

「コンピュータの基本的な情報表示」画面で

Windows 7 の場合：

Windows 7 Service Pack 1

メモリ (RAM) が1GB 以上

Windows Vista の場合：

Windows Vista Service Pack 2

メモリ (RAM) が1GB 以上

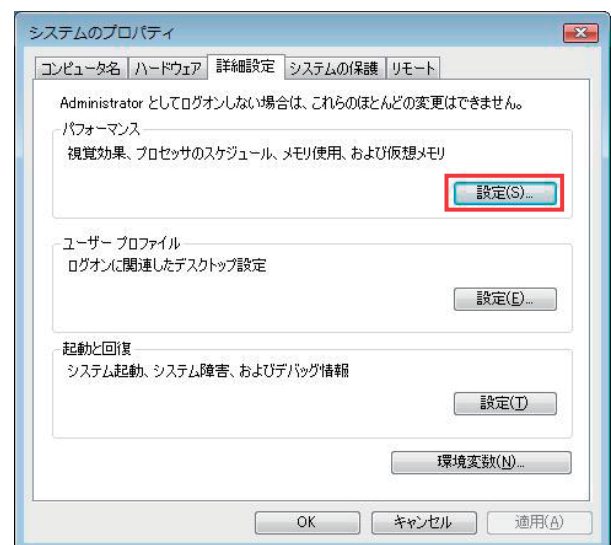
であることを確認します。

画面の例ではメモリ (RAM) は2GB (2048MB) 実装していますが、画面描画で使用するメモリ容量を引き算した値が表示されています。

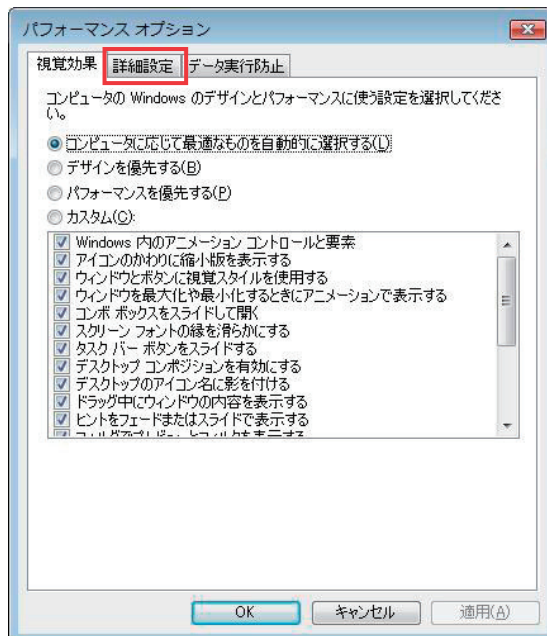


2) 仮想メモリ容量の確認

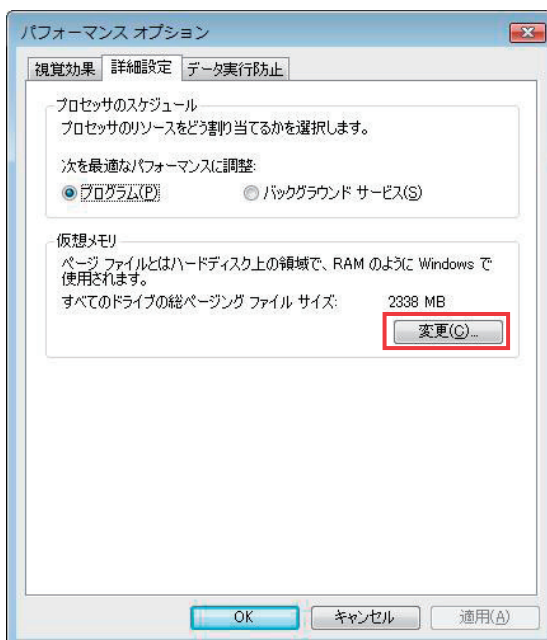
- ① 「コンピュータの基本的な情報表示」画面で「システムの詳細設定」を選択します。
さらに、「システムのプロパティ」の「詳細設定」画面で、「パフォーマンス」の「設定」ボタンを押します。



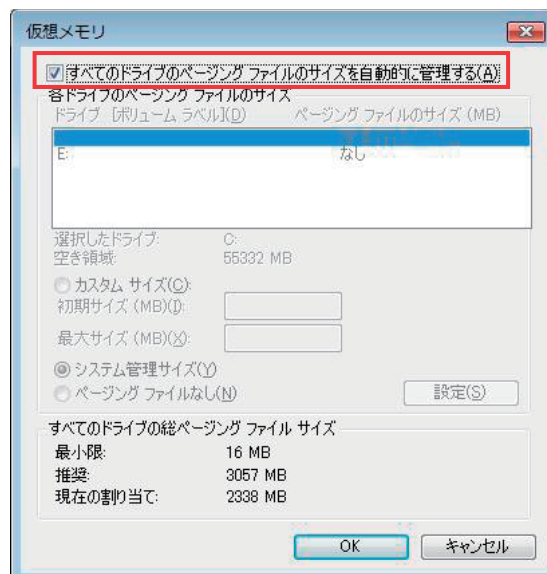
② 「パフォーマンス オプション」画面で、「詳細設定」のタブを選択します。



③ 「パフォーマンス オプション」の「詳細設定」画面で「仮想メモリ」の「変更」ボタンを押します。



④ 「仮想メモリ」画面で「すべてのドライブのページング ファイルのサイズを自動的に管理する」にチェックが入っているかを確認します。チェックが入っていない場合は、チェックを入れ、[OK] ボタンを押して、設定を終了します。なお、設定後、Windows の再起動が必要です。



お知らせ

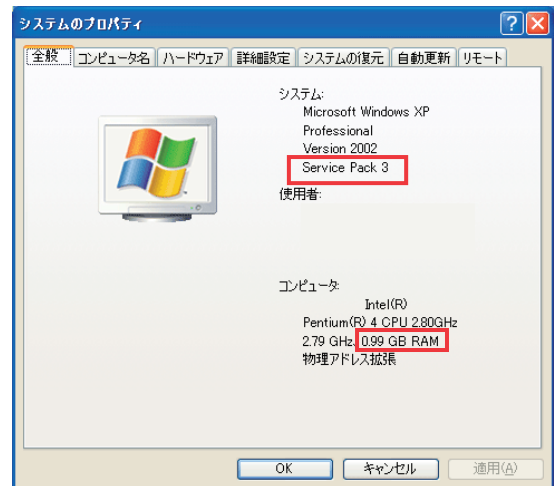
- ・本章では、設定手順を要約して説明してあります。**詳細については、「Windows 7 Professional」、「Windows 7 Home Premium」、「Windows Vista Business」または「Windows Vista Home Basic」添付の取扱説明書等を参照してください。**

2. Windows XP の場合

1) Windows の Service Pack とメモリ容量の確認

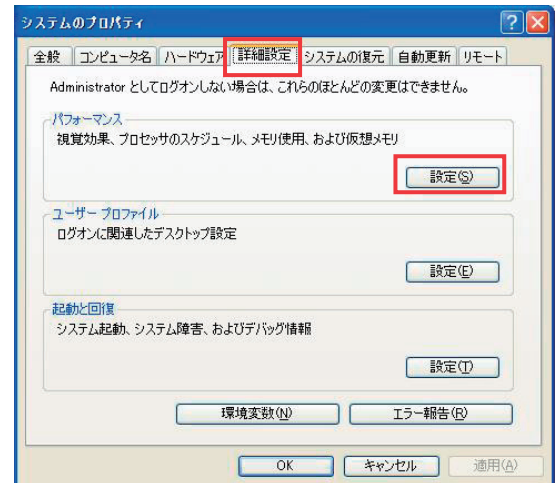
- ① 「マイコンピュータ」をマウスの右クリックで「プロパティ」を選択します。
「システムのプロパティ」の「全般」画面で、Windows XP が Service Pack 3
メモリ (RAM) が 1GB 以上
であることを確認します。

画面の例ではメモリ (RAM) が 1GB 実装に対して「0.99GB RAM」と表示されていますが、画面描画で使用するメモリ容量を引き算した値が表示されています。

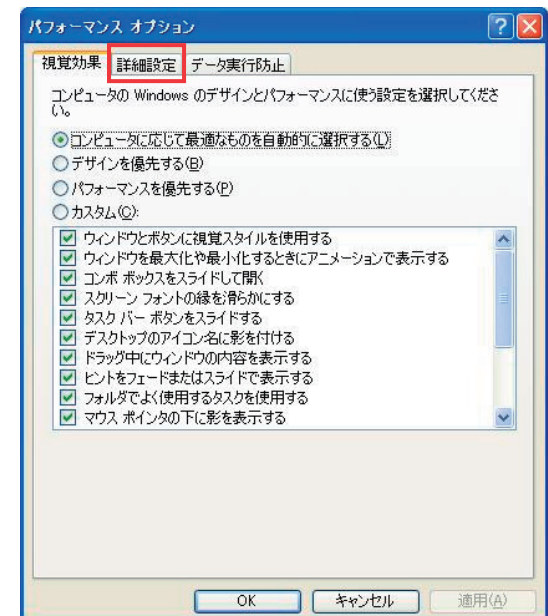


2) 仮想メモリ容量の確認

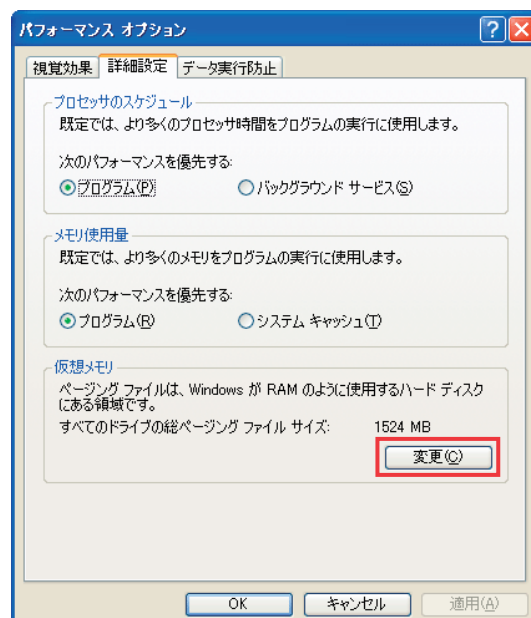
- ① 「システムのプロパティ」画面で、「詳細設定」のタグを選択します。
さらに、「パフォーマンス」の [設定] ボタンを押します。



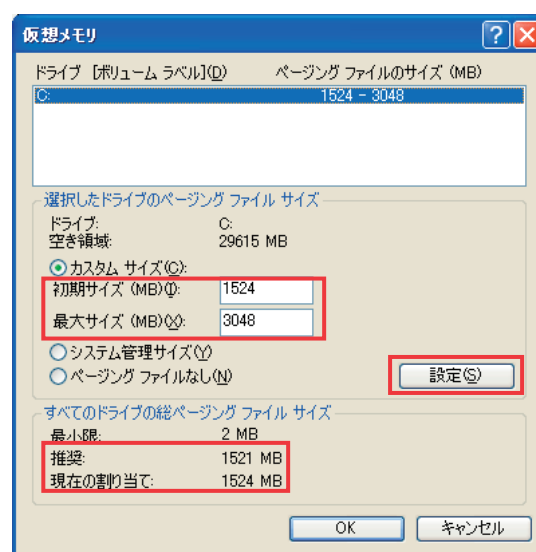
- ② 「パフォーマンス オプション」画面で「詳細設定」のタグを選択します。



- ③ 「パフォーマンス オプション」の「詳細設定」画面で「仮想メモリ」の「変更」ボタンを押します。



- ④ 「仮想メモリ」画面で「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「現在の割り当て」が、「推奨」のサイズと同じ、または、近いサイズであることを確認します。
異なる場合は、
初期サイズに、「推奨」と同じサイズを設定
最大サイズに、「推奨」のサイズの2倍を設定し、「設定」ボタンを押してください。
続いて [OK] ボタンを押して、設定を終了します。
なお、設定後、Windows の再起動が必要です。



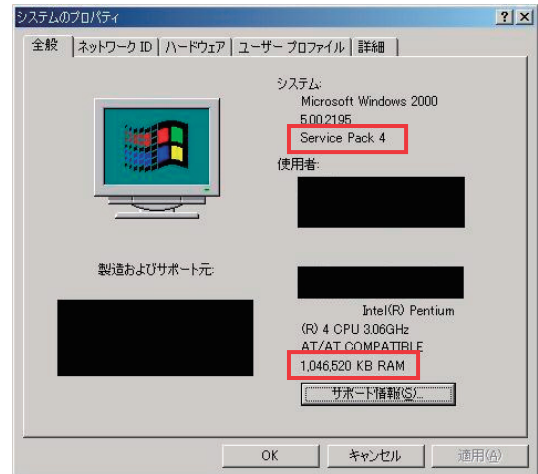
お知らせ

- ・本章では、確認手順を要約して説明してあります。
詳細については、「Windows XP Professional」または「Windows XP Home」添付の取扱説明書等を参照してください。

3. Windows 2000 の場合

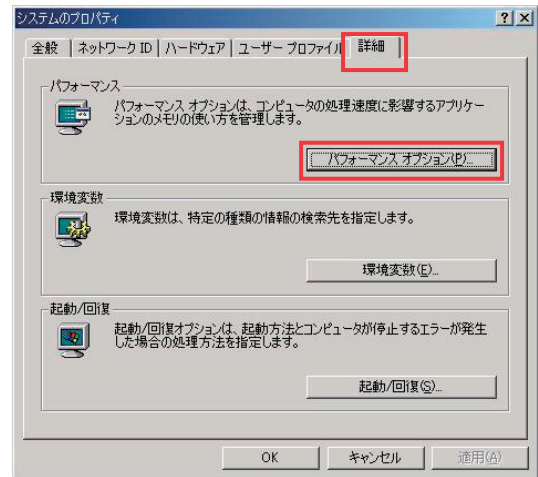
1) Windows の Service Pack とメモリ容量の確認

- ① 「マイコンピュータ」をマウスの右クリックで「プロパティ」を選択します。
「システムのプロパティ」の「全般」画面で、Windows 2000 が Service Pack 4
メモリ (RAM) が 512MB 以上であることを確認します。
画面の例ではメモリ (RAM) が 1GB (1,048,576KB) に対して「1,046,520KB」と表示されていますが、画面描画で使用するメモリ容量を引き算した値が表示されています。

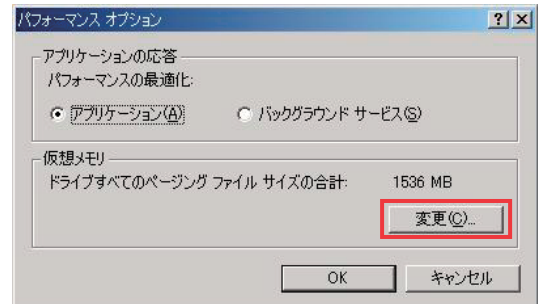


2) 仮想メモリ容量の確認

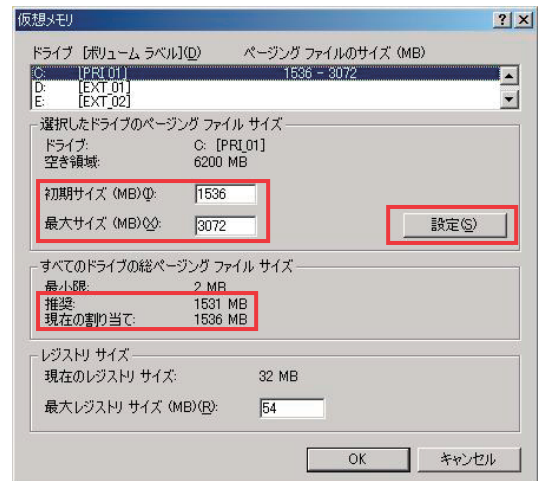
- ① 「システムのプロパティ」画面で、「詳細」のタブを選択します。
さらに、「パフォーマンス」の [パフォーマンス オプション] ボタンを押します。



- ② 「パフォーマンス オプション」画面で「仮想メモリ」の [変更] ボタンを押します。



- ③ 「仮想メモリ」画面で「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「現在の割り当て」が、「推奨」のサイズと同じ、または、近いサイズであることを確認します。
異なる場合は、
初期サイズに、「推奨」と同じサイズを設定
最大サイズに、「推奨」のサイズの2倍を設定し、「設定」ボタンを押してください。
続いて「OK」ボタンを押して、設定を完了します。
なお、設定後、Windows の再起動が必要です。



お知らせ

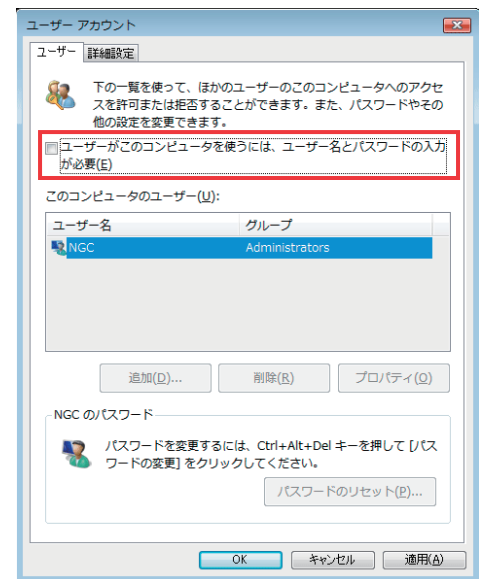
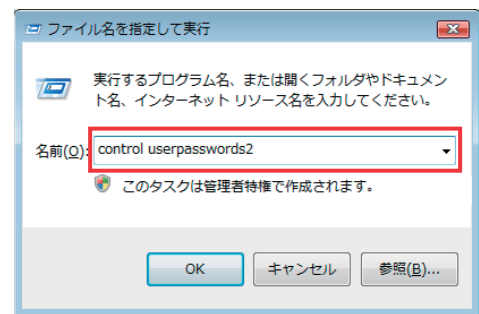
- ・本章では、設定手順を要約して説明してあります。
詳細については、「Windows 2000 Professional」添付の取扱説明書等を参照してください。

添付2：自動ログインの確認方法

本章では自動ログインの設定が有効になっていることを確認するための方法を記載します。
確認方法は、Windows 7、Vista、XP、2000 で異なりますのでご注意ください。

1. Windows 7、Vista での確認

- 1) [スタートメニュー]-[すべてのプログラム]-[アクセサリ]
-[ファイル指定して実行]へ進みます。
- 2) 入力スペースに” control userpasswords2” を入力し、
[OK] ボタンをクリックします。
- 3) 「ユーザーがこのコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」の項目のチェックを外します。
- 4) [OK] ボタンをクリックします。

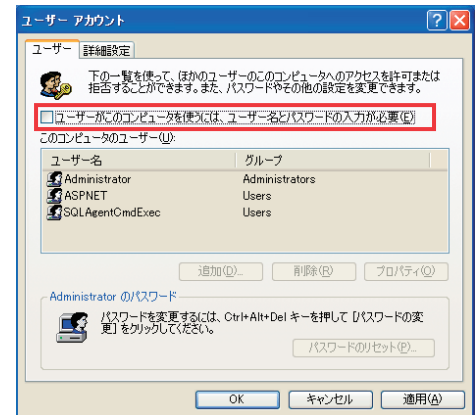
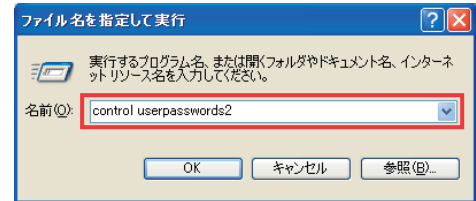


お知らせ

- ・本章では、設定手順を要約して説明してあります。
詳細については、「Windows 7 Professional」、「Windows 7 Home Premium」、「Windows Vista Business」または「Windows Vista Home Basic」添付の取扱説明書等を参照してください。

2. Windows XP の場合

- 1) [スタートメニュー] - [ファイルを指定して実行] へ進みます。
- 2) 入力スペースに” control userpasswords2” を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
- 3) 「ユーザーがこのコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」の項目のチェックを外します。
- 4) [OK] ボタンをクリックします。



お知らせ

- ・本章では、設定手順を要約して説明してあります。
詳細については、「Windows XP Professional」または「Windows XP Home」添付の取扱説明書等を参照してください。

3. Windows 2000 の場合

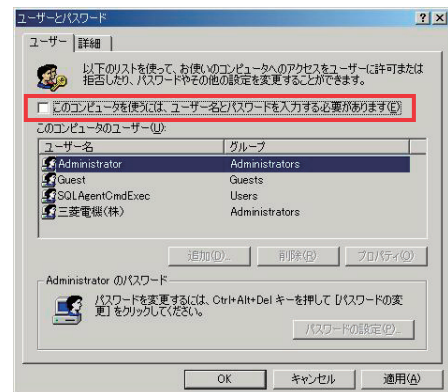
- 1) [コントロールパネル] の [ユーザーとパスワード] を選択します。
- 2) 「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。」のチェックボックスが無効になっていることを確認します。

無効になっていない場合、ユーザー名「Administrator」を選択してから、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。」のチェックボックスを無効にします。無効設定してから、[適用] ボタンをクリックすると自動ログオンの設定画面が表示されます。

- 3) ユーザー名とパスワードを設定します。
自動ログイン画面で、ユーザー名とパスワードを任意設定します。
※ユーザー名とパスワードは任意設定できますが、下記の内容を推奨致します。
ユーザー名 「Administrator」
パスワード 「TG-2000」

設定を完了すると、[OK] ボタンをクリックします。

- 4) ユーザーとパスワードの画面に戻りますので [OK] ボタンをクリックして終了してください。



お知らせ

- ・本章では、設定手順を要約して説明してあります。
詳細については、「Windows 2000 Professional」添付の取扱説明書等を参照してください。

添付3： G-150AD/G-50故障交換時の電力按分課金への修正作業

本章では、電力按分課金支援を使用している際に、G-150AD/G-50の故障交換時に必要な修正作業を説明しています。

お知らせ

- ・G-150AD/G-50を交換した場合、故障期間の電力按分課金計算することができませんので、故障時の特別な修正処理を実施する必要があります。

G-150AD/G-50交換時の課金比較データのクリア処理

交換したG-150AD/G-50の課金比較データのクリア処理を「9.6 G-150AD/G-50、PLC故障交換時の課金データの保守」にて、実施します。

[操作方法] →9.6章を参照ください。

対象：故障交換したG-150AD/G-50のみ

G-150AD/G-50故障時の「課金データの保守」実施例（電力按分課金（電力量手入力）の場合）

修正方法の一例を示します。

[操作方法]

- 1) 「課金データの保守」ボタンを選択します

初期画面のメンテナンスグループである「課金データの保守」ボタンをクリックします。

- 2) 修正したいG-150AD/G-50を選択します

交換したG-150AD/G-50を「G-150AD/G-50から選択」方法から選択します。

- 3) 室内機アイコンを選択します

修正したい室内機アイコンをクリックすると、「ユニット按分データのメンテナンス」画面が表示されます。

- 4) 按分パラメータを修正します

故障期間の按分パラメータを『0』の値に修正します。修正すると、値が青色になります。

※修正対象は故障発生日～復旧日前日です。

- 5) 交換対象G-150AD/G-50接続の室内機を修正します

交換したG-150AD/G-50の管理対象全室内機の按分パラメータ（故障期間のみ）を上記4)の内容を修正します。

- 6) 故障期間の修正方法を下記案から選択します

故障期間の按分パラメータを特別な修正処理にて、実施するために、システムに適した修正方法を検討します。一例として、下記に案を示します。

案①：故障前一週間の平均値を使用する修正方法

→故障前の一週間の平均値を1日分の按分パラメータとし、故障期間の日数を掛けた按分パラメータを計算し、復旧日の前日付にその按分パラメータを入力します。

案②：正常期間のみ使用する修正方法

→故障した期間の全室内機分の按分パラメータを使用せずに、正常期間のみを使用します。このため、故障期間の全室内機分の按分パラメータを『0』に修正します。

- 7) 上記6)により按分パラメータを修正します

検討した故障期間の修正方法を用いて、該当する室内機および日付の按分パラメータを修正します。

- 8) 再計算を選択します

既に精算されている場合は、再計算を選択して、該当月分を再精算します。

お知らせ

- ・「課金データの保守」機能で按分パラメータを修正すると、「課金データの保守」を終了時に再計算するかのメッセージが表示しますので、必要に応じて、再計算してください。
- ・本実施例では、故障交換した時点から電力按分課金に反映されます。このため、必要に応じて復旧時刻～課金締め時刻まで按分パラメータ分を減算して按分パラメータを修正してください。

項目	06008	06108	06110
室外機按分パラメータ	0.0	4.1	0.0
室内機按分パラメータ	0.0	2.2	0.0
*能力セーブ量	0	4303	0
*FAN運転時間 (消費電力0.100 B/W)	0	4305	0
*サーモコン時間	0	4305	0
*補助ヒータCON時間 (補助電力0.000 B/W)	0	0	0

ブロック	06008	06108	06110
課金期間	2008/04/01~2008/04/30	2008/05/01~2008/05/31	2008/06/01~2008/06/30
課金単価	1.20	0.0	0.0
修正後			

ユニット按分データのメンテナンス画面

G-150AD/G-50故障時の「課金データの保守」実施例（電力按分課金（電力量パルスカウント）の場合）
修正方法の一例を示します。

[操作方法]

- 1) 「課金データの保守」ボタンを選択します
初期画面のメンテナンスグループである「課金データの保守」ボタンをクリックします。
- 2) 修正したいG-150AD/G-50を選択します
交換したG-150AD/G-50を「G-50から選択」方法から選択します。
- 3) 室内機アイコンを選択します
修正したい室内機アイコンをクリックすると、「ユニット按分データのメンテナンス」画面が表示されます。
- 4) 按分電力量を修正します
故障期間の按分パラメータを『0』の値に修正します。修正すると、値が青色になります。
※修正対象は故障発生日～復旧前日です。
- 5) 交換対象G-150AD/G-50接続の室内機を修正します
交換したG-150AD/G-50の管理対象全室内機の按分電力量（故障期間のみ）を上記4)の内容に修正します。
- 6) 故障期間の修正方法を下記案から選択します
故障期間の按分パラメータを特別な修正処理にて、実施するために、システムに適した修正方法を検討します。一例として、下記に案を示します。

項目	06/08		06/09		06/10		修正
	料金単価3	料金単価1	料金単価2	料金単価4	料金単価5	料金単価6	
室外按分電力量 [kWh]	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
室内按分電力量 [kWh]	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
ファン運転時間 (消費電力0.100 [kWh]) [kWh]	0.000	0.288	0.000	0.000	0.000	0.096	0.000
*給水ポンプ (容量4.68 [kW]) [kWh]	0	4303	0	0	0	1440	0
*FAN運転時間 (消費電力0.100 [kWh]) [kWh]	0	4305	0	0	0	1440	0
*サーモON時間 [kWh]	0	4305	0	0	0	1440	0
*精算ヒートON時間 (稼働電力2.30 [kW]) [kWh]	0	0	0	0	0	0	0

ユニット按分データのメンテナンス画面

案①：故障前一週間の平均値を使用する修正方法

→故障前の一週間の平均値を1日分の按分パラメータとし、故障期間の日数を掛けた按分電力量を計算し、その値を復旧日の前日付に按分電力量として入力します。

- 7) 上記6)により按分電力量を修正します
検討した故障期間の修正方法を用いて、該当する室内機および日付の按分電力量を修正します。
- 8) 再計算を選択します
既に精算されている場合は、再計算を選択して、該当月分を再精算します。

お知らせ

- ・「課金データの保守」機能で按分電力量を修正すると、「課金データの保守」を終了時に再計算するかのメッセージが表示しますので、必要に応じて、再計算してください。
- ・本実施例では、故障交換した時点から電力按分課金の対象になり、復旧当日の按分は通常と異なります。このため、通常の按分処理は復旧翌日分からになります。

添付4： 課金試運転の短縮方法

一課金試運転短縮手順方法（非蓄熱のみのシステムの場合）一

本課金試運転は、課金運用前に実施することを前提にしています

お願い

- ・ユーザー設定2にて「常時接続課金する」に設定の上、実施してください。運用で常時接続課金しない場合は、課金試運転終了後「常時接続課金しない」に設定を戻してください。
- ・課金運用中のシステムでは、本試運転を実施しないでください。運用中の課金の精算が正しく計算できない等の影響があります。
- ・「トレンド機能」「省エネ/ピークカット」機能を無効にして、実施することを推奨致します。

1. 事前準備

課金の試運転する前に、空調機の試運転やTG-2000のシステム設定が完了していることを確認ください。

1) 課金システムを含む諸初期設定を行なう

TG-2000インストール後、課金システム設定を含む全設定を行ないます。

全ての空調機の試運転が完了していることを確認してください。日付時刻は正確な時刻であることも併せて確認ください。

2) 全空調機を停止する

空調システムのユニットが停止していることを確認します。停止していない場合は、TG-2000から停止操作します。

3) 課金試運転用の諸設定に変更する

課金試運転の確認用設定に課金諸設定を変更します。

統合ソフトTG-2000の取扱説明書（現地調整編）の

11. 3章を参照ください。

※料金の時間帯を右図のように設定します。

料金単価1： 00:00～07:00 09:00～24:00

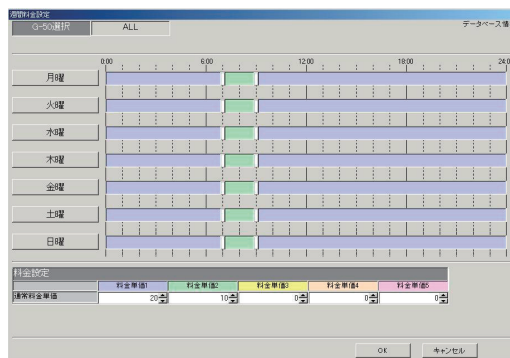
料金単価2： 07:00～09:00

料金単価3： 設定なし

料金単価4： 設定なし

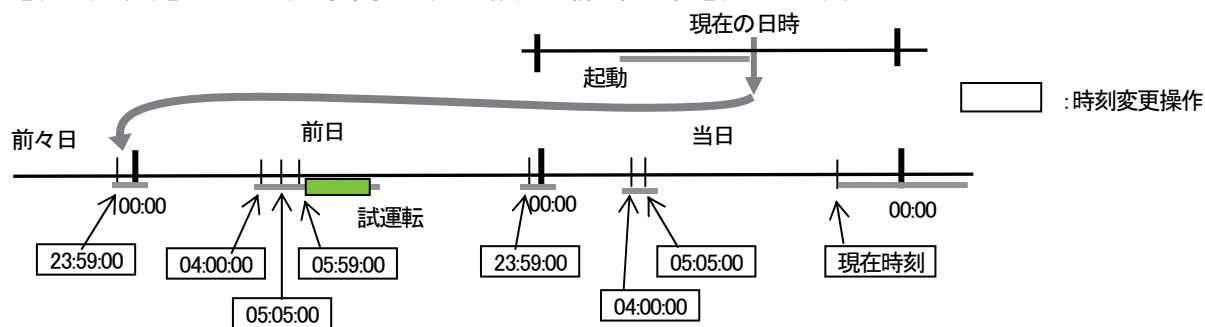
料金単価5： 設定なし

※精算日を前日に設定していることを確認してください。



2. 課金の試運転

日付を戻し、時刻を以下のように変更して、短時間での課金試運転を行ないます。



1) 2日前の日付時刻に変更する

TG-2000の時刻設定機能を使用して、「2日前の23:59:00」に変更します。（日付変更処理のため）。

2) 課金処理時刻（その1）に変更する

TG-2000のパソコンの時刻が、「00:05」以降になっていることを確認して、時刻設定機能を使って課金処理開始時刻「04:00:00」に時刻変更します（データ収集のため）。

3) 課金処理時刻（その2）に変更する

15分程度経過してから、時刻設定機能を使って「05:05:00」に時刻変更する（按分計算のため）。課金計算処理中は「按分計算中です。しばらくお待ち下さい。」のメッセージを表示します。

4) 試運転開始時刻に時刻を変更する

15分程度経過してから、時刻設定機能を使用して、「05:59:00」に変更します。

5) 全空調機の試運転を実施する

TG-2000のパソコンの時刻が「06:00」になってから、全空調機を試運転（運転）操作します。その後、2時間程度運転させます。

- 6) 全空調機の試運転を終了する
2時間程度運転させた後、TG-2000から全空調機を停止操作します。
- 7) 午前0時直前の時刻に変更する
時刻設定機能を使って、「23:59:00」に設定し、日付変更処理を実行させます。
※日付は絶対に変更しないでください。
- 8) 課金処理時刻(その1)に変更する
TG-2000のパソコンの時刻が、「00:05」以降になっていることを確認して、時刻設定機能を使って課金処理開始時刻「04:00:00」に時刻変更します(データ収集のため)。
- 9) 課金処理時刻(その2)に変更する
15分程度経過してから、時刻設定機能を使って「05:05:00」に時刻変更します
(按分・精算のため)。
課金計算処理中は「按分計算中。しばらくお待ち下さい。」と「料金計算中。しばらくお待ち下さい。」のメッセージを表示します。

一 課金試運転チェックリスト

ステップ	操作内容	補足	チェック
1	時刻を2日前の「23:59:00」に変更する	2日前以上に変更必要	
2	時刻が1日前の「00:05」になったことを確認する		
	時刻を「04:00:00」に変更する		
3	時刻が「04:15」になったことを確認する		
	時刻を「05:05:00」に変更する		
	「按分計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、15分経過を確認。	
4	時刻を「05:59:00」に変更する		
5	時刻が「06:00」になったことを確認する		
	全空調機を運転操作する	試運転でもよい。2時間運転。	
6	時刻が「08:00」になったことを確認する		
	全空調機を停止操作する		
7	時刻を「23:59:00」に変更する	日付は絶対に変更しないこと	
8	時刻が当日の「00:05」になったことを確認する		
	時刻を「04:00:00」に変更する		
9	時刻が「04:15」になったことを確認する		
	時刻を「05:05:00」に変更する		
	「按分計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、15分経過を確認。	
	「精算計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、30分経過を確認。	

お願い

- ・日付を跨る時刻変更は以下の条件以外実施しないでください。
ステップ1の2日前の午前0時直前への変更

お知らせ

- ・課金の試運転にて日付を変更する場合は、当日の日付よりも2日以上前に日付変更して実施ください。

3. 課金試運転結果の確認

- 1 1. 3章記載内容の確認を行ないます。

4. 試運転完了後の作業

- 1) 現在の日付・時刻に修正する
試運転終了後に正常な日付と時間に設定し直す。本課金試運転短縮手順方法に沿って行なうと、日付は当日になっていますので、時刻修正のみとなります。
- 2) 課金の諸設定を実運用設定に変更する
試運転用に設定している料金設定などの課金の諸設定を実運用に設定変更します。

一課金試運転短縮手順方法（蓄熱機種ありのシステムの場合）一

本課金試運転は、課金運用前に実施することを前提にしています

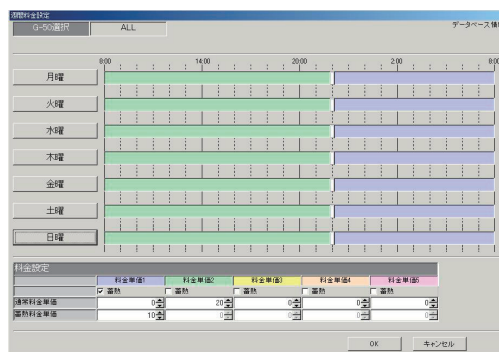
お願い

- ・課金運用中のシステムでは、本試運転を実施しないでください。運用中の課金の精算が正しく計算できない等の影響があります。

1. 事前準備

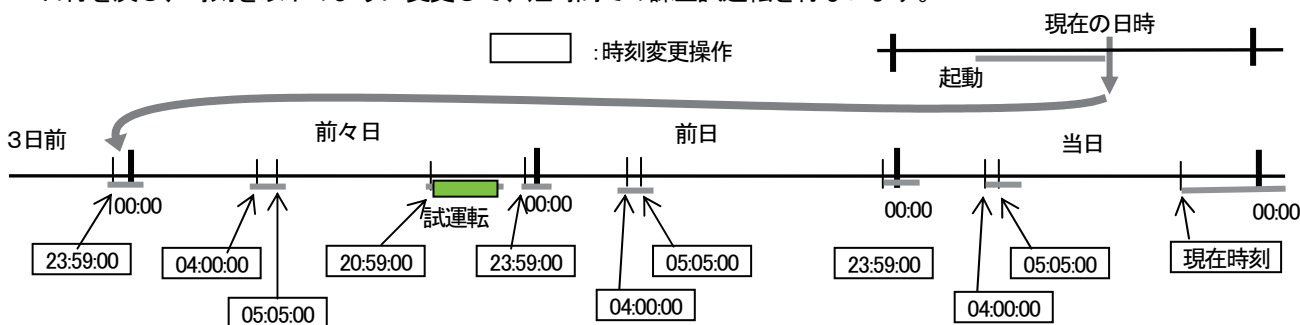
課金の試運転する前に、空調機の試運転やTG-2000のシステム設定が完了していることを確認ください。

- 1) 課金システムを含む諸初期設定を行なう
TG-2000インストール後、課金システム設定を含む全設定を行ないます。
全ての空調機の試運転が完了していることを確認してください。日付時刻は正確な時刻であることも併せて確認ください。
- 2) 全空調機を停止する
空調システムのユニットが停止していることを確認します。停止していない場合は、TG-2000から停止操作します。
- 3) 課金試運転用の諸設定に変更する
課金試運転の確認用設定に課金諸設定を変更します。
統合ソフトTG-2000の取扱説明書（現地調整編）の11.3章を参照ください。
※料金の時間帯を右図のように設定します。
料金単価1： 22:00～08:00（蓄熱時間）
料金単価2： 08:00～22:00
料金単価3： 設定なし
料金単価4： 設定なし
料金単価5： 設定なし
※精算日を前々日に設定していることを確認してください。



2. 課金の試運転

日付を戻し、時刻を以下のように変更して、短時間での課金試運転を行ないます。



- 1) 3日前の日付時刻に変更する
TG-2000の時刻設定機能を使用して、「3日前の23:59:00」に変更します。
(日付変更処理のため)。
- 2) 課金処理時刻（その1）に変更する
TG-2000のパソコンの時刻が、「00:05」以降になっていることを確認して、時刻設定機能を使って課金処理開始時刻「04:00:00」に時刻変更します（データ収集のため）。
- 3) 課金処理時刻（その2）に変更する
15分程度経過してから、時刻設定機能を使って「05:05:00」に時刻変更する（按分計算のため）。
課金計算処理中は「按分計算中です。しばらくお待ち下さい。」のメッセージを表示します。
- 4) 試運転開始時刻に時刻を変更する
時刻設定機能を使用して、「20:59:00」に変更します。
- 5) 全空調機の試運転を実施する
TG-2000のパソコンの時刻が「21:00」になってから、全空調機を試運転（運転）操作します。
その後、2時間程度運転させます。
- 6) 全空調機の試運転を終了する
2時間程度運転させた後、TG-2000から全空調機を停止操作します。
- 7) 午前0時直前の時刻を変更する
時刻設定機能を使って、「23:59:00」に設定し、日付変更処理を実行させます。
※日付は絶対に変更しないでください。

- 8) 課金処理時刻(その1)に変更する
TG-2000のパソコンの時刻が、「00:05」以降になっていることを確認して、時刻設定機能を使って課金処理開始時刻「04:00:00」に時刻変更します(データ収集のため)。
- 9) 課金処理時刻(その2)に変更する
15分程度経過してから、時刻設定機能を使って「05:05:00」に時刻変更します(按分計算のため)。課金計算処理中は「按分計算中です。しばらくお待ち下さい。」のメッセージを表示します。
- 10) 午前0時直前の時刻を変更する
時刻設定機能を使って、「23:59:00」に設定し、日付変更処理を実行させます。
※日付は絶対に変更しないでください。
- 11) 課金処理時刻(その1)に変更する
TG-2000のパソコンの時刻が、「00:05」以降になっていることを確認して、時刻設定機能を使って課金処理開始時刻「04:00:00」に時刻変更します(データ収集のため)。
- 12) 課金処理時刻(その2)に変更する
15分程度経過してから、時刻設定機能を使って「05:05:00」に時刻変更します(按分・精算のため)。課金計算処理中は「按分計算中。しばらくお待ち下さい。」と「料金計算中。しばらくお待ち下さい。」のメッセージを表示します。

一課金試運転チェックリスト

ステップ	操作内容	補足	チェック
1	時刻を3日前の「23:59:00」に変更する	3日前以上に変更必要	
2	時刻が2日前の「00:05」になったことを確認する		
	時刻を「04:00:00」に変更する		
3	時刻が「04:15」になったことを確認する		
	時刻を「05:05:00」に変更する		
	「按分計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、15分経過を確認	
4	時刻を「20:59:00」に変更する		
5	時刻が「21:00」になったことを確認する		
	全空調機を運転操作する	試運転でもよい 2時間運転	
6	時刻が「23:00」になったことを確認する		
	全空調機を停止操作する		
7	時刻を「23:59:00」に変更する	日付は絶対に変更しないこと	
8	時刻が前日の「00:05」になったことを確認する		
	時刻を「04:00:00」に変更する		
9	時刻が「04:15」になったことを確認する		
	時刻を「05:05:00」に変更する		
	「按分計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、15分経過を確認	
10	時刻を「23:59:00」に変更する	日付は絶対に変更しないこと	
11	時刻が当日の「00:05」になったことを確認する		
	時刻を「04:00:00」に変更する		
12	時刻が「04:15」になったことを確認する		
	時刻を「05:05:00」に変更する		
	「按分計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、15分経過を確認	
	「精算計算中。しばらくお待ちください。」表示を確認する	左記の表示が消えたこと、または、30分経過を確認	

お願い

- ・日付を跨る時刻変更は以下の条件以外実施しないでください。
ステップ1の3日前の午前0時直前への変更

お知らせ

- ・課金の試運転にて日付を変更する場合は、当日の日付よりも3日以上前に日付変更して実施ください。
- ・蓄熱機種ありの課金システムにおける精算は、精算日指定の翌々日になります。

3. 課金試運転結果の確認

1 1. 3章記載内容の確認を行いません。

4. 試運転完了後の作業

1) 現在の日付・時刻に修正する

試運転終了後に正常な日付と時間に設定し直す。本課金試運転短縮手順方法に沿って行なうと、日付は当日になっていますので、時刻修正のみとなります。

2) 課金の諸設定を実運用設定に変更する

試運転用に設定している料金設定などの課金の諸設定を実運用に設定変更します。

添付5： システム設定データのバックアップ方法

サイトで初期システム設定したデータを他の媒体にバックアップする方法を説明します。標準モードと広域モードでは、バックアップの方法が異なり、また、バックアップするデータベース形式に違いがあります。

リムーバブル・ディスクにバックアップする方法

この方法は、データベースのファイルを現地のパソコンからリムーバブル・ディスク（FD、CD-R、USBメモリなど）にコピーして、バックアップする方法です。

以下に必要な部材と操作方法を示します。

[必要部材]

- ・リムーバブル・ディスク（FD、CD-R、USBメモリなどの現地のパソコンで使用できる記録媒体）
- ・圧縮分割ツール（FDの媒体を使用する場合は必ず必要です）

お知らせ

- ・現地のパソコンで使用できる記録媒体や圧縮分割ツールを準備ください。

1. 標準モードでのバックアップ方法

[操作方法]

1) 統合ソフトTG-2000のプログラムを終了する

初期設定や試運転を終了してから、統合ソフトプログラムを終了してください。

※統合ソフトが終了していないと、データベースファイルのコピーができません。

2) 「detach」アイコンを選択する

デスクトップに配置されている「detach」アイコンをダブルクリックします。すると、DOS窓が開き、データベースのファイルにアクセスできるように処理されます。

また、detach 実行プログラムが終了すると、自動的にDOS窓が閉じます。

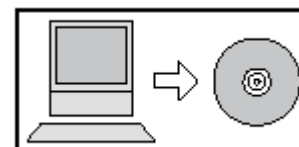
※データベースをコピーできる状態になります。



3) データをコピー&ペースト（貼り付け）する

下記のファイルまたはフォルダをコピーします。

対象ファイル、フォルダ	格納フォルダ
MJ310G. ldf、MJ310G. mdf	C:\¥Mssql7\data¥
MJ310GT. ldf、MJ310GT. mdf	C:\¥Mssql7\data¥
¥floor フォルダ	C:\¥TG2000
¥User Icon フォルダ	C:\¥TG2000



リムーバブル・ディスクにコピーしたファイルをペースト（貼り付け）します。

お知らせ

- ・FDを使用する場合は、任意の作業フォルダ（例：C:\¥work）を作成して、圧縮分割ツールでFDにコピーできるサイズに変更します。
- ・CD-RまたはUSBメモリを使用できる場合は、書き込みソフトを使用して、そのままのファイルサイズでコピーできます。
- ・MJ310G. ***にはシステム情報や課金データなどのデータが格納されています。
- ・MJ310GT. ***にはトレンドデータが格納されています。トレンド機能を使用していない場合、MJ310GT. ***はバックアップ不要です。
- ・¥floor フォルダ内には、フロアの平面図と全体フロアの平面図が格納されています。（全体フロアの平面図はユーザー設定でフロア分割を「しない」に設定した場合はバックアップ不要です。）
- ・¥User Icon フォルダ内には、ユーザーアイコンが格納されています。（ユーザーアイコンを設定していない場合はバックアップ不要です。）

4) 「attach」アイコンを選択する

デスクトップに配置されている「attach」アイコンをダブルクリックします。すると、DOS窓が開き、データベースとしてファイルが使用できるように処理されます。

また、attach 実行プログラムが終了すると、自動的にDOS窓が閉じます。

※データベースを使用できる状態になります。



注意

- ・必ず、「attach」を実行しないと、統合ソフトは正常に動作しません。統合ソフトのバージョンアップ時のデータベースバックアップ後も、「attach」を実行してください。

- 5) 統合ソフトTG-2000のプログラムを起動する
統合ソフトを起動して、正常に動作することを確認します。

お知らせ

- ・定期的（1日に1回程度）にパソコンのHDDにMJ310G.***のデータベースを指定のフォルダにバックアップする機能を備えています。設定方法については、8. 3. 2章を参照ください。
- ・故障によるパソコン交換以外は、バックアップしたデータベースを使用しないでください。システム情報や課金データなどがバックアップした時点のデータに戻ってしまいますので、ご注意ください。

2. 広域モードでのバックアップ方法

[操作方法]

- 1) 統合ソフトの広域TG-2000を終了する
サイト切替えツールにて、広域モードのTG-2000を終了します。
- 2) サイト切替えツールを終了する
サイト切替えツール自体を終了します。
- 3) データベースのコピー&ペーストする
下記のフォルダにあるファイルをコピーし、リムーバブル・ディスクにコピーしたファイルをペースト（貼り付け）します。

対象ファイル、フォルダ	格納フォルダ
¥ (サイト名)	C:\TGSiteData¥ (Ver. 5.11 以前の場合、C:\Program Files¥TG2000¥ (サイト名))

※上記のフォルダ内の¥floor フォルダに、フロアの平面図や全体フロアの平面図のファイルが、¥UserIcon フォルダに、ユーザーアイコンのファイルと一緒に保存されております。

お知らせ

- ・分類用フォルダを設けた場合、「(サイト名)」にフォルダが含まれます。
- ・広域TG-2000とサイト切替えツールとを終了した状態でバックアップしてください。

- 4) サイト切替えツールを起動する
デスクトップに配置されているアイコンをクリックして、サイト切替えツールを起動します。
- 5) 広域TG-2000を起動する
サイト切替えツールから接続したい物件アイコンを選択して、TG-2000を起動します。

3. 一括保存ツールを使用したバックアップ方法

[操作方法]

- 1) 統合ソフトのTG-2000を終了する
初期設定や試運転を終了してから、統合ソフトプログラムを終了してください。
※統合ソフトが終了していないと、データベースファイルのコピーができません。
- 2) 一括保存ツールを起動する



DbBkupTool...

TG-2000インストールフォルダ内の[DbBkupTool.exe]を起動します。

- 3) 保存場所と保存ファイル名を指定し、保存します
任意の保存先を決定し、保存する際のファイル名を設定します。
保存ボタンを押すと圧縮ファイル形式(Zip ファイル)で出力します。

お知らせ

- ・DbBkupToolはTG-2000インストールフォルダ以外では起動できません。
- ・バックアップする対象は以下となります。
データベース (MJ310G.***, MJ310GT.***)
フロアの平面図
ユーザーアイコンの画面
- ・一括保存ツールでは、広域モードは対象外です。
広域モードを使用している場合は、「広域モードでのバックアップ方法」を参照し、システム設定データのバックアップを行なってください。

4. 標準モードでのバックアップデータの書き戻し方法

「1. 標準モードでのバックアップ方法」または「3. 一括保存ツールを使用したバックアップ方法」でバックアップしたファイルの書き戻し方法を説明します。

[操作方法]

- 1) 統合ソフトのTG-2000を終了する
統合ソフトプログラムを終了してください。

- 2) 「detach」アイコンを選択する

デスクトップに配置されている「detach」アイコンをダブルクリックします。すると、DOS窓が開き、データベースのファイルにアクセスできるように処理されます。

また、detach 実行プログラムが終了すると、自動的にDOS窓が閉じます。

※データベースをコピーできる状態になります。



- 3) バックアップデータを書き戻す

バックアップしたデータを下記フォルダにコピー&ペースト（貼り付け）してください。

対象ファイル、フォルダ	書き戻しフォルダ
MJ310G. ldf、MJ310G. mdf	C:\¥Mssql7¥data¥
MJ310GT. ldf、MJ310GT. mdf	C:\¥Mssql7¥data¥
¥floor フォルダ	C:\¥TG2000
¥UserIcon フォルダ	C:\¥TG2000

- 4) 「attach」アイコンを選択する

デスクトップに配置されている「attach」アイコンをダブルクリックします。すると、DOS窓が開き、データベースとしてファイルが使用できるように処理されます。

また、attach 実行プログラムが終了すると、自動的にDOS窓が閉じます。

※データベースを使用できる状態になります。



- 5) 統合ソフトTG-2000のプログラムを起動する

統合ソフトを起動して、正常に動作することを確認します。

お願い

- ・バックアップデータを取得したTG-2000と同じバージョンに書き戻しを行なってください。それ以降のバージョンに書き戻しを行なう場合は、TG-2000のバージョンアップが必要です。

5. 広域モードでのバックアップデータの書き戻し方法

「2. 広域モードでのバックアップ方法」でバックアップしたファイルの書き戻し方法を説明します。

[操作方法]

- 1) 統合ソフトの広域TG-2000を終了する

サイト切替えツールにて、広域モードのTG-2000を終了します。

- 2) サイト切替えツールを終了する

サイト切替えツール自体を終了します。

- 3) バックアップデータを書き戻す

バックアップしたデータを下記フォルダにコピー&ペースト（貼り付け）してください。

対象フォルダ	書き戻しフォルダ
¥（サイト名）の中身	C:\¥TGSiteData¥（サイト名） (Ver. 5.11 以前の場合、C:\¥program files¥tg2000¥（サイト名）)

- 4) サイト切替えツールを起動する

デスクトップに配置されているアイコンをクリックして、サイト切替えツールを起動します。

- 5) 広域TG-2000を起動する

サイト切替えツールから接続したい物件アイコンを選択して、TG-2000を起動します。

お願い

- ・バックアップデータを取得したTG-2000と同じバージョンに書き戻しを行なってください。それ以降のバージョンに書き戻しを行なう場合は、TG-2000のバージョンアップが必要です。

6. データベースバックアップ機能でのバックアップデータの書き戻し方法

データベースバックアップ機能でバックアップしたファイルの書き戻し方法を説明します。

[操作方法]

- 1) 統合ソフトのTG-2000を終了する
統合ソフトプログラムを終了してください。

- 2) バックアップデータを貼り付ける
バックアップしたデータを下記フォルダにコピー&ペースト（貼り付け）してください。

対象ファイル	書き戻しフォルダ
MJ310G_2.dat	バックアップ設定で指定したファイル出力先フォルダ 例： C:\¥TG2000¥DataBackup
Restore.bat	
Restore.sql	

- 3) バックアップデータを書き戻す
「Restore.bat」ファイルを実行します。

- 4) 統合ソフトのTG-2000のプログラムを起動する
統合ソフトを起動して、正常に動作することを確認します。

G-150AD/G-50対応版TG-2000の場合、上記手順でバックアップデータが書き戻せないことがあります。その場合は以下の手順を実行してから、再度バックアップデータの書き戻しを行なってください。

[操作方法]

- 1) 統合ソフトのTG-2000を終了する
統合ソフトプログラムを終了してください。

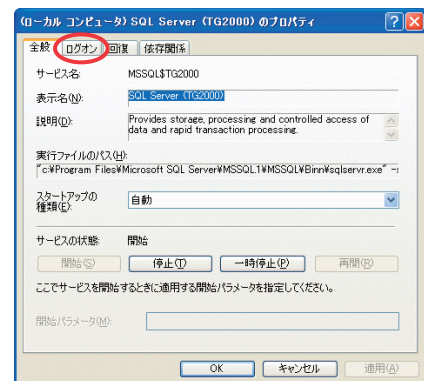
- 2) コントロールパネルからサービスを開く
コントロールパネルから「管理ツール」を開いて、「サービス」を実行します。

お願い

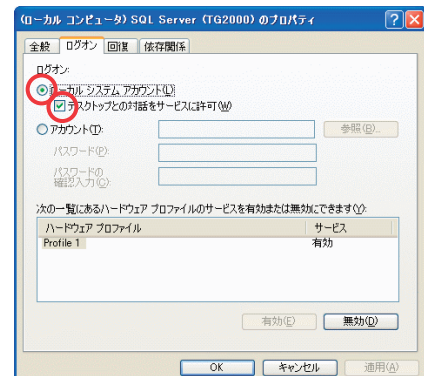
- ・サービスでは、操作方法の手順以外の操作は絶対に行わないでください。
TG-2000が起動しなくなったり、パソコンが誤動作する原因になります。

- 3) SQL Server (TG-2000)を開く
サービス一覧の中から、「SQL Server (TG-2000)」を実行します。

- 4) ログオンを選択する
画面が開いたら、ログオンを選択します。



- 5) ログオン方法を変更する
「ローカルシステムアカウント」を選択してから、「デスクトップとの対話をサービスに許可」を選択します。
上記2つを選択したら、「OK」を選択して画面を閉じます。



- 6) パソコンを再起動する
パソコンを再起動します。
再起動が完了したら、再度バックアップデータの書き戻しを行なってください。

添付6： システムの増設工事時の作業方法

空調機システムの空調機や電力量計などの増設時の作業方法を説明します。

1. 事前準備

空調機システムの増設時には、下記の準備が必要です。また、使用する機能により、準備する内容が異なります。

[凡例] ○：該当／－：該当なし

	内容	使用機能		
		監視／操作	電力按分 課金支援	汎用機器 監視／操作
1	増設する空調機システムの冷媒系、グループ、操作ブロックの 情報	○	－	－
2	増設する空調機システムの課金ブロックの情報	－	○	－
3	増設する電力量計（計量計）と対応する空調機の情報	－	○	－
4	増設する電力量計（計量計）の料金情報	－	○	－
5	電力量カウントソフトの増設P L Cの有無 増設する計量MCの有無	－	○	－
6	増設する汎用機器の機能情報	－	－	○
7	汎用制御P L Cソフトの増設P L Cの有無 増設する汎用D Cの有無	－	－	○
8	増設する空調機グループや汎用機器のスケジュール情報	○	－	○

2. 増設時の注意点について

空調機システムの増設時には、下記の内容に注意願います。

- (1) 電力量カウントソフトのP L Cの電源を遮断している間は、電力量などをカウントすることができません。（計量MCの電源を遮断している場合も同様です。）
P L C（*1）の電源遮断の間、カウント対象の電気などを遮断するか、または、増設工事中は電力量などをカウントできないことをオーナー様に承知して頂いてください。*1：計量MCも同様です。
- (2) 電力按分課金支援を使用している場合、増設する作業直前に期間精算する必要があります。期間精算した結果を印刷またはファイルに必ず出力してください。増設作業後でのT G－2 0 0 0では、課金ブロックの変更などにより、正常な按分計算結果にならない場合があります。
- (3) 電力按分課金支援を使用している場合、空調機を全停止してください。増設作業中の課金は通常どおりに処理できない場合がありますので、空調機ブレーカーのO F Fを推奨いたします。
- (4) 運用中の電力量カウントソフト用と汎用制御P L Cソフト用のP L Cには、イニシャル要求ボタンを絶対に使用しないでください。使用されますと、課金データなどがすべてクリアされます。
- (5) 増設作業前と増設作業後には、T G－2 0 0 0のデータベースをバックアップして、それぞれ保存してください。→添付5の内容をご覧ください。
- (6) 計量計の接続には、電力量カウントソフト用P L Cあるいは計量MCのどちらか一方しか接続できません（電力量カウントソフト用P L Cと計量MCは混在使用できません）。

3. 作業方法

空調機システムの増設時には、下記の手順で作業を行ないます。

手順の内容は「監視／操作」「電力按分課金支援」「汎用機器の監視／操作」の機能で区別していますので、使用している機能に該当する手順すべてを実施してください。また、手順内容にはP L C増設なども含めて記載していますので、現地の増設内容に応じて実施してください。

[凡例] ○：該当／－：該当しない

手順	内容	使用機能		
		監視／操作 のみ	電力按分 課金支援	汎用機器 監視／操作
1	空調機（および、汎用機器）を全停止します。 ※電力按分課金支援の機能あり：空調機用ブレーカーOFFを推奨します。	○	○	○
2	空調課金の期間精算を実施し、結果を出力します。	－	○	－
3	電力量計（計量計）の現在値を「システム機器」画面で確認して、記録します。 ※1	－	○	－
4	T G－2 0 0 0を終了し、データベースをバックアップします。	○	○	○
5	電力量計や計量計の読み値を記録します。 ※1	－	○	－

[凡例] ○：該当／－：該当しない

手順	内容	使用機能		
		監視／操作のみ	電力按分課金支援	汎用機器監視／操作
6	シーケンサ電源をOFFして、電力量計などの追加配線接続を実施します。また、追加シーケンサのセットアップや配線接続等を行いません。計量MC又は汎用DCの電源をOFFして、電力量計などの追加配線接続を実施します。また、追加計量MC又は汎用DCのセットアップや配線接続等を行いません。	－	○	○
7	シーケンサ電源をONして、再起動します。 計量MC又は汎用DCの電源をONして、再起動します。	－	○	○
8	追加G-150AD/G-50のバージョン確認し、必要に応じてバージョンアップします。また、必要に応じて、ライセンス番号を登録します。	○	○	○
9	TG-2000を起動して、初期画面に移行します。	○	○	○
10	「G-50接続設定」にて、追加G-150AD/G-50を設定します。	○	○	－
11	「システム構成設定」にて、追加G-150AD/G-50や空調機などを設定します。 ※注意：「G-150AD/G-50より情報収集」ボタンは絶対に使用しないこと	○	○	－
12	「汎用制御PLC設定」にて、追加PLCと汎用機器を設定します。 ※注意：既設PLCには「イニシャル要求」を実施しないこと 「DC設定」にて、追加汎用機器を設定します。	－	－	○
13	「監視表示設定」にて、増設分の空調機や汎用機器の各設定を実施します。	○	○	○
14	「計量計設定」にて、追加PLCと電力量計（計量計）を設定します。 ※注意：既設PLCには「イニシャル要求」を実施しないこと 「計量MC」にて、追加電力量計（計量計）を設定します。	－	○	－
15	「課金システム設定」にて、追加空調機の各設定を実施します。	－	○	－
16	「料金設定」にて、設定内容を確認します。また、追加計量計分は料金などを設定します。	－	○	－
17	「省エネ設定」にて、追加したG-150AD/G-50や空調機の設定を実施します。	○	－	－
18	「時刻設定」にて、時刻を設定します。 ※追加G-150AD/G-50、PLC、汎用DC、計量MCがなければ実施は不要です。	○	○	○
19	初期画面から「設定終了」ボタンで管理画面に移行します。 ※G-150AD/G-50などに設定内容を送信します。	○	○	○
20	「システム機器」画面で、電力量計や計量計の現在値モニタして、新規計量計の値を確認し、記録します。 ※1	－	○	－
21	空調機の電源をONします。	○	○	○
22	空調機の立ち上げを終了後に、TG-2000を再起動します。	○	○	○
23	全空調機を運転操作し、運転監視できることを確認します。電力按分課金支援を使用している場合、電力量計や計量計が正しくカウントアップしていることを確認します。 ※2 また、汎用機器の機能を使用している場合、正しく監視や操作ができることを確認します。	○	○	○

※1：既存の計量計の読み値とTG-2000のモニタ値、および、新設の計量計の読み値を記録してください。
 ※2：設定完了後の試運転確認で、計量計のモニタ値と読み値に対し試運転前後の差が一致すれば、正しくカウントアップしていると判断できます。ただし、計量対象の電気などを遮断できなかった場合、手順20にて、全計量計のモニタ値と読み値を確認し、記録してください。

お知らせ

- ・追加や変更した設定以外も設定内容を確認することを推奨いたします。
- ・必要に応じて、課金の試運転などを行ない確認してください。

参考：計量計記録フォーム例

計量計	PLC /MCP No.	名称	設置場所	運転前計量	運転後計量	差	判定
計量計 1 (読み値) (メモ値)							
計量計 2 (読み値) (メモ値)							
計量計 3 (読み値) (メモ値)							
計量計 4 (読み値) (メモ値)							
計量計 5 (読み値) (メモ値)							
計量計 6 (読み値) (メモ値)							

添付7 機能アップ時の作業方法

本添付資料では、「電力按分課金支援」や「省エネ制御」および「ピークカット制御」の機能を追加する際の作業手順について説明します。

1. 事前準備

空調機システムの増設時には、下記の準備が必要です。また、使用する機能により、準備する内容が異なります。

[凡例] ○：該当／－：該当なし

	内容	使用機能		
		電力按分課金支援	省エネ制御	ピークカット制御 ※1
1	空調機システムの冷媒系、グループ、操作ブロックの情報	○	○	○
2	空調機システムの課金ブロックの情報	○	－	－
3	電力量計と対応する空調機の情報、計量計の情報	○	－	－
4	電力量計（計量計）の料金情報	○	－	－
5	ピークカット制御に使用する電力量計の情報 増設する計量MCの有無	－	－	○
6	設定する省エネ、ピークカットの制御内容、等の情報	－	○	○
7	機能アップのライセンス番号の情報	○	○	○

※1：電力量計接続の場合です。また、電力量カウントソフトはVer. 1.01以降のバージョンが必要となります。

2. 機能アップ時の注意点について

空調機システムの機能をアップする時には、下記の内容に注意願います。

- (1) 電力量カウントソフトのPLCの電源を遮断している間は、電力量などをカウントすることができません。（計量MCの電源を遮断している場合も同様です。）
PLCの電源遮断の間、カウント対象の電気などを遮断するか、または、増設工事中は電力量などをカウントできないことをオーナー様にご承知して頂いてください。*1：計量MCも同様です。
運用中の電力量カウントソフト用のPLCには、イニシャル要求ボタンを絶対に使用しないでください。使用されますと、課金データなどがすべてクリアされます。
- (2) 電力按分課金を使用している場合、念のために作業直前に期間精算することを推奨致します。期間精算した結果を印刷またはファイルに必ず出力してください。また、作業中の課金は通常どおりに処理できないケースがありますので、空調機ブレーカーのOFFを推奨いたします。
- (3) 作業前と作業後には、念のためにTG-2000のデータペースをバックアップして、それぞれ保存してください。→作業方法は添付5の内容をご覧ください。
- (4) 計量計の接続には、電力量カウントソフト用PLCあるいは計量MCのどちらか一方しか接続できません（電力量カウントソフト用PLCと計量MCは混在使用できません）。

3. 作業方法

空調機システムの機能アップ時には、下記の手順で作業を行ないます。

手順の内容は「電力按分課金支援」「省エネ」「ピークカット」の追加機能で区別していますので、追加する、または、使用している機能に該当する手順すべてを実施してください。

[凡例] ○：該当／－：該当しない

手順	内容		追加機能		
			電力按分課金支援 ※5	省エネ制御	ピークカット制御
	TG-2000側の作業	G-150AD(EG)/G-50、PLC（または計量MC）、電力量計等側の作業			
1	空調機を全停止 (空調機用ブレーカーOFFを推奨)		○	－	－
2	空調課金の期間精算し、結果出力する		○	－	－
3	「システム機器」画面の計量計の現在値を確認し、記録する	計量計の読み値を記録する	○	－	－
4		PLC（または計量MC）は電源をOFFし、バージョンアップする ※2	○	－	○
5		[PLC新設] 据付とセットアップする または[計量MC新設] 据付とセットアップする	○	－	○

[凡例] ○：該当／－：該当しない

手順	内容		追加機能		
			電力按分課金支援 ※5	省エネ制御	ピークカット制御
	TG-2000側の作業	G-150AD(EC)/G-50、PLC(または計量MC)、電力量計等側の作業			
6		PLC(または計量MC)電源をONする	○	－	○
7		G-150AD(EC)/G-50のバージョンアップ ※3	○	○	○
8		G-150AD/G-50にライセンス番号を登録する	○	○	○
9	TG-2000を終了し、データベースをバックアップする ※1		○	○	○
10	TG-2000のバージョンアップ ※3		○	○	○
11	[PLC新設] PLCを初期設定する ※4 (注意:運用中PLCは「イニシャル要求」ボタンを選択しないこと) [計量MC新設] 計量MCの初期設定する		○	－	○
12	空調機の電源をONする		○	－	－
13	空調機の立ち上げ後に、TG-2000を再起動する		○	○	○
14	全空調機を運転し、動作することを確認する		○	○	○
15	電力量計の値が正しくアップすることを確認する。		○	－	○
16	機能アップした機能設定を実施する		○	○	○
17	機能の試運転を実施する		○	○	○
18	TG-2000を停止し、データベースをバックアップした後、TG-2000を再起動する。 ※1		○	○	○

※1：添付5のデータベースのバックアップ方法を参照ください。

※2：電力量カウントソフトの据付説明書のバージョンアップ方法を参照ください。

※3：5章のG-150AD(EC)/G-50バージョンアップ方法、TG-2000のバージョンアップ方法を参照ください。

※4：既に運用中のPLCは計量計設定で「イニシャル要求」ボタンを選択して実施しないでください。間違えて実施すると、初期値に戻ってしまい、電力按分課金支援に影響してしまいますのでご注意ください。

※5：電力量手入力の電力按分課金支援の場合、PLC(電力量カウントソフト)や計量MCの設置は不要です。

お知らせ

- ・追加や変更した設定以外も設定内容を確認することを推奨いたします。
- ・必要に応じて、課金の試運転などを行ない確認してください。

計量計を使用している場合、次ページの計量計記録フォーム例をご使用ください。

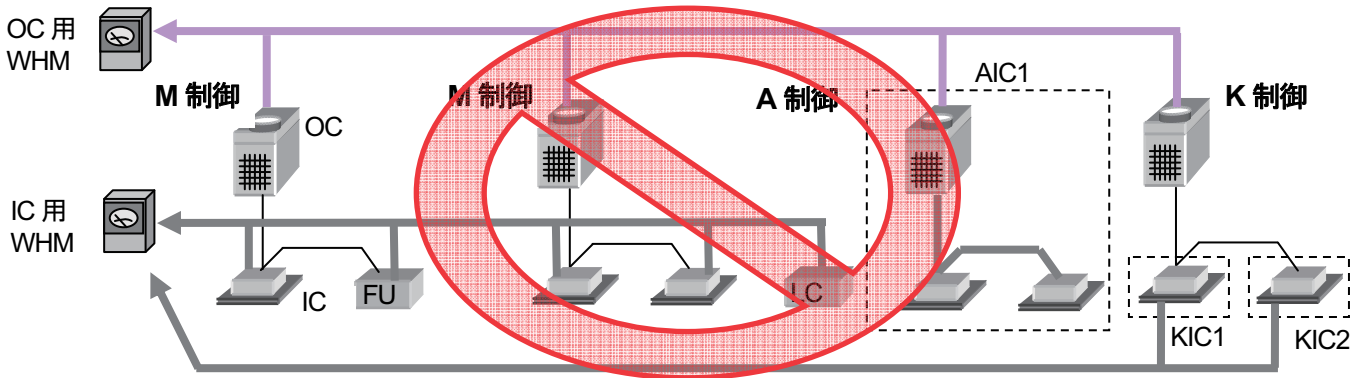
参考：計量計記録フォーム例

計量計	PLC/計量 MC No.	名称	設置場所	運転前計量	運転後計量	差	判定
計量計 1 (読み値) (モタ値)							
計量計 2 (読み値) (モタ値)							
計量計 3 (読み値) (モタ値)							
計量計 4 (読み値) (モタ値)							
計量計 5 (読み値) (モタ値)							
計量計 6 (読み値) (モタ値)							
計量計 7 (読み値) (モタ値)							
計量計 8 (読み値) (モタ値)							
計量計 9 (読み値) (モタ値)							
計量計 10 (読み値) (モタ値)							
計量計 11 (読み値) (モタ値)							
計量計 12 (読み値) (モタ値)							
計量計 13 (読み値) (モタ値)							
計量計 14 (読み値) (モタ値)							
計量計 15 (読み値) (モタ値)							
計量計 16 (読み値) (モタ値)							
計量計 17 (読み値) (モタ値)							
計量計 18 (読み値) (モタ値)							
計量計 19 (読み値) (モタ値)							
計量計 20 (読み値) (モタ値)							
計量計 21 (読み値) (モタ値)							
計量計 22 (読み値) (モタ値)							
計量計 23 (読み値) (モタ値)							
計量計 24 (読み値) (モタ値)							
計量計 25 (読み値) (モタ値)							
計量計 26 (読み値) (モタ値)							
計量計 27 (読み値) (モタ値)							
計量計 28 (読み値) (モタ値)							
計量計 29 (読み値) (モタ値)							
計量計 30 (読み値) (モタ値)							
計量計 31 (読み値) (モタ値)							
計量計 32 (読み値) (モタ値)							

添付8 A、K制御機種及びロスナイの課金設定について

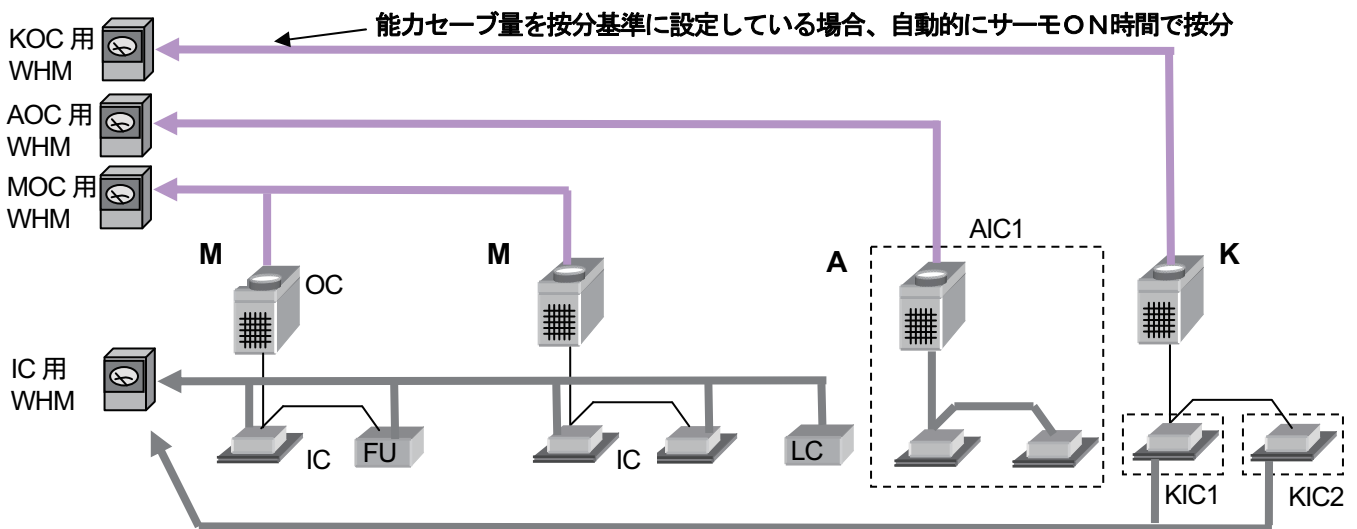
本添付資料では、A制御機種、K制御機種及びロスナイ機種を課金設定する場合の設定手順及び注意点について記載します。

1. M-NET (M)、A制御、K制御混在システムの場合



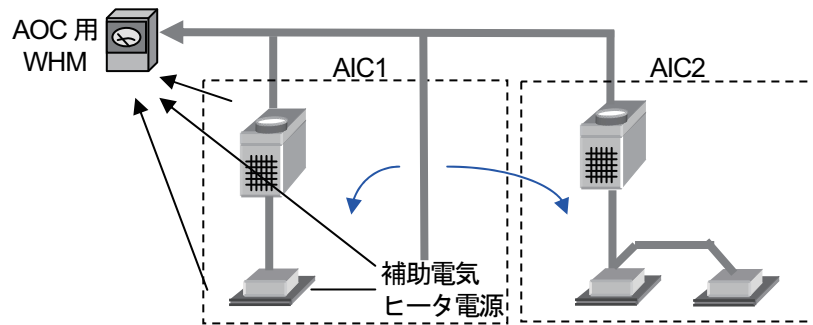
お知らせ

- ・各ユニットの性能 (COP) により、正確な課金ができない可能性があるため、下記のように機種ごとにOC (室外機) 用 WHM を分けて設置することを推奨します。



2. A制御機種の設定について

2-1 IC電源をOCからとる場合（補助電気ヒータをOC用WHMに接続）



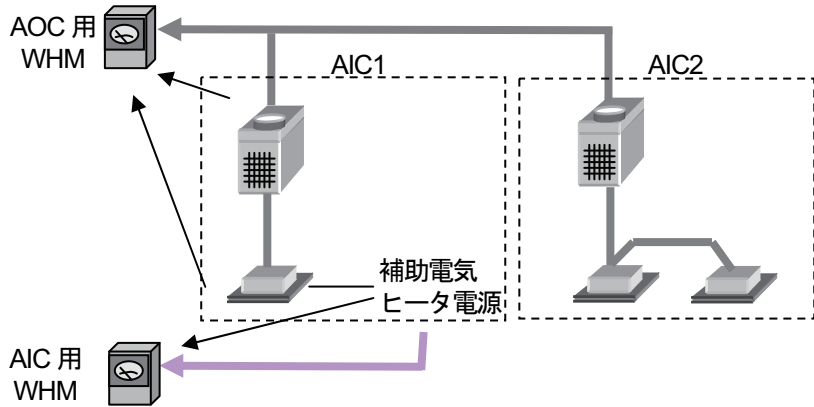
補助電気ヒータ分は補助電気ヒータ有無に関わらず、全体に按分されます。
 室外機に接続される室内機の台数によらず、室内機の各種設定は点線で囲まれた単位となります。

<設定必要な項目>

メニュー	項目	設定内容	特記事項
ユーザー設定2	電力・計量計接続 課金設定 A/K制御課金	電力PLC/計量MC —接続あり する する	A制御機種 室外機・室内機 同一電源に設定
G-150AD (EC) /G-50接続設定	G-150AD (EC) /G-50の設定	システムに応じて設定	—
システム構成設定	ユニット構成の設定 グループ設定	AOCは設定不要	—
監視表示設定	ブロック設定	システムに応じて設定	—
計量計設定	電力PLC、計量計の設定	システムに応じて設定	—
課金システム設定	按分モードの設定 室外機-WHM対応設定 室外機設定 室内機設定 課金ブロック設定	システムに応じて設定	室内機-WHM対応設定は不要 消費電力の設定必要 補助電気ヒータは設定不要
料金設定	料金帯等の設定	システムに応じて設定	—

- ・その他の設定は必要に応じて設定してください。
- ・G-150AD/G-50に電力按分課金支援ライセンス登録が別途必要です。

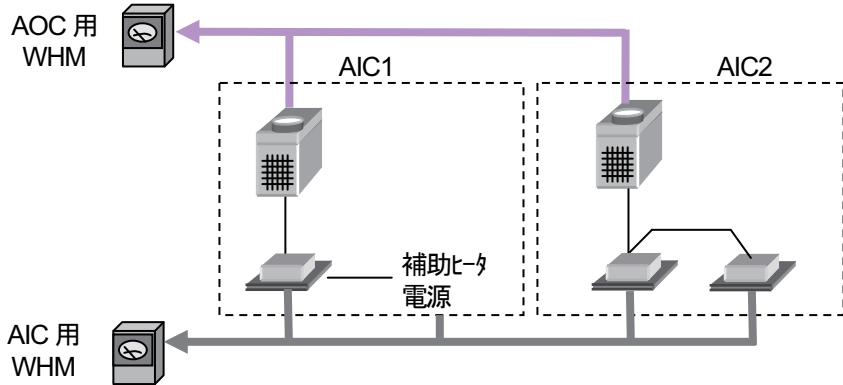
2-2 IC電源をOCからとる場合（補助電気ヒータをAIC用WHMに接続）



お知らせ

- このように室外機用とは別のWHMを設置して、補助電気ヒータのみの使用電力を按分できません。上記のように補助電気ヒータ専用でWHMを設置し、電力量計単位の課金に対応してください。また、このようなシステムを採用し、補助電気ヒータの電力量を按分せざるを得ない場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

2-3 IC電源とOC電源を別々にとる場合（M-NET 機種課金と同様）



室外機に接続される室内機の台数によらず、室内機の各種設定は点線で囲まれた単位となります。室内機、室内機補助電気ヒータ分を課金しない、もしくは別途徴収する場合、AIC用WHMは不要です。

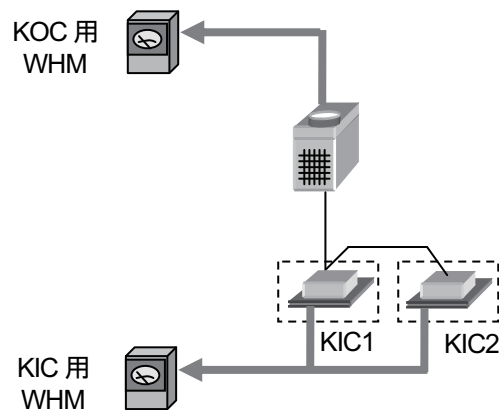
<設定必要な項目>

メニュー	項目	設定内容詳細	特記事項
ユーザー設定2	電力・計量計接続 課金設定 A/K制御課金	電力PLC/計量MC 一接続あり する する	A制御機種 室外機・室内機 別電源に設定
G-150AD (EC) /G-50接続設定	G-150AD (EC) /G-50の設定	システムに応じて設定	—
システム構成設定	ユニット構成の設定 グループ設定	AOCは設定不要	—
監視表示設定	ブロック設定	システムに応じて設定	—
計量計設定	電力PLC、計量計の設定	システムに応じて設定	—
課金システム設定	按分モードの設定 室外機-WHM対応設定 室外機設定 室内機-WHM対応設定 室内機設定 課金用ブロック設定	システムに応じて設定	—
料金設定	料金帯等の設定	システムに応じて設定	—

- その他の設定は必要に応じて設定してください。
- G-150AD/G-50に電力按分課金支援ライセンス登録が別途必要です。

3. K制御課金

3-1 IC電源とOC電源を別々にとる場合（K制御ビルマル、K制御スリム）



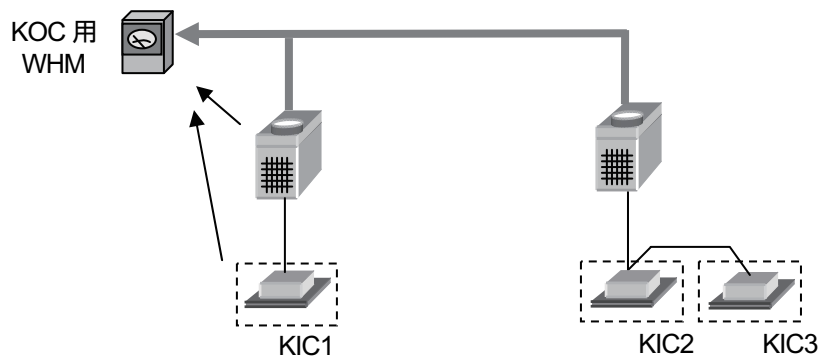
室内機、室内機補助電気ヒータ分を課金しない、もしくは別途徴収する場合、KIC用WHMは不要です。

<設定必要な項目>

メニュー	項目	設定内容詳細	特記事項
ユーザー設定2	電力・計量計接続 課金設定 A/K制御課金	電力PLC/計量MC 一接続あり する する	—
G-150AD (EC) /G-50接続設定	G-150AD (EC) /G-50の設定	システムに応じて設定	—
システム構成設定	ユニット構成の設定 グループ設定	KOCは設定不要	—
監視表示設定	ブロック設定	システムに応じて設定	—
計量計設定	電力PLC、計量計の設定	システムに応じて設定	—
課金システム設定	按分モードの設定 室外機-WHM対応設定 室外機設定 室内機-WHM対応設定 室内機設定 課金用ブロック設定	システムに応じて設定	KOCに複数台のKIC が接続されている場合、 アドレスが最小のKIC にのみ、クランクケース ヒータを設定
料金設定	料金帯等の設定	システムに応じて設定	—

- ・その他の設定は必要に応じて設定してください。
- ・G-150AD/G-50に電力按分課金支援ライセンス登録が別途必要です。

3-2 IC電源をOCからとる場合（K制御スリム）



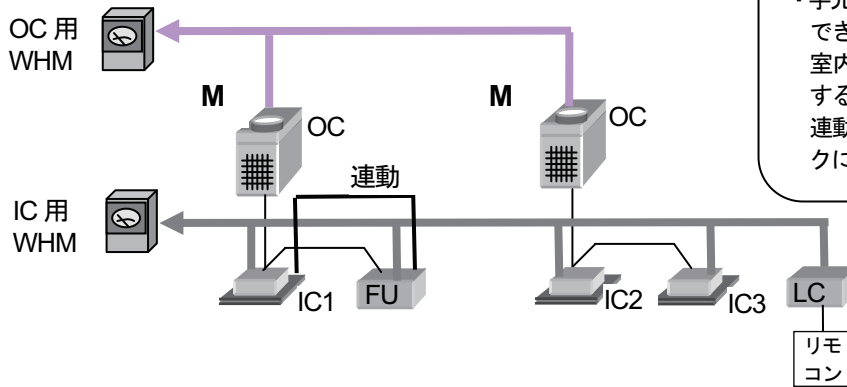
<設定必要な項目>

メニュー	項目	設定内容詳細	特記事項
ユーザー設定2	電力・計量計接続 課金設定 A/K 制御課金	電力PLC/計量MC 一接続あり する する	—
G-150AD (EC) /G-50接続設定	G-150AD (EC) /G-50の設定	システムに応じて設定	—
システム構成設定	ユニット構成の設定 グループ設定	KOCは設定不要	—
監視表示設定	ブロック設定	システムに応じて設定	—
計量計設定	電力PLC、計量計の設定	システムに応じて設定	—
課金システム設定	按分モードの設定 室外機-WHM 対応設定 室外機設定 室内機設定 課金用ブロック設定	システムに応じて設定	KOCに複数台のKIC が接続されている場合、 アドレスが最小のKIC にのみ、クランクケース ヒータを設定 消費電力、補助電気ヒー タは設定不要
料金設定	料金帯等の設定	システムに応じて設定	—

- ・その他の設定は必要に応じて設定してください。
- ・G-150AD/G-50に電力按分課金支援ライセンス登録が別途必要です。

4. ロスナイの課金

ロスナイ（LC）と加熱加湿付ロスナイ（FU）を按分する場合



お知らせ
 ・手元リモコン付の単独ロスナイのみ按分
 できます。
 室内機と同じように課金ブロック設定
 することにより課金按分できます。
 連動加熱加湿付ロスナイは、課金ブロッ
 クに設定することで按分できます。

WHM	電力量の内容	按分に用いる係数
OC用	室外機電力 室外機クランクケースヒータ電力	IC, FUの運転パラメータ ※1
IC用	室内機消費電力 室内機補助ヒータ電力 LC 消費電力 FU 消費電力	IC, FU, LCの運転パラメータ

※1 運転パラメータは按分基準の設定により異なります。LCは圧縮機を使用した運転をしないため、LCの運転パラメータはOC用WHMの電力量の按分には使用されません。

<設定必要な項目>

メニュー	項目	設定内容詳細	特記事項
ユーザー設定2	電力・計量計接続 課金設定 加熱加湿付ロスナイ課金	電力PLC/計量MC 一接続あり する する	※1
G-150AD (EC) /G-50接続設定	G-150AD (EC) /G-50の設定	システムに応じて設定	—
システム構成設定	ユニット構成の設定 グループ設定	システムに応じて設定	—
監視表示設定	ブロック設定	システムに応じて設定	—
計量計設定	電力PLC、計量計の設定	システムに応じて設定	—
課金システム設定	按分モードの設定 室外機-WHM 対応設定 室外機設定 室内機-WHM 対応設定 室内機設定 課金用ブロック設定	システムに応じて設定	課金用ブロック設定にお いて、FUは別枠で表示 されます。忘れずに設定 してください。
料金設定	料金帯等の設定	システムに応じて設定	—

※1 FUの按分の有効/無効が設定されます。LCについては設定に関わらず常時按分が有効となります。

- ・その他の設定は必要に応じて設定してください。
- ・G-150AD/G-50に電力按分課金支援ライセンス登録が別途必要です。



〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)
〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所

WT03628X28